

# 目次

測定結果のレポート .....	1
測定結果のレポート: 概要 .....	1
レポートのチュートリアル .....	2
レガシーのハイパービュー レポートを使った作業 .....	3
レガシー(ハイパービュー)レポートの移行 .....	3
レガシー(HyperView) レポートを使用します .....	4
レポート作成の手順 .....	5
レポート ウィンドウについて .....	7
[レポート] ツール バー .....	9
プレビュー画面の操作 .....	17
レポート ウィンドウ内のヒントの使用 .....	20
レポート ウィンドウのコンテンツの変更 .....	21
標準レポートの使用 .....	35
レガシー レポートの表示 .....	40
レポート済みの形状測定結果の公差領域 .....	41
レポートページの並べ替え .....	42
標準テンプレートの変更 .....	44
生成されたレポートの.DATファイルを使用 .....	45
レポートのヘッダー変更 .....	46
レポートのテキスト色変更 .....	50

注釈をレポートに追加.....	50
レポート エディタおよびフォーム エディタについて .....	55
レポート エディタおよびフォーム エディタについてのメニューバー .....	56
フォント バー.....	59
オブジェクト バー .....	61
レイアウト バー .....	184
オブジェクトのプロパティについて.....	193
レポート テンプレート エディタの説明 .....	221
ラベル テンプレート エディタについて .....	224
カスタム レポート エディタについて .....	226
フォーム エディタの説明.....	228
テンプレート作成 .....	229
レポートとレポート テンプレートについて .....	230
ラベルとラベル テンプレートについて .....	247
規則系統図エディタについて.....	264
[テンプレートのプレビュー]サムネイルアイコンの変更 .....	277
テンプレートまたはフォームを以前のバージョンで保存.....	279
チュートリアル — レポート テンプレートの利用 .....	279
フォームの作成.....	286
フォーム エディタの説明.....	287
オブジェクトシート .....	289
チュートリアル - フォームの作成.....	289

## 測定数値レポート

レポート内でのフォームの使用 .....	305
カスタム レポートの作成 .....	305
カスタム レポート エディタについて .....	306
チュートリアル — カスタム レポートの作成 .....	308
カスタム レポートの作成.....	317
レポート オブジェクトの配置.....	318
データをカスタム レポートへドラッグおよびドロップ .....	320
ルールの使用.....	328
複数のページを使用した作業.....	328
カスタム レポートの表示および印刷.....	330
カスタム レポートの編集及び削除 .....	330
他の測定ルーチンからのカスタム・レポートの使用 .....	332
式レポートについて .....	332
関数および演算子 .....	333
いくつかのレポート式の例 .....	349
データ タイプ使用でのレポート式検索 .....	361
標準テンプレートで使用される式 .....	408
PC-DMIS ActiveXコントロールの使用 .....	411
ActiveX コントロールの追加.....	411
ActiveXコントロールヘデータの引渡し .....	413
PC-DMIS ActiveXコントロールの例 .....	414
チュートリアル - 報告を強化するためにスクリプトを使用します .....	419

チュートリアルステップの要約 .....	420
知っているもの .....	421
ステップ1: CADONLYREF_ID.RTPにCADONLY.RTPをコピー .....	422
ステップ2: REFERENCE_ID.LBLをREFERENCE_ID_COLOR.LBLにコピー ....	422
ステップ3: VB スクリプトをREFERENCE_ID_COLOR.LBLに追加 .....	423
ステップ4: CAD2.RULルールをCADONLYREF_ID.RTPにインポート .....	425
ステップ5:VB スクリプトのコードを CADONLYREF_ID.RTPに追加 .....	426
ステップ6: このルールを変更して、残っているディメンションにこのVB スクリプトコードを使用します。 .....	429
ステップ7: レポート ウィンドウで CADONLYREF_ID.RTPをテスト .....	430
PDF 3D ファイルの使用 .....	431
QIF レポート .....	433
QIF レポートについて .....	434
QIF レポートの作成 .....	434

# 測定結果のレポート

## 測定結果のレポート: 概要



あなたの言語でのチュートリアルについては、地域事務所や本部にお問い合わせください。

パート測定後、測定結果を他人と交換できることが重要です。PC-DMIS はデフォルトではユーザーの測定データを検査レポートと呼ばれる標準テキストレポートに送信します。それには、ユーザーの測定ルーチンによって測定された各要素についての総合的データなどがあります。このレポートをプリンタまたはファイルに送り、後で**表示 | 検査レポート**を選択して、保存されたレポートを表示することができます。「検査レポートの表示」と「レポートウィンドウの印刷」を参照してください。

多くのタスクでは、標準検査レポートでユーザーの要求が的確に満たされます。しかし、PC-DMISではユーザー独自のインタラクティブなレポートを作成する強力なツールが用意されています。これらのツールでは、テンプレートを使用して、レポートの外観およびどのデータをレポートに含めるかを正確に定義することができます。また、これらのテンプレートを使用して、複数のレポート間で共通の外観や印象を維持できます。

さらに、「カスタムレポート」と呼ばれる測定ルーチン固有のレポートを作成する機能も用意されています。これは、レポート作成する必要があるときにレポートテンプレートを使用する必要のない便利なソリューションです。



レポート（.rpt）ファイルは、有効なバージョンのPC-DMISにのみ保存できます。

このバージョンの PC-DMIS の場合、レポートファイルをバージョン 2020 R2 に戻して保存することができます。これが最も古い有効なバージョンです。

本章の内容は以下の主要トピックから成ります。

- レポートのチュートリアル

- レガシーのハイパービュー レポートを使った作業
- レポート作成の手順
- レポート ウィンドウについて
- 標準レポートの使用
- レガシー レポートの表示
- レポート済みの形状測定結果の公差領域
- レポート ページ再編
- 標準テンプレートの変更
- 生成されたレポートの.DATファイルを使用
- レポートのヘッダー変更
- レポートのテキスト色変更
- 注釈をレポートに追加
- レポート エディタおよびフォーム エディタについて
- テンプレート作成
- フォームの作成
- カスタム レポートの作成
- 式レポートについて
- PC-DMIS ActiveXコントロールの使用
- チュートリアル - 報告を強化するためにスクリプトを使用します
- PDF 3D ファイルを使用する
- QIF レポート

---

## レポートのチュートリアル

このトピックでは使用可能なレポートのチュートリアルのリストを提供しています。PC-DMISが使用するテンプレートベースのレポート作成機能を始めて使用する場合は、これらのチュートリアルを使って現在レポートがどのように取り扱われているか理解を深めてください。

下記チュートリアルは「測定結果のレポート」章のドキュメント構造全体で現れる順番に表示されます。また、この章を最初から通読すると、ドキュメントのトピックがコンテンツによってどのように構成されているか理解できます。

- チュートリアル - レポートテンプレートの作成 (「テンプレートの作成」メイントピックにあります)
- チュートリアル - ラベルテンプレートの作成 (「テンプレートの作成」メイントピックにあります)

## レガシーのハイパービュー レポートを使った作業

- チュートリアル - レポートテンプレートのカスタマイズ (「レポートとレポートテンプレート」メインピックにあります)
- チュートリアル - フォームの作成 (「フォームの作成」メインピックにあります)
- チュートリアル - カスタムレポートの作成 (「カスタムレポートの作成」メインピックにあります)

また、下記のようにその他の役に立つメインレポートトピックと手順があります。

- 標準テンプレートの変更
- レポートのヘッダー変更
- レガシー テキスト限定レポート閲覧
- レポート ウィンドウのコンテンツの変更

---

## レガシーのハイパービュー レポートを使った作業

レガシーレポートは (以前には HyperView レポートとして知られています) パソコン DMISの古い3.xバージョンに存在します。これは 4.x とそれ以降のバージョンで使用される新しいテンプレート、フォームおよびレポート環境の基礎を提供します。

デフォルトで、PC-DMISレポートへのテンプレートアプローチを使用します。旧式のHyperレポートで、この意味は何ですか？

PC-DMISは以下の能力を提供します：

- HyperViewのレポートをカスタムレポートまたはフォームのいずれかに移動します。「レガシー(ハイパービュー)レポートの移行」を参照してください。
- HyperView レポートで直接作業を続けます。レポートを作成および編集できます。「レガシー (HyperView) レポートの使用」を参照してください。

### レガシー(ハイパービュー)レポートの移行

PC-DMIS 4.3 MR1以降のHyperView レポートを作成と編集できる場合、you may want to migrate your legacy HyperView reports into PC-DMISの新しいレポート環境にレガシーHyperViewレポートを移行したいので、代わりにそれらと作業できます。

旧式のハイパービュー レポートの変換方法:

1. **ファイル | レポート | 編集 | レガシーレポート**を選択してハイパービュー レポートを開きます。このレポートは、実行モードで開きます。
2. **ファイル | 変換**を選択して**またレポート** または**フォーム**のいずれかを選択します。
  - レポートを選択したら、PC-DMISはハイパービュー レポートを変換して**カスタム レポート エディタ**と作業します。しかし、すべてのオブジェクトは変換されません。カスタム レポートに適用されるオブジェクトは変換されます。「カスタムレポートの作成」を参照してください。
  - [フォーム]を選択した場合は、PC- DMISは、**フォームエディタ**で動作するようにハイパービュー レポートに変換されます。ただし、すべてのオブジェクトが変換されない場合があります。フォームでサポートされるオブジェクトのみが変換されます。「フォームの作成」を参照してください。

これで、レポートまたはフォームを、適切なエディタで変更することが可能です。変換前のハイパービュー レポートは変更されません。



ハイパービュー レポートに表示される特定オブジェクトは選択された移行経路でサポートされないことを確認してください。例えば、ハイパービュー レポートにボタン オブジェクトが含まれ、それをカスタム レポート エディタに移行した場合、ボタンはエディタに表示されますが[レポート]ウィンドウでは機能しません。

## レガシー(HyperView) レポートを使用します

PC-DMISは、HyperViewレポートの作成と編集もサポートしています。

- 新しいレガシーレポートを作成するには、**ファイル | レポート | 新規 | ガシーレポート**を選択します。
- 既存のレガシーレポートを編集するには、**ファイル | レポート | 編集 | レガシーレポート**を選択してください。ハイパービュー・レポートは、実行モードで開きます。CTRL + Eキーを押すと編集モードのレポートの編集と実行モードでのテストの間で切り替わります。



HyperViewレポートは従来の機能であるため、このドキュメントでは積極的にトピックとして取り扱いません。ただし、下記のリンクに従うことによって、HyperViewはドキュメントのPDFファイルをダウンロードできます。

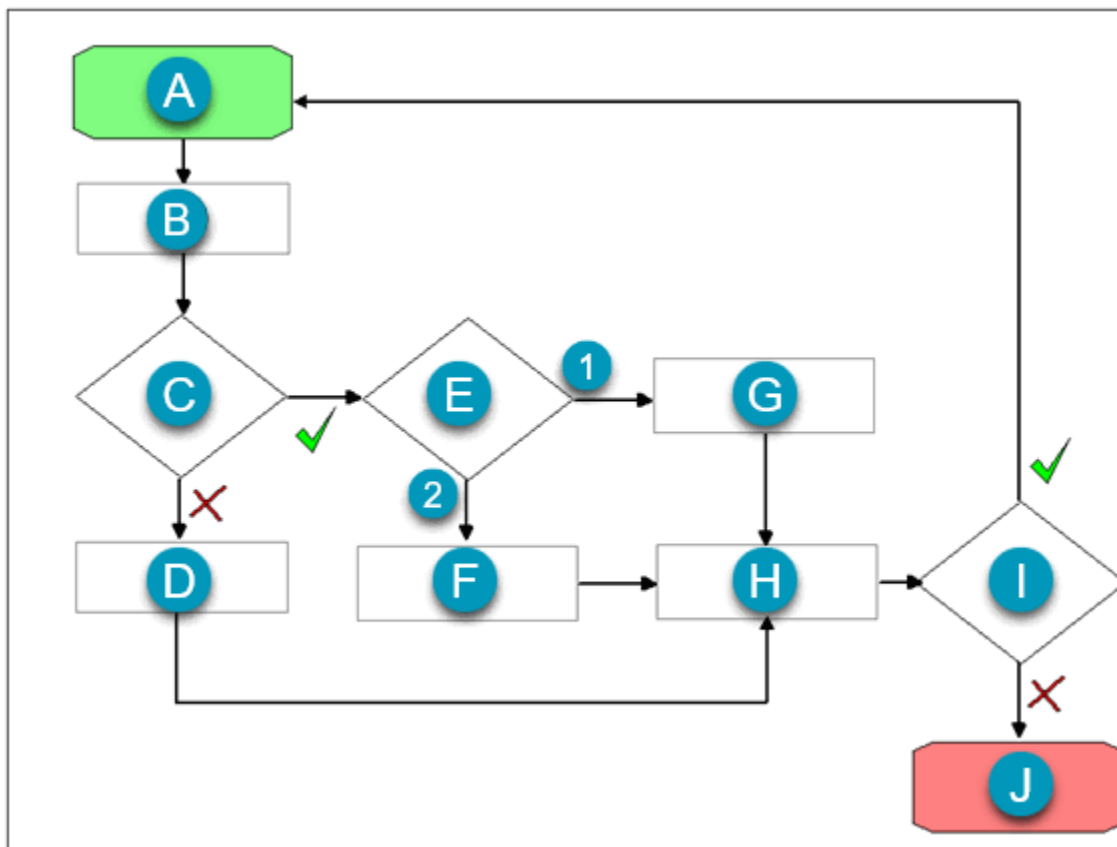
1. インターネットブラウザで、このサイトにアクセスします:  
<https://downloads.ms.hexagonmi.com/docs/FilesInHelps>
2. ファイル「creating\_hyperview\_reports.pdf」をダウンロードします。

---

## レポート作成の手順

このトピックでは、レポート作成処理の間、レポート テンプレート内のレポート オブジェクトが測定データと連動し、レポート ウィンドウに表示される処理について説明します。

- 測定ルーチンから各コマンドが実行されます。
- 各コマンドの情報は可能な処理のレポートテンプレートに行きます。
- レポートテンプレートのレポートオブジェクトは要求されますが、また情報が来たコマンドは **ルール ツリー エディタ**(詳細については「ルールツリーエディタでのルールの定義」を参照してください)に定義されてラベル テンプレートをコールして、そのラベル テンプレートはコールされます。違う場合はそのデータは最終レポートに表示されません。
- 呼び出されたラベル テンプレートに引き渡されたデータは、ラベル テンプレート内の GridControlObject およびその他のレポート オブジェクトの設定に従い、全て書式を整えられて表示されます（詳細は、「オブジェクトバー」を参照してください）。
- 最後に、レポート テンプレート内に、呼び出されてデータの書式設定を行ったラベル テンプレートが表示され、レポート ウィンドウに固有のデータおよび不変の要素が表示されます。



A - 測定ルーチンでコマンドの実行

B - レポート テンプレートへコマンドのデータを引き渡し

C - ルール ツリー エディタ(RTE)で定義されたコマンド？

D - 何も起こらない

E - RTEがラベル テンプレートまたはテキスト表示を呼び出し

E1 - ラベル

E2 - テキスト

F - ラベル テンプレートを呼び出す代わりにテキストのメッセージが表示

G - ラベル テンプレートがチェック済みデータの書式を整えて表示

H - レポート ウィンドウがコマンドのデータを表示

I - 別のコマンドを実行？

J - 終了

---

## レポート ウィンドウについて


ビュー | レポート ウィンドウを選択して最終レポートを表示します。このウィンドウには測定結果が表示されます。レポートウィンドウはPC-DMIS アプリケーションの他のウィンドウとして動作し、ウィンドウのメニューの操作にも同様に対象となります。レポートウィンドウのタイトルバーは現在読み込まれたレポートテンプレートのパスとファイル名を表示します。レポートウィンドウは独自の [レポート](#) ツールバーを持ちます。

### レポート テンプレートで

レポートテンプレートを使用している場合、測定ルーチン実行の後に、このウィンドウは測定結果を表示し、そして、デフォルト設定のレポート テンプレートに応じて、出力内容を自動的に設定します。任意のレポートテンプレートを既定のレポートテンプレートに設定できますが、最初、PC - DMISは「TEXTONLY.RTP」テンプレートを使用します。

Report Window - C:\Users\Public\Documents\Hexagon\PC-DMIS\2018 R1\Reporting\TextOnly.rtp

100%

		PART NAME : 2018 R1 Test 3		September 11, 2017		13:13	
REV NUMBER :		SER NUMBER :		STATS COUNT : 1			
FCFLOC1 Size	IN	8XØ0.3228 0.0004/0.0004					
Feature	NOMINAL	+TOL	-TOL	MEAS	DEV	OUTTOL	BONUS
CIR1	0.3228	0.0004	0.0004	0.3228	0.0000	0.0000	0.0004
CIR2	0.3228	0.0004	0.0004	0.3228	0.0000	0.0000	0.0004
CIR3	0.3228	0.0004	0.0004	0.3228	0.0000	0.0000	0.0004
CIR4	0.3228	0.0004	0.0004	0.3228	0.0000	0.0000	0.0004
CIR5	0.3228	0.0004	0.0004	0.3228	0.0000	0.0000	0.0004
CIR6	0.3228	0.0004	0.0004	0.3228	0.0000	0.0000	0.0004
CIR7	0.3228	0.0004	0.0004	0.3228	0.0000	0.0000	0.0004
CIR8	0.3228	0.0004	0.0004	0.3228	0.0000	0.0000	0.0004
FCFLOC1 Position	IN	±0.0004 @ A					
Feature	NOMINAL	+TOL	-TOL	MEAS	DEV	OUTTOL	BONUS
CIR1	0.0000	0.0004		0.0016	0.0016	0.0008	0.0004
CIR2	0.0000	0.0004		0.0015	0.0015	0.0007	0.0004
CIR3	0.0000	0.0004		0.0016	0.0016	0.0008	0.0004
CIR4	0.0000	0.0004		0.0002	0.0002	0.0000	0.0004
CIR5	0.0000	0.0004		0.0009	0.0009	0.0001	0.0004

TEXTONLY.RPTからの標準的なテキストベースのレポートを表示するレポートウィンドウ

レポートウィンドウは選択されたレポートテンプレートと現在の測定ルーチンに基づく統計値から成ります。「テンプレート作成」を参照してください。

### カスタム レポートで






カスタムレポートを使用する場合は、このウィンドウはレポートテンプレートを使用してデータの設定または表示を行いません。代わりに、保存されたカスタムレポートで定義されている情報をロードします。「カスタムレポートの作成」を参照してください。


## [レポート]ツール バー



### [レポート]ツール バー

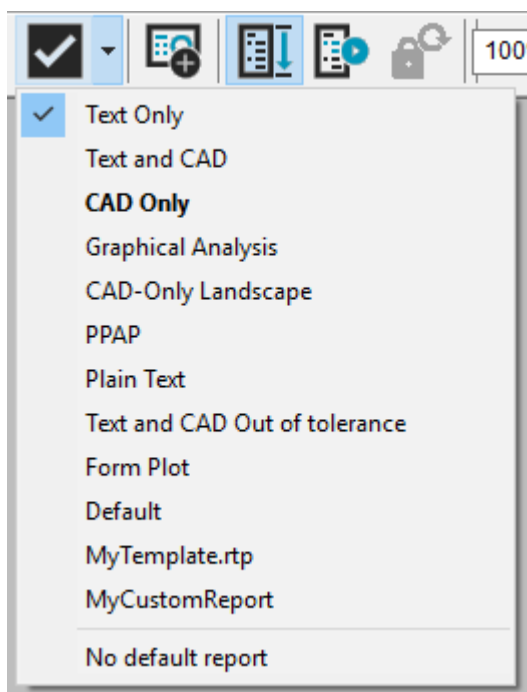
レポートウィンドウの レポート ツールバーはこれらの関数を実行します:

-  **レポートを再描画** - レポートを新しく追加された変更で再描画して更新します。現在のレポート テンプレート、ラベル テンプレートまたはカスタム テンプレートを変更した場合、あるいは測定ルーチンが変更された場合、このアイコンをクリックするとレポートが再表示され、新たに変更されたテンプレートまたは新しいプログラムのデータに更新されます。
-  **プレビューペーン** - サムネイル画像のペーンを開いて閉じ、レポートをプレビューできるようにします。ペーンの各画像はレポートでのページに対応しています。詳しくは、本章の「プレビューペーンでの操作」を参照してください。
-  **テンプレート選択** - テンプレートを管理してレポート出力を生成するテンプレートを選べるダイアログボックスを表示します。詳しくは「レポート テンプレートの適用または削除」を参照してください。
-  **カスタムレポート選択** 新しい空白のカスタムレポートを作成するか、既存のカスタムレポートを開くことができるようにするダイアログボックスを表示します。詳しくは、「カスタムレポートの作成」を参照してください。
-  **レポートを印刷** - レポートウィンドウに対して定義される出力設定に基づいてレポートを印刷します。出力の定義に関しては、「基本的なファイルオプション」章にある「レポートウィンドウの出力および印刷オプションの設定」トピックを参照してください。

6.  このレポートをデフォルトレポートとして設定 - 画面上の現在使用されているテンプレートを現在の測定ルーチンの新規デフォルトテンプレートに設定します。後で測定ルーチンを開いたときに、PC-DMISはこの定義済みのデフォルトレポートテンプレートを使用します。最初、このデフォルトレポートは TEXTONLY.RTP に設定されています。

このアイコンの隣のドロップダウンメニューでは、最初に読み込まなくてもデフォルトのレポートを設定できます。すべて保存されたレポートのレイアウトが表示されます。

デフォルトレポートを設定するには、リストから項目を選択します。PC-DMIS はその隣にチェックマークを配置して、新しいデフォルトレポートとして表示します。現在読み込まれたレポートは**太字**フォントで表示されます。







例えば、上記画像でチェックマークはデフォルトレポートとしての TextOnly.rtp と現在の読み込まれているレポートとしての CADOnly.rtp を示します。

デフォルトレポートなしを選択すると、次回測定ルーチンを読み込んでレポートウィンドウにアクセスするとき、レポートウィンドウに何にも表示されません。

### すべてのパーツのプログラムのデフォルトレポートの設定:

すべての測定ルーチンのデフォルトのレポートを設定する場合、PC-DMIS 設定エディタを使用して**FileMan** セクションにアクセスし、使用したい名前に `DefaultReportTemplate` エントリを設定します。エントリについては、付録「エントリ設定の変更」を参照してください。

7.  **テンプレートをツールバーに追加** - 現在のレポートテンプレートまたはカスタムレポートを保存済みレポートとして保存すると、新規に保存されたレポートアイコン  がテンプレートまたはカスタムレポートを同じ名前で標準レポートアイコンの右側に現れます。追加されたアイコンをクリックすると、レポートウィンドウは自動的に保存されたテンプレートまたはカスタム レポートを使用してレポートを表示します。
8.  **ビュー レポートモード** - PC-DMISが最後にどのようにプログラムを実行したかにかかわらず、測定ルーチンの最初のコマンドからレポートを生成します。
9.  **最後の実行レポートモード** - 直前の測定ルーチンの実行で実行された項目のみを表示します。また、コマンドも実行された順番で表示されます。ループによりコマンドが複数回実行された場合は、複数回の実行として同様に表示されます。

PC- DMIS 設定エディタの [レポート] セクションにある


`SaveExecuteList` エントリは、後で測定ルーチンを再度開いたときにこの情報が保持されるかどうかを決定します。デフォルトでは、この機能が有効になっています。

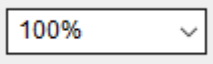
- 1に設定すると、PC- DMISは、簡単に **最終実行レポートモード** アイコンを選択することにより、後でそれらを表示できるように、測定ルーチン内で、最後の実行中に報告された項目を格納します。


- 0に設定した場合は、PC - DMISは一時的に情報を保存します。測定ルーチンを閉じる場合、PC-DMISはこの情報をクリアします。

### 部分実行と前回実行分レポート モード

ユーザーが部分的に実行する場合、PC-DMISはレポートされた項目を実行リストに追加して、レポートされる必要がない項目がレポートされるようにします。ユーザーはフル実行することによって、保存された実行リストからすべての部分実行項目を消去することができます。

10.  **最後に保存されたレポートを表示** - 保存されたレポートデータを最後にロックされた時の状態に復元します。これには実行リスト、一時的に行われた変更、および(レポートモードまたは最終実行レポートモードで)最後に使用されたモードが含まれます。

11.  このリストから項目を選択すると、レポートウィンドウでのレポートの拡大率を設定することができます。拡大率はレポートの印刷結果に影響しませんが、これらの機能はレポートをプレビューしたり使用するテンプレートを決定する場合に便利です。
- 小さなパーセンテージに設定すると、ページは最初は横1列に、次に縦方向に並べられます。また、任意の倍率を入力することもできます。小さなパーセンテージを使用すると簡単にページの並べ替えができます。詳しくは、「レポートページ再編」を参照してください。
  - 大きな割合では、レポートのある部分にズームインする場合、スクロールバーを使用して Ctrl キーを押し、レポート（ラベルにドラッグするとラベルを削除できます）のメインページにドラッグして簡単にレポートをパンすることができます。PC-DMISはマウスを引く方向に画像をドラッグします。

12.  **レポートをロック** - ウィンドウ内のレポートに変更を行うことができないようにレポートウィンドウをロックします。加えて、このアイコンをクリックするといつでもPC-DMISは以下を保存します。
- 一時的な変更
  - 実行リスト



## レポート ウィンドウについて

- 使用したレポートモードのタイプ (レポートモード または **最終実行レポートモード**)

[最後に保存されたの表示 レポート]アイコンをクリックして、この保存された情報を復元することができます。




「押された」とときには、PC-DMIS がアイコンを表示してそれがロックされたのを示します:



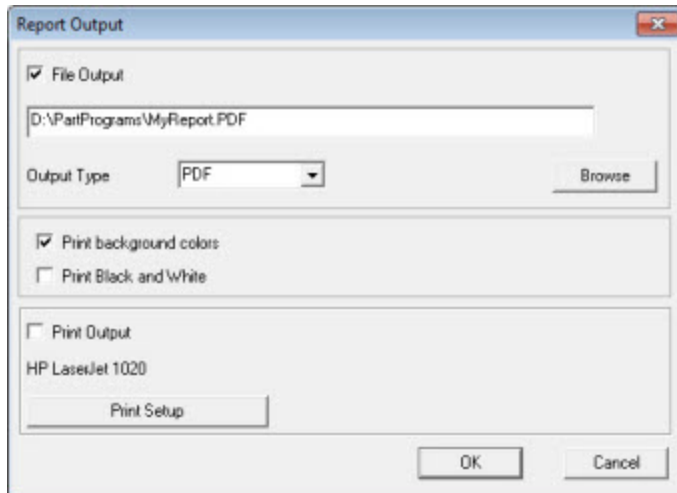
また、ウィンドウをロックして、マウスをウィンドウの上に移動してレポートがロックされて変更されない状態を表示する場合には、マウスポイントはこのシンボルに変更します:



レポートウィンドウで項目をスクロール、印刷および表示できますが、再度このアイコンをクリックしてウィンドウをロック解除するまで、レポートを変更できません。

13.  **保存** - 編集したカスタムレポートを同じ名前で保存します。ユーザーが下記のレポートの**編集**で編集モードに入ると、PC-DMISはこのボタンを有効にします。
14.  **名前を付けて保存** - カスタムレポートを同じ名前で保存します。ユーザーが下記のレポートの**編集**で編集モードに入ると、PC-DMISはこのボタンを有効にします。
15.  **レポートを保存/印刷** - レポート出力ダイアログボックスを表示します。





**ファイル出力** - ユーザーが**OK**をクリックしたときに、ソフトウェアがレポートをファイルに送信するかどうかを決定します。このチェックボックスの下ボックスではファイルに保存するためのパスおよびファイル名を定義できます。このボックスにおけるファイル名の拡張子が有効であることを確認してください。

**出力タイプ** - レポートをファイルとして保存した時に生成される出力タイプを定義します。異なる拡張子を入力した場合、レポートはファイルとして保存されません。

**PDF** - 出力用に現在のレポートテンプレートを使用して .pdf ファイルを生成します。

**RTF** - 出力用に現在のレポートテンプレートを使用して .rtf ファイルを生成します。

**TXT** - default.rtp テンプレートを使用して簡単な平文レポートを生成します。フォーマットはありません。


**3D PDF** - 3D PDFとして.pdfファイルを生成します。この種類の.pdfファイルで、CADモデルを.pdfで直接操作できます。詳しくは、「3D PDFファイルを使用する」を参照してください。

**背景色を印刷および白黒で印刷** - 背景色のあるレポートを生成するか、白黒のレポートを生成するかを決定します。詳しくは、「基本的なファイルオプション」の章にある「レポートウィンドウの出力および印刷オプション設定」に記載の説明を参照してください。

## レポート ウィンドウについて

**出力を印刷 - OK**をクリックした時に、レポートウィンドウに表示されるレポートを選択したプリンターに送信します。最初、これはデフォルトのプリンターに設定されています。









**印刷設定** - 標準の Windows **印刷設定**ダイアログボックスを表示し、異なるプリンターを選択したり印刷オプションを変更したりできるようにします。


16.  **レポートの編集** - レポートがカスタムレポートの場合、レポートが編集モードで開きます。レポートがこれらのサポートされているテンプレートレポート（テキストのみ、テキストとCAD、CADのみ、またはCADのみの環境）のいずれかである場合、ソフトウェアは最初にそれをカスタムレポートに変換し、続いて編集モードに入ります。



テンプレート変換はループからのデータをサポートしません。


カスタムレポートの編集については、「カスタムレポートの編集または削除」を参照してください。カスタムレポートとその作成方法については、「カスタムレポートの作成」を参照してください。


17.  テキストのみ
18.  テキストおよび CAD
19.  CAD のみ
20.  グラフィックス分析
21.  横置き CAD のみ
22.  PPAP
23.  プレーンテキスト
24.  テキストおよびCAD 公差範囲外

25.  フォームプロット

26.  デフォルト

標準レポートの説明および例 (このリストの項目17~26) については、以下の「標準レポートの使用」を参照してください。

27.  このアイコンのスタイルがデフォルトアイコンの右にある場合、ツールバーに保存されたレポートテンプレートの変更を示します。レポートテンプレートエディタを使用して既存のテンプレートを修正したり新しく作成することができます。詳しくは「レポート テンプレート エディタの説明」を参照してください。

28.  このアイコンのスタイルがデフォルトアイコンの右にある場合、ツールバーに保存されたカスタムレポートの変更を示しています。カスタム レポートについての説明は、「カスタム レポートの作成」を参照してください。

## ツールバーのカスタマイズおよび復元


上述の[テンプレートをツールバーに追加]アイコンを使用して、ユーザー独自のレポートやカスタムレポートを追加できます。レポートをツールバーに追加すると、そのレポートまたはテンプレートのための新しいアイコンがツールバーの右側に表示されます。追加した新しい各アイコンは保存されたカスタムレポートまたはカスタムレポートテンプレートを表します。

- ツールバーからカスタムアイコンを削除するには、Shiftキーを押しながらアイコンをツールバーのそとにドラッグします。これはテンプレートまたはツールバーからレポートを削除するだけであり、システムからは項目を削除しません。
- ツールバーを元のツールバーアイコンに復元するには、以下の操作を行います。
  1. PC-DMISを閉じて下さい。
  2. C:\Users\<ユーザー名>\AppData\Local\Hexagon\PC-DMIS\<バージョン>に進みます、ここで、<ユーザー名> はお使いの Windows ユーザー名であり <バージョン> は使用している PC-DMIS のバージョンです。
  3. reportingtoolbar.dat を削除します。
  4. PC-DMIS を再起動します。

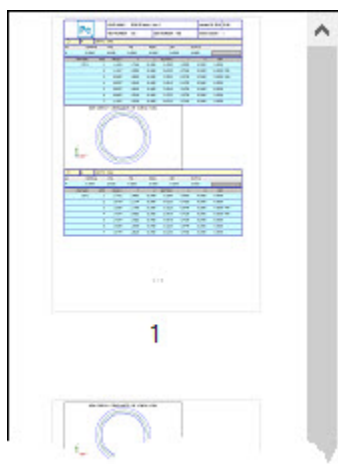


レポートウィンドウ内にはレポートツールバーのみが存在します。これを表示するにはレポート ウィンドウにアクセスする必要があります。メイン PC-DMIS インターフェイスのツールバーエリアから選択することはできません。

## プレビュー画面の操作

レポートウィンドウの[レポートツールバー]の[プレビューペイン]ボタン (  ) は、サムネイル画像のペインを開くか、または閉じて、レポートをプレビューできます。

ペイン上の各サムネイル画像は、レポート上のページに対応します。



プレビュー ペイン

ペインが開いているときにサムネイル画像をクリックすると、そのレポートページに移動できます。

## カスタムレポートの編集モードへの切り替え

プレビューのペインで特定の操作を実行するには、カスタムレポートを編集モードにする必要があります。これは、カスタムレポートのエディタのスリム化されたバージョンにアクセスします。これによって、通常のPC-DMISメニュー構造を離れずにレポートを編集できます。以下のいずれかのオプションによってこれを行うことができます。


- カスタムレポート選択ダイアログ (  ) をクリックして空レポートをクリックし、続いて開くをクリックします。

- レポートの編集 (  ) をクリックします。

より複雑な編集を行う場合でも、カスタムレポートエディタを使用できます。

### カスタムレポートのページの追加と削除

編集モードでは、カスタムレポートのページを追加または削除できます。


ページを追加するには、最後のサムネイル画像の後にある大きいプラスボタン (  ) をクリックします。サムネイルの画像を右クリックして[ページを追加]を選択します。

ページを削除するには、サムネイル画像を選択し、キーボードのDeleteキーを押すか、またはサムネイル画像を右クリックし、「ページを削除」を選択します。レポートには常に1ページ以上が必要です。

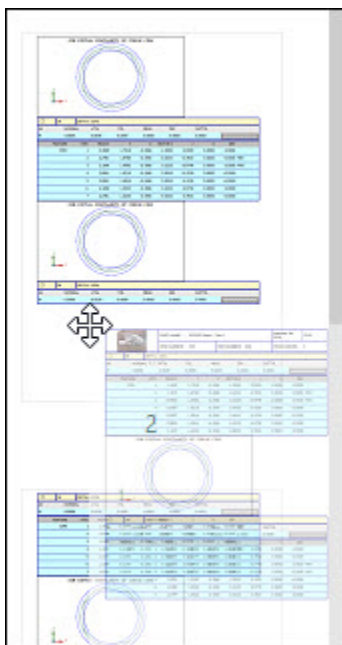
カスタムレポートの詳細については、この章の「カスタムレポートの作成」を参照してください。

### レポートページの並べ替え

任意のレポートでページの順序を定義するには：

1. 移動したいページのサムネイル画像を探します。
2. プレビューのペインで、そのページを目的の場所にドラッグします。
3. 十字線形のカーソル (  ) が表示されたら、マウスボタンを離してその場所にページを挿入します。

## レポート ウィンドウについて



### カスタムレポートの他のページへのオブジェクトの移動

編集モードでは、1つまたは複数のオブジェクトをサムネイル画像を介して1ページから別のページに移動できます。

1. 緑色のハンドルが表示されるまで、移動するオブジェクトを選択します。（Ctrl キーを押して複数のオブジェクトを選択できます）。
2. オブジェクトを置くページのサムネイルイメージにオブジェクトをドラッグします。
3. マウスボタンをリリースします。
4. そのサムネイル画像をクリックしてページに移動し、オブジェクトを配置します。

オブジェクトを別のページに移動するもう1つの方法は、オブジェクトを切り取る（Ctrl + X）、ページのサムネイルイメージをクリックしてオブジェクトを貼り付けることです（Ctrl + V）。

CADReportObjectを選択して新しいページに移動すると、それに関連付けられたラベルも一緒に移動します。そのオブジェクトにラベルを移動することはできません。

## プレビュー ペインのサイズの変更

マウスポインタでペインのサイズを変更できます。これを行うには、ペインとレポートを区切る縦線をドラッグします。ペインのサイズは、レポートの幅の最大30%、レポートの幅の最小10%にすることができます。

PC-DMISはペインの可視性の状態とペインの幅を現在の測定ルーチンに保存します。PC-DMISは、最後に使用された可視性の状態と幅を新しい測定ルーチンに使用します。

## レポート ウィンドウ内のヒントの使用

pcdmis		PART NAME : myPart	十月 29, 2006		15:25	
		REV NUMBER :	SER NUMBER :		STATS COUNT : 1	
⊕	MM	LOC1 - CIR1				
AX	NOMINAL	DEV	OUTTOL	+TOL	-TOL	MEAS
X	154.584	0.012	0.002	0.010	0.010	154.595
Y	80.406	-0.191	0.181	0.010	0.010	80.215
Z	22.400	-0.009	legacy_dimension.tbl 010	0.010	0.010	22.391
D	15.000	0.193	0.183	0.010	0.010	15.193
⊕	MM	LOC2 - PNT1				
AX	NOMINAL	DEV	OUTTOL	+TOL	-TOL	MEAS
X	95.681	0.000	0.000	0.010	0.010	95.681
Y	87.793	0.000	0.000	0.010	0.010	87.793
Z	21.000	0.000	0.000	0.010	0.010	21.000
T	0.000	0.000	0.000	0.010	0.010	0.000

使用されているラベルの名前を示すヒントが表示されたレポートの例

レポートウィンドウのさまざまなパートにマウスを移動することで、使用されているラベルのツールチップのフォーム情報を取って、ラベルがない場合、ツールチップは、オブジェクトまたは現在のページ番号のいずれかの名前が表示されます。

- オブジェクトがラベルの場合、ヒントはラベル テンプレート ファイルの名前を表示します。
- オブジェクトがラベルではない場合、たとえば、[TextReportObject](#) または [CadReportObject](#)、ツールチップはレポートテンプレートで定義されたオブジェクト名を表示します。
- マウスをページの空白スペースに押す場合、(技術的な ページ オブジェクト)、ツールチップはページ番号を表示します。



## レポート ウィンドウについて

これらのヒントを使用して、レポートにどのオブジェクトが使用されているか簡単に知ることができます。

オブジェクトの詳細については、「オブジェクトバー」を参照してください。

## レポート ウィンドウのコンテンツの変更



このトピックとそのサブトピックに説明されるいくつかの変更を実行する機能リストについて、「レポートウィンドウのショートカットメニュー」トピックを参照してください。

基礎的なテンプレートを変更することと使用されるルールでレポートウィンドウでどのようにどのような情報が表示されるのかを永久に変更することができますが、以下のトピックで提供される情報を使用してレポートウィンドウ内で直接、レポートウィンドウのオブジェクトに対して変更を行うことができます。



カスタムレポート、テンプレート、ラベルテンプレート、およびその他のレポートの修正は元に戻すことができません。

## テキスト レポートの編集

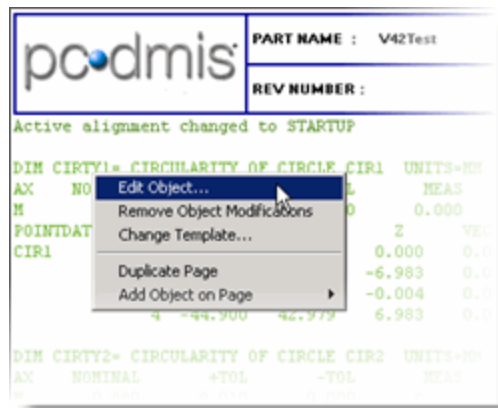
[レポート] ダイアログボックス

レポートダイアログボックス（テンプレートレポートで利用可能）によってユーザーは、PC-DMISがレポートウィンドウに含む全体的な情報とその情報の表示方法を決定することができます。

これらの方法でこのダイアログボックスにアクセスすることができます：

## レポート ウィンドウについて

- テキストのみのレポートテキストまたはレポートウィンドウの最後の白色スペースを右クリックして、ショートカットメニューが表示されるときに**オブジェクト**メニュー項目の**編集**を選択します。



このショートカットメニューの詳細について、「ショートカットキーとショートカットメニューの使用：紹介」の付録の「レポートのウィンドウのショートカットメニュー」トピックを参照してください。

- レポートウィンドウでSHIFTを押して任意ラベルオブジェクトを右クリックし、**オブジェクト**メニュー項目の**編集**を選択します。

以下のチェックボックスでは、様々な商品を表示または非表示にします：

### フィーチャーの表示

このオプションでは測定ルーチンですべての要素測定が表示されます。

デフォルトのレポート テンプレート、textonly.rtpが使用され、測定ルーチンが要素の最小限の測定点より多くの測定点を持つ場合、要素をプロットしたフォームが表示されます。

### アライメントの表示

このオプションは測定ルーチン実行中にアライメントが変化する様子を表示します。寸法または要素一覧で発生するすべてのアライメントの変化を表示します。

### コメントの表示

このオプションは測定ルーチンに追加された任意のコメントを表示します。(コメントについて詳しくは、「レポートコマンドの挿入」章の「プログラマコメントの挿入」を参照して下さい。)

### ヘッダー / フッターの表示

[ルール ツリー エディタ]の[ファイルのヘッダー]ルールで定義したラベル テンプレートを適用し、レポートのヘッダーおよびフッターを表示します。デフォルトでは、PC-DMIS に標準装備のラベル テンプレート、FILE\_HEADER.LBLが使用されます。

### スクリーン キャプチャーを表示

このオプションは、レポートでのDISPLAY/METAFILEおよびANALYSISVIEWコマンドと関係する任意の画面キャプチャを表示します。(画面キャプチャの詳細については、「CAD表示の編集」章の「グラフィック表示ウィンドウの画面キャプチャの使用」を参照してください)。

[ヘッダー/フッターの表示]チェックボックスをオンにすると、[印刷後のヘッダー]コマンド領域が有効になります。このエリアは、[PRINT/REPORT](#)コマンドの後にPC-DMIS がレポートヘッダーをどのように処理するかを決定します。そのエリアのリストには、次のオプションがあります：

#### 垂線

PC-DMISは1つのレポートヘッダーしか生成しません。任意の種類のループで[PRINT/REPORT](#)コマンドを使用して、測定ルーチンを実行しても新しいレポートヘッダーは生成されません。(各種のループについては、「フロー制御を使用した分岐」章を参照してください。)

#### 常に

PC-DMIS は [PRINT/REPORT](#) コマンドに続く次の任意のレポート出力に対して常に新しいレポートヘッダーを生成します。

#### ファイルヘッダーが実行された場合

PC-DMISは、[PRINT/REPORT](#)コマンドの前にファイルヘッダーコマンドブロックを実行した場合にのみ、新しいレポートヘッダーを生成します。ファイルヘッダーはパート名、改訂番号、シリアル番号などが含まれている編集ウィンドウのコマンドブロックです。(これは要約モードでは「ファイルヘッダー」として表示されます。) デフォルトではファイルヘッダーはレポート生成している中にFILE\_HEADER.LBLテンプレートを 사용합니다。ファイルヘッダーコマンドブロックを削除することはできませんが、カ

## レポート ウィンドウについて

一ソルから実行するなどの特定の部分的な実行オプションでスキップすることができます。部分実行の詳細については、「詳細ファイルオプションの使用」章にある「測定ルーチンの実行」を参照して下さい。

PRINT/REPORTコマンドの詳細については、「レポートコマンドの挿入：はじめに」章の「印刷コマンドの挿入」を参照してください。

寸法領域は、レポートの寸法の表示を制御することができます。寸法を表示するには、[表示]チェックボックスを選択します。一度選択すると、このエリアの他の項目が選択可能になります。以下が含まれます。

### すべて

このオプションを選択すると、公差範囲外のみおよび制限範囲外の測定結果オプションの両方を選択した場合と同じように動作します。

### 公差外に表示

このオプションがマークされると、公差範囲外の測定結果のみ表示されます。([寸法の表示]がオンに設定されている必要があります。)

寸法を表示する を選択してまた制限範囲外の寸法を表示 を解除した場合のみ、このオプションは使用可能です。

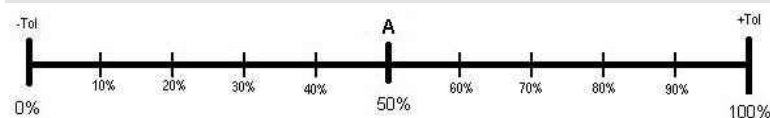
### 制限範囲外の測定結果を表示

セクションを選択する場合、PC-DMISは理論域の割合の外側にある寸法を表示します。

制限範囲外の寸法を表示 チェックボックスを選択する場合、耐性率は編集可能になり、片側公差の1%と両側公差の大文字と小文字は許可されます。

理論域は0～100%の範囲も考えることができます(ディメンションの色は公差域の地域に適用される方法また寸法のエンドに色付きのバーグラフが描画される方法と同じです)。下限は(理論 - マイナス トウル)は0%と上限(公称+プラス トウル)は100%に対応します。グラフの中央にAが理論値を表示する次の表を考慮してください。

## チャート



許容ゾーン外の偏差を持つ寸法は0より小さくまたは100パーセントより大きくなります。

片側寸法(丸みのようで、プラス耐性のみ持ちます)について、ゼロ偏差が0%で、許容範囲外のは100パーセントよりも大きいです。

## 片側の寸法の例

理論値: 0.0000

実測値: 0.0028

偏差: 0.0028

正公差: 0.0050

負公差: 0.0000

この偏差が許容範囲の56%であるため、片側の割合は56%未満である場合、それが表示されます。

(正と負の両方の公差を持つ距離のように)両側の測定結果の場合、ゼロ偏差は0と100の間の任意の値を取ります。理論値が等しい場合、ゼロ偏差は50%の位置になります。

## 両側上限の例

理論値: 3.0000

実測値: 3.0075

偏差: 0.0075

正の公差: 0.0100

負の公差: 0.0100

## レポート ウィンドウについて

割合はレバールールを使用して計算されます：

$$(\text{測定値} - \text{下限値}) / (\text{上限} - \text{下限}) * 100.$$

このデータについて、それは以下ようになります：

$$(3.0075 - 2.9900) / (3.0100 - 2.9900) * 100. = 87.5\%$$

両側アッパーの割合は87.5%を *超えている* 場合、この寸法は検査レポートに表示されます。

### 両側下限の例

理論値: 3.0000

実測値: 2.9925

偏差: 0.0075

正の公差: 0.0100

負の公差: 0.0100

割合はレバールールを使用して計算されます：

$$(\text{測定値} - \text{下限値}) / (\text{上限} - \text{下限}) * 100.$$

このデータについて、それは以下ようになります：

$$(2.9925 - 2.9900) / (3.0100 - 2.9900) * 100. = 12.5\%$$

両側下の割合は12.5% *未満* である場合、この寸法は検査レポートに表示されます。

### テキストモード寸法レポートを使用

このチェックボックスはPC-DMISが寸法を表示するためにフォーマット(選択された)されたテキストまたはグラフィックテーブル (選択されなかった) を使用するかどうかを定義します



このレポートタイプでは、測定ルーチンで従来の測定結果のみを使用する必要があります。





選択された「テキストモード寸法レポートを使用」 サンプルレポート:

POD-MIS		PART NAME : testtemplate...		February 16, 2006		13:45	
VIEW NUMBER :		VIEW NUMBER :		VIEW NUMBER :		STATUS NUMBER : 1.0000	
FOR LOC= LOCATION OF CIRCLE C01 UNITS=MM							
AX	NORMAL	+TOL	-TOL	HEAD	DEVI	CUTTOL	
X	154.500	0.000	0.000	154.500	147.000	0.000	0.000
Y	18.500	0.000	0.000	18.500	12.000	0.000	0.000
D	15.000	0.000	0.000	15.000	15.000	0.000	0.000
FOR LOC= LOCATION OF CIRCLE C02 UNITS=MM							
AX	NORMAL	+TOL	-TOL	HEAD	DEVI	CUTTOL	
X	154.500	0.000	0.000	154.500	147.000	0.000	0.000
Y	80.500	0.000	0.000	80.500	73.000	0.000	0.000
D	15.000	0.000	0.000	15.000	15.000	0.000	0.000
FOR LOC= LOCATION OF CIRCLE C03 UNITS=MM							
AX	NORMAL	+TOL	-TOL	HEAD	DEVI	CUTTOL	
X	93.500	0.000	0.000	93.500	86.000	0.000	0.000
Y	18.500	0.000	0.000	18.500	12.000	0.000	0.000
D	15.000	0.000	0.000	15.000	15.000	0.000	0.000
FOR LOC= LOCATION OF CIRCLE C04 UNITS=MM							
AX	NORMAL	+TOL	-TOL	HEAD	DEVI	CUTTOL	
X	93.500	0.000	0.000	93.500	86.000	0.000	0.000
Y	80.500	0.000	0.000	80.500	73.000	0.000	0.000
D	15.000	0.000	0.000	15.000	15.000	0.000	0.000

選択されなかった「テキストモード寸法レポートを使用」 サンプルレポート:

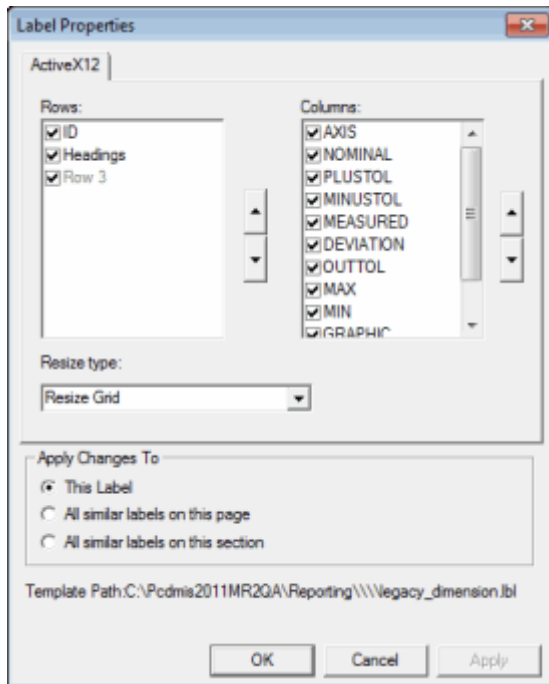
POD-MIS		PART NAME : testtemplate...		February 16, 2006		13:45	
VIEW NUMBER :		VIEW NUMBER :		VIEW NUMBER :		STATUS NUMBER : 1.0000	
AX	NORMAL	+TOL	-TOL	HEAD	DEVI	CUTTOL	
X	154.5000	0.000	0.000	154.5000	0.000	0.000	
Y	18.5000	0.000	0.000	18.5000	0.000	0.000	
D	15.0000	0.000	0.000	15.0000	0.000	0.000	
AX	NORMAL	+TOL	-TOL	HEAD	DEVI	CUTTOL	
X	154.5000	0.000	0.000	154.5000	0.000	0.000	
Y	80.5000	0.000	0.000	80.5000	0.000	0.000	
D	15.0000	0.000	0.000	15.0000	0.000	0.000	
AX	NORMAL	+TOL	-TOL	HEAD	DEVI	CUTTOL	
X	93.5000	0.000	0.000	93.5000	0.000	0.000	
Y	18.5000	0.000	0.000	18.5000	0.000	0.000	
D	15.0000	0.000	0.000	15.0000	0.000	0.000	
AX	NORMAL	+TOL	-TOL	HEAD	DEVI	CUTTOL	
X	93.5000	0.000	0.000	93.5000	0.000	0.000	
Y	80.5000	0.000	0.000	80.5000	0.000	0.000	
D	15.0000	0.000	0.000	15.0000	0.000	0.000	



指定されたレポート テンプレートが見つからない場合、PC-DMISは「default.rtp」という名前のテンプレートを使用します。この標準テンプレートは最も基本的なテキストベースのレポートを作成します。default.rtpはテキストベースのレポートのみサポートするので、このチェックボックスをオフにした場合、何も実行されません。

## ラベル レポートの編集

ラベルを右クリックして[オブジェクトの編集...]をクリックすると、[ラベルのプロパティ]ダイアログ ボックスが表示されます。



[ラベルプロパティ] ダイアログボックス

ダイアログ ボックスに列と行の順序を変更でき、または個々の列と行の表示状態をコントロールできます。

**順序を変更するには** - 行または列を選択して、または上矢印か下矢印をクリックしてください。

**項目を非表示または表示するには** - 項目の横のチェックボックスをクリックしてそれを非表示にします。チェックボックスを選択してそれを表示します。

一旦ラベルに必要な変更を作成した場合、下部にあるオプションボタンを選択して現在ラベル、現在のページ上のすべての同様のラベル、全体セクション内のすべて同様のラベルへの変更を適用します。

リサイズ型の一覧からアイテムを選ぶことにより、カラムを隠すか示す場合は常に、ラベルが何を行うか決めてください。CadReportObject に関連したラベルについては、**グリッドのリサイズ**は、ただ一つのオプションです。他のラベル・コンテキストについては、これらの3つのアイテムが用意されています:

## レポート ウィンドウについて

**グリッドをサイズ** - これは既存の列のサイズを保持して新しい幅に合わせてラベルのサイズを変更します。

**合わせるために列のサイズを変更します** - これは既存の幅のサイズを保持して既存の幅に合わせて均等に各列のサイズを変更します。

**テキストを非表示にします** - これはラベルまたは列のサイズを変更していません。これは単にテキストを非表示にします。

**OK** をクリックしてPC-DMISは表示を変更します。

## ラベルの位置およびサイズの編集

ラベルは、リーダーの行があるまたはそれが無料のラベルである場合(それはTextReportObjectのパーツではない)、CTRLを押してまたあるラベルをクリックする場合、(またはマウスをドラッグしてラベルをボックスに選択します)、それが選択になるのを表示されます。一旦選択されたら、それを新しい場所にドラッグでき、またはクリックでそれを再サイズでき、また選択されたラベルを囲む黒い四角形ハンドルをドラッグできます。

## CADモデル レポートの編集

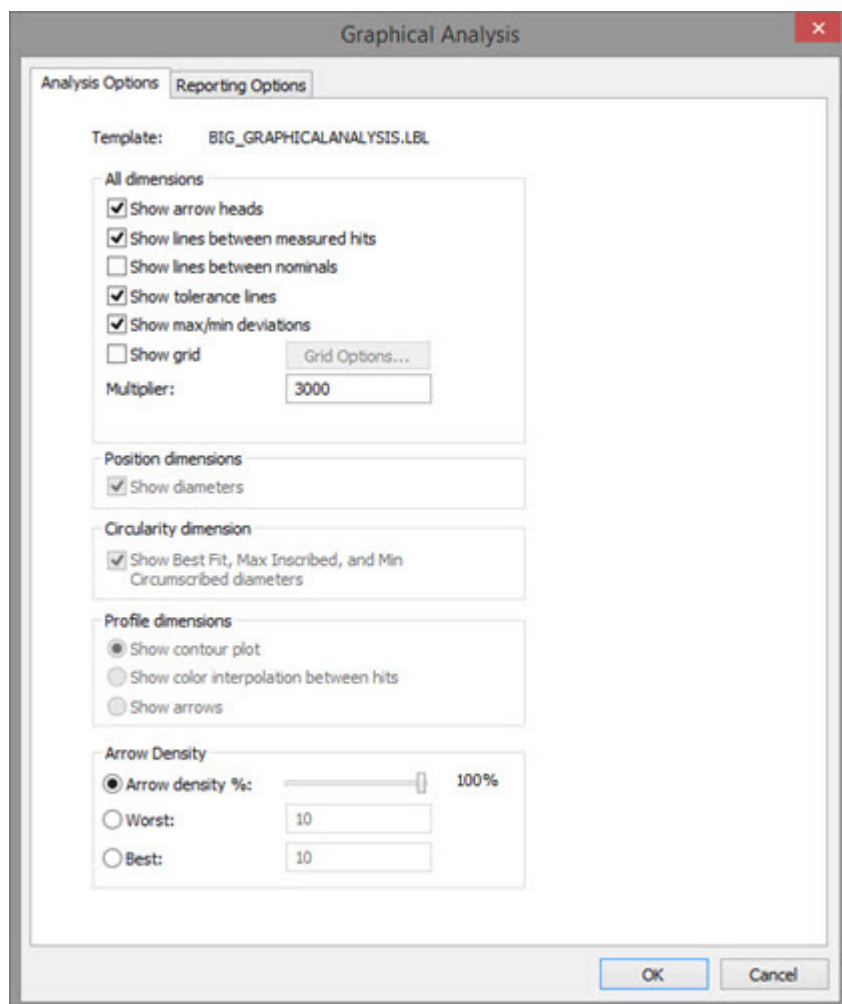
CADReportObjectをダブルクリックすると"アクティブ"状態になります。すなわち、グラフィックの表示ウィンドウ内で行ったのと同様に、CADモデルを回転または拡大縮小することが可能です。CADReportObjectの外でクリックすると新しい方向とズームレベルを使用できます。詳しくは、「CadReportObject」を参照してください。

レポート ウィンドウのCadReportObjectを右クリックし、[オブジェクトの編集...]を選択すると、[ラベル レイアウト ウィザード]が表示され、レポート ウィンドウ内でラベルの配置およびCADモデルの位置を直接変更できます。このウィザードを使用する方法の詳細については「CadReportObject」下の「ラベルのレイアウトウィザード」トピックを参照してください。

「ラベルの位置とサイズの編集」に説明されるようにCADReportObject にサイズ変更及び移動を行います。

## グラフィック分析の編集

下記のように、レポートウィンドウの分析ウィンドウオブジェクトを右クリックし**オブジェクトの編集**を選択すると、グラフィック分析ダイアログボックスが表示されます。



これらのタブでのオプションについて詳しくは、現在の章の「分析ウィンドウオブジェクトトピックの「プロパティの変更」サブトピックを参照してください。

影付きで表示される項目はフライでの変更には使用できない項目です。但し、ラベルテンプレートレベルでそれらを変更することができます。ラベルテンプレートの編集について詳しくは、この章の「ラベルおよびラベルテンプレートについて」を参照してください。

## FLYにラベルテンプレートを変更します

PC-DMISにはレポートで使用するラベルテンプレートをオンザフライで変更する方法が用意されています。

### シングルラベルテンプレートの変更

レポートウィンドウから (ビュー | レポートウィンドウ)、ラベル テンプレートを選択してそれを右クリックして**またテンプレートを変更...** メニュー項目を選択します。開く ダイアログ ボックスから新しいテンプレートを選択して使用します。

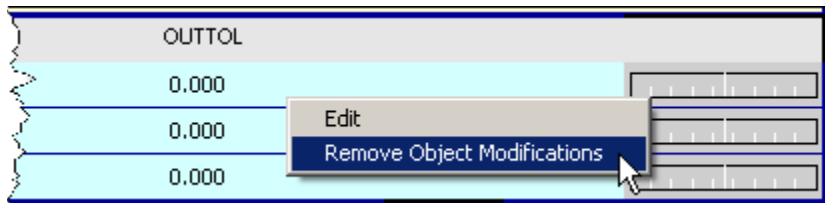
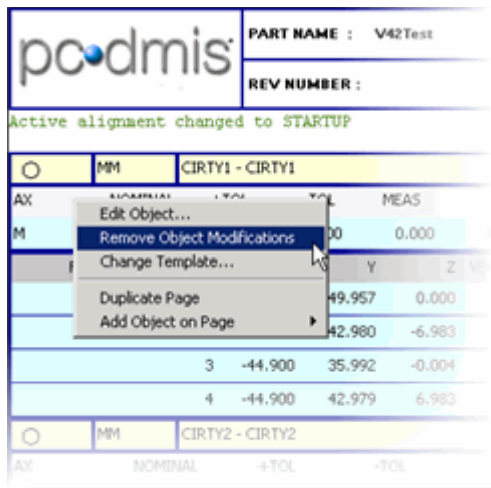
### 同じページに複数のラベルの変更

同じページに複数のラベルを選択して置き換えるには、CTRLキーを押したまま複数のテンプレートを選択し、**テンプレートを変更...** メニュー項目を選択します。代わりに、**マッチングラベルを選択** を選択して同じラベルを使用し、かつ同じページにある CADReportObjectのすべてのラベルを選択することもできます。

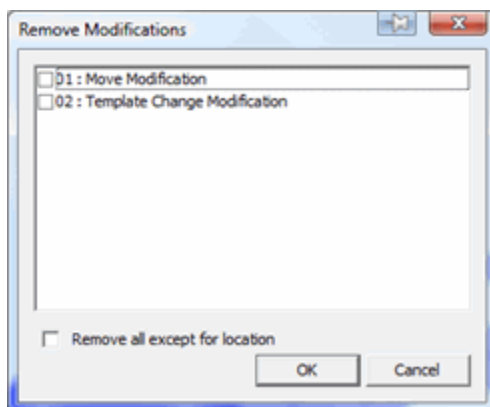
レポート・ウィンド・変更を移行しています

### あるオブジェクトに変更を削除します

レポートのオブジェクト(TextReportObject、CADReportObject、またはLabel オブジェクト)に対して行った変更を即座に削除するには、目的のオブジェクトを右クリックし、**[オブジェクトの変更を削除]** メニュー項目を選択します。



- オブジェクトにつだけの変更が行われた場合、PC-DMISはレポートオブジェクトをそのデフォルトの状態に戻ります。
- ひとつ以上の変更をした場合、PC-DMISは変更を削除ダイアログ ボックスを表示します。ダイアログ ボックスは作成された変更の各タイプの隣のチェックボックスを含み、変更を選択して削除することでレポートオブジェクトにターゲットされた変更を削除してOKをクリックできます。場所を除いてすべてを削除 チェックボックスは再配置の変更を除いてオブジェクトに加えられたすべての変更を削除します。



オブジェクト上の二種類の変更点を示す [サンプル削除変更] ダイアログボックス。

### すべての変更を削除します

レポート テンプレートのすべてのオブジェクト変更をすぐに消去するには、**ファイル| レポート| テンプレート関連データをクリア** メニュー項目を選択してください。

### CADオブジェクトのパン、ズーム、回転の修正を除去する

または、単に、CADReportObjectのためのパン、ズーム、回転の修正を削除することができます。これを行うには、レポート・ウィンドウでオブジェクトを右クリックし、それから**CADレポートオブジェクトのパン削除/ズーム/削除/回転の変更**を選択すれば、その他の変更（例えば切断面、様々なラベル定義、立体またはワイヤー表示など）は影響を受けません。


---

## 標準レポートの使用

デフォルトの標準レポートテンプレートであるTEXTONLY.RTPは簡単なテンプレートであり、測定データを[TextReportObject](#)に挿入して、テキストベースの情報をよりグラフィカルな方法で表示します。


Report Window - C:\Users\Public\Documents\Hexagon\PC-DMIS\2018 R1\Reporting\TextOnly.rtp

100%

		PART NAME : 2018 R1 Test 3		September 11, 2017		13:13	
REV NUMBER :		SER NUMBER :		STATS COUNT : 1			
FCFLOC1 Size		IN		8xØ0.3228 0.0004/0.0004			
Feature	NOMINAL	+TOL	-TOL	MEAS	DEV	OUTTOL	BONUS
CIR1	0.3228	0.0004	0.0004	0.3228	0.0000	0.0000	0.0004
CIR2	0.3228	0.0004	0.0004	0.3228	0.0000	0.0000	0.0004
CIR3	0.3228	0.0004	0.0004	0.3228	0.0000	0.0000	0.0004
CIR4	0.3228	0.0004	0.0004	0.3228	0.0000	0.0000	0.0004
CIR5	0.3228	0.0004	0.0004	0.3228	0.0000	0.0000	0.0004
CIR6	0.3228	0.0004	0.0004	0.3228	0.0000	0.0000	0.0004
CIR7	0.3228	0.0004	0.0004	0.3228	0.0000	0.0000	0.0004
CIR8	0.3228	0.0004	0.0004	0.3228	0.0000	0.0000	0.0004
FCFLOC1 Position		IN		±0.0004 @ A			
Feature	NOMINAL	+TOL	-TOL	MEAS	DEV	OUTTOL	BONUS
CIR1	0.0000	0.0004		0.0016	0.0016	0.0008	0.0004
CIR2	0.0000	0.0004		0.0015	0.0015	0.0007	0.0004
CIR3	0.0000	0.0004		0.0016	0.0016	0.0008	0.0004
CIR4	0.0000	0.0004		0.0002	0.0002	0.0000	0.0004
CIR5	0.0000	0.0004		0.0009	0.0009	0.0001	0.0004

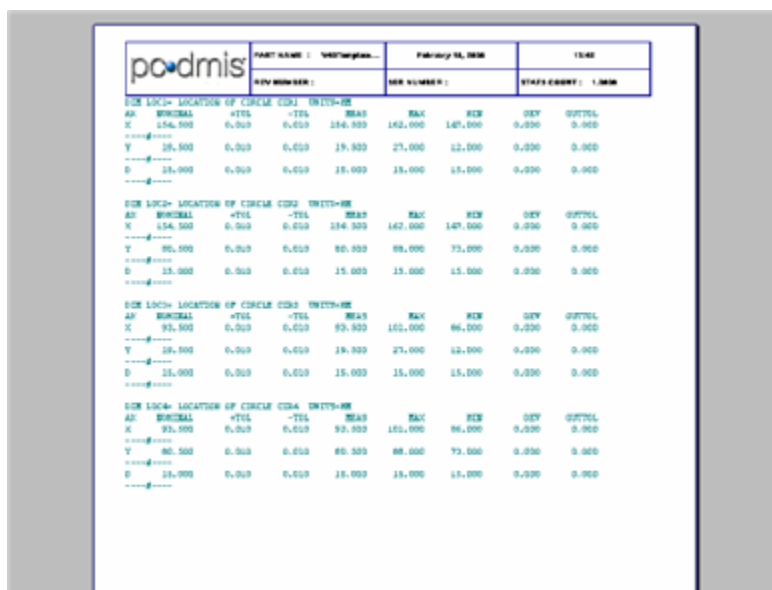
標準のテキストベースのレポートが表示されたレポート ウィンドウの例

標準のTEXTONLY.RTPレポートテンプレートが必要な内容を表示しない場合、PC-DMISは追加の標準レポートテンプレートも同梱しているため、これが役に立つかも知れません。レポート ツール バーから適切なアイコンをクリックして、現在のレポートに使用するレイアウトを簡単に変更することができます。以下は標準のレポートテンプレートです：

- 
**テキストのみ (TEXTONLY.RTP)** - このテンプレートは複数の標準ラベルを含むTextReportObject を使用します。

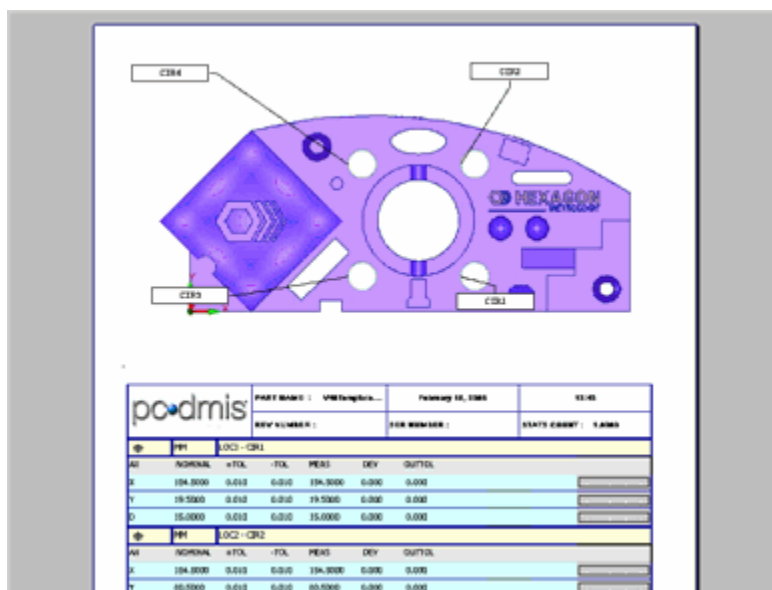


## 標準レポートの使用











podmis		PART NAME : VM10mpg10...		February 18, 2008		13:40	
REV NUMBER :		REV NUMBER :		REV NUMBER :		STAFF COUNT : 1,0000	
LOC= LOCATION OF CIRCLE C001 UNITS=MM							
AP	NORMAL	+TEL	-TEL	HEAD	RAI	RCR	DEV
X	154.500	0.000	0.000	154.500	162.000	147.000	0.000
Y	28.500	0.000	0.000	19.500	27.000	12.000	0.000
D	15.000	0.000	0.000	15.000	15.000	0.000	0.000
LOC= LOCATION OF CIRCLE C002 UNITS=MM							
AP	NORMAL	+TEL	-TEL	HEAD	RAI	RCR	DEV
X	154.500	0.000	0.000	154.500	162.000	147.000	0.000
Y	80.500	0.000	0.000	80.500	88.000	73.000	0.000
D	15.000	0.000	0.000	15.000	15.000	0.000	0.000
LOC= LOCATION OF CIRCLE C003 UNITS=MM							
AP	NORMAL	+TEL	-TEL	HEAD	RAI	RCR	DEV
X	93.500	0.000	0.000	93.500	102.000	86.000	0.000
Y	28.500	0.000	0.000	19.500	27.000	12.000	0.000
D	15.000	0.000	0.000	15.000	15.000	0.000	0.000
LOC= LOCATION OF CIRCLE C004 UNITS=MM							
AP	NORMAL	+TEL	-TEL	HEAD	RAI	RCR	DEV
X	93.500	0.000	0.000	93.500	102.000	86.000	0.000
Y	80.500	0.000	0.000	80.500	88.000	73.000	0.000
D	15.000	0.000	0.000	15.000	15.000	0.000	0.000

- 
**テキストおよびCAD (TEXTANDCAD.RTP)** - このテンプレートは複数のラベルを含むTextReportObjectおよびCadReportObjectを使用します。



podmis		PART NAME : VM10mpg10...		February 18, 2008		13:40	
REV NUMBER :		REV NUMBER :		REV NUMBER :		STAFF COUNT : 1,0000	
AP	LOC=C001	+TEL	-TEL	HEAD	RAI	RCR	DEV
X	154.5000	0.000	0.000	154.5000	0.000	0.000	
Y	19.5000	0.000	0.000	19.5000	0.000	0.000	
D	15.0000	0.000	0.000	15.0000	0.000	0.000	
AP	LOC=C002	+TEL	-TEL	HEAD	RAI	RCR	DEV
X	154.5000	0.000	0.000	154.5000	0.000	0.000	
Y	80.5000	0.000	0.000	80.5000	0.000	0.000	

- 
**CADのみ (CADONLY.RTP)** - このテンプレートは複数の標準ラベルを縦置きレイアウトに含む CadReportObject を使用します。このテンプレートは CADONLY\_LANDSCAPE.RTPより少ないラベル(最大10)をサポートしているので、ラベルはより詳細く大きくなっています。

- 
**画像分析**(GRAPHICALANALYSIS.RTP) - このテンプレートは分析オブジェクトを使用してレポートに発送された各形状の寸法のグラフィカルな分析（平坦性、真円度など）を提供します。形状以外の寸法の分析は表示されません。PC-DMIS は使用される寸法に対する個々の各取込み点の偏差をグラフィック表示します。レポートには、各ヒットの個々の矢印の形でエラーが表示されます。これらの矢印は色付き、矢印付きで、方向とともに誤差の相対的なサイズを示します。
- 
**縦置きCADのみ** (CADONLY\_LANDSCAPE.RTP) - これは **CADのみ** と似ていますが、テンプレートが縦置きレイアウトで表示される点が異なります。このテンプレートはCADONLY.RTPよりも多い数のラベルをサポートしているため(最大30個)、各ラベルはより小さく要約されて表示されます。
- 
**PPAP** (PPAP.RTP) - このテンプレートはレポートを生成して、それは生産部品承認プロセス（PPAP）を使用することができます。
- 
**プレーンテキスト** (PLAINTEXT.RTP) - このテンプレートは書式なしのシンプルなレポートを生成します。レポートはテーブル様の構成です。
- 
**形状プロット** (FORM PLOT.RTP) - このテンプレートはグラフィカル分析レポートと非常に似たレポートを生成しますが、出力が大きく、1 ページあたりに形状分析を表示する点が異なります。形状の寸法 (真円度、円筒度、平坦度、直線度、線のプロファイル、または面のプロファイル) を使用してこのレポートにデータを表示できます。
- 
**テキストおよびCAD公差範囲外** (TEXTANDCAD\_OOT.RTP) - このテンプレートは公差範囲外の測定結果を示すテキストおよびCADレポートを作成します。
- 
**デフォルト** (default.rtp) - このテンプレートは生テキスト(旧式)レポートを生成します。これは、ソフトウェアが指定のレポートウィンドウを持たない場合に旧バージョンのPC-DMISで使用されたレポートと似ています。他のレポートテンプレートが見つからない、または表示できない場合、PC-DMISはこのレポートをデフォルトにします。

## 標準レポートの使用

これらのテンプレートはデフォルトではレポートテンプレートダイアログボックスからアクセス可能です。このダイアログボックスのアクセスと使用の情報については、「レポートテンプレートの適用と削除」を参照してください。実際のテンプレートファイルは公開されたレポートサブディレクトリ内にあります。



この場所でレポートフォルダを見つけることができます。このフォルダには、レポートウィンドウに使用されるすべてのテンプレートが含まれています。

C:\Users\Public\Documents\Hexagon\PC-DMIS\<version>\Reporting

<バージョン> はPC-DMISのバージョンを表します。既存テンプレートをカスタマイズするか、新規テンプレートを作成したい場合、そのディレクトリで行います。

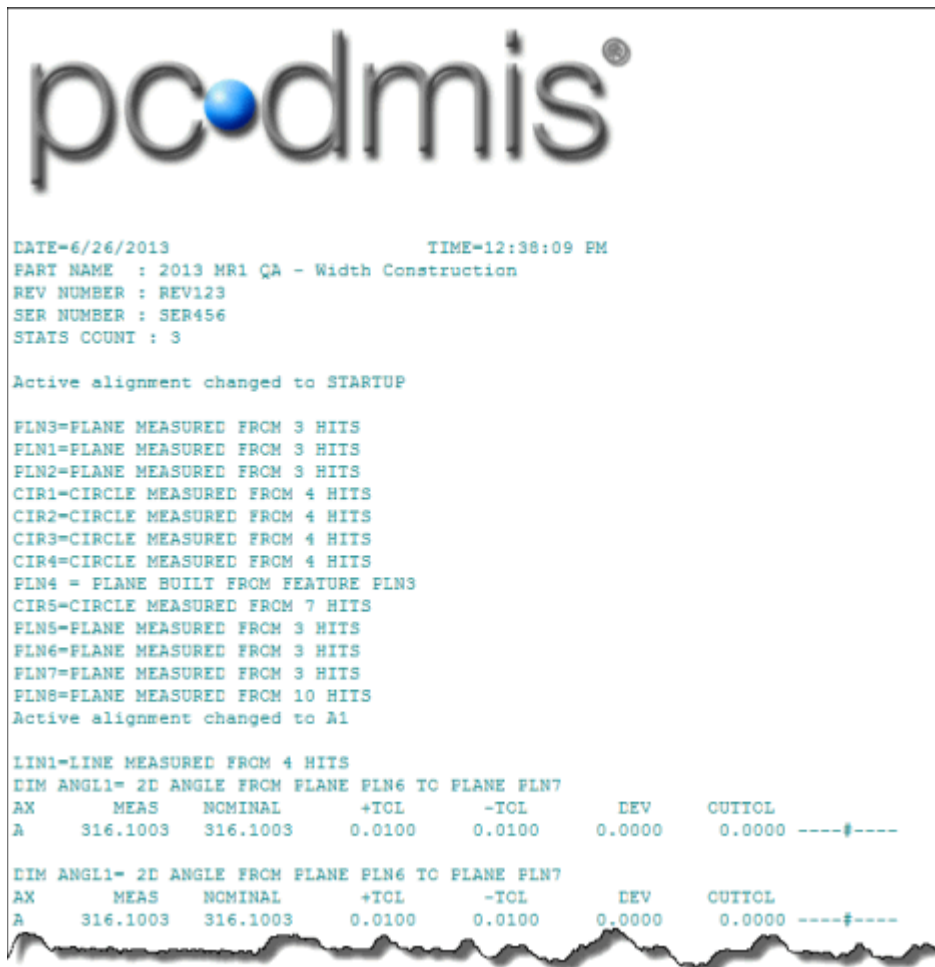
変更されたテンプレートを工場出荷時の設定に復元する必要がある場合は、それをPC-DMISのインストールディレクトリに位置するDefaultReportingTemplateBackupディレクトリからコピーして、レポートディレクトリにそれを貼り付けることができます。

DefaultReportingTemplateBackupディレクトリに保存されるテンプレートを変更しないでください。



レポートテンプレートを使用する測定ルーチンを読み込んだが、指定されたレポート用ディレクトリまたはPC-DMISのインストールディレクトリに該当するテンプレートが存在しない場合、オンザフライで"default.rtp"と呼ばれるテキストのみのレポートテンプレートが作成されます。これで、いつでも、指定されたレポートテンプレートを持っていないレポートウィンドウでレポートを表示することができます。default.rtpはテキストのみの形式で情報を表示します。これはレポートダイアログボックスのテキストモードの寸法レポートの使用 チェックボックスの選択を解除できないと意味します。レポートダイアログボックスのアクセスと使用については、「レポートウィンドウの内容を変更する」を参照してください。

## レガシー レポートの表示



レポートウィンドにレガシーテキストレポートを表示

## レポート済みの形状測定結果の公差領域

このトピックでは、レガシー (旧式の) テキストのみレポートをレポートウィンドウに表示する方法について説明します。PC-DMISバージョン3.7およびそれ以前のバージョンはこのレポートタイプを使用していました。




このレポートタイプでは、測定ルーチンで **レガシー測定結果のみ** を使用する必要があります。



[挿入 | 寸法 | 従来の寸法の使用] メニューから従来の寸法の使用と新しい幾何公差コマンドの使用の間で切り替えを行うことができます。

このテンプレートと.DATファイルを使用する方法については、「生成されたレポートで.DATファイルを使用」を参照してください。

1. **表示 | レポートウィンドウ**を選択してレポートウィンドウを開きます。
2. レポートツールバーから**デフォルトアイコン**  をクリックします。
3. この手順はオプションです。RTFエディタ内で完成したレポートを修正する場合、RTFファイルの変換方式で修正しなければならない場合があります。PC-DMIS設定エディタで、印刷セクションを展開して、**DoNotUseAmyUniRTF**を2に設定します。設定を保存をクリックして、OKをクリックします。これにより、レポートのテキストがバージョン3.7およびそれ以前で使用されていたようにRTFファイルに出力されます。0(デフォルト)に設定した場合、テキストボックス内に文字が表示されます。

---

## レポート済みの形状測定結果の公差領域

PC-DMISはフォーム寸法の公差領域をリニアグラフィックとして表示します。テキストモードのレポートについて、このゾーンは番号記号 (#) 誤差の量を示す文字で構成されます。非テキストモードのレポートでは、偏差が増加する場合、これはバークラフとしてバーが大きく左から右へ伸びているのが表示されます。テキスト以外のモード寸法について、偏差が公差以外に移動する場合にはバークラフの色が変更します。



フォーム寸法(真直度, 平坦度, 真円度及び円筒度)から負の公差はないので、だからリニアグラフィックは完全なフォーム（0公差）の誤差を表示し、グラフィックの左端の公差は0またグラフィックの右端の公差は許可される公差最大値です。



テキストモードおよび非テキストモード公差領域を示す例。

上記の指定されたグラフィカル例で、公差領域はテキストモードと非テキストモードで0.186の誤差と最大値0.3で表示されます。

ここでは円形のディメンションの公差領域がPC-DMIS内にそれぞれにテキストモードと非テキストモードのレポートとして表示される方法を示すいくつかの追加の例です。

FCFCIRTY1 = CIRCULARITY OF CIR1 UNITS=MM						
AX	NOMINAL	+TOL	-TOL	MEAS	DEV	OUTTOL
M	0.000	0.030	0.000	0.027	0.027	0.000 -----#

テキストモード公差領域の例。

FCFCIRTY1	MM		0.03			
Feature	NOMINAL	+TOL	-TOL	MEAS	DEV	OUTTOL
CIR1	0.000	0.030		0.027	0.027	0.000

非テキストモード公差領域の例。

## レポートページの並べ替え

PC-DMISはドラッグアンドドロップを提供して、レポートウィンドウで再配置のページにアプローチします (ビュー | レポートウィンドウ)。

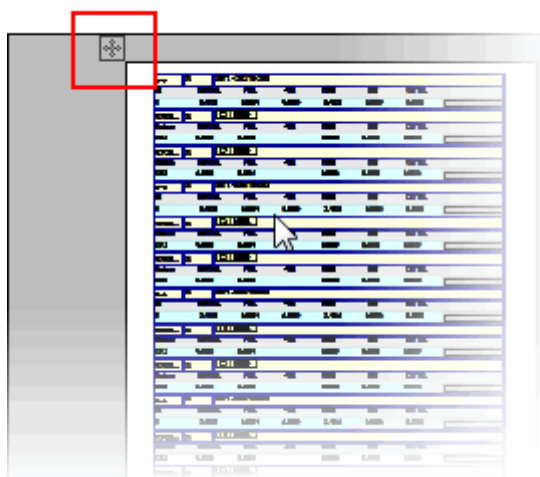
## レポートページの並べ替え



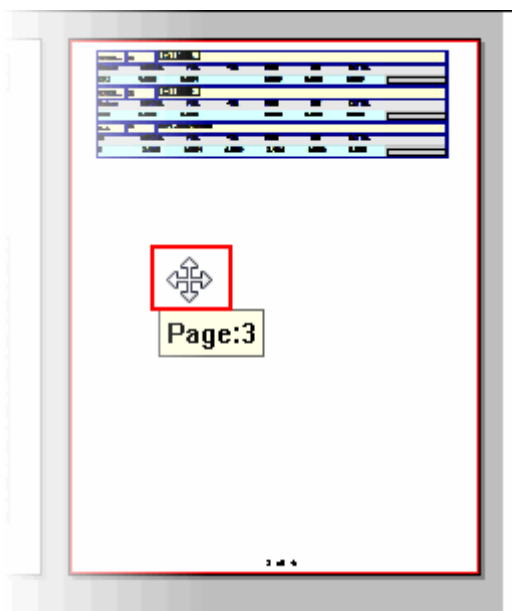
また、プレビューペーンでページを再配置することができます。詳しくは、「プレビューペーンでの操作」を参照してください。

ページを並べ替えるには以下の手順を実行します：

1. 並べ替えるページが一度に表示されるように、レポートの倍率を変えます。  
25%程度が適当でしょう。
2. ポインターを任意のレポートページの上に置きます。ページの左上に小さな[十字]アイコンが表示されることを確認してください。そのアイコンをクリックします。



3. ポインターをドラッグして現在のページをドラッグします。
4. 現在のページを既存のページの上部にドラッグします。移動先となるページが赤く囲まれ、ポインターのカーソルが変わります。



5. マウスボタンをリリースします。PC-DMISはレポートページをドラッグした方向に従ってレポートページの順番を変更します。
- ページをドラッグして既存ページの順序における前のページにドロップすると、ソフトウェアはそれをドロップしたページの**前**にページを挿入します。
  - ページをドラッグして既存ページの順序における後のページにドロップすると、ソフトウェアはそれをドロップしたページの**後**にページを挿入します。



レポートで7ページのシーケンスを持つと仮定します:

p1,p2,p3,p4,p5,p6,p7。p4 をドラッグしてそれをp2 (以前の順序)にドロップする場合、順序は p1,p4,p2,p3,p5,p6,p7になります。p4をドラッグしてそれをp5 (現在より後のページ)にドロップする場合、順序はこのようになります: p1,p2,p3,p5,p4,p6,p7

6. 必要に応じてページの並べ替えを続けます。

## 標準テンプレートの変更

PC-DMISに付属している標準のレポート テンプレートおよびラベル テンプレートを変更する場合は次の操作を行います。



## 生成されたレポートの.DATファイルを使用

- レポートのヘッダーを変更するには、「レポートのヘッダーの修正」を参照してください。
- 標準テンプレートレポートのプロパティを変更するには、テンプレートエディタでテンプレートを開き、オブジェクトを右クリックしてプロパティダイアログボックスでそのプロパティを変更します。詳しくは「オブジェクトのプロパティについて」を参照してください。

完全に新規のテンプレートを作成したい場合は「テンプレートの作成」を参照してください。

### レポートディレクトリについて



この場所でレポートフォルダを見つけることができます。このフォルダには、レポートウィンドウに使用されるすべてのテンプレートが含まれています。

C:\Users\Public\Documents\Hexagon\PC-DMIS\<version>\Reporting

<バージョン> はPC-DMISのバージョンを表します。既存テンプレートをカスタマイズするか、新規テンプレートを作成したい場合、そのディレクトリで行います。

変更されたテンプレートを工場出荷時の設定に復元する必要がある場合は、それをPC-DMISのインストールディレクトリに位置するDefaultReportingTemplateBackupディレクトリからコピーして、レポートディレクトリにそれを貼り付けることができます。

DefaultReportingTemplateBackupディレクトリに保存されるテンプレートを変更しないでください。

---

## 生成されたレポートの.DATファイルを使用

PC-DMIS は生成されたレポート用に限られた範囲で LOGO.DAT、HEADER.DAT、および ELOGO.DAT データファイルを使用します。これらのデータファイルについては、「編集ウィンドウの使用」の章にある「編集ウィンドウのヘッダーおよびフッターを変更」を参照してください。

- LOGO.DAT はレポートの始めを入力します。
- HEADER.DAT はそれぞれの後続ページのヘッダーを入力します。

- ELOGO.DAT はレポートの最後のページの終了テキストを入力します。

### これが機能する条件

- default.rtp など、ルールを含まないレポートテンプレートを使用しなくてはなりません。
- 設定エディタのレポートセクションにある `UseLogoElogoHeaderDat` エントリはデフォルト値である 1 に設定しなくてはなりません。

### .DAT ファイルの使用に関する制約

- 定義された .DAT ファイルがどこにあらうとも、ビットマップはレポートの最上部に配置されなくてはなりません。
- 最後のページにある項目がELOGO.DATのみの場合、最後のページはHEADER.DAT情報を含みません。

---

## レポートのヘッダー変更

多くのユーザーは何らかの方法でヘッダーを変更する必要があります。通常、デフォルトのレポートのヘッダーに表示されるデフォルトイメージを、より企業固有のものに変更したいと考えています。以下のいずれかの手順に従って、ヘッダーイメージを変更することができます。

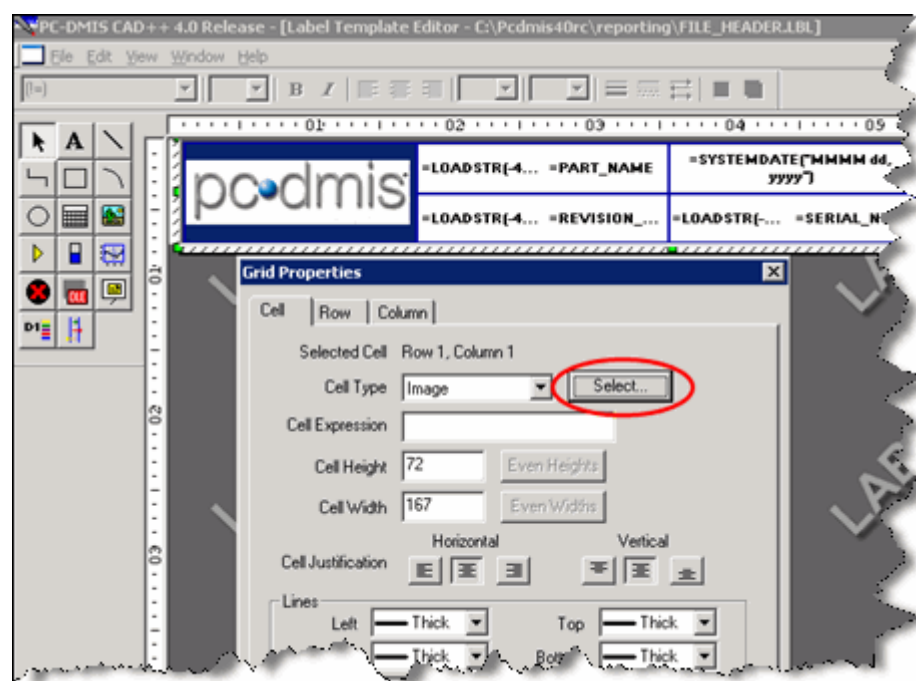
### ヘッダーのイメージのみを変更するには：

画像のみを変更する必要があり、ヘッダーの他の要素は変更する必要がない場合は、次のことをお勧めします：

1. レポートウィンドウでレポートにアクセスするか、またはカスタムレポートエディタの中でカスタムレポートをロードします。
2. ヘッダー（FILE\_HEADER.LBLなど）を右クリックします。
3. [画像を変更]を選択して[開く]ダイアログボックスを表示します。
4. [開く]ダイアログボックスで、ご希望のイメージを見つけて[開く]をクリックして、レポートでイメージを更新します。また、この操作によって基本的なラベルテンプレート (.lbl) が新しい画像で更新されます。

### ラベルテンプレートのエディタでヘッダー全体を変更するには:

1. ラベルテンプレートのエディタでラベルテンプレートを開きます。
  - ファイル| レポート| 編集 | ラベル テンプレートを選択します。[開く]ダイアログ ボックスが表示されます。
  - FILE\_HEADER.LBL テンプレートを選択して開くをクリックします。
  - ラベル テンプレート エディタの編集エリアに、[GridControlObject]と入力されている箇所があります。このオブジェクトがレポートのヘッダーに表示されるデータを全て管理しています。
2. ヘッダーのイメージを変更します。
  - GridControlObjectをダブルクリックします。オブジェクトを取り囲む斜線が現れます。これは、ヘッダー内のコードまたは項目を編集できることを示しています。
  - PC-DMISグラフィックを右クリックして **グリッドのプロパティ** ダイアログボックスが表示されます。
  - **セル** タブで**選択**をクリックします。開くダイアログボックスが現れます。



レポートヘッダー部のグラフィックを変更するために使用するボタンの例

- ヘッダーに挿入する新たなグラフィック イメージの場所へ行き、それを選択して[開く]をクリックします。ダイアログ ボックスが閉じます。
  - [適用] をクリックします。セルに新しいグラフィックが表示されます。
3. 必要に応じてヘッダーを変更します。
  4. 変更されたラベル テンプレートの保存およびテスト
    - 必要に応じて設定したら、[OK]をクリックし、[ファイル] 保存を選択して、変更されたラベルテンプレートを保存します。
    - ファイル| 終了を選択してラベル テンプレートエディタを終了し、測定ルーチンに戻ります。
    - ビュー| レポート ウィンドウを選択してください。変更がすぐに表示されない場合、レポート ツールバーからレポートを再描く アイコンを選択します。

考慮すべきその他のオプションは次のとおりです：

### 生成されたレポートで LOGO.DAT、HEADER.DAT、および ELOGO.DAT を使用

限られた範囲で、これらの .DAT ファイルに含まれるキーワード番号を使用して、生成されるレポートに表示される情報を定義することができます。詳細は「生成されたレポートで .DATファイルを使用」を参照してください。

#キーワードの詳細については、「編集ウィンドウの使用：はじめに」の章の「編集ウィンドウのヘッダとフッタの変更」を参照してください。

### LOGO.DAT、HEADER.DAT、およびELOGO.DATキーワードの変換

PC-DMIS の独自のレポート式を使用して、.DATファイルに含まれるキーワード番号と同じことを行うこともできます。

次のテーブルは、使用される同等のレポート式またはレポートオブジェクトとそれが使用される場所についての詳細を示します。

.DAT # キーワード	機能	レポート テンプレート内の対応するコマンド
#DATE	その時点での日付を挿入します。	=SYSTEMDATE("MMMM dd, yyyy")

## レポートのヘッダー変更

# TIME	その時点での時間を挿入します。	=SYSTEMTIME("HH:mm")
# PAGE	その時点でのページ番号を挿入します。	=Page()
#TRn	トレース・フィールドnの値を挿入します。ここで、nはトレースフィールド番号です。	=TRACEFIELD(n)
# PARTN	測定ルーチン名を挿入します。	=PARTNAME( )
# DRWN	修正番号を挿入します。	=REVNUM()
# SERIALN	シリアル番号を挿入します。	=SERNUM( )
# SEQUENCE	連続番号を挿入します。	(該当なし)
# SHRINK	スケール係数を挿入します。	=MEASSCALE()
# NMEAS	測定寸法の合計数を挿入します。	=NUMMEAS()
# NOUT	誤差域からはずれている、測定寸法の合計数を挿入します。	=NUMOUTTOL()
# ELAPSTIM	実行開始時と終了時の差の時間を挿入します。	=ELAPSEDTIME()
#BMP=bitmappath	パスおよびファイル名で指定されたビットマップを挿入。	ビットマップ オブジェクトを使用すること

レポートテンプレートで他の式を使用する方法については、「レポート式について」を参照してください。

レポートヘッダー内の変数の使用に関する制限については、「変数値の表示」を参照してください。

---

## レポートのテキスト色変更

時にはあなたがレポートで使用されるデフォルトのテキストの色を変更する場合があります。これらのテキスト色を変更するには、次のようにレポート テンプレートの TextOnlyObject に対して、[カラー エディタ] ダイアログ ボックスにアクセスして変更します:

1. ファイル| レポート| 編集| レポート テンプレートを選択してください。
2. 変更したい色のレポート テンプレートを選択してください。
3. レポート テンプレートエディタで、**TextReportObject**を選択して それを右クリックしてそのオブジェクトの プロパティ ダイアログ ボックスにアクセスします。
4. プロパティダイアログ ボックス から**色プロパティ**を選択してください。
5. **色エディタ**が表示します。これは編集ウィンドウに使用されるのと同じで、しかし、このケースではレポートテンプレートで使用されるTextOnlyObjectを変更します。色エディタに使用情報について、「仕様の設定」の項の「編集ウィンドウの色を定義」を参照して下さい。
6. 変更を確認して、テンプレートを保存します。
7. レポートのウィンドウにテンプレートをロードします。

---

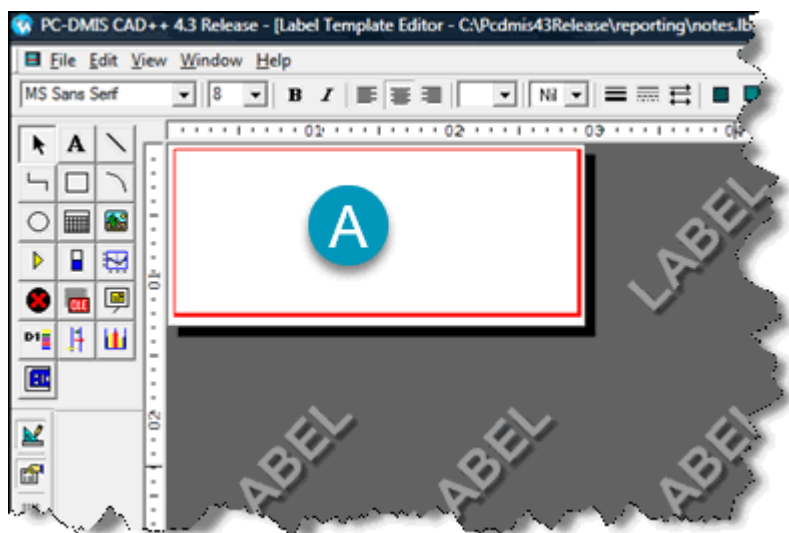
## 注釈をレポートに追加

これは、しばしば実行後に独自のメモをレポートに追加する場合に役に立ちます。メモを追加する方法の1つは、PC-DMISの標準コメント機能を使用し、PC-DMIS がレポートウィンドウにコメントを表示できるようにすることです。しかし、このアプローチにはいくつかの制限があります。コメントの表示はTextReportObjectを使用するレポートテンプレートのみで機能します。さらに、デフォルトでは標準コメントは非常にはっきりと表示されますが、それらが実行された場所にあるTextReportObject内部にしか表示されません。また、それらはレポートに表示された後は簡単に編集できません。コメントについて詳しくは、「編集ウィンドウの使用」章にあるコメントを参照して下さい。

もっと柔軟性が欲しい場合は、メモを最終レポートに直接に入力できるメモボックスを追加するオプションを検討してください。下記ステップはこれを行う方法に関する手順をユーザーに提供します。

## ステップ1: メモボックスを作成します

メモボックスを作成するには、ラベルテンプレートエディタ内に新しいラベルテンプレートを作成して、編集エリアにテキストオブジェクトをドラッグします。必要に応じてフォントサイズ、フォント色、背景色および境界に関してオブジェクトをフォーマットします。メモボックスを透明にしたい場合、NIL 背景色を選択します。オブジェクトのテキストプロパティを設定してこの値を保持します:「ここで右クリックして編集オブジェクトを選択してこのメモテキストを変更します」。ラベルテンプレートを保存します。

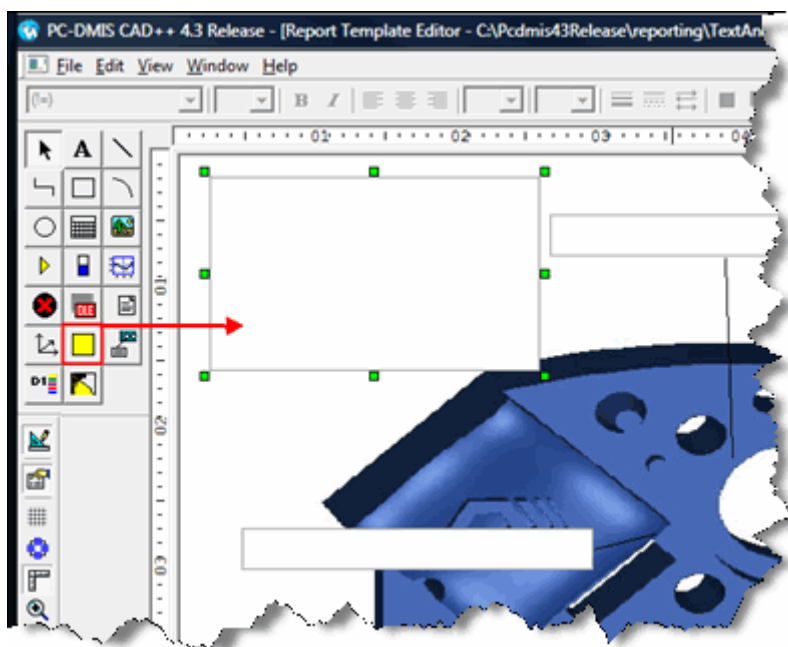


notes.lblという名前の新しいラベルテンプレート

(A) - ここを右クリックして編集オブジェクトを選択し、このメモテキストを変更します。

## ステップ2: レポートテンプレートにノートボックスを結び合せます。

編集可能なレポートテンプレートエディタ内のレポートテンプレートを開きます。ラベルオブジェクトを編集エリアにドラッグして、メモボックスを表示したいおおよその場所に配置します。レポートウィンドウで、その最終的な位置を変更することができます。



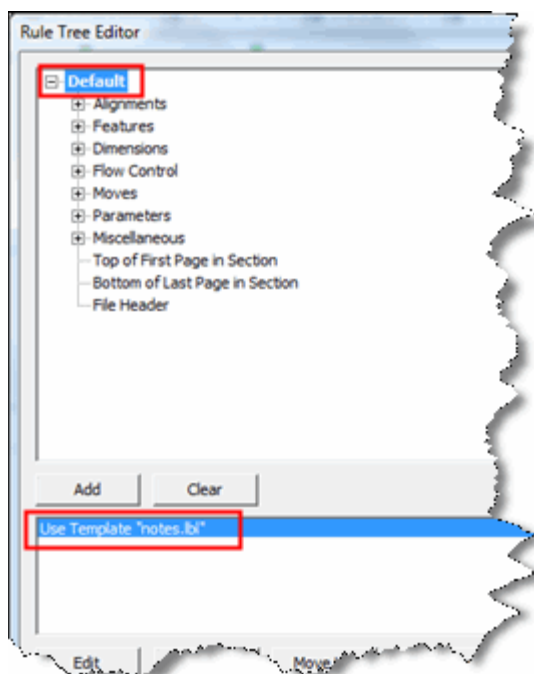
ラベルオブジェクトがTextAndCad レポートに追加されます。

### ステップ3: PC-DMISにノートボックスを表示する時刻を教えます。

ラベルオブジェクトを右クリックしてプロパティダイアログボックスにアクセスし、**ルール** をクリックして **ルールツリーエディタ**を開きます。新しいラベルオブジェクトにはまだルールがありません。ツリーの最上部に**デフォルト**項目に対するルールを追加して、そのルールをステップ1で保存したラベルテンプレートに入力します。この操作によって、ノートボックスから成るラベルテンプレートがレポートのすべてのページを表示します。変更を保存します。



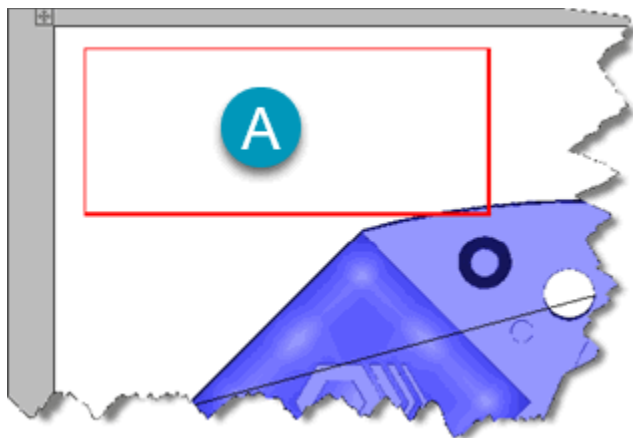
## 注釈をレポートに追加



デフォルト項目に割り当てられている notes.tbl をロードするよう指定するルール

### ステップ 4: レポートをテストします

レポートのウィンドウにアクセスして変更されたレポートテンプレートにロードします。メモボックスは、デフォルトのテキストを変更する方法に表示されるのを注意してください。ダブルクリックしてオブジェクトをアクティブにし、必要に応じて新しい場所にドラッグします。

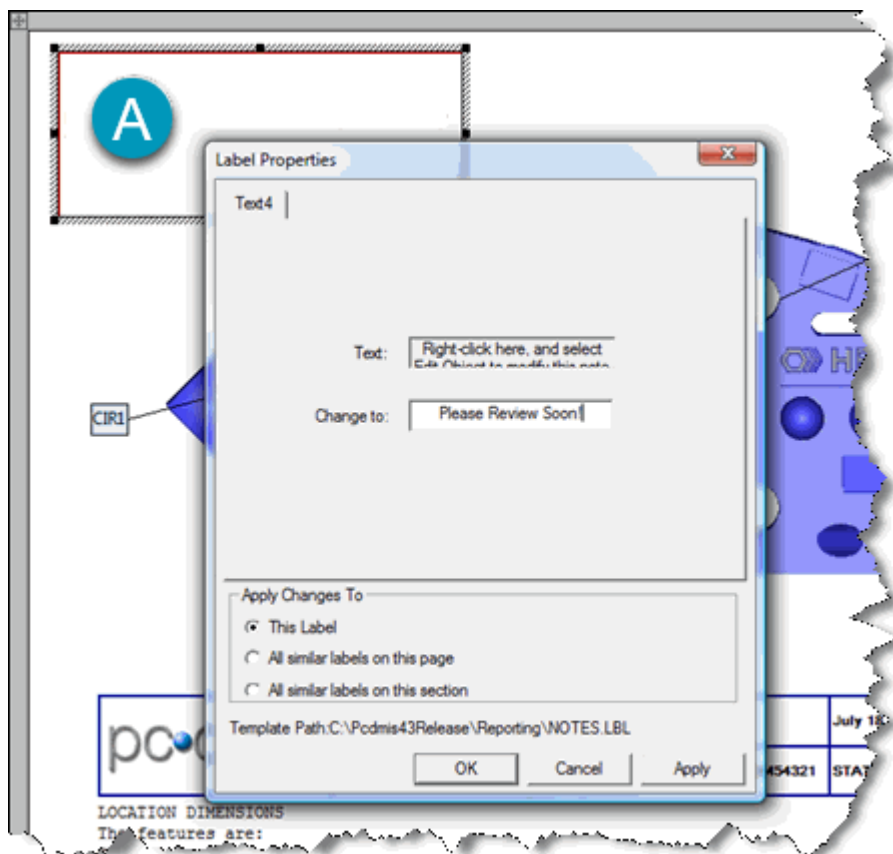


デフォルトのテキストを持つメモボックス

(A) - ここを右クリックして編集オブジェクトを選択し、このメモテキストを変更します。

**ステップ5:メモボックスのテキストを変更します**

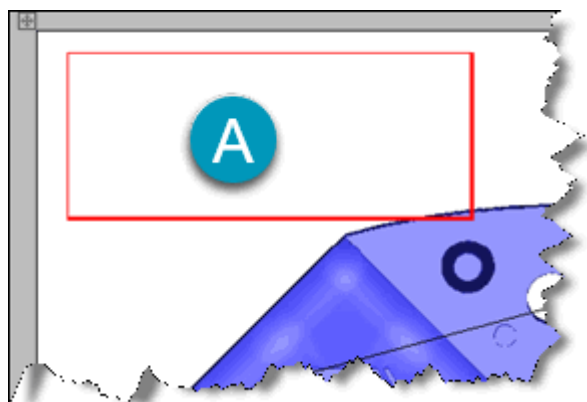
ノートボックスのテキストを変更するには、オブジェクトを右クリックして**オブジェクトを編集**を選択してください。ラベルプロパティ ダイアログ ボックスが表示されます。



ラベルプロパティダイアログ ボックス

(A) - ここを右クリックして編集オブジェクトを選択し、このメモテキストを変更します。

**変更** ボックスに新しいノートテキストを入力して**OK**をクリックしてください。PC-DMIS がテキストを更新します。



更新されたテキストを持つメモボックス

(A) - すぐにレビュー (再検討) してください

これだけです。もちろん、ニーズに合わせるためにメモボックスを変更できます。たとえば、メモボックスステابلのような構造を希望したい場合、ステップ1に、ラベル テンプレートに1つのテキストオブジェクトを変えて、**GridControlObject** をラベル テンプレートに追加でき、また**Text** オブジェクトでセルをオーバーできます。

特定の条件に基づくメモボックスのみを表示したい場合、ステップ3の **ルール ツリー エディタ**に使用されるルールを変更することができます。例えば、単にレポートの最初のページにメモボックスを配置したい場合、代わりに**ファイルヘッダー**を使用します。

---

## レポート エディタおよびフォーム エディタについて

レポートテンプレートエディタ、ラベルテンプレートエディタ、カスタム レポート エディタおよびフォームエディタは既存テンプレート、カスタムレポートまたはフォームの変更あるいは新規作成に使用されます。これらのエディタはメニューバー、ツールバー、オブジェクトバーなど同じユーザーインターフェイス要素の多くを共有します。これらのメニューの個々のアイコンや項目はエディタ間で変わる場合がありますが、基本的な外観は同じです。

ユーザーインターフェイスは次のトピックで説明されます。

## レポート エディタおよびフォーム エディタについてのメニューバー

### ファイル メニュー

**ファイル| 新規** - 空白のテンプレートまたはフォームを作成します。

**ファイル| 開く** - 以前に保存したレポートテンプレートファイルまたはフォームを開きます。

**ファイル| クローズ** - テンプレートエディタまたはフォームをクローズします。

**ファイル| 名前を付けて保存** - 新しいファイル名で現在のテンプレートまたはフォームを保存します。テンプレートまたはフォームを以前のバージョンで保存

**ファイル| 編集 / ファイル| 実行** - エディタを次の2つのモードの間で切り替えます: **編集モード**および**実行モード**。実行モードでは、フォームを"実行"またはテストすることが可能です。編集モードでは、テンプレートまたはフォームの修正が可能です。(実行モードはフォーム エディタでのみ使用可能であり、レポート用テンプレートエディタおよびラベル用テンプレートエディタでは使用できません)

**ファイル| 終了** - PC-DMISを終了します。変更を保存しない場合、PC-DMIS はそれらを保存したいかというメッセージボックスを示して確認します。

### 編集メニュー

**編集| レイアウト| オブジェクトを整列、スペースを均等、ビュー内の中心、同じサイズを作成** - これらのサブメニューで、エディタでオブジェクトをレイアウト、配置、スベールできます。詳細について、「レイアウトバー」を参照してください。

**編集| レイアウト| プロパティ** - 現在選択されたオブジェクトのプロパティシートを表示します。オブジェクトが選択されていない場合、このプロパティ シートは編集エリア("セクション"または"フレーム/ビュー"と呼ばれる位置)に表示されます。「プロパティシート」と「セクションについて」を参照してください。

**編集| レイアウト| 検査ニーマニック** - このメニュー項目が文字を追加するAltキーを使用して任意のショートカットキーはテキスト表示を持つフォームまたはテンプレート項目に唯一であることを保障します。

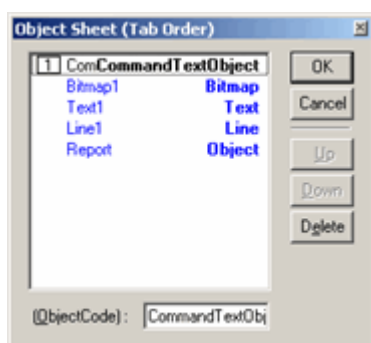
フォームまたはダイアログボックスコントロールにショートカットキーを定義するには、文字の前にアンパサンド記号(&)を入力してください。例:



「&Continue」というテキストラベルのボタンは、フォーム上で「Continue」のように見え、ALT + Cでアクセスできます。

**編集|レイアウト|グリッドの設定 - グリッドの設定** ダイアログ ボックスを表示します。このダイアログ ボックスを使用して、レイアウトの背景にグリッド点の表示/非表示を切り替えることができます。「グリッドを使用した操作」を参照してください。

**編集|レイアウト|オブジェクト - オブジェクトシート** ダイアログ ボックスを表示します。このダイアログ ボックスを使用して、フォームのオブジェクトを表示または選択したり、タブの順序を設定します。「オブジェクトシート」を参照してください。（フォームエディタでのみ利用可能です）



[オブジェクトシート]ダイアログボックス

**編集| 順序** - このサブメニューで、オブジェクトをお互いに重なるその他のオブジェクトの後ろまたは前に移動します。

**編集| やり直し** - エディタで取られた最後の操作を元に戻します。

**編集| 再実行** - 最後のしなかった操作を再実行します。

**編集| カット** - オブジェクトをカットしてそれを保存して貼り付けます。

**編集| コピー** - オブジェクトをコピーしてそれを保存して貼り付けます。

**編集| 消去** - 選択されたオブジェクトを消去します。

**編集| 貼り付け** - カットまたはコピーされたオブジェクトを貼り付けます。コピーされたオブジェクトを貼り付ける場合、通常、オブジェクトの右上にコピーされたオブジェクトが貼り付けられるので、これを新しい場所にドラッグする必要があります。さもないとコピー元のオブジェクトと重なります。

**編集 | 形式を選択して貼り付け** - これは、標準 貼り付け メニュー項目は異なり、貼り付けたアイテムとそれがコピーされたソース間のリンクを保持できるので、ソースが変更されたら、貼り付けられた項目も更新されます。例:



ハイパーレポートにMicrosoft Excelのチャートオブジェクトを挿入し、チャートのデータはExcelファイルのデータと同期を取るものとします。それを行うには以下を実行します。

1. Microsoft Excel ファイルでチャートオブジェクトをコピーします。
2. テンプレートまたはフォームにアクセスします。
3. **変数 | 形式を選択して貼り付け** を選択します。形式を選択して貼り付け・ダイアログ・ボックスが現われます。
4. **過去のリンク・オプション** を選択します。
5. **[OK]** をクリックします。チャート オブジェクトがテンプレートまたはフォーム上に表示されます。

ここで、Excelファイルのチャート オブジェクトのデータを変更すると、レポートまたはフォームのチャート オブジェクトも更新されます。

**編集 | タブの順序の設定** - これにより、実行モードでオブジェクトを巡回している場合、[TAB]が押された時に選択されているオブジェクトを定義することができます。(フォーム エディタでのみ使用可能)

**編集 | ユーザー指定のプロパティ** - [ユーザー指定のプロパティ]ダイアログ ボックスにアクセスし、ユーザーが指定したプロパティを一括管理することができます。「ユーザー定義のプロパティとの操作」を参照してください。(レポートテンプレートエディタのみで利用可能です。)

## 画像メニュー

**ビュー | グラフィック表示のウィンドウ、プレビューウィンドウ、フォームエディタ、マークされた設定ウィンドウ、基本的なスクリプトエディタ、検査報告書、プローブリードアウト、プローブツールボックス** - PC-DMISウィンドウまたはエディタを表示または非表示します。ほとんどの場合、これらはエディタで作業している間どのような目的にも利用されないの、それらを隠すことができます。

レポート エディタおよびフォーム エディタについて

**ビュー| オブジェクトバー** - エディタのオブジェクトバーが表示されます。「オブジェクトバー」を参照してください。

**ビュー| レイアウトバー** - エディタのレイアウトバーを表示します。「レイアウトバー」を参照してください。

**ビュー| フォントバー** - エディタの フォントバーが表示されます。「フォントバー」を参照してください。

**ビュー| ルーラーバー** - トップのルーラーバーとエディタの左側を表示します。「ルーラーの表示/非表示」を参照してください。

**表示| スナップ点** - エディタ内で、任意のオブジェクトに対する"スナップ点"を表示します。「スナップ点の表示」を参照してください。

**表示| 経路** - この機能はスナップ点が機能している場合のみ、利用可能です。多くのオブジェクトを使った複雑なページでは、このメニューオプションを使用して、一連のオブジェクトがスナップ点を通して現在選択されているオブジェクトに接続されているのを確認する場合に便利です。このメニューオプションは何らかの方法でスナップポイントで現在選択したオブジェクトに接続するすべてのオブジェクトを選択します。（フォームエディタでのみ利用可能です）

## **Windows メニュー**

このメニューでは、PC-DMISの任意のウィンドウに関して標準的なウィンドウの操作が実行できます。「複数ウィンドウの操作と表示」の章を参照してください。

## **ヘルプメニュー**

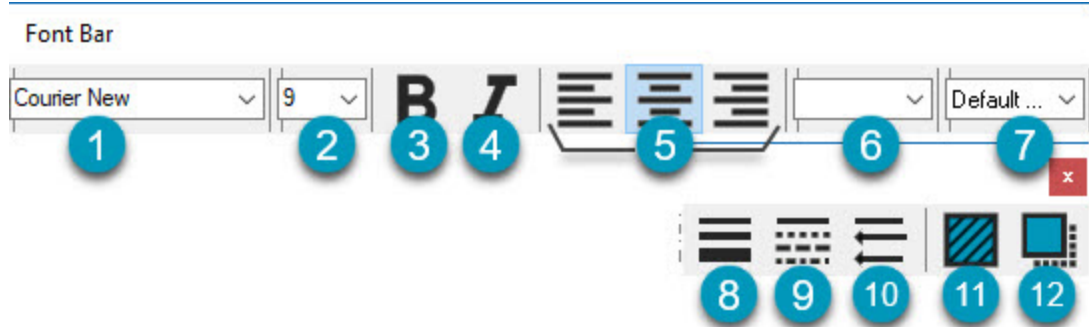
**ヘルプ| インデックス** - PC-DMIS ヘルプファイルにアクセスします。

**ヘルプ| ヘルプの使用** - ヘルプファイルを使用するピックを表示します。

**ヘルプ| PC-DMISについて** - PC-DMISについてダイアログ ボックスを表示し、PC-DMISのバージョンについての情報を表示します。

## **フォント バー**

エディタのフォントバーで、様々なオブジェクトの変更されたフォント、色、背景、線およびその他のプロパティを頻繁に変更することができます。



次のオプションが[フォントバー]で利用可能です:

1. このリストはオブジェクトのフォントがテキストをサポートする場合、そのフォントを定義します。また、**フォントプロパティ**でそれを設定することもできます。
2. この値はオブジェクトのフォントサイズがテキストをサポートする場合、そのフォントを定義します。また、**フォントプロパティ**でそれを設定することもできます。
3. **ボールド** - このボタンはオブジェクトのテキストをボールド体で表示します。また、**フォントプロパティ**でそれを設定することもできます。
4. **イタリック** - このボタンはイタリック体でオブジェクトのテキストを表示します。また、**フォントプロパティ**でそれを設定することもできます。
5. **左、中央および右** - これらのボタンはテキストをオブジェクトの左端、中央または右端に揃えます。また、これを**整列プロパティ**で設定することもできます。
6. このリストはオブジェクトの背景色を定義します。また、**背景色プロパティ**でこれを設定することもできます。
7. このリストはオブジェクトの前景色を定義します。前景はテキスト色と境界色を設定します。また、**前景色プロパティ**でこれを設定することもできます。
8. **ペン幅** - このボタンは境界または線の幅を設定します。これを複数回クリックすると、様々なオプション間で切り換えが行われます。また、**線幅フォントプロパティ**でこれを設定することもできます。
9. **ペンスタイル** このボタンは線のスタイルを設定します (境界線には適用されません)。これを複数回クリックすると、実線と様々な点線の間で線のスタイルが切り替わります。また、**線スタイルプロパティ**でこれを設定することもできます。
10. **矢じり** - このボタンは線オブジェクトの端 (複数可) に矢じりを配置します。これを複数回クリックすると、矢の位置が線の一端または両端の間で切り替わります。また、**矢じりプロパティ**でこれを設定することもできます。




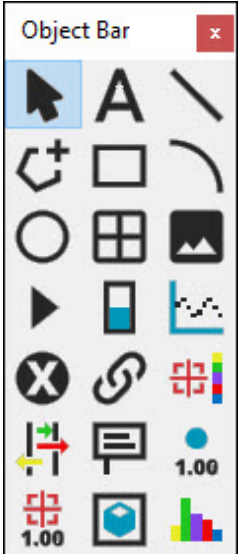

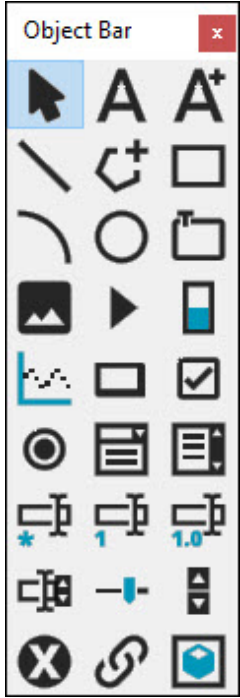
11. **ハッチスタイル** - このボタンはハッチスタイルをサポートするオブジェクトに対して、「ハッチスタイル」と呼ばれる背景パターンを設定します。これを複数回クリックすると、選択可能なハッチスタイルが切り替わります。また、**ハッチスタイルプロパティ**でこれを設定することもできます。
12. **影スタイル** - このボタンはオブジェクトが影をサポートする場合、オブジェクトでの影を設定します。これを複数回クリックすると、選択可能な影のスタイルが切り替わります。また、**影スタイルプロパティ**でこれを設定することもできます。

## オブジェクト バー

**オブジェクトバー** はテンプレートまたはオブジェクトにさまざまなオブジェクトを挿入してまたフォームにコントロールできるツールバーです。テキスト、画像ファイル、マルチメディア、ダイアログ ボックス コントロール、PC-DMIS専用のオブジェクト、およびその他の項目を挿入してカスタマイズされたラベル、レポート、およびフォームを作成するのに便利です。

このバーはレポート テンプレート エディタ、ラベル テンプレート エディタ、カスタム レポート エディタ、またはフォーム エディタなど編集環境に入ったときに表示されます。

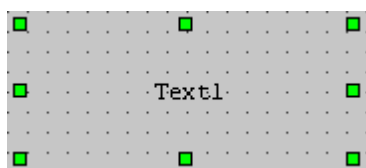
**オブジェクトバー** はこれらのタイプの一つに入り、もう一つは各編集環境に入ります。

レポート テンプレート エディタ	ラベル テンプレート エディタ	カスタム レポート エディタ	フォームエディタ
			

### オブジェクトの追加:

テンプレート、カスタムレポート、またはフォームにオブジェクトを追加するには：

1. 適切なエディタ内で、**オブジェクトバー**にアクセスします。
2. レポートに挿入したいオブジェクトをクリックします。
3. 次に、マウスの左ボタンを押したまま、現在のセクションの四角形をドラッグします。
4. 最後に、マウスボタンをリリースして下さい。
5. オブジェクトが作成され、選択されると、次に示すようにオブジェクトの各コーナーにハンドルと呼ばれる緑色の小さな正方形が現れます。



ハンドルが表示されたテキスト オブジェクトの例

## オブジェクトの選択と操作：

オブジェクトを操作する前に、それを選択する必要があります。オブジェクトを選択するには、オブジェクトをクリックし緑色のハンドルを表示させます。

新しい場所にオブジェクトをドラッグするには - オブジェクトを選択します。クリックしオブジェクトの上部をマウスボタンで押したまま、新しい位置にドラッグします。マウスをリリースして下さい。

オブジェクトのサイズを変更するには - オブジェクトを選択し、それがサイズ変更されたカーソル（2つの矢印に沿るライン）に変更するまでに1つ緑のハンドルの上に移動します。次に、ハンドルをクリックしマウスを新しい位置までドラッグします。マウスをリリースして下さい。オブジェクトが拡大または縮小されます。

オブジェクトのプロパティを変更するには - オブジェクトを選択して、オブジェクトを右クリックして **プロパティ ダイアログ ボックス**が表示されます。必要に応じてプロパティを選択し変更します。

その他の操作を配置、グループ、整列解除するには - [レイアウトバー](#) または **編集 | レイアウト と編集 | 順序** サブメニューを使用します。

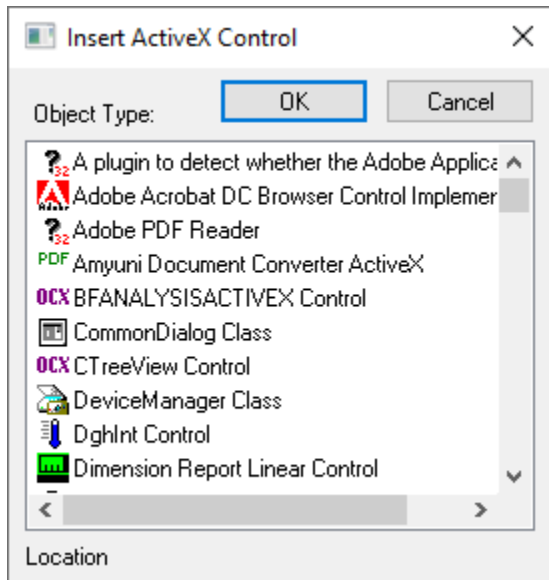
## オブジェクトを動的に変化させるコーディング

いくつかのオブジェクトについては、BASICスクリプトを使用してオブジェクトの特定のプロパティを動的に変化させることが可能です。例えば、コードを使用してグラフオブジェクトに自動的に点を投入したり、棒グラフの類にゲージオブジェクトを使用する際にも利用できます。これを行う方法の例については、以下のトピックを参照してください、「BASICスクリプトを使用してゲージ値を動的に変更する例」

## ActiveX オブジェクト



ActiveXオブジェクトはActiveX コントロールをテンプレートまたはフォームに挿入します。コントロールを挿入すると、PC-DMISは**ActiveXコントロールの挿入**ダイアログボックスを表示します。



[ActiveX コントロールの挿入] ダイアログボックス

このダイアログボックスでは、コンピュータ上の既知のコントロールの一覧から挿入するコントロールの種類を選択できます。**[オブジェクトの種類]**一覧におけるコントロールは、コンピュータにインストールされているプログラムに基づいて、各コンピュータに固有です。ActiveX コントロールはユーザーがフォームまたはテンプレートで実行できる操作の可能性を広げます。例えば、グラフコントロールを挿入して、Visual BASIC コードを用いて測定ルーチンのデータを渡して動的にそのグラフを作成することができます。

## PC-DMIS ActiveX コントロール

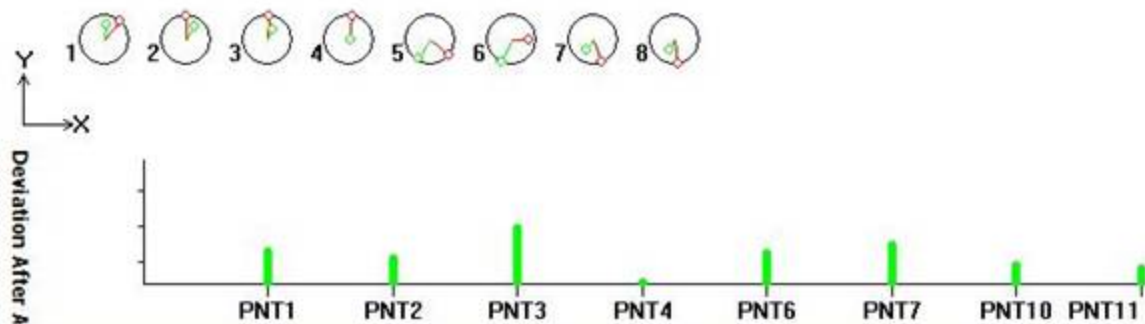
PC-DMISに同梱されるActiveXは要素解析に関連するものの多くをコントロールできます。要素解析コントロールは、一部のPC-DMIS付属の標準ラベルの上で、**GridControlObject** の特定のセルに表示されます。一般的に、ソフトウェアはコントロールを使用してグラフィカルな分析情報を表示します。**ActiveX コントロールを挿入**ダイアログ ボックスからこれらをユーザー自身のテンプレートまたはフォームに挿入できます。

分析機能に関連するPC-DMIS ActiveX コントロールは以下のようです:

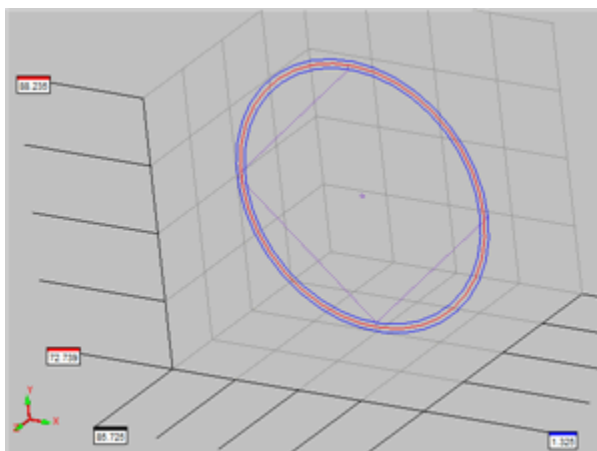
### ***BFAnalysisActiveX***

## レポート エディタおよびフォーム エディタについて

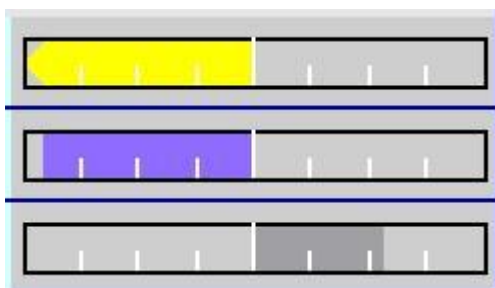
Standard Deviation 0.054489  
 Mean 0.137036  
 Translation offsets X 0.204252 Y -0.105290 Z 0.000000  
 Rotation offsets 0.186331  
 Scaling N/A



### DIMANALYSISACTIVEVEX



### 寸法レポート 線形



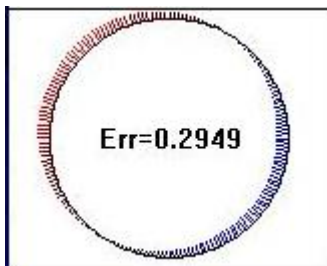
### 寸法レポートリニア2(表面NT スタイルコントローラ)

0.05									0.050
0.05									0.050
0.05									0.050

寸法レポート:円形



**FeatureAnalysisActiveX**



機能分析に関連していないPC-DMIS ActiveXコントロールは次のとおりです：

#### **DataFileFormatControl**

このコントロールはテンプレート型のレポートにおいて、.datファイル (logo.dat、elogo.dat、及び、header.dat)の解釈を可能にします。「一部のPC-DMIS ActiveXコントロール」 および「生成されたレポートでの.DATファイルの使用」を参照してください。

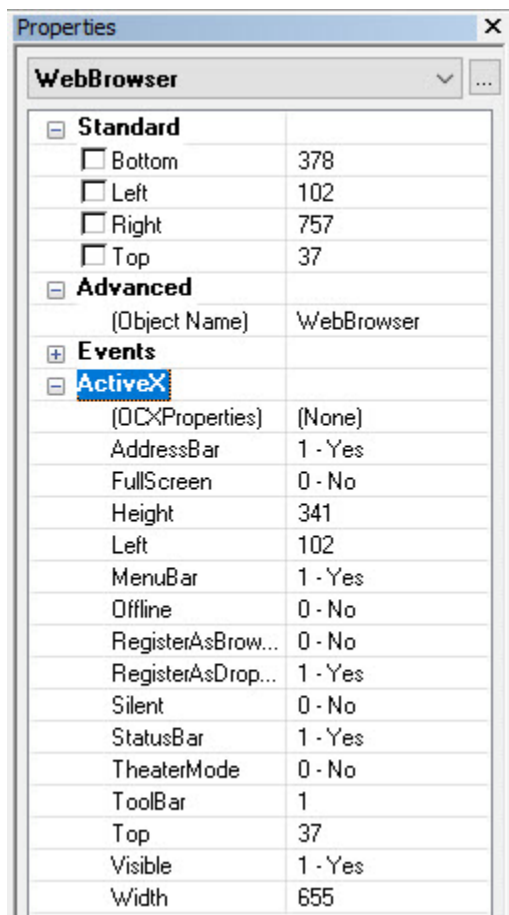
他のオブジェクトと同様に、PC-DMIS ActiveX オブジェクトにも標準および固有のプロパティの両方が含まれ、プロパティ ダイアログ ボックスを使用して変更できます。以下のトピックはこれらのプロパティへのアクセス情報が含まれます。

#### **BasicからActiveX Objectのメソッドと属性にアクセス**

コントロールを追加すると、他のオブジェクトと同じように、プロパティシートからそのイベントとプロパティにアクセスできます。

## レポート エディタおよびフォーム エディタについて

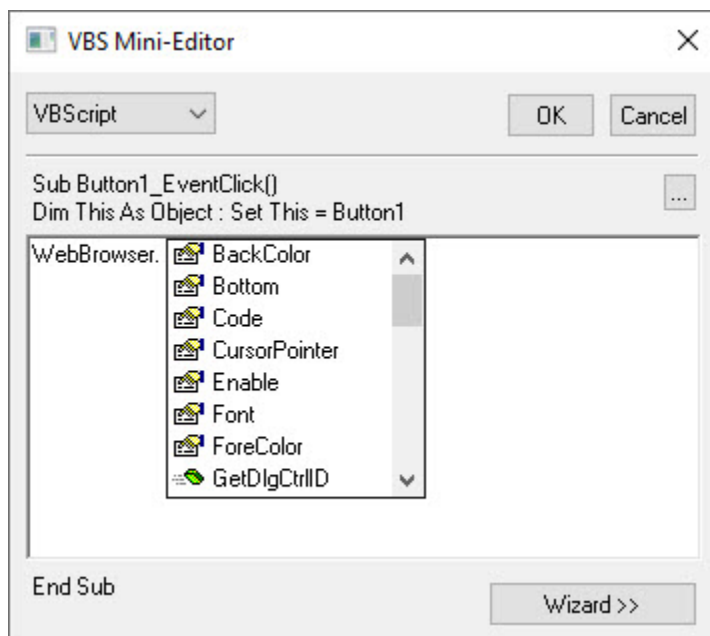
例えば、**Microsoft Webブラウザコントロール**を追加し、その **(オブジェクト名)** プロパティを**WebBrowser**に設定するとします。これはActiveXオブジェクトであるため、**ActiveX**と呼ばれるプロパティの新しいセクションが表示されます。そのセクションには、変数とそのデフォルト値を持つプロパティのユーザーアクセスリストが含まれます。



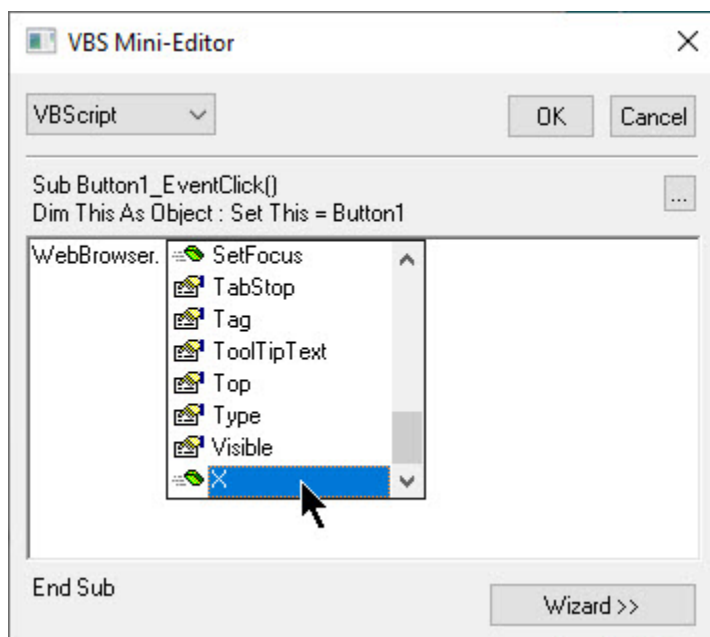
Microsoft Web Browser Control ActiveXのプロパティ

イベントハンドラーの**VBSミニエディター**内でActiveXコントロールのプロパティを設定するには：

1. ActiveXコントロールの名前を入力します。例えば、上記の例を使用した場合は、**WebBrowser**と入力します。
2. 次に、その後にピリオドを入力します。変数と方法にアクセスできるウィンドウが表示されます。



3. リストから「X」を選択します。PC-DMISは、ActiveXコントロールの内部編集可能変数のセットを一覧表示する別のポップアップウィンドウを開きます。



このようにして、Active Xオブジェクトの方法、プロパティ、およびイベントにアクセスできます。

様々な PC-DMIS ActiveX コントロールのプロパティについては、PC-DMIS Core ドキュメントの「PC-DMIS ActiveX コントロールの使用」トピックを参照してください。



## 円弧オブジェクト



**円弧** オブジェクトはテンプレートまたはフォームに楕円弧を挿入します。デフォルトの円弧は色付けがなく、その開始冒頭が 0 度で、終了角度が -90 度です。

オブジェクトのサイズを変更して塗りつぶしの色と境界線の色を追加して他の属性を変更する能力に加えて、次の編集可能なプロパティは、arcオブジェクトの含まれています：

### 角度1

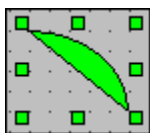
この数は弧の開始角度を設定します。デフォルトの値は10度です。

### 角度2

この数は弧の終了角度を設定します。デフォルト値は-90度です。

### IsWedge

**NO** (デフォルト)に設定する場合、PC-DMISは以下のようにウェッジなしの満ちた弧を描きます：



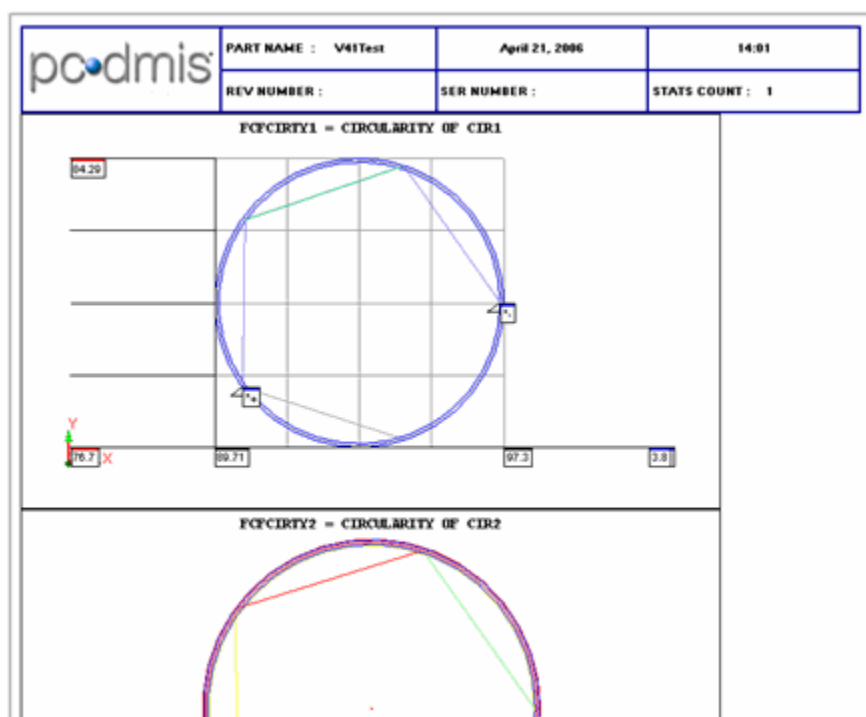
**YES**に設定する場合、PC-DMISは以下のようにウェッジを付けて満ちた弧を描きます：



## AnalysisWindow オブジェクト



分析ウィンドウオブジェクトはPC-DMISグラフィック分析ウィンドウをラベルテンプレートまたはカスタムレポートに挿入するのに使用されます。レポートウィンドウで、PC-DMISは中に解析オブジェクトが存在するラベルテンプレートを使用して、レポートテンプレートを使用する測定結果のグラフィック解析を表示します。①



寸法のグラフィック分析を示すレポートウィンドウ。

詳しくは、「レポートコマンドの挿入」章の「分析ウィンドウに関連するコマンドの挿入」を参照してください。

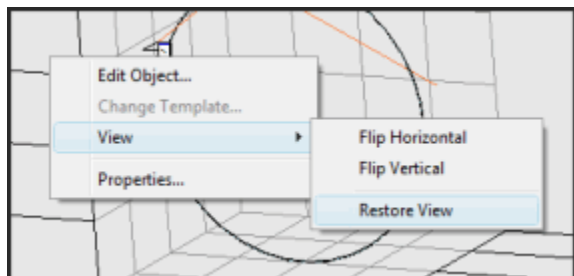


AnalysisWindow オブジェクトは要素コントロールフレーム寸法でのみ機能します。旧式の寸法には機能しません。

### オブジェクトを操作

このオブジェクトをダブルクリックしてレポートウィンドウでアクティブ化します。これを用いて、レポートウィンドウでのその表示をすばやく操作できます。アクティブ化されると、マウスホイールを使用してオブジェクトのグラフィックス表示のズームインやズームアウトを行い、その回転を変更することができます。オブジェクト外でダブルクリックするとそれが無効化されます。レポートウィンドウ内のオブジェクトを右クリックし、以下に説明されるグラフィカル分析オプション ダイアログ ボックスにアクセスします。

回転してオブジェクトに表示されたグラフィカル表示を元に戻す必要がある場合、このオブジェクトを右クリックして、ショートカットメニューのビュー メニューのビューを保存 を選択してください。これは、オブジェクトに表示されたグラフィカル情報の向きを元の方向に戻します。



ビューの復元メニュー項目

ビューメニューの他のメニュー項目、左右反転 と上下反転 はオブジェクトの水平方向または垂直方向を反転させます。

### カスタム レポートにポイント情報ボックスの使用

分析ウィンドウオブジェクトをカスタム レポートに追加している場合、以下の二つのプロパティを使用して、どのようなポイント情報が表示されるか、または使用するラベルテンプレートを定義することによってどのように表示されるかをコントロールできます。

- **PointInfoLabel** - このプロパティはレポートサブディレクトリにあるラベルテンプレートを表示する [ファイルを参照] ダイアログボックスを表示します。

**AnalysisWindow**オブジェクト内にポイント情報ボックスを作成するときに、ダイアログ ボックスを選択して、PC-DMISに使用させたいラベル テンプレートを 選択できます。選択したら、プロパティが**AnalysisWindow** オブジェクトに存在するラベル名と任意の点情報ボックスを表示します。

PC-DMIS は選択したテンプレートを記憶し、カスタムレポートエディタに追加される後続の**AnalysisWindow**オブジェクトのためにそれを使用します。定義されるテンプレートもPC-DM設定エディタの**レポート** セクションの下の**LastUsedPointInfoLabel** エントリに保存されます。

このプロパティで任意のラベルをテンプレートを定義しない場合、使用されるポイント情報ボックスは、カスタム レポート エディタに**PointInfo** オブジェクトをドラッグしたのと同じように作成されます。この場合、ラベルテンプレートは使用せず、内部で作成されます。

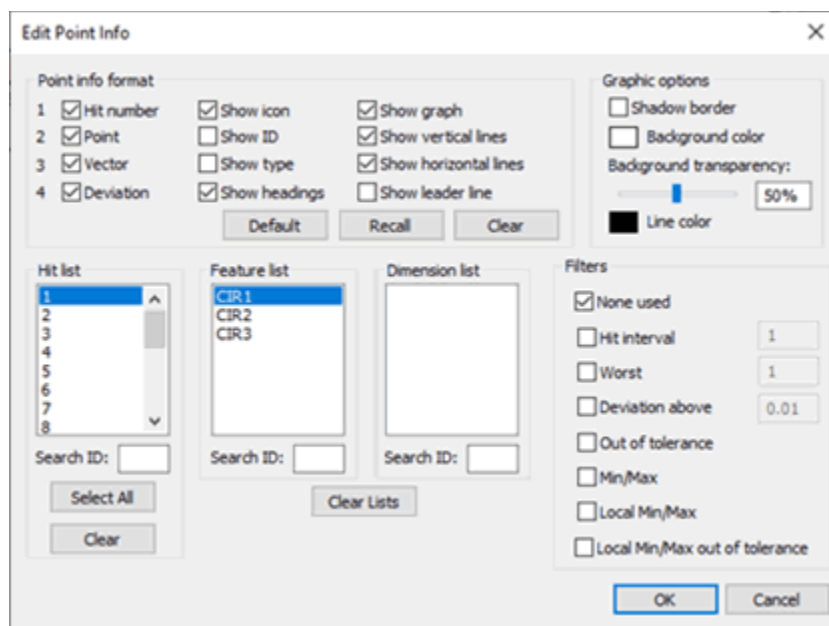
使用を検討する一部のラベルテンプレート: ga\_point\_info.lbl、 ga\_point\_info2.lbl と ga\_point\_info\_devonly

プロパティをクリアするには、**ファイルを参照** ダイアログ ボックスを開き、**ファイル名** ボックスのリストに表示されるファイル名を削除するか、**キャンセル**をクリックします。

- **SelectPointInfo** - このプロパティは**点情報の編集**ダイアログボックスを表示します。このダイアログボックスでは、**AnalysisWindow**オブジェクトのウィンドウ内部で点情報ボックスを作成することができます。このダイアログボックスは、**PointInfoLabel**プロパティで定義されるラベルテンプレートがあるかどうかによって、2種類のスタイルを持ちます。

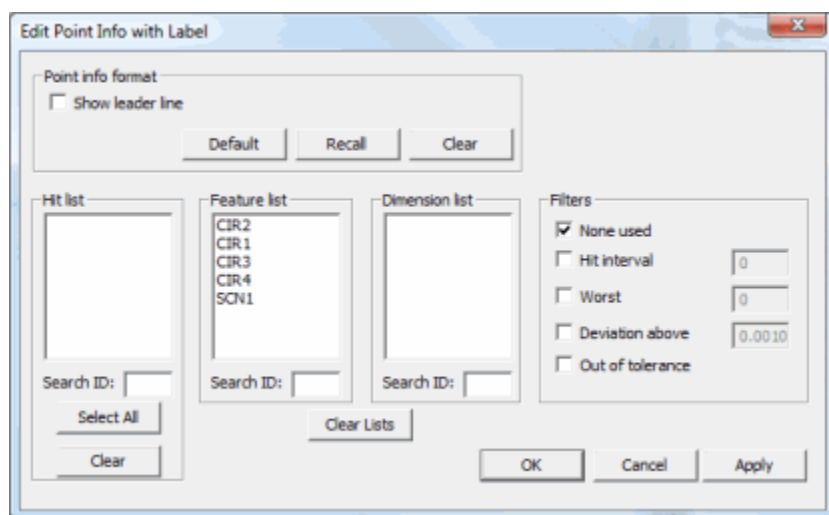
1つの定義をしない場合、標準的な**点情報の編集** ダイアログ ボックスが示します。

## レポート エディタおよびフォーム エディタについて



[点情報の編集] ダイアログボックス

定義されたものがある場合、若干異なるラベルを伴う点情報の編集 ダイアログボックスが現れます：

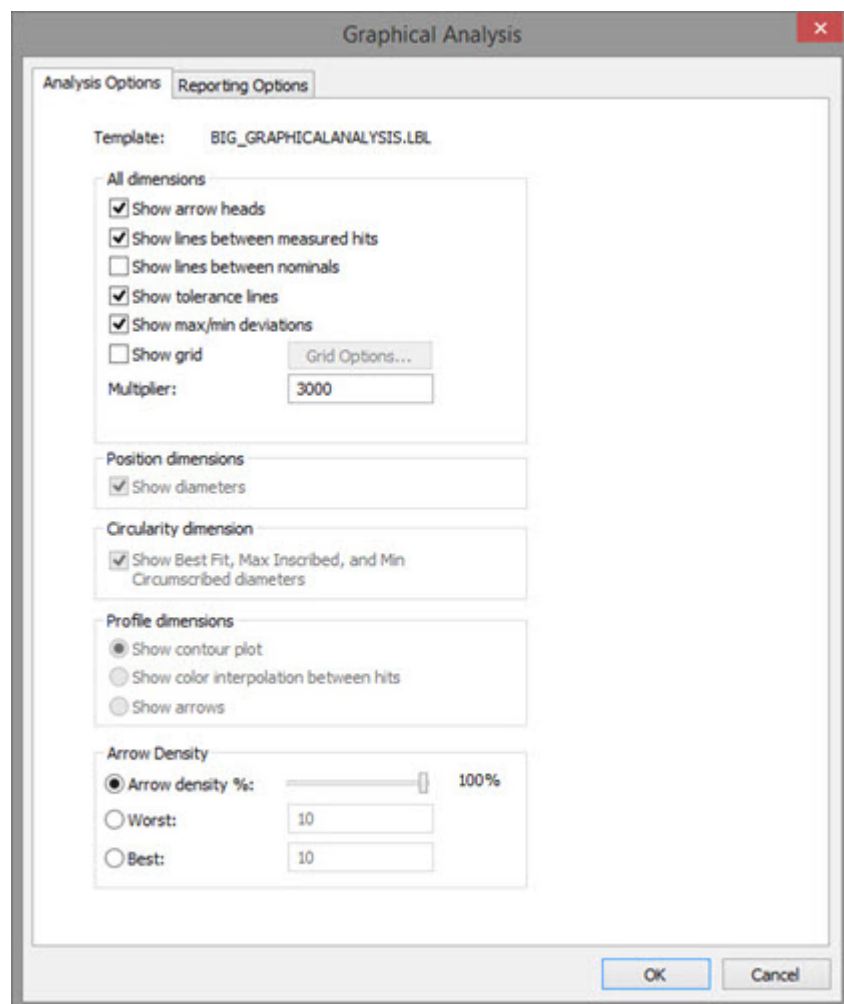


[ラベルでの点情報の編集] ダイアログボックス

これらのダイアログ ボックスは似ていますが、ラベルを定義している場合には、**点情報のフォーマット** エリアを使用して引き出し線の表示と非表示のみ選択できます。これは、カスタマイズされたラベルテンプレートを使用している場合は他のアイテムが適用されないために起こります。これらのいずれかのダイアログボックスの使用可能なアイテムについては、「レポートコマンドを挿入」章の「[点情報を挿入]ボックス」トピックを参照してください。

## 属性の変更

このオブジェクトが表示する内容を定義するために多くのプロパティを変更できます。  
**(ダイアログの設定)** プロパティを使用して、テンプレートエディタ内のグラフィック  
 分析ダイアログボックスにアクセスできます。このダイアログボックスでは、多くの  
 分析ウィンドウオブジェクトのプロパティを設定できます。下記の2つのタブがありま  
 す。



[グラフィック分析] ダイアログボックス



分析ビューから [グラフィカル分析] ダイアログボックスを開くと、[分析オプション] および [表示オプション] としてタブ名が表示されることに注意してください。レポート内部からダイアログボックスを開くと、[分析オプション] および [レポートオプション] としてタブ名が表示されます。

## 分析のオプションタブ

このタブでのオプションの説明については、「レポートコマンドの挿入」章の「測定結果オプション」を参照してください。(タブの最上部近くにある [テンプレート] 名はレポートウィンドウ内で **AnalysisWindow** オブジェクトを編集する場合にのみ表示されます。レポートウィンドウで直接編集する方法については、「グラフィック分析の編集」を参照してください。)

## レポートオプションタブ

このタブにあるオプションの説明については、下記の「使用可能なプロパティ」サブトピックを参照してください。

このタブにあるオプションに関連するプロパティは下記です。

**線の色** (測定されたもの) - 「測定された線の色」を参照してください。

**線のスタイル** (測定されたもの) - 「測定された線のスタイル」を参照してください。

**線の色** (設計上) - 「設計上の線の色」を参照してください。

**線のスタイル** (設計上) - 「設計上の線のスタイル」を参照してください。

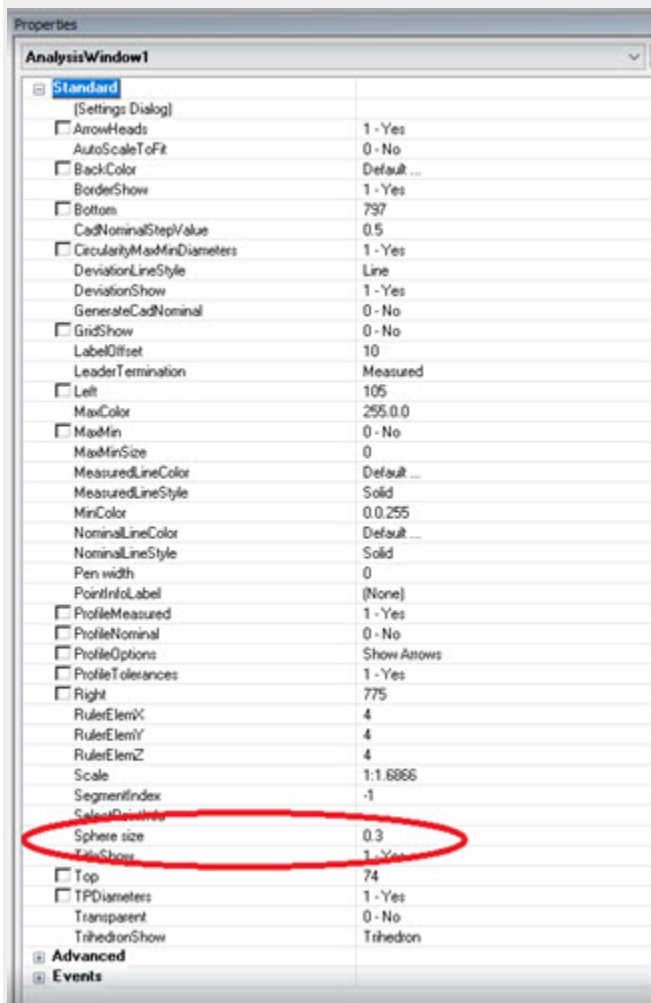
**線のスタイル** (偏差) - 「偏差線のスタイル」を参照してください。

**球のサイズ** - PC-DMIS はユーザーが **線モード** にあるときにのみこのオプションを有効にします。この値は線の先端の直径 (mm) を定義します。PC-DMIS をインチ単位で実行する場合、ソフトウェアは表示を目的としてのみユーザーが入力する値を mm に変換します。

この値は `AnalysisViewLollipopSphereSizeInMM` 設定を使って設定エディタで設定することができます。この設定について詳しくは、PC-DMIS 設定エディタドキュメントの「分析表示Lollipop球サイズ (mm)」を参照してください。



レポートでこれと分析オブジェクトのその他のプロパティを表示することができます。例えば、レポートで[ファイル|レポート|新規|カスタムレポート]を選択して、分析オブジェクトを作成します。次に、オブジェクトを右クリックして[プロパティ]を選択します。PC-DMIS は以下のように分析オブジェクトレポートに関連するすべてのプロパティを一覧表示します。



分析オブジェクトレポートのプロパティの例

三面体の表示 - 「三面体の表示」を参照してください。

最小/最大ボールサイズ - 「最大最小サイズ」を参照してください。

最小のボール色 - 「最小の色」を参照してください。



**最大のボール色** - 「最大の色」を参照してください。

**背景色** - 「背景色」を参照してください。

**線のサイズ** - 「線幅」を参照してください。

**リードライン終端** - 「リードライン終端」を参照してください。

**偏差の表示** - 「偏差表示」を参照してください。

**タイトルの表示** - 「タイトル表示」を参照してください。

**境界の表示** - 「境界表示」を参照してください。

### 使用可能なプロパティ

このオブジェクトの使用可能なプロパティは以下のようです：



特に説明のない限り、すべてのプロパティは、カスタムレポートで使用されます。このうち後ろにアスタリスク (\*) が付いているプロパティは、レポートテンプレートビルダでも使用されます。

#### (設定ダイアログ) \*

選択された分析ウィンドウオブジェクト用にグラフィカル分析オプションダイアログ ボックスを表示します。

#### 最適値矢印

このボックスは矢印を表示する最良偏差の数を定義します。

#### 矢印密度オプション

矢印密度を処理する方法を決定します。

**0 - パーセント** - これは寸法解析オプションダイアログボックスの矢印密度スライダーで定義された割合を使用します。

**1 - 最悪値** - これは**矢印の最悪値**プロパティを使用します。

**2 - 最適値** - これは**矢印の最適値**プロパティを使用します。

#### 最悪値矢印

このボックスは矢印を表示する最悪偏差の数を定義します。

**矢印の先端 \***

ダイアログボックスの矢印の先端を表示チェックボックスと同じです。

**AutoScaleToFit**

分析する情報がオブジェクトの境界内に収まるようサイズを変更します。

**BackColor \***

共通プロパティ

**BorderShow \***

分析ウィンドウオブジェクトの境界を表示または非表示にします。

**Bottom \***

共通プロパティ

**CadNominalStepValue**

**GenerateCadNominal** プロパティの CAD モデルから挿入された点の CAD 補間へのポリラインに沿って投影される点密度を定義します。

**CircularityMaxMinDiameters \***

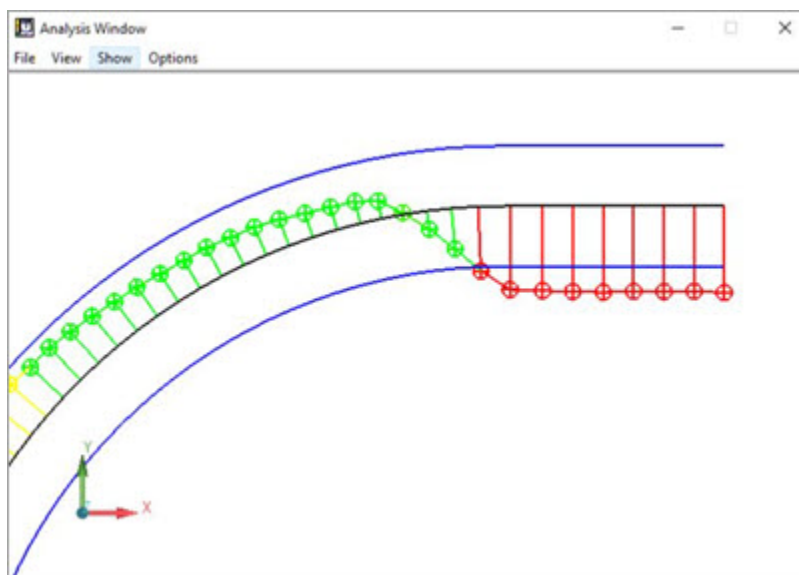
ダイアログボックスの最適化、最大内接直径、最小外接直径を表示チェックボックスと同じです。

**DeviationLineStyle**

偏差の線のスタイルを定義します。

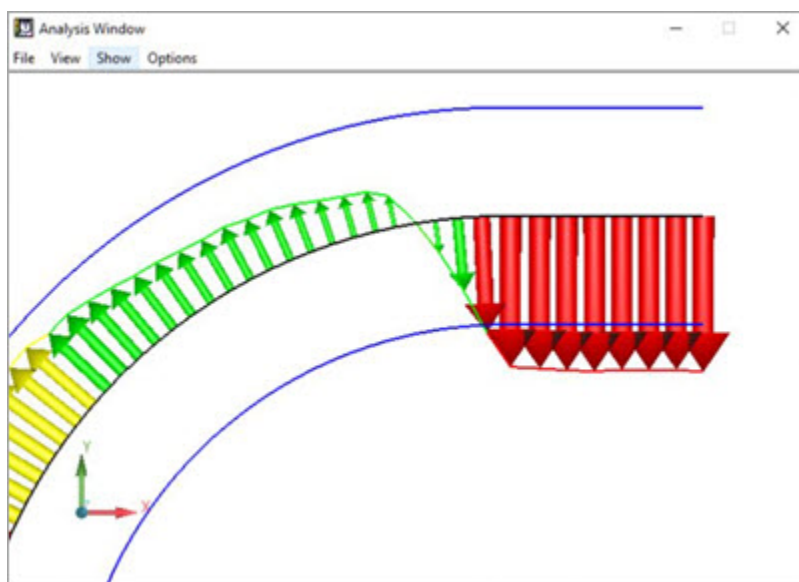
**線** - 偏差線はロリポップスタイルヘッドで終わる簡単な線として描画されます。

## レポート エディタおよびフォーム エディタについて



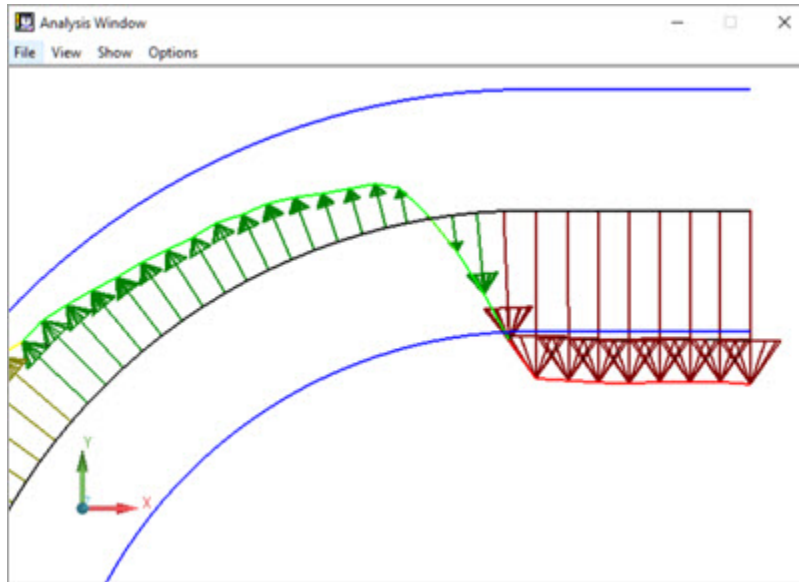
偏差線スタイル - 線オプション

**円筒** - 偏差線は矢印ヘッドで終わる影付き円筒として描画されます。



偏差線スタイル - 円筒オプション

**影なし円筒** - 偏差線は矢印ヘッドで終わるワイヤフレーム円筒として描画されます。このオプションは [グラフィック分析] ダイアログボックスの [表示オプション] タブからしか利用できません。



偏差線スタイル - 影なし円筒オプション

**DeviationShow**

偏差の線を表示または非表示にします。デフォルトでは、これらは矢印として描かれます。

**有効 \***

共通のプロパティ

**GenerateCadNominal**

CAD モデルにもっと一致する線を表示するために、必要に応じて追加の点を CAD モデルに投影して、滑らかな公称上ポリラインを生成します。これらの追加点の密度は、**CadNominalStepValue** プロパティを使用して増加または減少させることができます。

**GridShow \***

分析ウィンドウに 3D 格子状の背景を表示します。

**LabelOffset**

ヒット位置から指定されたオフセット距離だけ離れた位置にユーザー定義の点情報ラベルを配置します。使用するラベルは**PointInfoLabel** プロパティで定義されます。

**LeaderTermination**

点情報ボックスと関連する点の位置を結ぶ引き出し線の終端位置を設定します。

**矢印の終端** - 引き出し線は矢印終了位置へ指します。

**公称値**-引出線は公称点の位置へ指します。

**測定値** - 引出線は測定された点の位置を指します。

左 \*

共通のプロパティ

### **MaxColor**

最大偏差の球の点の色を定義します。デフォルトは赤(0.0.225)です。

### **MaxMin \***

ダイアログボックスの[最大/最小偏差を表示]チェックボックスと同じです。

### **MaxMinSize**

分析ウィンドウオブジェクトで最大/最小点をマークする球の点の直径を定義します。この値を使用すると、デフォルトの値は0です。

### **MeasuredLineColor**

測定されたヒット間に線を表示する場合、使用する線の色を決定します。

### **測定された線のスタイル**

これは線が測定された取込み点間で表示されるときに使用されるスタイルを決定します。**実線**または**破線**を選択できます。

### **MinColor**

最小偏差の球の点の色を定義します。デフォルトは青(255.0.0)です。

### **NominalLineColor**

公称上のグラフィック線の色を決定します。

### **NominalLineStyle**

公称上のグラフィック線のスタイルを決定します。**実線**または**破線**を選択できます。

### **PC-DMIS コマンドオブジェクト**

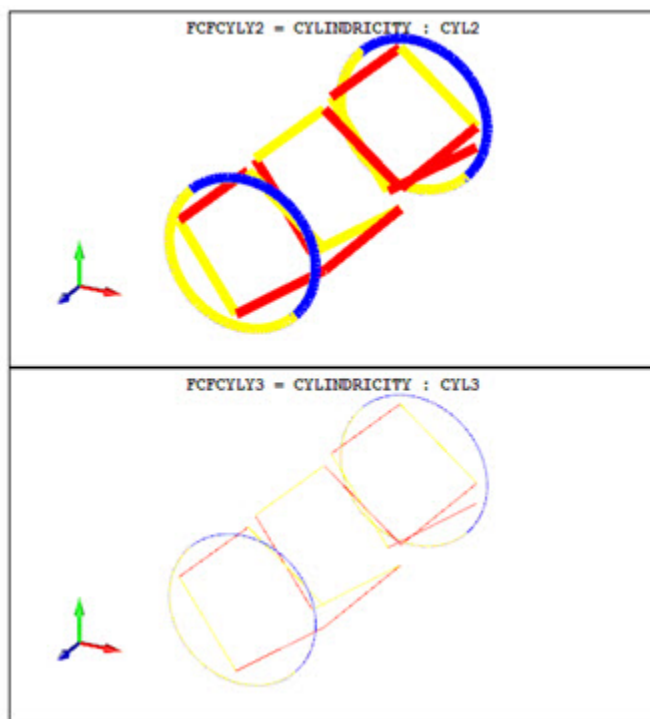
の 共通プロパティ

### **PC-DMIS 参照**

共通プロパティ

### **ペンの幅**

分析オブジェクトにおける線の線サイズを設定します。デフォルトは0です。最大の線幅はグラフィックカードとドライバによって決まります。



8 (最上部) および 0 (最下部) のペン幅

### PointInfoLabel

AnalysisWindowオブジェクトに関連される点情報ボックスで使用されるラベルテンプレートを選択します。このオブジェクトでユーザー定義されたラベルは **LabelOffset** プロパティを使用することを除き、移動することはできません。

### ProfileMeasured \*

ダイアログボックスの[測定されるヒット間で線を表示]チェックボックスと同じです。

### ProfileNominal \*

ダイアログボックスの[理論値間の線を表示]チェックボックスと同じです。

### ProfileOptions \*

ダイアログボックスの[プロファイルの測定結果]エリアから一つのオプションボタンを選択した場合と同じです。

### ProfileTolerances \*

ダイアログボックスの[公差線を表示]チェックボックスと同じです。

右 \*

共通のプロパティ

### **RulerElemX**

[分析グリッドオプション]ダイアログボックスで説明したXYZのボックスの要素数と同じです。

### **RulerElemY**


[分析グリッドオプション]ダイアログボックスで説明したXYZのボックスの要素数と同じです。

### **RulerElemZ**

[分析グリッドオプション]ダイアログボックスで説明したXYZのボックスの要素数と同じです。

### **倍率**

分析ウィンドウを特定比率でサイズ変更します。書式は  $n1:n2$  ( $n1$ および $n2$ は2つの数) です。例えば、値 **1:3** はその公称サイズの3倍で分析ウィンドウに情報を表示し、値 **2:1** はその公称サイズの半分で情報を表示します。また、このプロパティはマウスボタンを使用してズームした場合の現在のズーム倍率を表示します。

 倍率プロパティが機能するためには、**AutoScaleToFit** プロパティは、**No**に設定しなければなりません。

### **[SelectPointInfo**

] ダイアログボックスを表示し、点情報を選択して [分析ウィンドウ] オブジェクトにある [点情報] ボックスに表示できます。

### **TitleShow \***

分析ウィンドウオブジェクトの一番上で、測定されたアイテムのテキストを表示または非表示にします。

### **上 \***

共通のプロパティ

### **TPDiameters \***

ダイアログ ボックスの直径を表示チェックボックスと同じです。

### **透明**

**BackColor** プロパティに定義されたすべての色を無効にし、その後ろにある他のオブジェクトを示すために、オブジェクトを透明にします。

**TrihedronShow**

三面体シンボルを表示するか、あるいは隠します。または、各軸に沿ってルーラーを表示するため、ルーラーを選ぶことができます。

**表示可能 \***

共通のプロパティ

## 境界オブジェクト



**境界** オブジェクトは長方形境界をテンプレートまたはフォームに挿入します。オブジェクトのサイズを変更して塗りつぶしの色と境界線の色を追加して他の属性を変更する能力に加えて、次の編集可能なプロパティは、境界オブジェクトの含まれています：

**HighlightColor**

これは境界スタイル プロパティで使用される色を設定します。

**境界スタイル**

これはオブジェクトの3D境界のハイライトスタイルを設定します。オプションには一般、3D、凹みと盛り上がりが含まれます。

## 画像オブジェクト



**画像**オブジェクトによって、テンプレートまたはフォームに事前に作成されたビットマップグラフィックを挿入することができます。エディタでこのアイコンをクリックしてボックスをドラッグすると、ダイアログボックスが開きます。



## レポート エディタおよびフォーム エディタについて



[ビットマップ] ダイアログボックス

- **OK**ボタンで、ダイアログ ボックスに読み込まれるビットマップをフォームまたはテンプレートに挿入します。
- **取り消し**ボタンで、任意のビットマップを挿入せずにダイアログボックスを閉じます。
- **コピー**ボタンで、**読み込み**ボタンを通してダイアログボックスにすでに読み込んだクリップボードにビットマップをコピーします。
- **貼り付け**ボタンで、クリップボードからダイアログ ボックスへコピーされたビットマップグラフィックスを貼り付けます。ビットマップグラフィックスを貼り付けた後、**RLE**チェックボックスを選択してグラフィックがレポートに保存されるときにそれを圧縮することができます。
- **読み込み**ボタンで、グラフィック画像(ビットマップまたはJPEGファイル)をダイアログボックスに読み込みます。グラフィックスを読み込んだ後、**リンク**チェックボックスを選択して、ビットマップをテンプレートまたはフォームにリンクします。これはグラフィックが更新されると、テンプレートまたはフォーム内部の更新されたフォームでグラフィックが表示されることを意味します。
- **消去**ボタンで、読み込まれたビットマップをダイアログボックスから消去できます。
- **透明**リストは透明にしようとするビットマップ内部での1つの色を指定します。

オブジェクトのサイズを変更して他の属性を変更する能力に加えて、次の編集可能なプロパティは、ビットマップオブジェクトの含まれています：

### ビットマップ

ビットマップのファイル名です。

### レイアウト

**中央**、**左**、または**右**は長方形内のビットマップのアラインメントです。

**ストレッチ** はグラフィックを拡大または縮小してボックスのサイズに合います。

**サイズに合わせる** は自動的に長方形のサイズを拡大してグラフィックのサイズに合います。

## ボタンオブジェクト



**ボタン** オブジェクトはフォームにボタンコントロールを挿入します。**ButtonType** プロパティの変更でこのボタンがクリックされる場合、フォームが取られるアクションを選択できます。

オブジェクトのサイズと色を変更して他の属性を変更する能力に加えて、これらのプロパティを使用してボタンオブジェクトをカスタマイズできます：

### デフォルト

ENTERキーが押された場合にボタンが応答する方法を指定します。

**はい** - 別のボタンにフォーカスがある場合でも、ボタンが押されたENTERキーに応答します。

**いいえ** - ENTERが押されている場合、フォーカスがあるボタンのみが応答します。

### ボタン形状

ボタンの外観を指定します。これらのオプションは、以下のとおりです：

**0 - 一般**: 標準のボタンに形状を変更します。

**1- 非アクティブなプロパティタブ**: 選択されないプロパティシートタブに形状を変更します。

**2- アクティブなプロパティタブ**: 選択されるプロパティシートタブに形状を変更します。

### テキスト

ボタンに表示されるテキストを指定します。

### ビットマップ

ボタンの表面に指定のビットマップを表示します。「ビットマップ オブジェクト」で説明されているのと同じダイアログ ボックスおよびプロパティを使用します。

### レイアウト

これはボタン面のビットマップの位置またはテキストを定義します。次の値が使用できます:

0-中央

1- 左

2-右寄せ

3-上寄せ

4-下寄せ

### ButtonType

ボタンがクリックされた時のアクションを指定します。

0 - 取り消し: フォームを閉じて何も行いません。

1 - イベントクリック: C++またはVBScript操作を実行します。

2 - Goto: マルチドキュメントインターフェイス (MDI ) 関連ファイルに移動します。

3 - ヘルプ: HelpContextID プロパティを使用するWinHelp()関数を呼び出して適切なトピックを開きます。

4 - OK: 変更を記録してフォームを閉じます。

5- 記録: 変更を記録してフォームを開いたままにします。

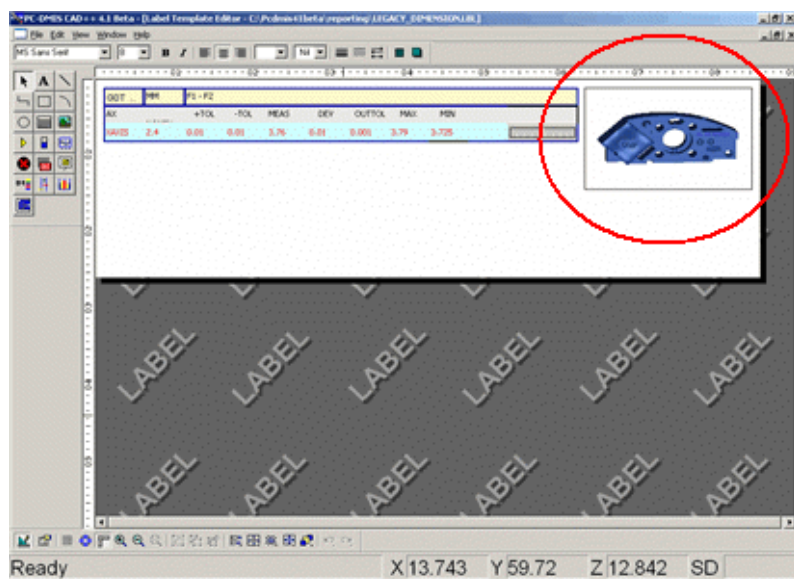
### GotoPath

ボタンがクリックされた時、フォームが呼び出すMDI関連ファイルを指定します。これは主にプロパティシートのようなコントロールを実行するために使用されます。

## CadImageObject



**CadImageObject** でラベル テンプレートまたはフォームにCAD画像を表示できます。この項目を選択してまたボックスを編集環境にドラグする場合、PC-DMISはこの編集に **CadImageObject**を挿入して、またオブジェクトはダミーCADモデルのイメージを表示します。



ラベル テンプレートエディタは挿入されるCadImageObjectを表示します。

編集環境内のオブジェクトサイズを定義する方法はレポートウィンドウまたは実行形式に実際に表示される場合にオブジェクトのサイズを定義します。

**CadImageObject** はこれらのプロパティを含めます：

### 標準

#### 下

はオブジェクトの下の位置をエディタの上端を基準としたピクセルで定義します。

#### 左

はオブジェクトの左の位置をエディタの左端を基準としたピクセルで定義します。

## 右

はオブジェクトの右の位置をエディタの左端を基準としたピクセルで定義します。

## 境界線の表示

オブジェクトの境界線を表示または非表示にします。

**オン** - オブジェクトの周りの境界を表示します。

**オフ** - 境界を表示しません。

## 上

- オブジェクトの上の位置をエディタの上端を基準としたピクセルで指定します。

## GraphicsOptions(グラフィックオプション)

CAD画像でラベルを非表示にするか表示するかを決定します。

**0 - なし** - ラベルを表示しません。

**1 - ラベル** - ラベルを表示します。

## すべての測定要素を非表示にする

CAD画像上の要素を表示及び非表示にします。

**0 - いいえ** - 要素を表示します。

**1 - はい** - 要素を非表示にします。

**2-エントリ設定を使用** - (デフォルト) エントリのデフォルトを使用します。これはPC-DMIS Settings Editorの[レポート]セクションにあるHideAllMeasuredFeaturesOnReport エントリを上書きすることができます。

## すべての点を非表示にする

CAD画像上の点要素を表示及び非表示にします。

**0 - いいえ** - 点要素を表示します。

**1 - はい** - (デフォルト) 点要素を非表示にします。

**2-エントリ設定を使用** - (エントリのデフォルトを使用します。これはPC-DMIS Settings Editorの[レポート]セクションにある **HideAllPointsOnReport** エントリを上書きすることができます。

### TrihedronShow

CAD画像の三面体を表示または非表示します。

**0 - なし** - (デフォルト) 三面体を非表示にします。

**1 - はい** - 三面体を表示します。

## 詳細設定

### (オブジェクトコード)

オブジェクトの一意の名前を定義します。

### 有効

対象のオブジェクトをフォームまたはテンプレートで変更可能にするかどうかを定義します。

**はい** - 変更に対してオブジェクトを有効にします。

**いいえ** - 変更に対してオブジェクトを有効にしません。

### 見える

対象のオブジェクトをフォームまたはテンプレートに表示するかどうかを決定します。

**はい** - オブジェクトを表示します。

**いいえ** - オブジェクトを非表示にします。

## イベント

**EventReportData** - レポートデータをPC-DMISからテンプレートまたはフォームへ引き渡すイベントです。

## ラベルのCadImageObject

**ルール ツリー エディタ** ダイアログ ボックスを使用して特定寸法または要素のレポートテンプレートにラベル テンプレートを表示します。このような場合には、レポートのウィンドウが寸法または要素を含まれCADモデルの一部が表示されます。

## レポート エディタおよびフォーム エディタについて

AX	+TOL	-TOL	MEAS	DEV	OUTTOL
X	93.5000	0.010	0.000	93.5000	0.000
Y	19.5000	0.010	0.000	19.5000	0.000
D	15.0000	0.010	0.000	15.0000	0.000

AX	+TOL	-TOL	MEAS	DEV	OUTTOL
X	154.5000	0.010	0.000	154.5000	0.000
Y	19.5000	0.010	0.000	19.5000	0.000
D	15.0000	0.010	0.000	15.0000	0.000

AX	+TOL	-TOL	MEAS	DEV	OUTTOL
Y	50.0000	0.010	0.000	50.0000	0.000

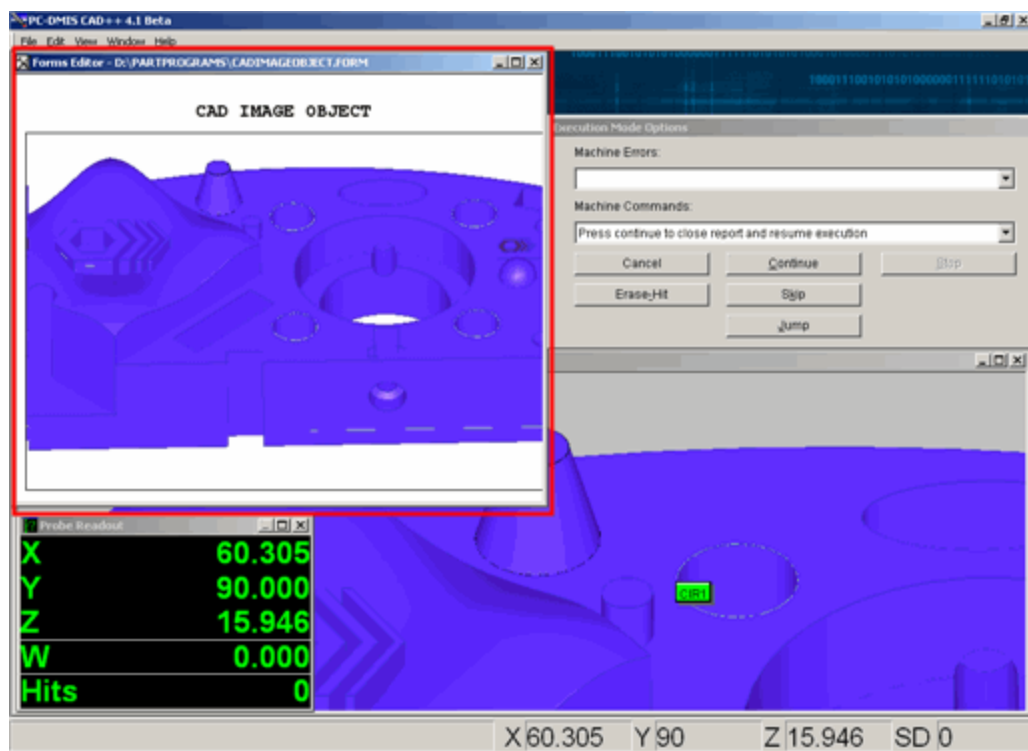
AX	+TOL	-TOL	MEAS	DEV	OUTTOL
X	224.0000	0.010	0.000	224.0000	0.000

表示されたそれぞれの寸法の横にCADImageObjectを表示しているレポート ウィンドウ

このCADイメージはレポート ウィンドウから拡大 縮小、周りに合わせたサイズ変更、回転または移動が可能です。これを行うには、CAD画像をダブルクリックして、それを編集に作成でき、また希望したいグラフィックの表示ウィンドウのモデルのような画像を操作します。変更を保存してレポート ウィンドウに戻るには、オブジェクトの外側をダブルクリックします。

### フォームのCADImageObject

それはフォームに使用される場合、PC-DMISがフォームコマンドを実行する時にCadImageObject は現在のビューセットに制限されます。一旦フォーム(CTRL + E) またはフォームを呼び出す測定ルーチンを実行したら、CADImageObjectを変更できません。



プログラムの実行中に、CADImageObjectを表示するフォームウィンドウ

追加情報については、この章の「フォームの作成」を参照してください。

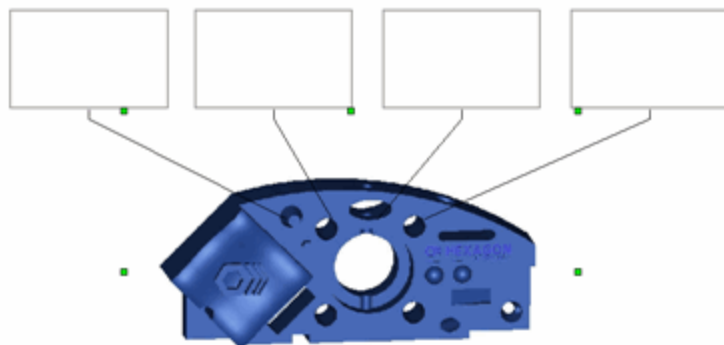
## CadReportObject



**CadReportObject (CRO)**を使用すると、完了されたレポートに CAD図面を表示できます。最初にCROをレポート テンプレートにドロップする場合、PC-DMISは自動的にラベルレイアウトウィザードを起動します。このウィザードを使用してPC-DMISに使用させたいラベルを配置した後、またダミーのラベルとしても定義されないルールがない場合、ダミーのヘキサゴンのテストブロックのグラフィックが表示されます。それはこのようになります：



## レポート エディタおよびフォーム エディタについて



レポートテンプレートに挿入された CRO の例

これらのダミー項目はレポートにあってほしい内容の説明にすぎません。実際のレポートウィンドウに実際のCADモデルが表示されます。ラベルはCROのルールツリーにおける最初のルールによって定義されるラベルテンプレートの画像を表示します。ラベルが関連付けられておらず、ルールが適用されない場合、ラベルはダミーのラベル画像を描画します。

### レポートウィンドウで動作方法：

レポートウィンドウで、それは任意の近いズームされないことを除き、CAD 表示は最初に正確にそれがプログラムの実行を完了するときまたはレポートを再描くときにグラフィック表示ウィンドウに示すように表示します。レポートウィンドウでCROへの変更を行う場合、—後続の測定ルーチンの実行後にも—レポートに挿入されるCAD ビューをクリックしてまた**オブジェクトの変更の削除**を選択してまたは **ファイル| レポート| テンプレート関連データをクリア**を選択する前に、PC-DMISはレポートのCAD 画像への変更を保持します。

レポートウィンドウが頻繁にCAD図面を示していますが、**ルール ツリー エディタ**に指定されるそれらの要素のラベルと引き出し線のみを表示します。例えば、測定ルーチンに4つの測定円と2つの測定線があり、**[ルール ツリー エディタ]**でCROが測定円に対してのみラベルを指定した場合、たとえ直前の実行で線も同様に測定済みだとしても、レポートには円に対するラベルデータのみ表示されます。

また、—**[ラベル レイアウト ウィザード]**の**[ラベル数]**リストを使用して—CROを**[ルール ツリー エディタ]**で指定された要素の数より少ないラベルを表示するよう設定した場合、レポート ウィンドウにはページが追加され、CAD図形に対する追加のインスタンスが表示されます。これらの追加画像は引き出し線と残りのすべての要素のラベルが表示されます。ラベルは、多くの情報がある場合にはこれは特に有用で、一部の図面の周りに1つまたは2つ以上のラベルがある時レポートを見混雑することができます。



ビューセットを使用している場合、CAD表示がビューセットに示すと同じのように表示します。PC-DMIS は実行中に発生した各ビューセットレポートの新しいページで新しいCAD 表示を挿入します。ビューセットについては、「ビューセットの使用」を参照してください。

## CROCADイメージの回転、移動及びズーム

レポートウィンドウでCRO CAD画像の向きやズームレベルを変更したり、新しい場所に移動したりすることができます。

- 画像を回転するには、オブジェクトをダブルクリックして「有効にします」。有効になったらホイールボタンをクリックして保持します。これを行いながらマウスをドラッグします。また、Ctrlキーを押してマウスをドラッグする間に右クリックすることもできます。
- 画像を拡大また縮小するには、オブジェクトをダブルクリックして「有効にします」。有効になったら、マウスのホイールボタンを回して、拡大また縮小します。
- CROを削除するには、オブジェクトを右クリックしてそれを選択します。選択したら、オブジェクトをクリックしてマウスをドラッグします。

ズームキャンセルまたは回転の変更をするには、ESC キーを押します。CROは変更を適用せずに「無効にされます」。

回転ズームの変更を保存するには、CROの外側をダブルクリックしてください。CROは「無効」になり、CAD 画像は新たな方向性とズームレベルを使用します。CROの上で要素ベースのラベルのレイアウトを使用する場合、レポート全体がCAD 画像に適用される新たな方向性とズームレベルでリロードされます。CROがSNAPSHOTコマンドからのものである場合、PC-DMISは編集ウィンドウのSNAPSHOTコマンドにこれらの同じ変更を適用します。


移動の変更を保存するには、選択したオブジェクトの外でクリックしてください。

CROの移動、ズーム及び回転の修正を削除するには、レポート・ウィンドウでオブジェクトを右クリックし、それから**CAD レポートオブジェクトの移動/ズーム/削除/回転モードを削除**を選択します。他のモードは、（例えば、断面カット、様々なラベル定義、ソリッドまたはワイヤーディスプレイなど）が影響を受けません。

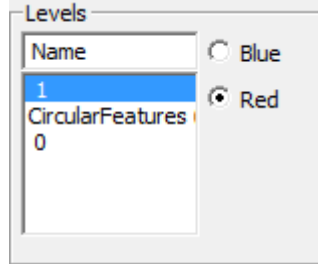
## ソリッドおよびワイヤフレームモード間の切り換え

- レポートウィンドウでCROを右クリックし、ショートカットメニューからワイヤフレームメニュー項目を選択することによって、これを行うことができます。
- レポートテンプレートエディタで、CROを右クリックし、プロパティダイアログボックスにアクセスして、ワイヤフレーム プロパティを「はい」または「いいえ」に設定することによって、これを行うことができます。

## カスタム レポート エディタのその他の機能

カスタムレポートエディタで、CROを有効にする場合、グラフィックモード のツールバー  の画像セットアップ アイコンは選択に有効になります。編集 | CAD 操作 | ビューの設定 メニュー項目にも利用可能になります。このアイコンをクリックして、またはビューの設定 ダイアログ ボックスに表示されるメニュー項目を選択します。ここでは、このダイアログボックスを使用して、通常グラフィック表示ウィンドウの表示を操作するのと同じようにCROの表示のみを変更します。表示の設定ダイアログ ボックスを使用してビューを定義することについては、「スクリーン表示の設定」を参照してください。

- **ワイヤフレームまたは立体を選択:**  
ビューの設定ダイアログボックスを使用し、立体チェックボックスを選択または選択解除することで、カスタムレポートエディタで CRO を立体またはワイヤフレームのいずれかとして簡単に表示できます。代わりに、オブジェクトが選択されるのみに活性化されないので、CROを右クリックしてショートカットメニューからプロパティを選択して ワイヤフレーム プロパティをはいまたはいいえに設定します。PC-DMISはカスタムレポートで固体またはワイヤフレームの間に切り替えします。
- **表示レベル:**  
ビューのセットアップ ダイアログ ボックスを使用してカスタム レポート エディタにオブジェクトに適用されるCAD 要素を選択します。レベル エリアは定義済みのCADレベルをリストします。

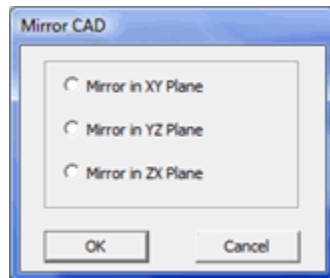


レベルエリアは3つのレベルを示します

1つまたは複数のレベルを選択して**OK**をクリックすると、PC-DMIS はユーザーのカスタムレポート内の選択されたCROにおける選択されたレベルを表示します。ユーザー独自のレベル作成について詳しくは、「CAD 表示の編集」章の「CAD レベルでの作業」を参照してください。

#### • CADのミラー:

PC-DMISでカスタム レポート エディタのオブジェクトに含まれる CAD画像をミラーできます。これを行うには、CROを選択して、**編集|CAD 操作| ミラー**を選択します。**CADをミラー**ダイアログボックスが表示されます：



[CAD のミラー] ダイアログボックス

このダイアログ ボックスを使用して、パートのミラーイメージを作成することができます。パートのミラーイメージの軸となる平面(または軸)を選択し、**[OK]**をクリックします。PC-DMISは選択されたCROにミラーされる CAD モデルを表示します。[グラフィックの表示]ウィンドウ内でCADをミラー表示するための詳細説明は、「CADモデルの変換」を参照してください。

カスタム レポートの情報について、「カスタム レポートの作成」を参照してください。

## 画像キャッシュの使用

PC-DMISはパートの画像を一度キャッシュに保存し、その後パートの中身をレポートするときに、常に測定ルーチンに関連付けられた.cadファイルを使用する代わりに画像

## レポート エディタおよびフォーム エディタについて

のキャッシュを使用します。これは、非常に大きな.CAD ファイルをグラフィック表示ウィンドウに読み込むために長い時間がかかるような場合に便利です。特定のレポートに画像をキャッシュしたら、.CAD ファイルにそのレポートを表示する必要はありません。

画像をキャッシュするには：

1. PC-DMISを閉じてPC-DMIS Settings Editorを開きます。
2. [レポート] セクションで `UseImageCachingScheme` エントリを 1 に設定します。
3. PC-DMIS 設定エディタを閉じて PC-DMIS を再起動します。
4. いつものように測定ルーチンと.CADファイルをロードします。
5. レポートのウィンドウを開いてCROを使用するレポートテンプレートを選択してください。
6. レポートを生成します。
7. レポートで使用するCROアイテムに任意の変更を加えます。
8. レポートを印刷します

このプロセスはこの特定のレポートで使用する画像をキャッシュします。ここで、.cad ファイルを消去（または保留）して測定ルーチンの開始プロセスをスピードアップする場合、この同じなレポートは キャッシュされた画像を使用します。CROを使用して他のレポートはキャッシュされていませんが、いつものようにCADファイルを読み込む必要があります。

## プロパティ：

このテーブル内のプロパティの多くは、「ラベルレイアウトウィザード」のトピックで詳しく説明されています。

### AutoZoom

：オブジェクトが自動的にズームして、ラベルオブジェクトが現在表示されているCADモデルのその部分にのみ注意を集中するかどうか決定します。

### ワイヤーを影付きモードで描画

これは、PC-DMIS が CADモデルを固体面ビューで表示するとき、影付き画像の最上部にCADオブジェクトのワイヤーフレームを表示するかどうかを決定します。

### ラベルのレイアウト

ラベルのレイアウトウィザードを開きます。これにより、CAD図形の周りに複数

のラベルを素早く配置することが可能です。詳しくは「ラベルのレイアウトウィザード」を参照してください。

#### **引き出し線の矢印先頭の高さ**

引き出し線の矢印の高さを定義します。

#### **引き出し線の矢印先頭スタイル**

引き出し線の矢印のスタイルを定義します。

#### **引き出し線の色**

引き出し線の色を定義します。

#### **角度の2要素に引き出し線の端を配置**

引き出し線が両方の要素を指すよう分割されるかどうかを決定します。

#### **距離の2要素に引き出し線の端を配置**

引き出し線が両方の要素を指すよう分割されるかどうかを決定します。

#### **引き出し線の要素モード**

引き出し線が要素の重心を指すか、あるいは通常の引かれた位置を指すかどうか決定します。

#### **引き出し線のスタイル**

引き出し線のスタイルを定義します。

#### **引き出し線の終端**

これはラベルからCADの測定された要素、またはCADの公称要素のいずれかに向かって引き出し線を描きます。ラベルレイアウトウィザードの説明を参照してください。

#### **引き出し線の幅**

引き出し線の幅をピクセルで定義します。

#### **ルールツリー**

これは **ルール ツリー エディタ** ダイアログ ボックスを開きます。このダイアログボックスを使用して、オブジェクトに対する条件およびアクションを定義します。「ルール ツリー エディタについて」を参照してください。

#### **ShowBorder**

CROの周囲の境界を描画または隠します。

### シングルクリックルールツリー

レポートウィンドウからラベルをクリックしたときに、PC-DMISが表示するラベルテンプレートを参照して選択できます。

### TrihedronShow

CAD画像の三面体を表示または非表示します。

0 - なし - (デフォルト) 三面体を非表示にします。

1 - はい - 三面体を表示します。

### ワイヤーフレーム

このプロパティでは、ワイヤーフレーム(**はい**に設定した場合)または固体表面ビュー(**いいえ**に設定した場合)のいずれかでレポートにCROを表示できます。

### すべての測定要素を非表示にする

CAD画像上の要素を表示及び非表示にします。

0 - いいえ - 要素を表示します。

1 - はい - 要素を非表示にします。

**2-エントリ設定を使用** - (デフォルト) エントリのデフォルトを使用します。これはPC-DMIS Settings Editorの[レポート]セクションにある `HideAllMeasuredFeaturesOnReport` エントリを上書きすることができます。

### すべての点を非表示にする

CAD画像上の点要素を表示及び非表示にします。

0 - いいえ - 点要素を表示します。

1 - はい - (デフォルト) 点要素を非表示にします。

**2-エントリ設定を使用** - (エントリのデフォルトを使用します。これはPC-DMIS Settings Editorの[レポート]セクションにある `HideAllPointsOnReport` エントリを上書きすることができます。

### カラーマップ

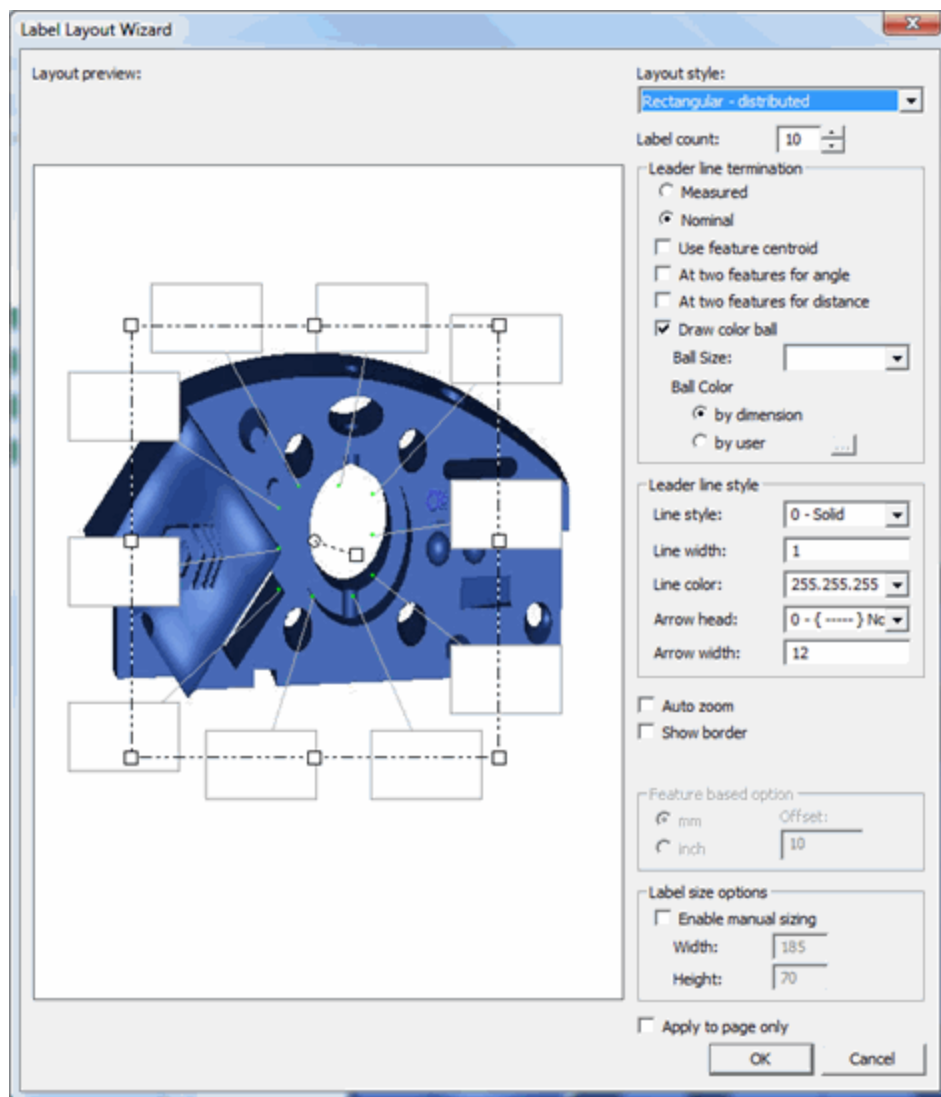
は独自のページ上または他のオブジェクト上に単独でカラーマップを表示します。このプロパティはポイントクラウド (COP) の表面カラーマップで使用されます。

が、これは埋め込まれたカラーマップを持つ輪郭の測定結果に影響を与えません。

**0 - いいえ** - カラーマップが他のオブジェクトと一緒に存在し、レポートはカラーマップのみを持つ新しいページを追加しません。

**1 - はい** - (デフォルト) 通常のカラーマップページの前にレポートはカラーマップ及びそのカラーキーのみで付加的ページを追加します。

### 【ラベルのレイアウト】ウィザード



ラベルレイアウトウィザード

ラベルレイアウトウィザードはレポートテンプレートエディタでCAD図面の周りに複数のラベルを素早く配置したり、引き出し線の描画方法を簡単に定義できるツールです。



## レポート エディタおよびフォーム エディタについて

。レポートテンプレートエディタに、**CadReportObject**を挿入するたびにこのウィザードが自動的に表示されます。また、**[CadReportObject]**の**(ダイアログの設定)**プロパティを選択した場合にも表示されます。

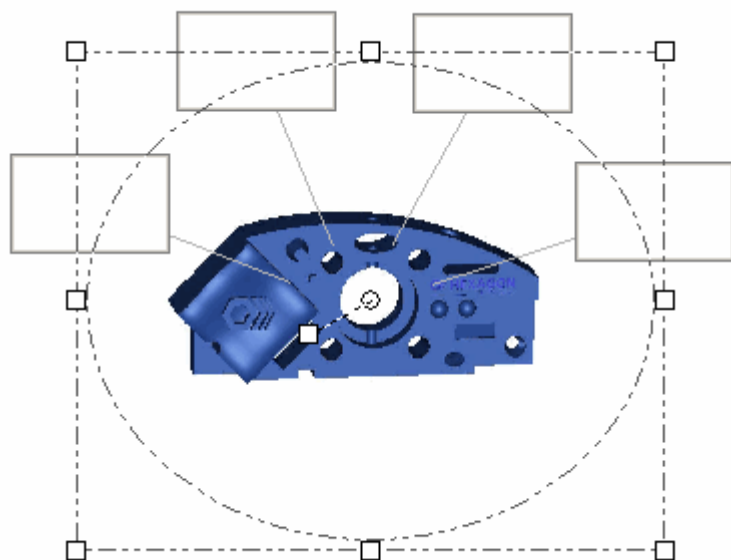
レポート ウィンドウでもこのウィザードを利用することができます。このウィザードを表示するには、レポート ウィンドウで**[CadReportObject]**を右クリックし、**[オブジェクトの編集]**を選択します。レポート ウィンドウ内で、測定ルーチンと共に使用されている実際のパート モデルがウィザードに表示されます。ただし、レポート テンプレート エディタでは、Hexagon社のテスト用ブロックが代用モデルとして表示されます。

このウィザード内で行うすべての変更は自動的に **CadReportObject**の外観を変更します。

このウィザードには次の2つの主要なパートが含まれます:

- レイアウトプレビューエリア
- **[設定]**エリア

### レイアウトプレビューエリア



レイアウトプレビュー エリアで、レイアウトが **CadReportObject**周りに表示される方法をプレビューできます。

ラベルの表示方法によって、長方形または楕円のパス上にある四角形の白いハンドルをクリックして新しい位置にドラッグすることで、長方形または楕円形のパスに沿ってラベルを回転させることができます。白いハンドルの外側をクリック & ドラッグするとこの一巡するパスの大きさを変えることができます。

パーツの図面を配置したい場合は、それをクリックしてそれを新しい場所にドラッグします。

以下のオプションが利用可能です。

#### レイアウトスタイルリスト

ドロップダウンリストで、**レイアウトプレビュー** エリアにラベルの間隔と回転パスをコントロールできます。以下のオプションから選択できます：

**長方形- 分散して配置**- これは長方形のパスをラベル回転の周りに作成します。ラベルは長方形均等に分布されます。

**長方形- 詰めて配置** - 長方形のパスが作成され、ラベルは長方形のパスに沿って一巡します。ラベルが四角形の1つの側面に沿って密集します。

**[楕円形 - 分散して配置]** - 楕円形のパスが作成され、ラベルは楕円形のパスに沿って一巡します。ラベルは楕円均等に分布されます。

**[楕円形 - 詰めて配置]** - 楕円形のパスが作成され、ラベルは楕円形のパスに沿って一巡します。ラベルが楕円に沿って密集します。

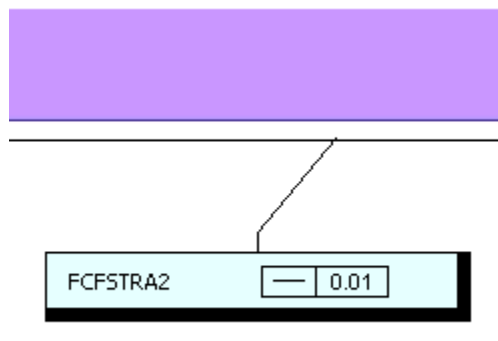
**[要素ベース]** — この設定では、全ての要素ラベルはレポート ウィンドウ内で各要素の位置の近くでパート モデルの周りに自動的に配置されます。エッジ点の大きな量を持ってまたCAD図面内のすべてのラベルを表示したい場合にはこれは有用です。このオプションを選択するとラベルカウント ボックスを無効にしてまた最小のリーダーラインの長さを定義できる要素ベースのオプション エリアを可能にします。

**[要素ベース — 制限付き]** — [要素]ベースと同様に動作しますが、違う点として、[ラベル数]ボックスは有効のままで、レポート・ウィンドウのオブジェクトに表示されるラベルの数を制限できます。オブジェクトが指定された数より多いラベルを表示する必要がある場合、指定された数を超えたラベルは新しいページに追加されたCAD図形のインスタンスに表示されます。

#### 引き出し線の終点 エリア

このエリアでは、ラベルから伸びた引き出し線がCAD図形で終わる位置を選択できます。

**測定** - このオプションは測定された 値の位置で引き出し線を終了します。



**理論** - このオプションは理論値の位置で引き出し線を終了します。

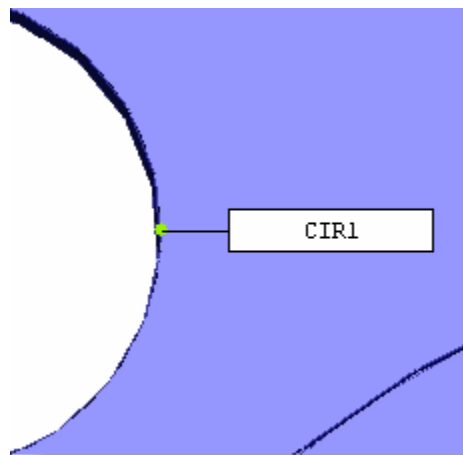
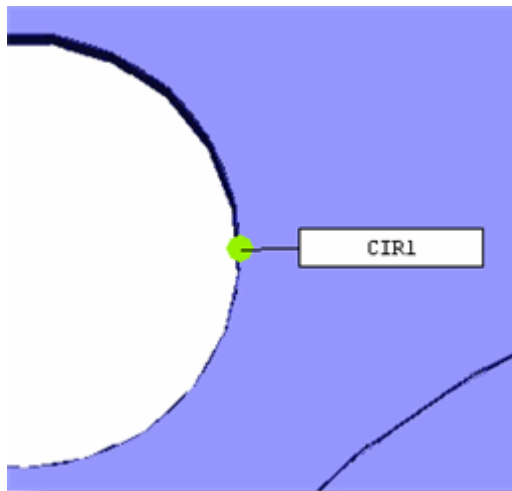
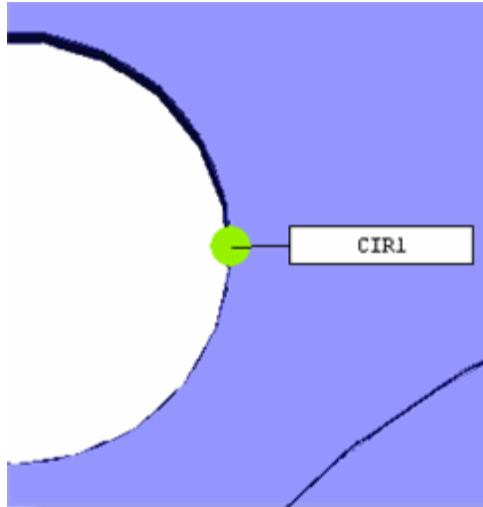
**要素の重心を使用** - このチェックボックスをオンにすると、引き出し線の先端は要素の重心に置かれます。

**角度の二つの要素で** - このチェックボックスはラベルからのひとつの引き出し線を描いてまた角度 寸法を構成する2つの要素を指している2行に分割します。

**距離の二つの要素で** - このチェックボックスはラベルからのひとつのラインを描いてまた 距離 寸法を構成する2つの要素を指している2行に分割します。

**色のボールを描画** - このチェックボックスは引き出し線が終了する色付きのボールを描画します。ボールの色はその要素の値の公差の色帯と一致します。

**[ボールの大きさ]** — このリストでは、引き出し線の先端に表示される色付きボールの大きさを指定できます。**[色付きボールを表示]**チェックボックスがオンの場合に選択可能です。小、中、および大の間で選択できます。また、より具体的なサイズを定義するには、このボックスに番号を入力できます。これはカラーボールの直径をピクセルで設定します。








**寸法によるボールの色** - このオプションは最悪のレポート軸の寸法の誤差色で引き出し線終端ボールを着色します。

**ユーザによるボールの色** - このオプションは選択したひとつの色で引き出し線終端ボールを着色します。この色を設定するために... ボタンをクリックして色 ダイアログ ボックスを使用して色を指定します。

### 引き出し線のスタイル エリア

このエリアでは、レポートに表示される引き出し線の外観を指定できます。

**ラインのスタイル** - ラインのスタイルを定義します:

- 実線 
- 破線 
- 点線 
- 点鎖線 
- 二点鎖線 



線のスタイルはデフォルトの線幅である1でのみ機能します。それより太い線は実線のスタイルのみ使用します。

**ラインの幅** - ピクセル単位でラインの幅を設定します。

**ライン色** - RGB (赤、緑、青) 値の設定でラインの色を定義し、ピリオドで区切られた3つの数字で構成されます。色の特定な値を入力でき、またはリストから ... 項目を選択して標準的な色 ダイアログ ボックスにアクセスしてそれからライン色を選択します。

**矢印ヘッド** - リーダーラインは矢印ヘッドがあるかどうかを定義します。

- ない - ラインは矢印ヘッドを持ちません。
- 両方 - 各エンドでラインは矢印ヘッドを持ちます。

**[矢印の太さ]** — 矢印の太さをピクセルで指定します。

### 境界を表示 チェックボックス

このチェックボックスを使用して、テンプレート エディタまたはレポート ウィンドウ内で CADReportObject 全体の周りの境界線を表示または非表示にします。

**自動ズーム チェックボックス**

このチェックボックスでは、現在、CADモデルのラベル オブジェクトが表示されている部分のみに照準を合わせて、レポート ウィンドウのCAD表示を自動的に拡大します。

**要素ベースのオプション エリア**

このエリアは、[要素ベース]または[要素ベース — 制限付き]が選択された場合に有効となります。2つの選択肢ボタン、[ミリメートル]および[インチ]、および[オフセット]ボックスが含まれます。この[オフセット]ボックスを使用して、ラベルに使用される引き出し線の長さの最小値を指定できます。CadReportObjectの周囲のスペースにより、引き出し線の長さを伸ばすことは可能ですが、この最小値より短くすることはできません。

**ラベル数 ボックス**

これは表示されるラベルレポートのページの最大数を変更します。要素ベースを選択すると、これが無効になります。

**ラベルサイズオプション エリア**

このエリアでは、ラベルオブジェクトを自動または手動サイズに切り替えることができます。ラベル オブジェクトを特定の大きさにしたい場合は、[手動でサイズを設定]をクリックし、[幅]および[高さ]ボックスに値を入力します。



ラベル サイズの変更はデザイン上の用途のみに影響します。レポート ウィンドウ内の実際のラベル サイズには影響しません。

このエリアは、レポート テンプレート エディタでウィザードを使用している場合のみ表示されます。

**現在のページのみに適用 チェックボックス**

ウィザードで行われた変更を現在のページのみに適用します。

**カラーマップやCADレポートオブジェクト**

レーザースキャナは、数千の点をスキャンし、格納することができます。PC-DMISは、これらの点からカラーマップコマンドを作成できます。これらカラーマップは、色付きのオーバーレイで偏差を表示できます。レポートでは、これをCADReportObject (CRO) で行います。

カラーマップコマンドの詳細については、「PC-DMIS Laser」マニュアルの「表面のカラーマップ」及び「点のカラーマップ」トピックを参照してください。

### 標準レポートにおいて

レポートウィンドウは、マークされたカラーマップコマンドのために新しいページにCROを表示します。これらのCROは、カラーマップのオーバーレイでCAD画像を表示します。カラーマップのコマンドは、カラーマップの表示内容を定義します。

### カスタムレポートにおいて

自分のCROを追加し、その上に特定のカラーマップコマンドをドラッグすることができます。



このようにしてもカラーマップを表示できますが、測定されたすべての要素を非表示にし、すべてのポイントを隠すプロパティが[はい]に設定されていると、測定された要素とポイントが非表示になります。

- サーフェスのカラーマップに対しては、複数のサーフェスのカラーマップをCROに関連付けると、最後に関連付けられたサーフェスのカラーマップが使用されます。
- ポイントカラーマップに対しては、ポイントカラーマップを他のカラーマップ（ポイントまたはサーフェス）と組み合わせて表示することができます。
- 既にドロップされたCROに同じカラーマップをドラッグアンドドロップすると、PC-DMISはそのカラーマップをCROから削除します。
- CROで任意のカラーマップを関連付けない場合、PC-DMISはまだそのCROのためにカラーマップを表示しようとします。それがREPORT/ CUSTOMコマンドを実行するときには、それは挿入点から上へ検索します。これは、CROのREPORT/ CUSTOMコマンドの上の最初のカラーマップを使用します。REPORT/ CUSTOMコマンドの詳細については、「レポートコマンドの挿入」章の「REPORTコマンド」を参照してください。

カスタムレポートでCROにドラッグアンドドロップする例については、「カスタムレポートへの情報のドラッグ&ドロップ」を参照してください。

カスタムレポートについての情報は、「カスタムレポートの作成」を参照してください。

## CommandTextObject



**CommandTextObject**は単にテキストの単純な文字列のコンテナとして動作し、それは要素やディメンションの概要を示します。

このオブジェクトに実際のレポートデータでテンプレートを使用するとき、PC-DMISは要素に表示するテキストの文字列、要素のテキストラベル、要素のタイプ、要素測定に使用される先端の数を表示します。寸法については、それはディメンションの名前とタイプ、何の測定単位次元で使用を示しています。

レポートウィンドウに表示される時、実際のレポートデータに**CommandTextObject**のみを持つラベルはこのようになります:

```

PART NAME   : V40Test
REV NUMBER  :
SER NUMBER  :
STATS COUNT : 1

Active alignment changed to STARTUP

CIR1=CIRCLE MEASURED FROM 4 HITS
CIR1=CIRCLE MEASURED FROM 4 HITS
CIR1=CIRCLE MEASURED FROM 4 HITS
CIR1=CIRCLE MEASURED FROM 4 HITS

```

CommandTextObjectを使用するラベルから生成される円形要素を表示するレポート。

### 色

表示されるテキストの色を変更できます。デフォルトでは、このオブジェクトはコマンドモードの編集ウィンドウで使用されているものと同じ配色を使用しているので、このプロパティをクリックすると独立した色のセットを作成するか尋ねるメッセージが出力されます。[はい]をクリックすると、[色の編集]ダイアログボックスが表示されます。このエディタを使用して、選択されたCommandTextObjectの新しい配色を定義することができます。



色エディタに使用情報について、「仕様の設定」項の「**編集ウィンドウの色を定義**」を参照して下さい。

### Empty Lines In Text Mode

これは、寸法がテキストとして表示される場合に、寸法間で加える空白の行数を決定します。

## チェックボタンオブジェクト



**チェックボタン** オブジェクトはチェックボタンオブジェクト、またはチェックボックスをフォームに挿入します。チェックボックスはオプションボタンとは違って、決して相互に排他性はありません。必要に応じて多くのチェックボックスを選択できます（彼らが選択可能になるのを提供します）。

オブジェクトのサイズと色を変更して他の属性を変更する能力に加えて、これらのプロパティを使用してチェックボックスをカスタマイズできます：

### AlignTextLeft

**はい**に設定すると、以下のようにテキストのチェックボックスの左に移動します。

テキストここで []

**いいえ**に設定する場合、このようにテキストをチェックボックスの右に移動してください：

[] テキストここで

### ビットマップ

**OwnerDrawn**を**TRUE**に設定し、このチェックボックスを選択する場合に使用するビットマップを指定できます。

また、指定されたビットマップは標準的なチェックボックスと同じ形状でなければなりません。

### BitmapOffState

**OwnerDrawn**を**TRUE**に設定して、このチェックボックスを選択しない場合に使用するビットマップを指定できます。

また、指定されたビットマップは標準的なチェックボックスと同じ形状でなければなりません。

### HelpHotButton

**はい**を選択するとチェックボックスの隣に疑問符のヘルプボタンを表示します。



実行モードでこのボタンをクリックするのは、PC-DMIS オンラインヘルプを起動します。

### OwnerDrawn

フォームにチェックボックスを表示する様式を指定します。

**TRUE**に設定する場合、チェックボックスは**ビットマップ**と**ビットマップ(オフ)**プロパティに指定されるビットマップから描かれます。

**FALSE**に設定する場合、チェックボックスは正常に描画されます。

### TriState

チェックボックスを有効 (**1 - YES** に設定される場合) で、または無効 (**0 - NO** に設定される場合) にします。単に状態のチェックボックスを選択または選択解除する代わりに、これは選択されたオプションの一部がtrueの場合に例を可能にするために追加の第3の状態を追加することができます。

### テキスト

ここで指定されたテキストが、チェックボックスコントロールに表示されます。

## コンボボックス オブジェクト



**ComboBox** オブジェクトはフォームにコンボリストを挿入します。このリストを使用すると、実行モードでリストをクリックした時に選択するオプションを表示することができます。

オブジェクトのサイズと色を変更して他の属性を変更する能力に加えて、これらのプロパティを使用してこのオブジェクトをカスタマイズできます：

### ComboType

コンボ リストの種類を指定します。[ドロップリスト]または[ドロップダウン]のいずれかを選択できます。

### FlexHorizontal またはFlexVertical

実行モードにおけるフォームを表示する際にビューをサイズ変更する場合、シフト、拡大、あるいはオブジェクトを一定の比率に保つよう決定することができます。

**Shift**キーを選択すると、右または下にオブジェクトを移動します。

**拡張**を選択すると、右または下にオブジェクトを拡大します。

**比率**を選ぶことは、物を中央に置きます。

### HelpHotButton

**はい**を選択するとチェックボックスの隣に疑問符のヘルプボタンを表示します。



実行モードでこのヘルプボタンをクリックすると、PC-DMISオンラインヘルプが表示されます。

### ListItems

関連付けられている値の項目のリストを定義します (「ラジオボタンオブジェクト」に説明されるリストの**選択**ダイアログ ボックスを参照してください)。

### NumDropped

入力された数により、実行モードでリストがクリックされた場合に、フォームに表示されるリスト項目の数が設定されます。

### ソート

**[はい]**を選択すると、リストの項目がアルファベット順に並べ替えられます。

### UseColors

このコントロールが**BackColor** 及び**TextColor**プロパティで定義されるユーザー色を使用するかどうかを決定します。

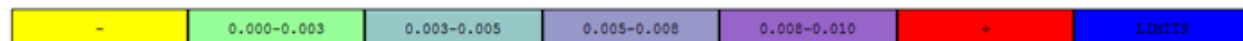
## [寸法カラーキー]オブジェクト



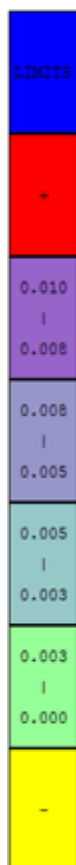
寸法カラーキーオブジェクトは直接テンプレートにカラーキーを削除するために使用されます。このカラーキーは解析とヒストグラムオブジェクトの寸法公差領域を表示するために使用される色を表示します。

これらの許容ゾーンがどのように定義されてまたは色をそれぞれの公差域の表示を変更するを見るには、「CAD 表示の編集」章の「寸法の色編集」を編集してください。そのトピックで説明されている小数点以下の桁数は、ここでは寸法色キーオブジェクトの小数点以下の桁数には影響しません。その値はグラフィック表示ウィンドウのカラーバーにのみ適用されます。寸法色キーオブジェクトの小数点以下の桁数は、小数点以下3桁までハードコードされています。

### サンプルHorizontal 寸法カラーキーオブジェクト



## サンプル 垂直寸法 カラーキー オブジェクト



以下のプロパティが設定可能です。

### BorderLines

これは、オブジェクトのまわりの境界線を示すか隠します。

### LabelText

色バーのオーバーレイテキストを表示、または非表示にします。

### LimitsColor

これはバーから LIMITS の色を示すか、あるいは隠します。これは公差限界値（公差ライン）を描くために使われる色です。

### ShadowStyle

これは、結果として得られたオブジェクトの3D影の位置を設定します。次の方向が使用可能です：

上/左、下/右、またはなし。

## 測定結果情報オブジェクト



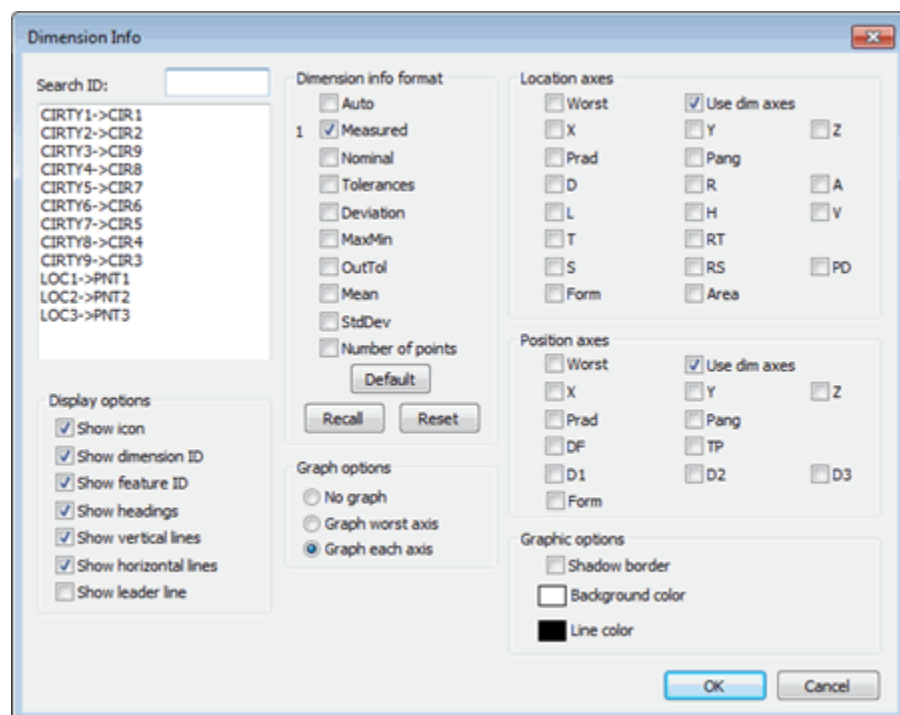
レポート内の個々のディメンション情報を保持するために、**DimensionInfo** オブジェクトはレポートにコンテナとして動作します。

### ラベルテンプレートの使用方法

ラベルテンプレートエディタのオブジェクトバーから、測定結果情報オブジェクトを追加してサイズ変更することができます。ラベルテンプレートを保存すると、新規または既存レポートテンプレートに対して、ルールツリーエディタダイアログボックスを使って、PC-DMISがそのラベルテンプレートを読み出して表示する測定結果を指定することができます。ルールツリーエディタの使い方については、本章の「ルールツリーエディタについて」トピックを参照してください。

### カスタムレポートでの使い方

カスタムレポートエディタのオブジェクトバーから、エディタのキャンバスに測定結果情報オブジェクトをドラッグ&ドロップすることができます。測定結果情報ダイアログボックスが開き、オブジェクトに関連する測定結果を選択できるようになります。



[寸法情報] ダイアログボックス

## レポート エディタおよびフォーム エディタについて

このダイアログボックスからは、寸法リストから寸法を選択することができます。  
[OK]をクリックすると、PC-DMISは寸法情報を含むテーブルをレポートに表示します。

このダイアログ ボックスを使用して寸法情報を表示する方法については、「レポート コマンドの挿入」章の「寸法情報ボックスの挿入」を参照してください。

このオブジェクトに固有のプロパティは次の通りです:



ほとんどのプロパティにおいては、**寸法情報**ダイアログボックスからそれらを設定することができます。(設定ダイアログ) プロパティを使用して、いつでもこのダイアログボックスを開くことができます。

### **DimID**

表示したい取込み点を含む要素または測定結果のIDを定義します。

### **GraphOption**

グラフが表示されるかどうか、そして、それが何を示すかを定義します。値は、次の数値のいずれかを指定できます:

- 0 - グラフを非表示にします。
- 1 - 公差最大軸をグラフ化します。
- 2 - 各軸をグラフ化します。

### **LocOrderA**

0を超える値はA位置軸を表示し、与えられた値によってそれをソーティングします。

### **LocOrderAR**

AR (エリア)軸が表示されてソーティングされることを除いて上記と同じです。

### **LocOrderD**

D軸が表示されてソーティングされることを除いて上記と同じです。

### **LocOrderForm**

形状軸が表示されてソーティングされることを除いて上記と同じです。

### **LocOrderH**

H軸が表示されてソーティングされることを除いて上記と同じです。

**LocOrderL**

L軸が表示されてソーティングされることを除いて上記と同じです。

**LocOrderPAng**

極角度軸が表示されてソーティングされることを除いて上記と同じです。

**LocOrderPD**

PD軸が表示されてソーティングされることを除いて上記と同じです。

**LocOrderPRad**

極半径軸が表示されてソーティングされることを除いて上記と同じです。

**LocOrderR**

R軸が表示されてソーティングされることを除いて上記と同じです。

**LocOrderRS**

RS軸が表示されてソーティングされることを除いて上記と同じです。

**LocOrderRT**

RT軸が表示されてソーティングされることを除いて上記と同じです。

**LocOrderS**

S軸が表示されてソーティングされることを除いて上記と同じです。

**LocOrderT**

T軸が表示されてソーティングされることを除いて上記と同じです。

**LocOrderUseDimAxes**

位置の寸法の軸が表示されてソーティングされることを除いて上記と同じです。

**LocOrderV**

V軸が表示されてソーティングされることを除いて上記と同じです。

**LocOrderWorst**

位置の最悪の軸が表示されることを除いて上記と同じです。

**LocOrderX**

X軸が表示されてソーティングされる以外は上記と同じです。

**LocOrderY**

Y軸が表示されてソーティングされることを除いて上記と同じです。

**LocOrderZ**

Z軸が表示されてソーティングされることを除いて上記と同じです。



**OrderAuto**

0を超える値はデフォルト情報を自動的に表示しソーティングします。

**OrderDeviation**

偏差の値が表示されてソーティングされることを除いて上記と同じです。

**OrderMaxMin**

最大および最小値が表示されてソーティングされることを除いて上記と同じです。  
。

**OrderMean**

すべての偏差の平均が表示されてソーティングされることを除いて上記と同じです。

**OrderMeasured**

すべての測定済みの寸法が表示されてソーティングされることを除いて上記と同じです。

**OrderNominal**

公称値が表示されてソーティングされることを除いて上記と同じです。

**OrderNumberPoints**

要素または寸法の測定に使用する点の数が表示されてソーティングされることを除いて上記と同じです。

**OrderOutTol**

公差範囲外の値が表示されてソーティングされることを除いて上記と同じです。

**OrderStdDev**

標準偏差が表示されてソーティングされることを除いて上記と同じです。

**OrderTolerances**

公差が表示されてソーティングされることを除いて上記と同じです。

**ShowDimensionID**

1の値にすると寸法IDを表示します。0の値にすると見出しを隠します。

**ShowFeatureID**

1の値にすると要素IDを表示します。0の値にすると見出しを隠します。

**ShowHeadings**

1の値にすると行と列の見出しを表示します。0の値にすると見出しを隠します。

**TPOrderD1**

0を超える値は、最初の基準要素の直径/幅値を表示しソーティングします。

**TPOrderD2**

第2基準要素が表示されてソーティングされることを除いて上記と同じです。

**TPOrderD3**

第3基準要素が表示されてソーティングされることを除いて上記と同じです。

**TPOrderDF**

要素の直径が表示されてソーティングされることを除いて上記と同じです。

**TPOrderForm**

統合された形状の寸法が表示されてソーティングされることを除いて上記と同じです。

**TPOrderPA**

位置の極角度が表示されてソーティングされることを除いて上記と同じです。

**TPOrderPR**

位置の極半径が表示されてソーティングされることを除いて上記と同じです。

**TPOrderTP**

位置公差とそれに関連する偏差が表示され、順序付けられることを除いて上記と同じです。

**TPOrderUseDimAxes**

位置の寸法軸が表示されてソーティングされることを除いて上記と同じです。

**TPOrderWorst**

位置の最悪軸のみが表示されて順序付けられることを除いて上記と同じです。

**TPOrderX**

位置のX軸が表示されてソーティングされることを除いて上記と同じです。

**TPOrderY**

位置のY軸が表示されてソーティングされることを除いて上記と同じです。

**TPOrderZ**

位置のZ軸が表示されてソーティングされることを除いて上記と同じです。

## EditBox オブジェクト



**EditBox** オブジェクトはフォームに編集可能なボックスを挿入します。Visual Basicスクリプトでこのオブジェクトを使用してそれらのフォームを実行しているのから情報を収集できます。

オブジェクトのサイズと色を変更して他の属性を変更する能力に加えて、これらのプロパティを使用してこのオブジェクトをカスタマイズできます：

### アライメント

オブジェクト内のテキストの配置を設定します。[左寄せ]、[中央]、[右寄せ]が利用可能です。

### 読み込み専用

[はい]に設定するとテキストは読み込み専用になり、フォームが実行モードの時に編集非可能になります。

### BorderDrawn

[はい]に設定すると、コントロールの周りに境界線が表示されます。

### CaseOrPassword

ボックス内のテキストスタイルを設定します。以下のいずれかを選択できます：

- 0 - なし：テキストの表示を変更されません。
- 1 - 小文字：すべての箱の中のテキストを小文字に表示します。
- 2 - 大文字：すべての箱の中のテキストを大文字に表示します。
- 3 - パスワード：アスタリスクを使用してテキストの各文字マスクします。

。

### UseColors

[はい]に設定すると、テキストがBackColor およびTextColor で指定された色で表示されます。

### HelpHotButton

はいを選択するとチェックボックスの隣に疑問符のヘルプボタンを表示します。



実行モードでこのヘルプボタンをクリックすると、PC-DMISのオンライン・ヘルプが表示されます。

## EditDblBox オブジェクト



**EditDblBox** オブジェクトは、ダブル型の変数を受け入れる編集ボックスをフォームに挿入します。これには、**MinimumEq** および **MaximumEq** プロパティを追加した **EditBox** オブジェクト(「EditBox オブジェクト」を参照)のすべてのプロパティがあります。

### MinimumEq

最小式 (この値は定数セット、簡単な式から評価される値またはVBScriptからの戻り値を取りえます)。

`-$, $, CONST`

### MaximumEq

最大式 (この値は定数セット、簡単な式から評価される値またはVBScriptからの戻り値を取りえます)。

`-$, $, CONST`

## EditLongBox オブジェクト



**EditLongBox** オブジェクトは、Long型の数値のみを受け付ける形式で編集ボックスを挿入します。これには、**MinimumEq** および **MaximumEq** プロパティを追加した **EditBox** オブジェクト(「EditBox オブジェクト」を参照)のすべてのプロパティがあります。

### MinimumEq

最小式 (この値は定数セット、簡単な式から評価される値またはVBScriptからの戻り値を取りえます)。

`-$, $, CONST`

### MaximumEq

最大式 (この値は定数セット、簡単な式から評価される値またはVBScriptからの戻り値を取りえます)。

`-$, $, CONST`

## 楕円オブジェクト



楕円オブジェクトはフォームまたはテンプレートに楕円を挿入します。デフォルトの楕円は円周に沿ったすべての点までの円の図心からの距離が等しい円ですが、簡単に円を伸ばして楕円を形成することができます。

オブジェクトのサイズ変更、塗りつぶし色の追加、境界線の色追加、その他の属性も変更可能であることに加え、楕円オブジェクトには次の編集可能なプロパティが含まれます:

### HatchStyle

このプロパティは結果となる多角形を塗りつぶすために使用するパターン(またはハッシュ)の種類を設定します。使用可能なパターンを以下に示します。

水平



標準



斜線



逆方向斜線



十字



斜十字



## フレーム オブジェクト



フレーム オブジェクトはフォームにフレームを挿入します。フォームの中に自分のダイアログボックスを設計している場合、同様のオプションのグループを設定するために、一般的にはこのオブジェクトを使用します。

オブジェクトのサイズを変更して塗りつぶしの色と境界線の色を追加して他の属性を変更する能力に加えて、次の編集可能なプロパティは、フレームオブジェクトの含まれています：

### BorderColor

境界線の色を設定します。

### HiliteColor

[浮き上がり] または [窪み] を使用する場合に、[BorderStyle] プロパティで使用する色を設定します。

### 境界スタイル

これはオブジェクトの境界の3Dハイライトスタイルを設定します。オプションには通常、3D、凹および凸があります。

### BorderWidth

オブジェクトの境界線の太さをピクセルで設定します。

### Text

ここにテキストを入力すると、フレームのタイトル名が設定されます。

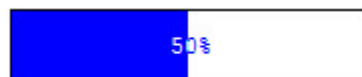
## アライメント

オブジェクト内のテキストの配置を設定します。使用できるアライメントは[左寄せ]、[中央]、[右寄せ]です。

## ゲージ オブジェクト



ゲージ・オブジェクトはゲージ・オブジェクトをフォーム、ラベル・テンプレートあるいはカスタム報告書に挿入します。このオブジェクトはレポート・テンプレート・エディターにおいて有効ではありません。



デフォルトのゲージ オブジェクト

- オブジェクトの幅が高さより大きい場合、割合バーは水平に移動します。
- オブジェクトの高さが幅より大きい場合、割合バーは垂直に移動します。

オブジェクトのサイズと色を変更して他の属性を変更する能力に加えて、PC-DMISの指令またはVisual Basicのコードと一緒にこれらのプロパティを使用してオブジェクトのパーセンタイルバーを移動させます。

### ValueEq

値の方程式です。

これはゲージオブジェクトの現在の値です。MinimumEqおよびMaximumEqに設定された最小値および最大値の範囲に対して評価すると、それは割合値をゲージに表示します。

この値は定数である簡単な式から評価される値またはVBScriptからの戻り値である場合があります。

-\$, \$, CONST

### MinimumEq

最小値を求める方程式です。

これは、0%の値が何であることを定義します。5の値がゲージの0パーセントを表す場合は、このプロパティを5に設定します。

この値は定数セット、簡単な式から評価される値またはVBScriptからの戻り値を取りえます。

-\$, \$, CONST

### MaximumEq

最大値を求める方程式です。

これは、100%の値が何であることを定義します。10の値がゲージの100パーセントを表す場合は、このプロパティを10に設定します。

この値は定数セット、簡単な式から評価される値またはVBScriptからの戻り値を取りえます。

-\$, \$, CONST

### ShowText

これは、ゲージでパーセンテージ値を表示か、非表示にします。

## PARAM を使用してゲージの値を変更する例

また、PARAM ステートメントで REPORT/CUSTOM コマンドを使用してゲージの値を変更できます。PC-DMIS の入力コメントに基づき、ゲージのパーセンテージを変更する場合を想定します。

1. エディターの1つにオブジェクトを追加し、必要に応じてサイズを変更します。
2. 右クリックしてプロパティを選択し、オブジェクト名プロパティに注釈を付けます。
3. PC-DMIS 内で、以下のようなコードを追加します。

```
C1=COMMENT/INPUT,NO,FULL SCREEN=NO,
```

パーセンテージを入力します:



```
CS1=REPORT/CUSTOM, FILENAME=MyCustomReport, Section=-1
```

```
PARAM/GAUGE1.VALUE=C1.INPUT
```

```
PARAM/=
```

```
ENDCUSTOM/
```



## レポート エディタおよびフォーム エディタについて

上記のコードを実行すると、PC-DMISは入力コメントからの数値をC1.INPUT変数に格納します。その後、「MyCustomReport」という名前のカスタムレポートを探します。

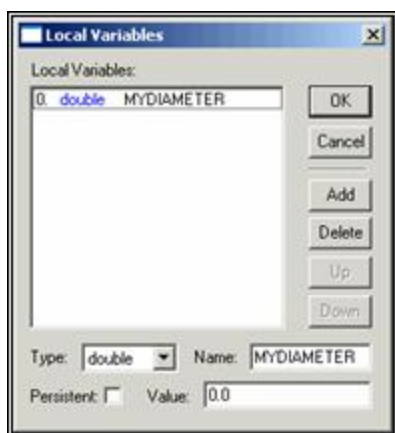
PARAM ステートメントに注目します。**ゲージ1** という名前のオブジェクトを変更します。それから、**値**プロパティを使用してゲージの値を C1.INPUT 変数に格納されている値と同じに設定します。

### BASICスクリプトを使用してゲージ値を動的に変更する例

特定の時間にゲージの値をダイナミックに変更するために、ユーザは**VBSミニエディタ**で、BASICコードを使用することもできます。円の直径がその最小および最大許容公差に近い程度に応じて、ゲージを 0% から 100% に移動するフォームを作成するとします。 以下の手順に従うとこれを実行できます。

#### ステップ1: フォームを作成します

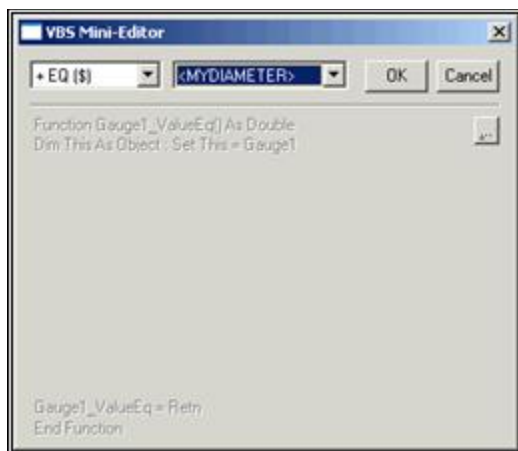
1. 新規フォームを作成しそれが編集モードであるか確認します。まず、円の直径値を取るMYDIAMETERという名前の変数を作成する必要があります。
2. グリッドを右クリックして、**フレーム/ビューはプロパティ・ダイアログ・ボックス**上のオブジェクト・リストから選ばれていることを確かめてください。
3. **[プロパティ]** ダイアログボックスの**[詳細設定]**で見出しを展開します。**LocalVariable**プロパティの値を選択します。**ローカル変数**ダイアログボックスが表示されます。
4. **追加** ボタンをクリックして新規変数を追加します。**タイプ** リストから **二重** を選択します。**名前** ボックスで、**MYDIAMETER** と入力します。**値** を0のままにしておきます。



MYDIAMETER 変数を示す[ローカル変数] ダイアログボックス

5. **OK** をクリックして、**プロパティダイアログ** ボックスボックスに戻ります。  
MYDIAMETER 変数は今フォームに追加されます。
6. 次に、**Gauge** オブジェクトをフォームに挿入します。
7. 必要に応じて**ゲージ** オブジェクトと場所とサイズを選択します。垂直距離は百分位数棒が移動することができる完全な距離です。
8. **プロパティ** ダイアログ ボックスから、追加**ゲージ**オブジェクトが選択されるのを確認してください。
9. また、**プロパティ**・ダイアログボックスの上の**詳細見出し**の下で、**MaximumEq** の**プロパティ**をクリックしてください。**VBSミニエディタ**が表示され、その多くは選択できません。
10. リストから**CONST**を選択してください。この値は、ゲージの100%値を定義することができます。
11. 円の直径の最大許容値を入力します。この例は.010の許容公差1インチ径の円を測定します。それで許容される最大値は**1.010**になります。
12. **OK** をクリックして、**プロパティダイアログ** ボックスボックスに戻ります。
13. **MinimumEq** **プロパティ**をクリックします。**VBS ミニエディタ**が再度表示されます。この値は、ゲージの100%値を定義することができます。
14. リストから**CONST**を選択してください。
15. 円の直径の最小許容値をタイプします。繰り返しますが、この例は0.010の許容公差で1インチ径の円を測定しますので、最小値は**0.990**になる必要があります。  
。
16. **OK** をクリックして、**プロパティダイアログ** ボックスボックスに戻ります。今、ゲージの実際の値に円の直径を与える必要があります。
17. **ゲージ**オブジェクトがまだ**詳細見出し**の下にある**[プロパティ]**ダイアログボックスから選択した状態で、**ValueEq** **プロパティ**を選択します。**VBSミニエディタ**が表示され、その多くは選択できません。
18. 左のリストから **+ EQ (\$)**を選択してください。
19. 右側のリストから、**<MYDIAMETER>**を選択します。

## レポート エディタおよびフォーム エディタについて



VBS ミニエディタを使用してゲージオブジェクトの値を設定します。

20. [OK]をクリックして、**VBSミニエディタ**を閉じます。

21. フォームを保存します。この例では、フォームに`gaugetest.form`という名を付けます。

### ステップ2 - 一般的円形要素を作成します

1. 次に、PC-DMIS内に汎用の円要素を作成する必要があります。PC-DMISの編集ウィンドウを選択し、コマンドモードにして下さい。
2. **GENERIC** と入力して Tab キーを押して一般要素を挿入します。最初は、一般的な点要素は、要素のIDを選択した状態で[編集]ウィンドウに表示されます。
3. F9を押して一般要素のダイアログ ボックスにアクセスします。
4. **要素・タイプ**領域 で、円を選択します。
5. **データ・タイプ**領域で、**公称値**を選択します。
6. **要素名**ボックスに、円の名前を入力します。 この例では要素名をCIR1を使用しています。
7. CIR1にXYZとIJK値を入力します。
8. **直径** オプションを選択し、CIR1に1の呼び径の値を与えます。
9. 必要に応じて他のオプションを変更して、次に、終了された時 **OK**をクリックしてください。編集ウィンドウでの一般円のコードを以下に記載します。



```
CIR1    =GENERIC/CIRCLE,DEPENDENT,RECT,OUT,$
        NOM/XYZ,1,1,0.95,$
        MEAS/XYZ,1,1,1,$
        NOM/IJK,0,0,1,$
        MEAS/IJK,0,0,1,$
        DIAMETER/1,0
```

### ステップ3 - INPUT コマンドを挿入してまた一般的な円形を変更します

1. CIR1要素の *前* にカーソルを移動し、入力コメントを挿入して直径の測定値を取得します（この例はオフラインモードで実行されるため、「実測」値は手動で挿入されます）。例を以下に示します：



```
C1      =COMMENT/INPUT、CIR1 の測定された直径を入力して
        ください。
```

2. ここで、円1のコマンドブロックの最終行へ移動し、"DIAMETER/1,0"の2番目のパラメータ(直径の測定値)を"0"から"C1.INPUT"に変更します。これにより、この値を入力コメントからCIR1の測定直径に代入されます。



```
DIAMETER/1,C1.INPUT
```

3. 今はCIR1要素の *後* にカーソルを移動し、**挿入|レポートのコマンド|フォームメニュー** オプションを選択して保存されたフォームを埋め込みます。

### ステップ4 - FORM/FILENAME コマンドを挿入してまたは実行する

1. **FORM** と入力して Tab キーを押し、**FORM/FILENAME** コマンドブロックを編集ウィンドウに挿入します。
2. 今では**PARAM/=**を言う**FORM/FILENAME**コマンドで、すぐに等号の記号前にカーソルを置いて、**MYDIAMETER**を入力します。次に、すぐ等号の直後にカーソル

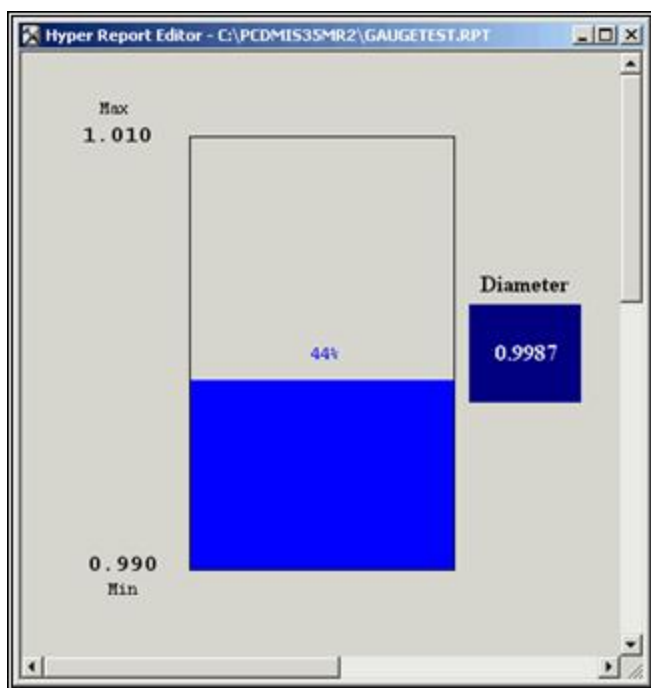
## レポート エディタおよびフォーム エディタについて

ルを移動させて、`CIR1.DIAMETER`を入力します。フォームを埋め込むコードはこれのように見えるべきです:

```
CS1    =FORM/FILENAME=C:\PCDMIS35\GAUGETEST.FORM
, AUTOPRINT=NO
PARAM/MYDIAMETER=CIR1.DIAMETER
PARAM/=
ENDFORM/
```

3. 新しく追加されたコマンドをマークして測定ルーチンを実行します。CIR1の直径はフォームにパラメータとゲージオブジェクトのパーセンタイルとして円の測定径に応じて動的に変更渡されます。

たとえば、CIR1測定径は0.9987である場合、このようなフォームをとります:



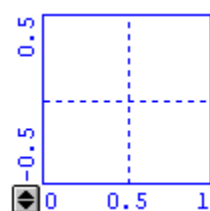
要素の測定された直径に動的にリンクされるゲージオブジェクトを示すフォームの例

## グラフ オブジェクト



グラフ オブジェクトは動的にそのデータを更新する能力でフォーム、カスタム レポートまたはラベルのテンプレートにグラフを挿入します。このオブジェクトは、レポートテンプレートエディタでは使用できません。

グラフ オブジェクトで、データポイントの配列を保存して表示します。XとYの値を使用してグラフ上のデータポイントを指定します。



デフォルトグラフオブジェクト

オブジェクトのサイズと色を変更して他の属性を変更する能力に加えて、PC-DMISの指令、またはVisual Basicのコードと一緒にこれらのプロパティを使用してグラフオブジェクトが可能性を動的にデータを更新します。

### ClearAllPoint

**[1]**に設定した場合、フォームが実行モードに入った時にグラフから全てのデータポイントがクリアされます。

**0**に設定する場合、すべてのデータポイントがグラフに残ります。

### 時計回り

**いいえ**に設定するとY軸が反転し、上が負に、下が正になります。

### ConnectPoints

**[はい]**に設定するとグラフにデータポイントを結ぶ線が描かれます。

### DataPointColor

X、Yデータポイントに使用される色、および点を結ぶ線に使用される色を変更します。

### EnablePoint

**[1]**に設定すると、グラフに新しいデータポイントが追加できます。

0に設定する場合、グラフは新しいデータポイントの追加を拒否します。

### LineWidth

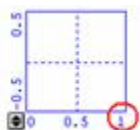
データポイントの直径を(ピクセルで)設定します。

### XDivisions

これはグラフのX軸を分割します。それは基本的に指定された数のコラムを追加します。

### XMaxEq

これはX軸の最大式です。使用される値はX軸を構築する終了値を決定します。



簡単な数式を利用したり、またはVBScriptからデータを求めることが可能です。

### XMinEq

X軸の最小式です。使用される値はX軸を構築する開始値を決定します。



簡単な数式を利用したり、またはVBScriptからデータを求めることが可能です。

### XPointEq

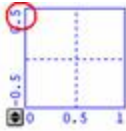
グラフのデータポイントのX値です。簡単な数式を利用したり、またはVBScriptからデータを求めることが可能です。

### YDivisions

これはグラフのY軸を分割します。それは基本的に指定された列数を追加します。

### YMaxEq

これはY軸の最大式です。使用される値はY軸を構築する終了値を決定します。



簡単な数式を利用したり、またはVBScriptからデータを求めることが可能です。

### YMinEq

これはY軸の最小式です。使用される値はY軸を構築する開始値を決定します。




簡単な数式を利用したり、またはVBScriptからデータを求めることが可能です。

### YPointEq

グラフのデータポイントのY値です。簡単な数式を利用したり、またはVBScriptからデータを求めることが可能です。



グラフの原点の近くにある上下の矢印 をクリックして、Y軸を再スケールします。これらの計る矢印は単に旧式のハイパービューレポートエディタ及びフォームエディタでのみで見えます。

グラフにデータを表示する **PARAM** の使用例

また、PARAM ステートメントで REPORT/CUSTOM コマンドを使用してゲージのデータ点を指定できます。

1. エディタの1つに**グラフオブジェクト**を追加し、必要に応じてサイズを変更します。
2. 右クリックして**プロパティ**を選択し、**オブジェクト名**プロパティの値に注釈を付けます。
3. **XDivisions**を5に設定します。
4. **YDivisions**を5に設定します。
5. **データ点の色**プロパティを赤色 (255.0.0) に設定します。
6. **LineWidth** を8に設定します。
7. PC-DMIS 内で、以下のようなコードを追加します。



## レポート エディタおよびフォーム エディタについて



```
CS1    =REPORT/CUSTOM, FILENAME=MyCustomReport,
Section=-1
PARAM/GRAPH1.SETVALUES=0
PARAM/GRAPH1.XVALUE=0.25
PARAM/GRAPH1.YVALUE=-0.4
PARAM/GRAPH1.SETVALUES=1
PARAM/GRAPH1.XVALUE=0.65
PARAM/GRAPH1.YVALUE=0.-0.3
PARAM/GRAPH1.SETVALUES=1
PARAM/GRAPH1.XVALUE=0.75
PARAM/GRAPH1.YVALUE=0.45
PARAM/GRAPH1.SETVALUES=1
PARAM/=
```

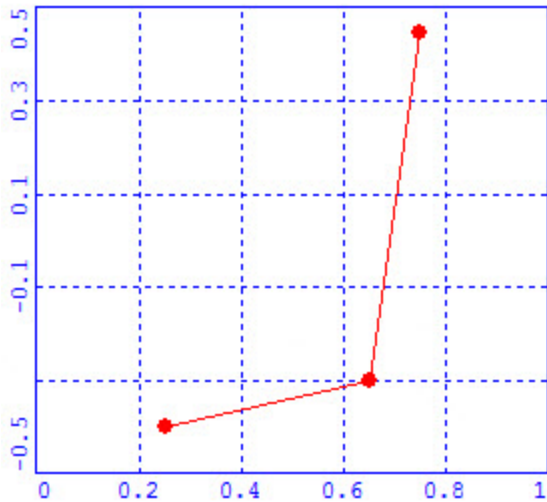
PC-DMISは上記コードで「MyCustomReport」という名前のカスタムレポートを探します。REPORT コマンドの PARAM ステートメントに注目します。それらは、それぞれグラフ1という名前のオブジェクトを変更し、以下のプロパティを使用してグラフを変更します。

**XVALUE** - グラフのデータ点のX軸上の位置を定義します。

**YVALUE** - グラフのデータ点のY軸上の位置を定義します。

**SETVALUES** - これは0または1のいずれかに設定できます。0の値はデータ点のリストをリセットします。1の値はリストにデータ点を追加します。

グラフの結果は以下のようになります:



グラフにダイナミックにデータを表示する **BASIC** スクリプトの使用例

また、**VBS ミニエディター**でBASICコードを使用してグラフにデータ点をダイナミックに表示することもできます。フォームが起動されたときにデータ点が自動的に作成されるスクリプトが必要な場合を想定します。以下の手順に従うとこれを実行できます。

#### ステップ1: フォームを作成します

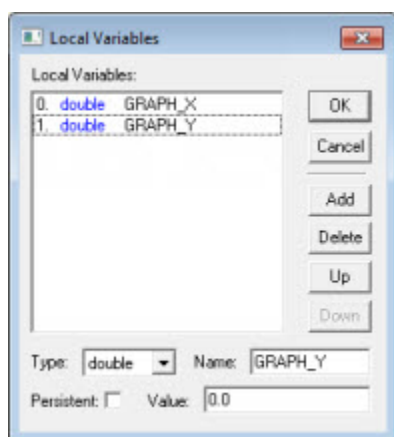
1. 新規フォームを作成し、それが編集モードであるか確認します。各データポイントのX値とY値を取得するには、まず、いくつかの変数を作成する必要があります。
2. **グラフオブジェクト**を作成しキャンバスに追加して、必要に応じてサイズを変更します。 **グラフ1**と名付けます。
3. 右クリックして**プロパティ**を選択します。
4. **XDivisions**を**5**に設定します。
5. **YDivisions**を**5**に設定します。
6. **データ点の色プロパティ**を赤色 (**255.0.0**) に設定します。
7. **線の太さ**を**8**に設定します。
8. **YMaxEq**を**CONST** および **1.0**に設定します。
9. **YMinEQ**を**CONST** および **-1.0**に設定します。

#### ステップ 2 - 変数の作成

1. グリッドを右クリックして、**フレーム/ビュー**は**プロパティ・ダイアログ・ボックス**上の**オブジェクト・リスト**から選ばれていることを確かめてください。

## レポート エディタおよびフォーム エディタについて

2. ローカル変数で、値をクリックしてローカル変数ダイアログ ボックスを表示します。
3. 追加ボタンをクリックして新規ローカル変数を追加します。タイプ リストから **二重** を選択します。名前 ボックスで、**GRAPH\_X**と入力します。値 を0のままにしておきます。
4. 同じ方法で別のローカル変数を追加し、**GRAPH\_Y**の名前を付けます。



2つの変数を示したローカル変数ダイアログボックス

5. **OK** をクリックして、プロパティダイアログ ボックスボックスに戻ります。ここで、2つの変数がフォームに追加されています。
6. プロパティダイアログボックスから、**グラフ1**を選択します。
7. **XPointEq**で値をクリックします。**VBS-Mini Editor**で、左側のリストから**+ EQ (\$)**を選択し、右側のリストから**<GRAPH\_X>**を選択します。**[OK]**をクリックします。
8. **YPointEq** で同じ操作を行い、**<GRAPH\_Y>**に設定します。

### ステップ 3 - スクリプトの追加

1. イベント初期化プロパティで、値をクリックして**VBS ミニエディター**を表示します。
2. エディターに以下のコードを入力します。



```
GRAPH_X = 0.1  
  
GRAPH_Y = -0.4  
  
This.Refresh  
  
GRAPH_X = 0.25  
  
GRAPH_Y = 0.5  
  
This.Refresh  
  
GRAPH_X = 0.75  
  
GRAPH_Y = -0.5  
  
This.Refresh  
  
GRAPH_X = 0.85  
  
GRAPH_Y = 0.45  
  
This.Refresh
```

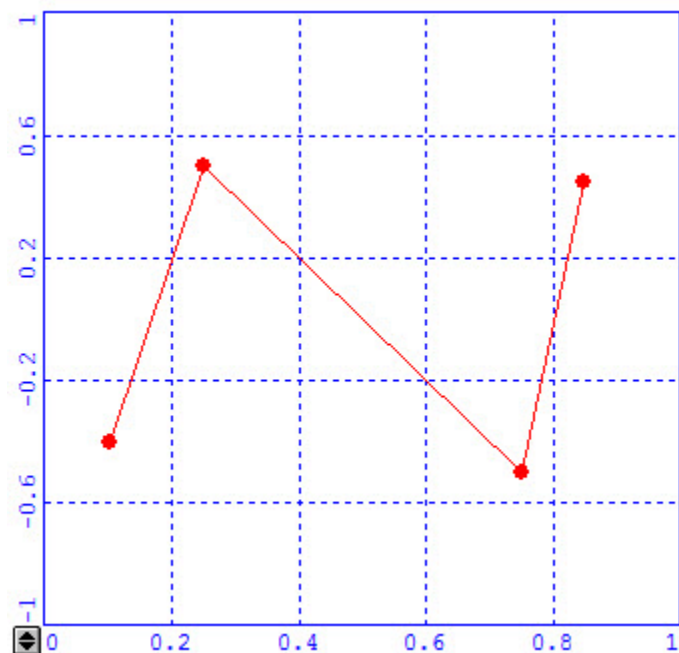
3. [OK] をクリックします。
4. フォームを保存します。この例では`graphtest.form`という名前をフォームに付けます。

#### ステップ4 - FORM/FILENAME コマンドを挿入してまたは実行する

編集ウィンドウのコマンドモードで、**FORM**と入力してTABを押し、**FORM/FILENAME** コマンドブロックを編集ウィンドウに挿入します。コマンドブロックの**FILENAME**に、上記の手順で保存した`graphtest.form`ファイルへの参照を入力します。


コマンドがすべてマークされているか確認し、測定ルーチンを実行します。

formコマンドを実行し、formが表示されると、グラフが初期化されます。次に、スクリーンが実行され、次のようにグラフ上にデータポイントが作成されます。



#### ローカル変数を使用しない場合

場合によっては、ローカル変数を全く定義しないで上記の例を実行することができます。この場合、上記のステップ3で、**VBA ミニエディター**のコードは以下のようになります。

```
this.SetValues = 0  
  
this.XValue = 0.1  
  
this.YValue = -0.4  
  
this.SetValues = 1  
  
this.XValue = 0.25  
  
this.YValue = 0.5  
  
 this.SetValues = 1  
  
this.XValue = 0.75  
  
this.YValue = -0.5  
  
this.SetValues = 1  
  
this.XValue = 0.85  
  
this.YValue = 0.45  
  
this.SetValues = 1
```

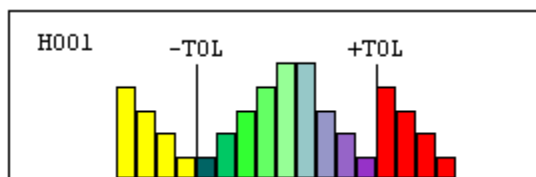
このコードは、「PARAMを使用してグラフにデータを表示する例」で、PC-DMISコマンドで使ったコードに似ています。

## DimensionHistogramオブジェクト



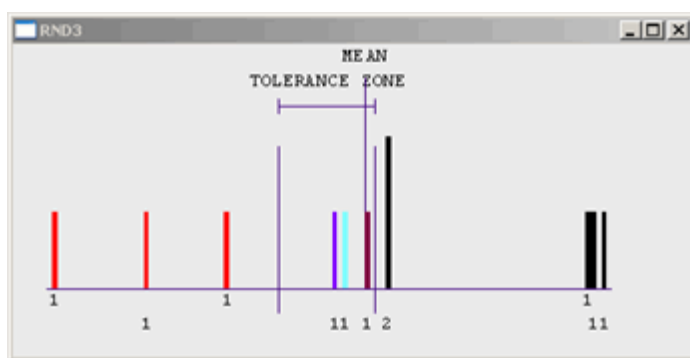
**DimensionHistogram** オブジェクトはヒストグラムバーグラフ形式で、それぞれの異なる公差領域内の偏差の数を表示します。

## レポート エディタおよびフォーム エディタについて



ヒストグラムの例。

フォームの測定結果など、測定結果が1つの公差値しか持たない場合、PC-DMISは公差領域を1つの固定位置ではなく範囲として表示します。PC-DMIS は結果としてのヒストグラムに-TOL or +TOLを表示しませんが、最上部にヘッディングの「TOLERANCE ZONE」を表示し、下記のように平均値の場所を含めます。



単一公差でのヒストグラムの例。

## DimensionHistogramオブジェクトの挿入

新規または既存のラベルテンプレートにラベルテンプレートエディタを使用して、**Histogram** オブジェクトを追加してサイズ調整し、それがラベルテンプレートエディタの表示エリアに希望どおりに垂直または水平に表示されるようにします。次に、新規または既存のレポートテンプレートに対してルールツリーエディタダイアログボックスを使用して、どんな条件下で PC-DMISがそのラベルテンプレートを読み出して表示するかを指定します。これを行う方法については、本章の「ルールツリーエディタについて」トピックを参照してください。



DimensionHistogramオブジェクトは場所、位置およびKeyin測定結果など、それらの要素の個々の取込み点を使用して直接計算される測定結果に対してのみ使用できます。

## ヒストグラム色の変更

これらの公差領域の定義方法または各公差領域を表す色の変更方法を知るには、「CAD表示の編集」の章の「測定結果の色の編集」を参照してください。

## プロパティ

このオブジェクトに固有のプロパティは次の通りです。

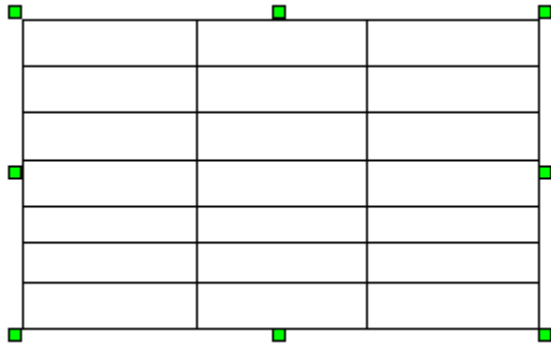
### HatchStyle

「楕円オブジェクト」トピックにある説明と同じです。

## GridControlObject



**GridControlObject** アイコンはレポートまたはラベルのテンプレートに行と列のカスタマイズ可能なグリッドを挿入します。



グリッドコントロールオブジェクトの例。

この独自のオブジェクトは単なる標準テーブル以上のものです。実際には、ユーザーはレポート表現言語を使用して個々のセル、行または列をプログラムし、PC-DMISに測定ルーチンから特定レポート情報をプルして (取得して) 表示させることができます。

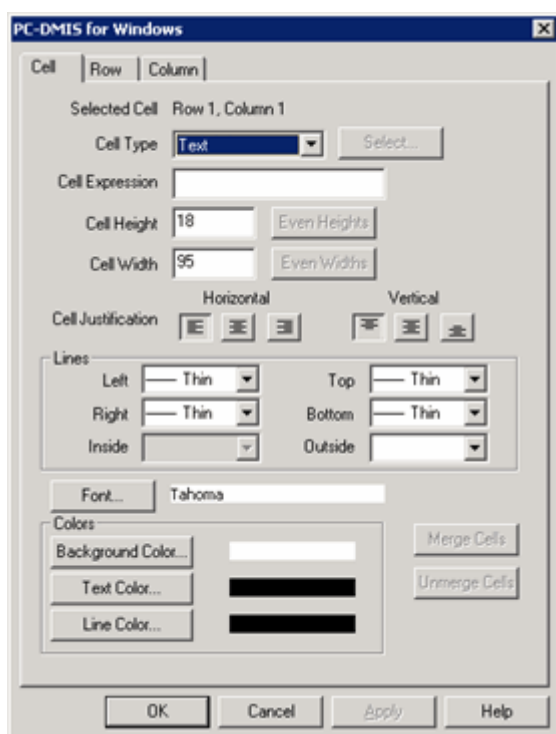


## レポート エディタおよびフォーム エディタについて

他のオブジェクトと同様に、このオブジェクトを簡単にサイズ変更して新しい場所に移動することができます。ユーザーがこのオブジェクトをサイズ変更すると、PC-DMIS は動的に列と行をサイズ調整して、新しいオブジェクトサイズに合わせることに注意してください。

### GridControlObjectエディタへのアクセス

一旦**GridControlObject**を挿入したら、それを選択して、その内の任意のセルをダブルクリックして、またダブルクリックしてタブされたダイアログ ボックスを表示します。ダイアログ ボックスが強力な書式設定と編集能力を提供して、個々の仕様に各グリッドのセルをプログラムできます。



#### GridControlObjectエディタのセルタブ

このエディタを使用するの詳細については、これらのトピックを参照してください：

- GridControlObjectエディタ - [セル]タブ
- GridControlObjectエディタ - [行]タブ
- GridControlObjectエディタ - [列]タブ

## プロパティ

### NumColumns

グリッドの列数を指定します。

### NumRows

グリッドの行数を指定します。

### TableFormat

グリッドレイアウトに使用する名前を指定します。このプロパティは、ルールツリーエディタのグリッドレイアウト名と一致する場合、[TABLE/FORMAT](#) エディタウィンドウを使用して直接にラベル テンプレートの行列の順序や表示状態をコントロールします。

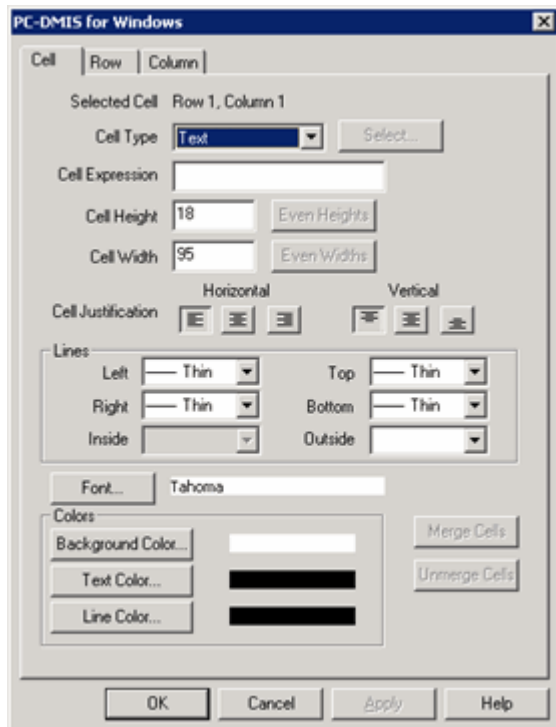
### 透過

グリッドの背景を透明にするか決定します。[\[はい\]](#)に設定した場合、通常の白い背景色が透明になり、このオブジェクトの背後にあるオブジェクトがグリッドを通して見えるようになります。



**NumRows** プロパティを増やすと、現在ある行の下部に新しい行が追加されます。このプロパティを減らすと、一番下の行が削除されて上に移動します。同様に、**NumColumns** プロパティの増加は行の右側に新しい列を追加します。列の数を減らすと、一番右の列が削除され左に移動します。

### GridControlObjectエディタ - [セル]タブ



GridControlObjectエディタのセルタブ

**セル** - 指定されるセルに何を挿入するのを設定します。オプションは以下のようです：

- **テキスト** - このオプションを使うと、**セル式** ボックスに単なテキストまたは式コマンドを入力できます。評価された式または単なテキストがセルに表示されます。
- **画像** - このオプションはセルに画像を挿入します。**選択** ボタンでそれを選択できます。
- **ActiveX** - このオプションはActiveX オブジェクトをセルに挿入します。一般的にPC-DMIS テンプレートはこれらを使用してグラフィカルな分析情報を表示します。**[選択]** ボタンをクリックして追加する ActiveX コントロールを選択します。ActiveXオブジェクトに関する詳細な情報については、「ActiveX オブジェク


ト」トピックと「PC-DMIS ActiveX コントロールの使用トピックを参照してください。


**セル式** - このボックスで、セルにレポート式を入力できます。それは実際のレポートデータを表示するテンプレートを使用するとき、PC-DMIS は式を評価します。たとえば、要素IDを表示するには、このボックスに=IDを入力します。追加できる表現の詳細な一覧については「レポートの表現について」を参照してください。


**セルの高さと幅** - これらのボックスで、セルの高さと幅をピクセルで定義します。高さを変更する場合にはその行のすべてのセルが変更されるのを注意してください。幅を変更した場合、その列のすべてのセルが変更されます。高さ、複数のセル間の幅を変化させている場合、**イーブン幅** と **イーブン高さ** ボタンは選択されたセルの高さと幅を超えます。

**セル位置揃え** - これらのボタンで、セル内に垂直または水平にテキストの配置を設定できます。水平方向の場合、テキストをセルの左詰め、中央または右詰めに配置できます。垂直方向では、テキストの上寄せ、中央配置または下寄せが可能です。


#### 水平配置ボタン


 - 左配置


 - 中央配置

 - 右配置

#### 垂直配置ボタン

 - トップ配置

 - 中央配置

 - ボトム配置



グリッドのセル内のテキストに合わせる場合、PC-DMISは、セルのパディングのデフォルトの内部値を使用するのを注意してください。PC-DMIS 設定エディタのレポートセクションにある `GridCellTopMargin`、`GridCellBottomMargin`、`GridCellLeftMargin` および `GridCellRightMargin` エントリを使用して、これらのデフォルト値を上書きすることができます。

**ラインエリア** - このエリアはセルの各辺のリストを含んでいます。特別なラインタイプにセル（プラス複数のセルの外側や内側線）の各側面を設定することができます。オプションには: なし、薄、厚、ダブル、または 打ち上げた。

None  
— Thin  
— Thick  
= Double  
---- Dashed

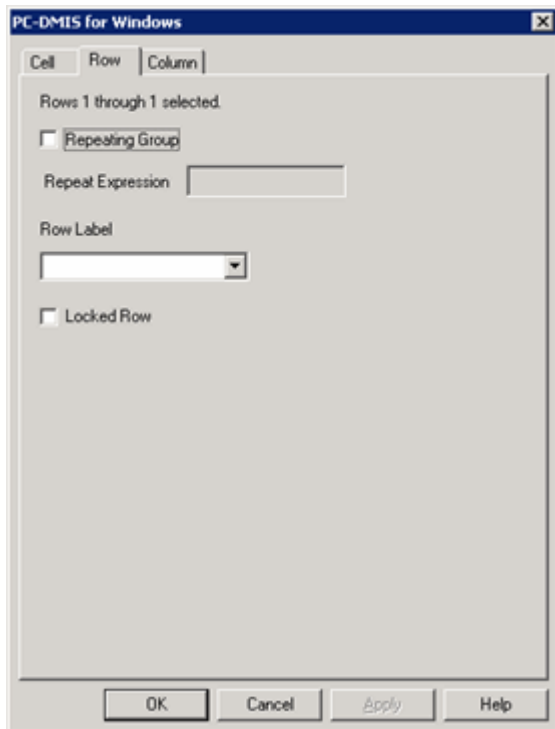
**フォント** - このボタンは、標準のフォント ダイアログボックスを表示して、選択したセルのフォント、サイズ、スタイル、エフェクト、色を設定できます。

**色** - このエリアで、背景、テキスト、または選択したセルの色を設定できます。その中の一つのボタンをクリックして特定の標準色を選択するか、カスタムカラーを作成できるところから色 ダイアログ ボックスを表示します。

**セルをマージ** - このボタンは複数のセルを1つのセルにマージします。

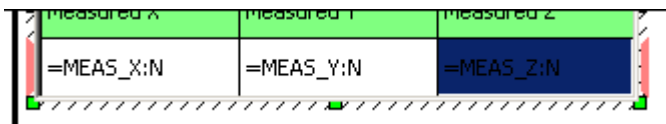
**マージしないセル** - このボタンは、元の、以前のマージさ状態に以前は次の結合セルをマージしません。

## GridControlObjectエディタ - [行]タブ



GridControlObjectエディタの行タブ

**グループを繰り返す**—このチェックボックスは**式の繰り返し**ボックスを使用可能にして、**式の繰り返し**ボックスの式が満たされるまで、選ばれた行がレポートからデータで同じことを繰り返し続けるとPC-DMISに話します。細胞がGridControlObjectで選択されるとき、小さな垂直オレンジ・バーを彼らの左右の側に引き寄せることによって、PC-DMISはオブジェクトですべて反復する行を示します。



行の左側および右側のオレンジ色バーの例。

**繰り返し式** - このボックスにはPC-DMISが行を繰り返す次数を定義します。通常はアイテムのカウント数に評価されるこのボックスで式を配置します。たとえば、寸法の軸の数を取得するには、この式を使用します：

=COUNT(AXIS)

行の各セルには、これを既存の式に追加する必要があります。

:N

## レポート エディタおよびフォーム エディタについて

これは本質的にPC - DMISにカウント数を行を繰り返す次数を指示します。だから、セル タブのセル式 ボックスは=AXIS を使用して寸法の軸をリストして、またそれを=AXIS:Nに読め込みに変更して、すべての軸が報告されるまで、PC-DMIS はユニークな寸法軸データで行を繰り返すし続けます。

**行ラベル - 行ラベル リスト**で、テーブル形式コマンドで使用する行のラベルを定義します。テーブル形式コマンドプロパティにアクセスする場合、ここで定義した行ラベルを見えます。テーブル形式コマンドを使用している場合、グリッドで行の順序を再度定義できます。

**ロックされた行** - このチェックボックスは行をロックし、テーブル形式のコマンドを使用してそれを変更できません。

### GridControlObjectエディタ - [列]タブ



### GridControlObject エディタの列タブ

**列ラベル - 列ラベル リスト**で、テーブル形式コマンドで使用する列のラベルを定義します。テーブル形式コマンドプロパティにアクセスする場合、ここで定義した列ラベルを見えます。テーブル形式コマンドを使用している場合、グリッドで列の順序を再度定義できます。

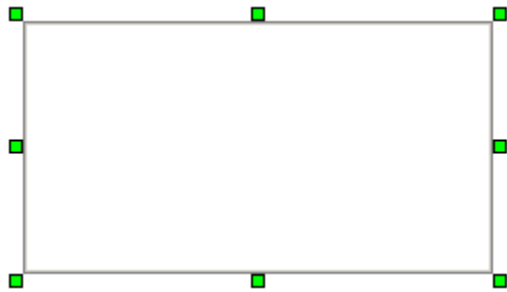
## Label オブジェクト



**Label** オブジェクトのアイコンを使用して、レポート テンプレートまたはカスタム レポートに**Label** オブジェクトを挿入できます。ラベル オブジェクトはレポートにレポートデータを表示するために使用されます。**[ラベル]** オブジェクトは使用される状況により様々な働きをします。**Label** オブジェクトがレポート テンプレート エディタで使用された場合、カスタム レポート エディタで使用されるのとは異なって機能します。

### カスタムテンプレートエディタにラベルオブジェクトの使用

レポート テンプレートエディタをクリックしてドラッグしてこのオブジェクトを追加します。マウスボタンをリリースする場合、挿入された**Label** オブジェクトはこのようなになります：



ラベルオブジェクトの例。

**Label** オブジェクトは、まるで**TextReportObject** または**CadReportObject**のように作用しますが、それは少しの本当のデータも含まないで、単にラベル・テンプレートのプレースホルダーの働きをするだけです。ラベル・テンプレートは、測定ルーチン実行からデータが何を引くか実際にコントロールします。ユーザがラベル・オブジェクトが何を表示するかを定義しなければ、それは報告書に現われません。


### ラベル テンプレートを割り当てます

**Label** テンプレートに何かを与えて表示し、それは使用するテンプレートのラベルを割り当てる必要があります。以下の手順に従って下さい：

1. ラベルオブジェクトを右クリックします。プロパティ ダイアログ ボックスが表示されます。



## レポート エディタおよびフォーム エディタについて

2. **Rules Tree** プロパティから **ルール** をクリックしてください。ルールツリー ダイアログ ボックスが表示します。
3. ルールツリーダイアログボックスを使用して、展開可能なリストの1つから項目を選択します。
4. **追加** をクリックしてその項目を使用するルールを追加します。**編集ルール** ダイアログ ボックスが現れます。
5. レポートに **ラベルテンプレートを使用 オプション** を選択してください。
6. 参照ボタン  をクリックして、ラベル テンプレートファイル (.lbl ファイル名 拡張子) を選択してください。
7. **OK** をクリックして、**編集ルール** ダイアログ ボックスを閉じて下さい。
8. **OK** をクリックしてルールツリーダイアログ ボックスを閉じます。挿入されたラベルオブジェクトはルールツリーダイアログボックスの最初のルールで定義されているラベル・テンプレートの画像が表示されます。
9. レポートテンプレートを保存してテストします。PC-DMIS は指定される条件がある場合に選択されるラベルを表示します。

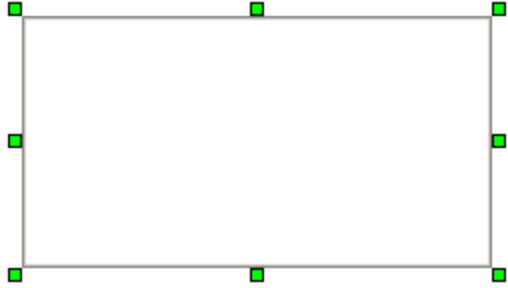
ルール作成の情報について、「ルール ツリー エディタについて」を参照してください。

### カスタム レポート エディタにラベルオブジェクトの使用

レポートテンプレートエディタとカスタムレポートエディタ間の1つの重大な違いは、カスタムレポートエディタラベル オブジェクトが*それ自体のルールツリーエディタを使用し*なすことです。代わりに、ページオブジェクトは異なるコマンドとデータがカスタムレポートエディタに挿入されるときに使用されるラベルテンプレートを定義するルールツリーエディタから成ります。

多くの場合、編集ウィンドウの要約モードから項目をカスタムレポートエディタにドラッグして簡単にカスタムレポートを作成できます。この場合では、PC-DMISは挿入されているコマンドに ページオブジェクトのルールツリーエディタに定義されるラベルテンプレートを使用します。

ラベル オブジェクトをカスタム レポートに挿入する場合、PC-DMISは空白ラベル オブジェクトを挿入して、それがどのようにレポート テンプレートエディタに表示すると同様です。



ラベルオブジェクトの例。

この状態では、オブジェクトは空のプレースホルダーに過ぎず、編集ウィンドウからコマンドをオブジェクトにドラッグしてドロップするまで、何のデータも表示しません。PC-DMISはページオブジェクトのルールツリーエディタに定義されるラベルテンプレートを表示します。

もっと多くな情報について、「カスタム レポートの作成」を参照してください。

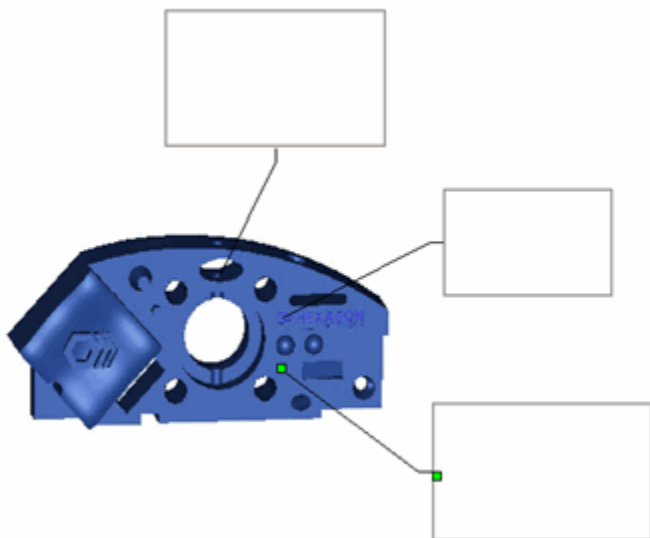
## 引き出し線オブジェクト



引き出し線オブジェクトでは、ラベルオブジェクトと**CadReportObject**をつなぐ線を引くことができます。これを行うには、単に、オブジェクトを選択し、クリックしてまたそれを1つのオブジェクトから他の方にドラッグします。

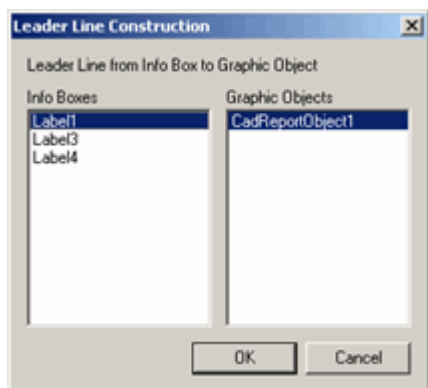
正確に実行されると、引き出し線は自動的に2つのオブジェクトの間からスナップして、後でそれらの場所を変更する場合、引き出し線は状況に応じてサイズと移動を変更します。例えば、以下の図は周囲に3つのラベルオブジェクト（すべて引き出し線オブジェクトと接続している）を持つ**CADReportObject**オブジェクトを表示しています。

## レポート エディタおよびフォーム エディタについて



CadReportObjectと接続する引き出し線オブジェクトを持つ3つのラベルオブジェクト

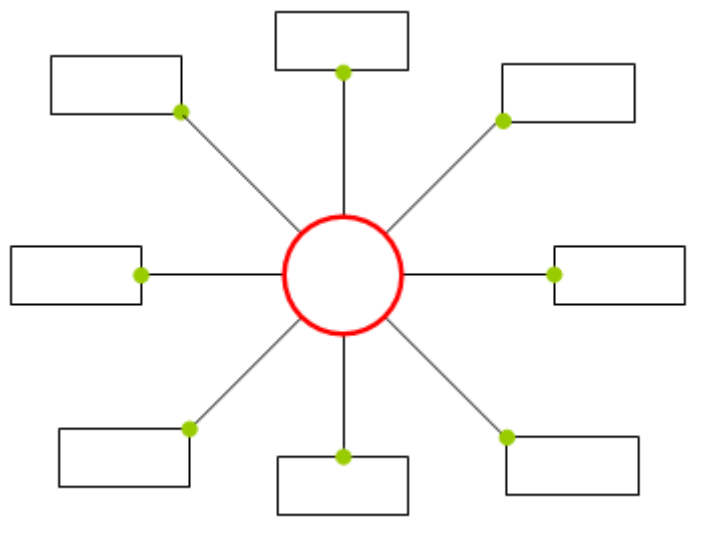
引き出し線が2つのオブジェクトを検出できない場合、引き出し線構築ダイアログボックスが表示されて、ユーザーは3つの引き出し線に対して2つのオブジェクトを選択することができます。



[引き出し線作成] ダイアログボックス

ラベルまたは **CADReportObject** オブジェクトを消去すると、PC-DMISは自動的に引き出し線オブジェクトも消去します。

実際のレポート ウィンドウでは、要素に対するラベルの位置により、引き出し線の先端はラベルの辺または角のいずれかに接します。次の図例を見てください。要素(赤円)に関連するラベル(四角形)を配置する場所によって、ラベルの引き出し線が接する場所(緑色の点)が変わる例が示されています。



ラベルと引き出し線の接続位置を示す例。

以下のプロパティが利用可能です。

#### **LeaderLineVisibility**

これは選択された引き出し線オブジェクトの可視状態を設定します。TRUEは引き出し線を表示します。FALSEはそれを非表示にします。

#### **オブジェクト1**

その間に引き出し線を書く2つのオブジェクトのうち、最初のオブジェクトを定義します。

#### **オブジェクト2**

引き出し線の2つのオブジェクトのうち、2番目に描かれるほうを定義します。

### 線オブジェクト



線オブジェクトによって、フォームまたはテンプレートに標準線を挿入することができます。その後、挿入した行を右クリックし、そのプロパティを変更することができます。

ラインオブジェクトで使用する共通プロパティは以下のようです：

### PenWidth

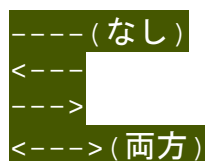
線の太さをピクセルで設定します。

### PenStyle

線のスタイルを[実線]、[破線]、[点線]、[一点鎖線]および[二点鎖線]に変更します。

### Arrowhead

線の先端に矢印を付けるかを決定し、矢印の指す方向を指定します。次の形式より1つを選択できます：



### ArrowheadHeight

矢印の高さをピクセルで指定します。

## ListBox オブジェクト



ListBox オブジェクトはフォームに開いているリストを挿入します。

オブジェクトのサイズと色を変更して他の属性を変更する能力に加えて、これらのプロパティを使用してこのオブジェクトをカスタマイズできます：

### BorderDrawn

[はい]に設定すると、コントロールの周りに境界線が表示されます。

### HorizontalScroll

[常時]を選択した場合、たとえテキストがスクロールするほど長くなくてもリストボックス上に水平スクロールバーが表示されます。

ない を選択するのはスクロールバーを削除します。

### ListID

リストのIDです。コントロールを使用してこのIDを設定または取得します。次の形式を取ります：

項目 1\r\n項目 \r\n項目 3等。

### RemoveSelection

**[はい]**に設定すると、選択された項目(**ListID**)が記録されたときにリストボックスから削除されます。

### ソート

**[はい]**を選択すると、リストの項目がアルファベット順に並べ替えられます。

### UseColors

このコントロールが**BackColor** および**TextColor**プロパティで指定された色を使用するかどうかを設定します。

### UseTabstops

リストボックスがタブストップを使用するかどうかを決定します。**[はい]**に設定した場合、実行モードでTabキーを押すと結果的にこのリストボックスがアクティブなコントロールになります。

### VerticalScroll

**[常時]**を選択した場合、たとえスクロールするほどリスト項目がなくてもリストボックス上に垂直スクロールバーが表示されます。

**ない**を選択するのはスクロールバーを削除します。

### WantKeyInput

リストボックスがキーボードからの入力を受け付けるかどうかを決定します。

## MultiEditBox オブジェクト



**MultiEditBox** オブジェクトは一つ以上のテキストのラインをサポートする編集ボックスを挿入します。以下を加えて、これは**EditBox** オブジェクト(「EditBox オブジェクト」を参照してください)のすべてのプロパティを持ちます:

### HorizontalScroll

**常時**を選択すると、たとえテキストがスクロールするのに十分な長さがなくても水平スクロールバーが表示されます。

**ない**を選択するのはスクロールバーを削除します。

## VerticalScroll

**常時**選択すると、たとえテキストがスクロールするほど長くなくてもコントロールに垂直スクロールバーが表示されます。

テキストの量は、ボックスの垂直を超えたときには、垂直スクロールバーのみに**自動**に配置するのを選択します。

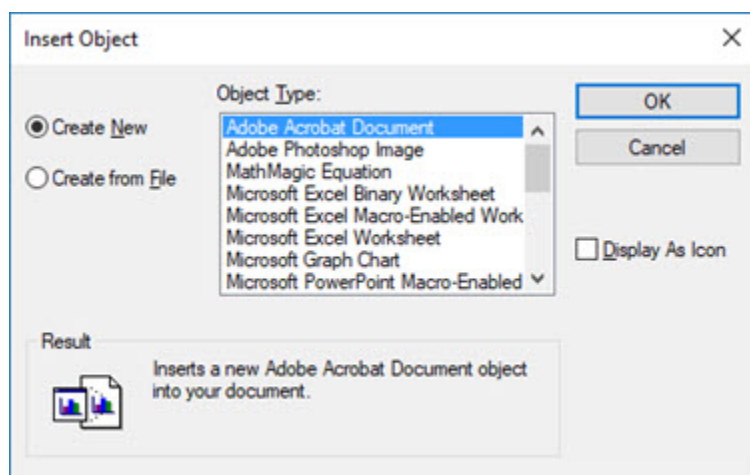
**ない**を選択するのはスクロールバーを削除します。

## [OLE]オブジェクト



**OLE** オブジェクトはテンプレートまたはフォームにその他のアプリケーションからのオブジェクトを埋め込んだりリンクします。例えば、ユーザーはオブジェクトを使用してMicrosoft Wordファイルをテンプレートまたはフォームに挿入して、オペレータに特別な指示を提供することができます。

一旦、**OLE** オブジェクトが挿入されれば、ダイアログ・ボックスタイトルのある**オブジェクトの挿入**が現われます。



[オブジェクト挿入] ダイアログボックス

このダイアログボックスでは、コンピュータ上で現在利用可能なOLEオブジェクトをリストから選択することができます。リストでのOLEオブジェクトはインストールされているものなどに応じて個々のコンピュータに固有です。

取り消し選択した場合、フォームまたはテンプレートには何も追加されず、ダイアログボックスが閉じます。

### DoVerbs

これを**はい**に設定すると、オブジェクトが編集モードに加えて実行モードで編集できるようになります。**いいえ**に設定すると、オブジェクトは実行モードにおいて読み込み専用になります。

### OLEProperties

これはプロパティダイアログボックスを表示し、オブジェクトの表示方法 (アイコンのあるなし)、その大きさなど、すべてのOLEオブジェクトで利用可能な汎用プロパティを選択できるようにします。

### BasicからOLEオブジェクトの自動メソッドおよびプロパティへのアクセス

ユーザは、オブジェクトに関連する基礎から自動化タスクまでのOLE（オブジェクトリンク及び埋め込み）オブジェクトのメソッド及びプロパティにアクセスすることができます。たとえば、ビットマップイメージを変更したり、データで埋め込まれたMicrosoft Excelのスプレッドシートオブジェクトを移入したり、埋め込まれたMicrosoft Word文書内のテキストを設定することができます。

ユーザがビットマップOLEコントロールを追加するとし、且つその（**オブジェクト名**）プロパティを**BITMAP**に設定することにより、「ビットマップ」という名前を付けると想定し、表示されているビットマップを変更するには、プログラム・コードを追加することができます。これを行うには、次のコードで、OLEオートメーション方法と**BITMAP**というオブジェクトのプロパティにアクセスすることができます。



```
AttachOLE("BITMAP_X")
```

その後、オブジェクト変数BITMAP\_Xを使用して、新しいプロパティ値を設定するか、またはオートメーション方法の呼び出しを実行することができます。



```
BITMAP_X.{プロパティ} = {値}
```

または





BITMAP\_X. { 自動化方式呼び出し }



利用可能なメソッドとプロパティを知るために使用している特定のOLEオブジェクトについては、OLEのドキュメントを参照してください。

フォームの**OLE**オブジェクトを使用したオペレータへの指示  
PC-DMIS と一緒に既存のツールを使用すると多くの拡張機能が得られます。たとえば、パーツ設定や測定についての詳細な手順がある操作を提供したいと仮定します。これを行うひとつの方法は、カスタムフォームに埋め込んで、外部ファイルの手順を含むOLEオブジェクトを使用します。以下はいくつかの一般的なMicrosoft Officeツールを使用して教育ファイルをフォームに埋め込む方法です。

次の例は、Microsoft WordファイルおよびMicrosoft PowerPointファイルをフォームのOLEオブジェクトとして使用し、測定ルーチンの実行中にオペレータに指示を与える方法を示します。これらの例によって、レポートまたはフォーム内のOLEオブジェクトで実行可能なことを理解できます。この手法をユーザー固有の状況に合わせて利用してください。

- **Microsoft Word OLE オブジェクトの使用で指示の提供**

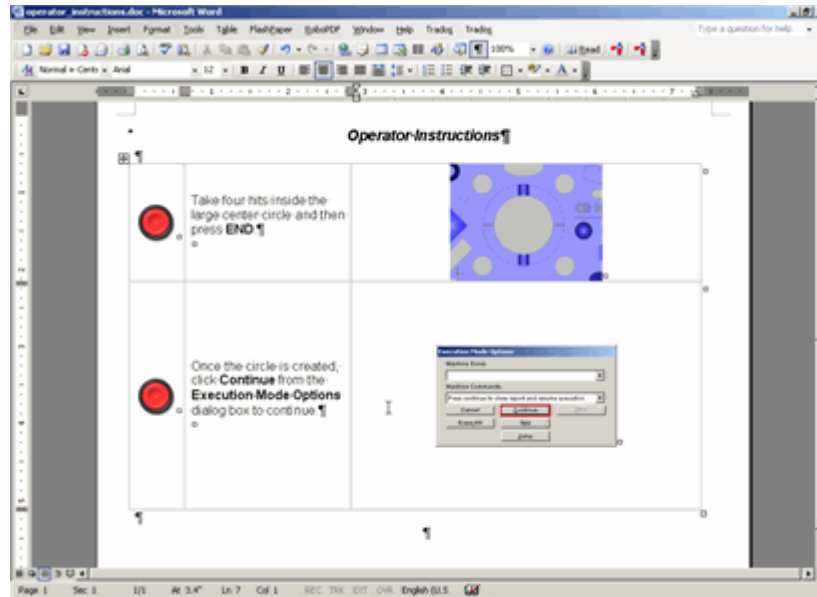
測定ルーチンを実行している人に指示を与える1つの方法は、Microsoft Word などを使用することです。



このトピックと以下の手順はMicrosoft Wordがコンピュータにインストールされたのを仮定します。

### ステップ1 - 手順書をWord文書で作成および保存

1. Word文書内にパーツセットアップ指示を作成します。
2. .docファイルをハードディスクのディレクトリに保存します。.docファイルには画像、テーブル、その他詳細な書式設定を含めても構いません。サンプルdocファイルを使用するこのトピックには以下のように見えます:



## ステップ2 - フォームの作成

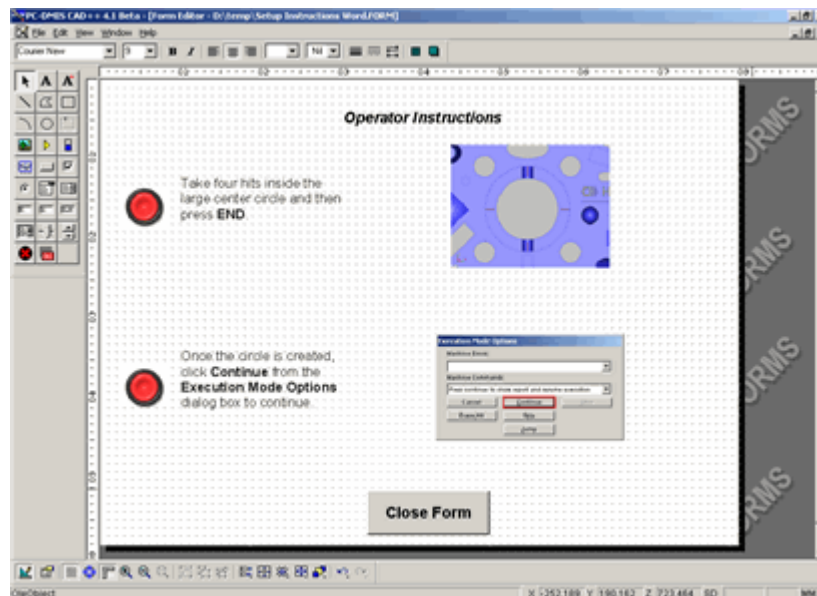
3. フォームエディタにアクセスするには、**ファイル| レポート| 新規| フォームレポート**を選択します。
4. 編集ウィンドウが開かれる場合、**表示| 編集ウィンドウ**を選択してそれを閉じてもっと多い画面スペースを与られます。
5. フォーム エディタを最大表示します。
6. ファイルの内容が適切に格納されるようにフォームの大きさを変更します。
7. 必要に応じてその他のオブジェクトを追加します。このトピックに使用される例に、**フォームを閉じる** ボタンは以下のプロパティに追加されます：
  - Text = "フォームを閉じる"
  - ButtonType = OK

ボタンをクリックするとフォームが閉じます。

## ステップ3 - OLEオブジェクトの挿入

8. **オブジェクトバー**から、**OLE オブジェクト** アイコンをクリックします。オブジェクトをドラッグし、フォームの全ての端から1/2インチの余白を残して全体にフィットさせます。マウスボタンを離すと **[オブジェクトを挿入]** ダイアログボックスが開きます。

9. ファイルからの作成オプションを選択して下さい。
10. [ファイル]ボックスより、.docファイルをパス名を含めて入力するか、[参照]ボタンを使用してファイルの位置を指定します。
11. リンクチェック ボックスを選択して下さい。これにより、フォームのOLEオブジェクトと.docファイル間のリンクが保持され、後に手順を修正してもPC-DMISは常に最新のデータを使用することが可能となります。
12. [OK]をクリックします。文書は以下のようにフォームに埋め込まれます:



13. フォームに任意の名前を付けて保存します。

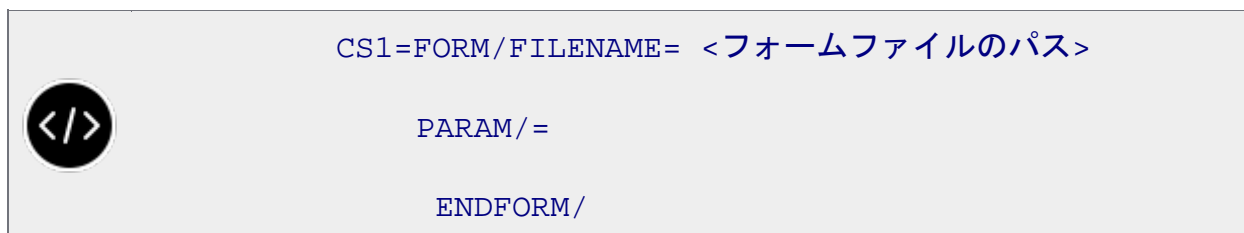


[オブジェクトを挿入] ダイアログボックスは [挿入| レポートコマンド| 外部オブジェクト] メニューオプションから、編集ウィンドウに外部オブジェクトを挿入するのを選択する場合に表示される同じダイアログボックスです。このダイアログボックスについて詳しくは、「レポートコマンドの挿入」項から「外部オブジェクトの挿入」トピックを参照してください。

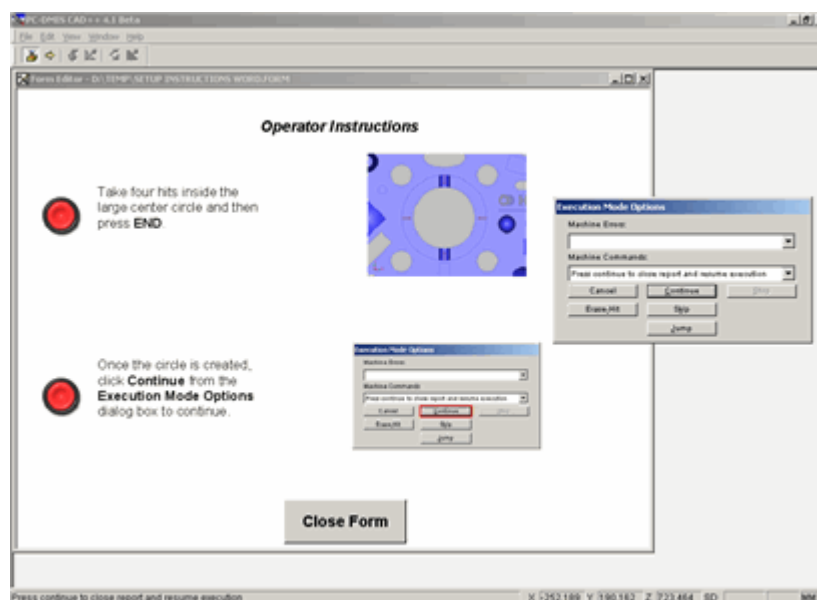
#### ステップ4 - フォームの挿入およびテスト

14. 表示されない場合は、ビュー| 編集ウィンドウ を選択して編集ウィンドウを作成します。

15. 挿入| レポートコマンド| フォームを選択します。ダイアログ ボックスを使用して保存したフォームを選択します。
16. フォーム ファイルのパス名が入った`FORM/FILENAME`コマンド ブロックが、測定ルーチンに挿入されます：



17. 実行前に、コマンド ブロックをマークします。
18. 測定プログラムを実行します。PC-DMISが`FORM/FILENAME` コマンドブロックに着くときには、それはフォームを表示します：



19. モードのオプションを実行ダイアログ ボックスから続行をクリックしてフォームを閉じてまた実行を再開します。

- **Microsoft PowerPoint OLE オブジェクトの使用で指示の提供**

このトピックでは、Microsoft PowerPointファイル(.ppt)をOLEオブジェクトとしてフォームに挿入し、オペレータにスライドショー形式の詳細な手順書を提供する方法を説明このトピックでは、Microsoft PowerPointファイル(.ppt)をOLEオブ

## レポート エディタおよびフォーム エディタについて

ジェクトとしてフォームに挿入し、オペレータにスライドショー形式の詳細な手順書を提供する方法を説明します。

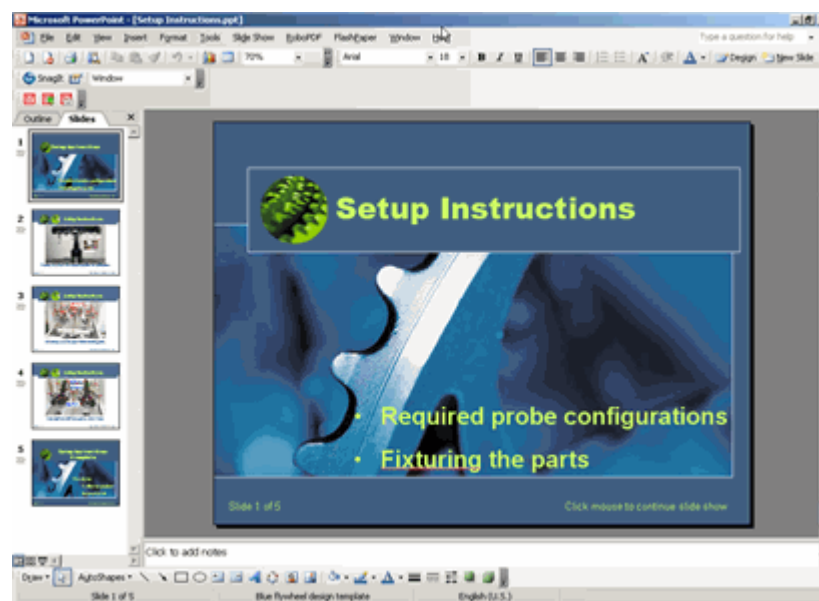


このトピックと以下の手順はMicrosoft PowerPointがコンピュータにインストールされたのを仮定します。

### ステップ1 - 手順書をPowerPointで作成および保存

1. PowerPoint file (.ppt)の代わりに、パーツセットアップ指示を作成します

。



2. .pptファイルをハードディスクのディレクトリに保存します。

### ステップ2 - フォームの作成

3. フォームエディタにアクセスするには、ファイル| レポート| 新規 | フォームレポートを選択します。
4. 編集ウィンドウが開いたら [表示|編集ウィンドウ] を選択して閉じると、大きな画面スペースが得られます。
5. フォーム エディタを最大表示します。
6. ファイルの内容が適切に格納されるようにフォームの大きさを変更します

。

7. 必要に応じてその他のオブジェクトを追加します。このトピックに使用される例に、**フォームを閉じる** ボタンは以下のプロパティに追加されます：

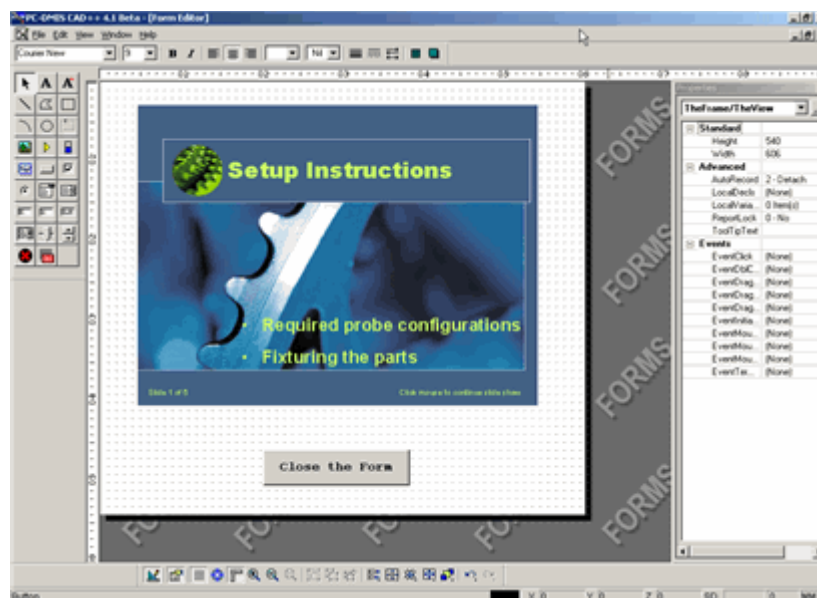
- Text = "フォームを閉じる"
- ButtonType = OK

ボタンをクリックするとフォームが閉じます。

### ステップ3 - OLEオブジェクトの挿入

8. オブジェクトバーから、**OLE オブジェクト** アイコンをクリックします。オブジェクトをドラッグし、フォームの全ての端から1/2インチの余白を残して全体にフィットさせます。マウスボタンをリリースする場合、**オブジェクトを挿入** ダイアログ ボックスが表示されます。
9. **ファイルからの作成オプション**を選択して下さい。
10. **[ファイル]**ボックスより、.pptファイルをパス名を含めて入力するか、**[参照]**ボタンを使用してファイルの位置を指定します。
11. **リンクチェック** ボックスを選択して下さい。これにより、フォームのOLEオブジェクトと.pptファイル間のリンクが保持され、後に手順を修正してもPC-DMISは常に最新のデータを使用することが可能となります。
12. **[OK]**をクリックします。PowerPointファイルがフォームに埋め込まれます。

## レポート エディタおよびフォーム エディタについて



13. フォームに任意の名前を付けて保存します。



[オブジェクトを挿入] ダイアログボックスは [挿入| レポートコマンド| 外部オブジェクト] メニューオプションから、編集ウィンドウに外部オブジェクトを挿入するのを選択する場合に表示される同じダイアログボックスです。このダイアログボックスについて詳しくは、「レポートコマンドの挿入」項から「外部オブジェクトの挿入」トピックを参照してください。

### ステップ4 - フォームの挿入およびテスト

14. 表示されない場合は、**ビュー| 編集ウィンドウ** を選択して編集ウィンドウを作成します。
15. **[挿入| レポートコマンド| フォームの順]** に選択して、**フォームの挿入** ダイアログボックスを表示します。
16. **[フォームの挿入]** ダイアログボックスを使用して、保存されたフォームを選択します。
17. **[開く]** をクリックして下さい。
18. フォーム ファイルのパス名が入った **FORM/FILENAME** コマンド ブロックが、測定ルーチンに挿入されます：

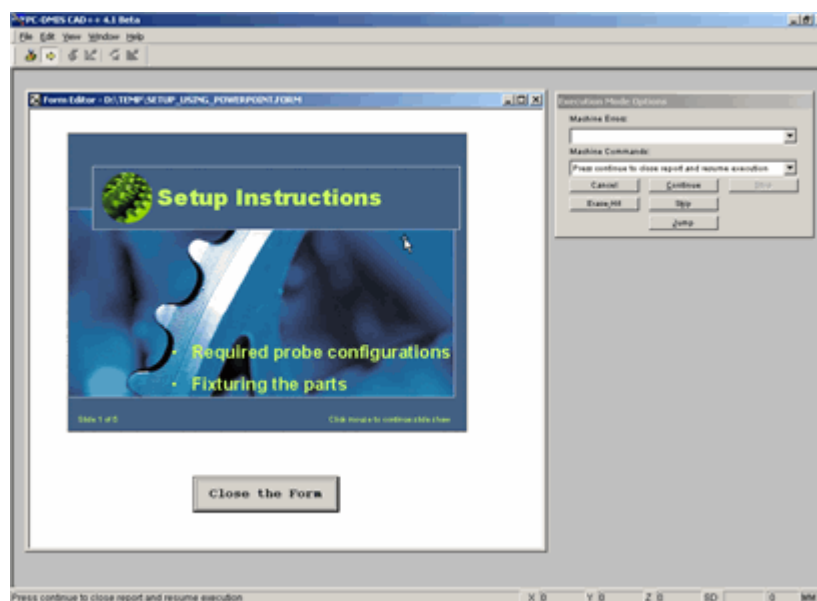


CS1=FORM/FILENAME= <フォームファイルのパス>

PARAM/=

ENDFORM/

19. 実行前に、コマンド ブロックをマークします。
20. 測定ルーチンを実行します。PC-DMISがFORM/FILENAME コマンドブロックに着くときには、それはフォームと埋め込まれたPowerPointプレゼンテーションを表示します。



21. 埋め込まれたプレゼンテーションをダブルクリックします。Microsoft PowerPointソフトウェアが起動し、プレゼンテーションが表示されます。完了されると、PowerPointも閉じます。
22. モードのオプションを実行ダイアログ ボックスから続行をクリックしてフォームを閉じてまた実行を再開します。



## [ポインタ]オブジェクト



**ポインタ** オブジェクトがフォームまたはテンプレートに動的、可動、着色されたポインタを挿入します。色は黄色にデフォルトします。

オブジェクトのサイズ、色、その他の属性も変更可能であることに加え、Visual Basic のコードと連動してこれらのプロパティを使用することにより、オブジェクトを移動することが可能です。

### **MaximumEq**

最大方程式 (この値は定数、簡単な方程式から評価される値、またはVBScriptからの戻り値に設定できます)。

-\$, \$, CONST

### **MinimumEq**

最小方程式 (この値は定数、簡単な方程式から求められた値、またはVBScriptからの戻り値が設定可能です)。

-\$, \$, CONST

### **ValueEq**

値方程式 (この値は定数、簡単な方程式から評価される値、またはVBScriptからの戻り値を設定できます)。

-\$, \$, CONST



ポインタの方向を変更する場合は、矢印の動きも指定された方向に変更されます。

## PointInfo オブジェクト



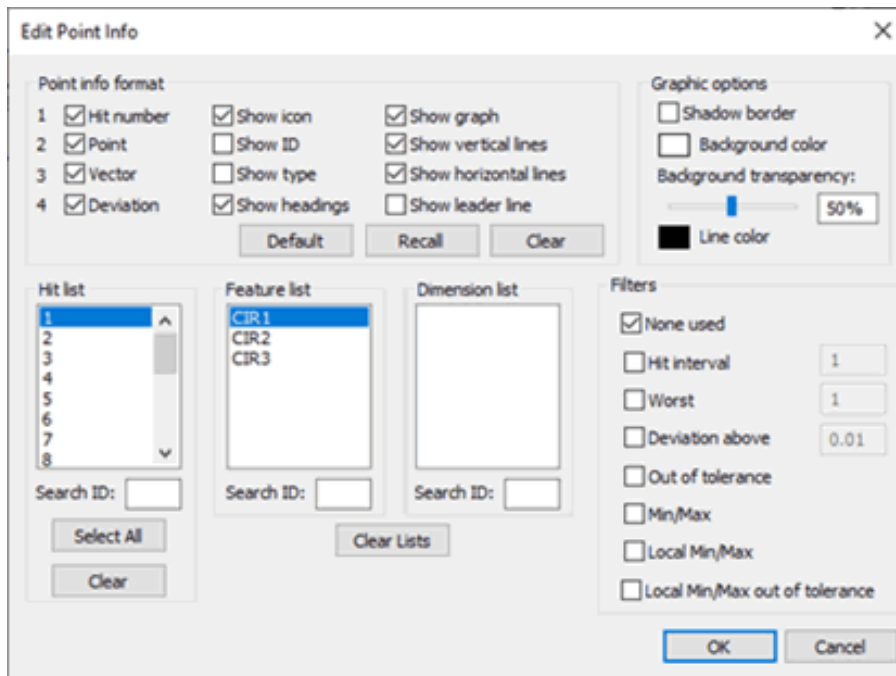
**PointInfo** オブジェクトはコンテナとしてレポートの個々のポイント情報を保持します。

## ラベル テンプレートにPointInfo オブジェクトの使用

ラベルテンプレートエディタの **オブジェクトバー** を使用すると、**PointInfo** オブジェクトが追加およびサイズ変更されて、必要に応じてラベルテンプレートエディタの表示エリアに表示されるようになります。ラベル テンプレートを保存します。次に、新規または既存のレポートテンプレートに対して **ルールツリーエディタ** ダイアログボックスを使用して、どんな条件下で PC-DMIS がそのラベルテンプレートを読み出して表示するかを指定します。これを行う方法について詳しくは、本章の「ルールツリーエディタについて」トピックを参照してください。

## カスタム レポートにPointInfo オブジェクトの使用

カスタムレポートエディタの **オブジェクトバー** を使用して、**PointInfo** オブジェクトをカスタムレポートにドラッグまたはドロップします。PC-DMIS は **点情報** ダイアログボックスを表示して、ユーザーが点を選択しオブジェクトに関連付けられる点を選択できるようにします。



ダイアログ ボックスから要素または寸法とポイントを選択して、必要なオプションを設定して **OK** をクリックします。PC-DMIS は選択された要素または寸法にポイント情報コマンドを作成してダイアログ ボックスを閉じます。PC-DMIS は要素または寸法ポイント情報を含むテーブルをレポートに表示します。

このダイアログ ボックスを使用して測定結果情報を表示するには、「レポートコマンドの挿入」の章の「測定結果情報ボックスの挿入」を参照してください。



カスタムレポートにおいて、解析 オブジェクトはそれ自体の点情報ボックスも表示することができます。詳しくは「解析オブジェクト」を参照してください。

このオブジェクトに固有のプロパティは次の通りです。これらの多くが(設定ダイアログ)プロパティをクリックすることで設定できます。

#### **DimFeatID**

表示したいヒットを含む要素または寸法のIDを定義します。

#### **HitNumber**

点情報ボックスに表示したいヒットの数を定義します。

#### **OrderDeviation**

偏差の行の順番を1から4までの数で定義します。1の値にすると、一番上の行に情報を配置します。4の値にすると、一番下の行に情報を配置します。

#### **OrderHitNum**

取込み点数の順番を定義する以外は上記の通りです。

#### **OrderPoint**

点の行の順番を定義する以外は上記と同じです。

#### **OrderVector**

ベクトルの行の順番を定義する以外は上記と同じです。

#### **ShowGraph**

値を1にすると測定結果の割合のグラフを表示します。値を0にするとグラフは表示されません。

#### **ShowHeadings**

値を1にすると見出し行が表示されます。値を0にすると見出し行は表示されません

#### **ShowID**

値を1にすると特定の要素または測定結果の行のIDを表示します。0の値にするとIDは表示されません。

#### **ShowPointInfo**

1の値にすると点情報の行が表示されます。0の値にするとIDは表示されません。現時点では無効です。

**ShowType**

**1**の値にすると表示される要素または測定結果のタイプを表示します。**0**の値にするとタイプは表示されません。

## [ポリライン]オブジェクト



ポリライン オブジェクトでは、線を繋げることができます。最初の線をクリックして作成すると、最初の線の終了点から2番目の線が自動的に開始されます。ポリラインオブジェクトのプロパティには、標準的な線オブジェクトと同じプロパティが含まれます。

## [Radiobutton ]オブジェクト



**Radiobutton** オブジェクトはフォームにオプション・ボタンを挿入します。オプション・ボタンは相互に排他的です。一度に報告書の内部で1つだけのオプション・ボタンを選択することができます。**ListItems** 特性を使用すると、1セットのオプション・ボタンを定義することができます。

オブジェクトのサイズと色を変更して他の属性を変更する能力に加えて、これらのプロパティを使用してこのオブジェクトをカスタマイズできます：

**AlignTextLeft**

**はい**に設定すると、これは以下のようにテキストをオプションボタンの左に移動します。

ここにテキスト ( )

**いいえ**に設定する場合、このようにテキストをオプションボタンの右に移動してください:

( )ここにテキスト

### Bitmap

選択されたオプションボタンに使用するビットマップを設定することができます。

設定するビットマップは標準的なチェックボックスと同じ形である必要があります。

### BitmapOffState

非選択状態の選択肢に使用するビットマップを設定することができます。

設定するビットマップは標準的な選択肢ボタンと同じ形である必要があります。

### ListItems

これはオプションボタンのリストとその関連付けられている値を定義します(以下の **リスト選択** ダイアログ ボックスの説明を参照してください)。

**ListItems** プロパティは、[リストの選択]ダイアログボックスが表示されます。



[選択肢一覧] ダイアログボックス

このダイアログボックスではオプションボタンの追加、名前変更および削除ならびに数値の割り当てを行うことができます。通常、新しい選択肢を追加するとその選択肢に対する数値は自動的に大きくなり、一度に1つのボタンのみを選択できます。但し、数値を変更して、実行モードでマウスを1回クリックすると複数の選択肢が選択されるようにすることもできます。

例えば、5つの選択肢ボタンがあり、選択肢A～選択肢Eまで名付け、次のように設定値を変更するとします:

選択肢ボタン	値
選択肢A	0

選択肢B	0
選択肢C	1
選択肢D	2
選択肢E	2

ユーザが実行モードを入力して、オプション A を選ぶとき、オプション A とオプション B 両方は選ばれます。これは2つに同じ値が割り当てられているからです。同様に、オプション E を選択すると、オプション D とオプション E の両方が選択されます。オプション C だけに固有の値があるため、それを選択するとそれだけが選択されます。

## [選択]オブジェクト



**選択** オブジェクトはテンプレートまたはフォームエディタに挿入する従来からのオブジェクトではありません。むしろそれによって、エディタにすでに挿入されているオブジェクトを選択することができます。オブジェクトを選択するには、レポートでのオブジェクトをクリックします。オブジェクトを選択するタイミングを知らせるために、PC-DMISはそれを境界と小さな緑色の正方形で囲みます。オブジェクトを選択したら、オブジェクトを移動、サイズ変更または編集することができます。

## SectionCutObject

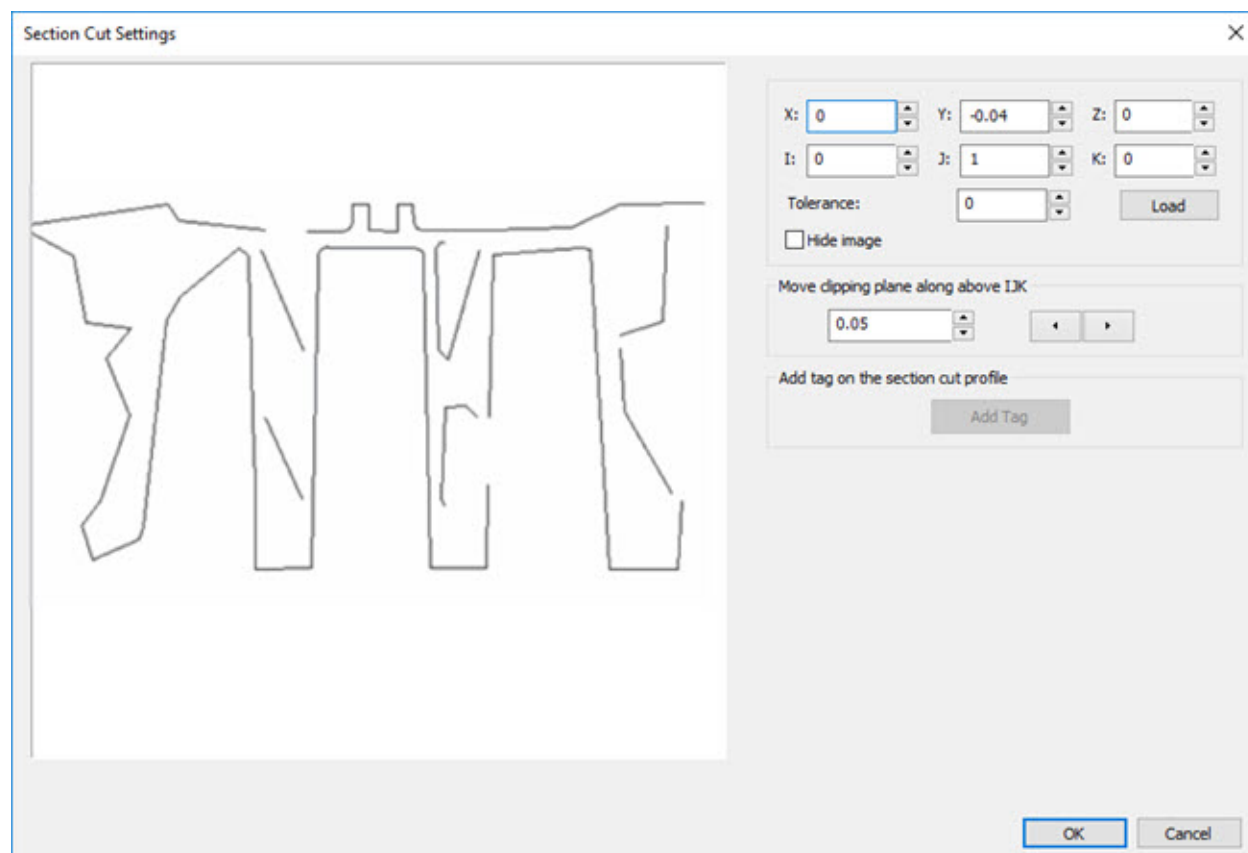


**SectionCutObject** では、CADモデルの断面（断面図）を定義できます。その他のオブジェクトと同様に、**SectionCutObject** をレポートテンプレートエディタに挿入するか、レポートウィンドウの最終レポートページに直接に挿入できます。このオブジェクトを挿入するには、マウスポインタを配置してボックスをドラッグします。ボタンを離すとオブジェクトが表示され、一少なくともレポートテンプレートエディタで一切り抜き平面を動かして、それがCADモデルと交差するようになるまで、それは「画像がありません」を表示します。ユーザーはオブジェクトのプロパティを通して切り抜き平面を移動することができます。

## オブジェクト プロパティの変更

レポートテンプレートエディタに**SectionCutObject** を挿入する場合、それを右クリックして **プロパティ ダイアログ ボックス** にアクセスします。**プロパティダイアログ ボックス** に直接にプロパティを変更してまたは**(ダイアログの設定)** プロパティを選択して ... ボタンをクリックして**切断面設定** ダイアログ ボックスを使用してもっと簡単にそのプロパティを変更します。

レポートウィンドウのレポートページにフライのオブジェクトを挿入する場合、同じな**切断面設定**ダイアログ ボックスは表示されます。




[切断面の設定]ダイアログ ボックス

このダイアログボックスを使用して、レポートに表示したいパートモデルの切断面画像を定義することができます。

## [切断面の設定]ダイアログ ボックスを使用した切断面画像の定義

1. **X**、**Y**、また**Z** ボックスに記入してクリップ面のがモデルと交差するCAD モデルのポイントを定義します。

2. I、J、またK ボックスに記入して表面が直面している方向を定義します。
3. 必要に応じて 公差値を変更します。
4. **読み込み** ボタンをクリックして**切断面設定**ダイアログボックスの断面図画像のライブプレビューを表示します。
5. 大きな左矢印および右矢印アイコン  を使用して、平面配置を微調整し、ユーザーが必要とする正確な断面図ビューを取得します。ダイアログボックスのプレビューは平面の位置に合わせて更新されます。
6. 必要に応じて画像の配置を変えます。イメージをパンするには右クリックしてドラッグします。切断面画像を拡大または縮小するには、画像ビューの境界である仮想水平線の上または下を右クリックします。パート画像を2次元上で回転するには、CTRLキーを押しながら右クリックでドラッグします。
7. 最後に、**タグ追加** ボタンを使用してコールアウトをダイアログ ボックス画像に配置します。
8. 変更を確定するために、**OK** をクリックして下さい。

### [切断面の設定]ダイアログ ボックスの項目

#### XYZ ボックス

これらのボックスは切り抜き平面がモデルと交差するCADモデルにおける点を定義します。

#### IJK ボックス

これらのボックスは、切断平面のIJK方向ベクトルを定義します。

#### 公差ボックス

[公差]パラメータは次の目的に使用されます:

- ポリラインが閉じているかをチェックします。開始点と終了点間の距離は公差値より小さくなるはずです。
- ポリラインの数を減らします。
- ポリラインをマージします。

#### 読み込みボタン

このボタンは、CAD画像の切断線と切断面のプロファイルをプレビュー表示します。

#### 画像を非表示にするチェックボックス

このチェックボックスはプレビュー ウィンドウで切断面プロファイル画像を非表示に



## レポート エディタおよびフォーム エディタについて

します。**[OK]**ボタンをクリックすると、レポートテンプレートエディタまたはレポートウィンドウのページ上にある切断面画像も非表示になります。

### クリップ平面をIJKの上に沿って移動エリア

このエリアには編集ボックスと矢印ボタンが含まれます。

編集ボックスは、左矢印または右矢印をクリックしたときに切り抜き平面が移動する距離を定義します。

矢印ボタンをクリックする度に、切断平面がIJKベクトルに沿って指定された距離だけ移動します。

- (I,J,K)が(1,0,0)の場合、平面はX軸に沿って移動します。
- (I,J,K)が(0,1,0)の場合、平面はY軸に沿って移動します。
- (I,J,K)が(0,0,1)の場合、平面はZ軸に沿って移動します。

### タグを追加 ボタン

このボタンはパーツモデルの切断面イメージに引き出し線を配置できます。

このボタンをクリックすると、カーソルが[十字]アイコンに変わります。ダイアログボックスの切断面画像上の引き出し線をクリックしてドラッグできます。マウスボタンを離すと、小さなテキストボックスが表示され、これによってコールアウトテキストを入力できます。このテキストボックスに表示可能な文字数はテキストボックスの大きさによって制限されます。ボックスサイズを大きくすると、より多くの文字を入力および表示できます。

タグをイメージに付ける前に、切断面イメージを完成させる必要があります。そうでない場合、タグは将来、画像を変更するときに削除されます。

### OK および取り消しボタン

**OK**をクリックすると変更が切断面プロファイル画像に適用され、レポートテンプレートエディタまたはレポートウィンドウに画像が表示されます。レポートがCadReportObjectを含む場合、切断線がCAD画像に表示されます。

取り消しをクリックすると変更が適用されずにダイアログボックスを閉じます。但し、レポートウィンドウにオブジェクトを急に追加する場合、SectionCutObjectはまだ存在しています。必要であれば、オブジェクトにそれを右クリックで移動するか、**オブジェクトを移動**を選択します。

## その他のプロパティ

### 底

共通のプロパティ

### 有効

共通のプロパティ

### EventReportData

イベントおよび Visual Basic コードについて

### フォント

共通のプロパティ

### イメージを隠す

上記のダイアログボックスを説明した表の記述を参照してください。

### 左

共通のプロパティ

### 平面アンカーX

上記項目のダイアログ ボックスについて説明したテーブルを参照してください。

### 平面アンカーY

上記項目のダイアログ ボックスについて説明したテーブルを参照してください。

### 平面アンカーZ

上記項目のダイアログ ボックスについて説明したテーブルを参照してください。

### 平面ベクトルI

上記項目のダイアログ ボックスについて説明したテーブルを参照してください。

### 平面ベクトルJ

上記項目のダイアログ ボックスについて説明したテーブルを参照してください。

### 平面ベクトルK

上記項目のダイアログ ボックスについて説明したテーブルを参照してください。

右

共通のプロパティ

### (設定ダイアログ)

このプロパティは**切断面の設定**ダイアログを表示します。

### 公差

上記項目のダイアログ ボックスについて説明したテーブルを参照してください。

上

共通のプロパティ

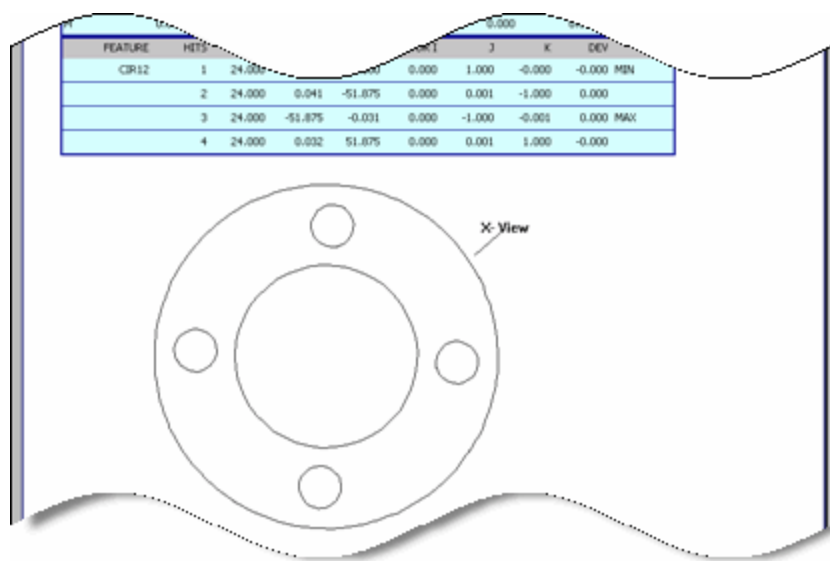
### 表示可能

共通のプロパティ

## オンザフライでの切断面の定義

切断面を使用する最も簡単な方法は、おそらく、レポートウィンドウの最終レポート内で、オンザフライの作成方法で切断面を定義することです。これをするには、以下の操作を行います。

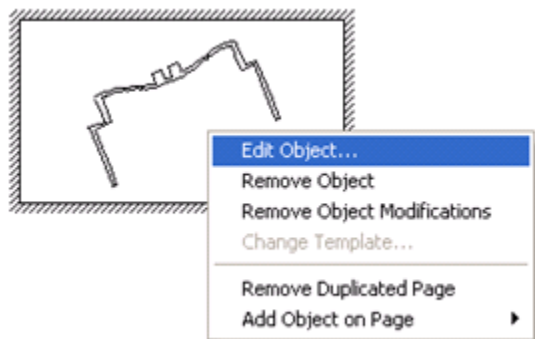
1. レポートウィンドウを右クリックします。ショートカット メニュー 表示されます。
2. ページに**オブジェクトを追加| 断面プロファイル**メニュー項目を選択します。
3. レポートウィンドウでクリックして、ボックスを目的の切断面画像の大きさまでドラッグします。マウスボタンをリリースすると、**切断面設定**ダイアログ ボックスが表示されます。
4. ダイアログ ボックスを使用し、上記の手順で切断面を定義します。レポート ウィンドウに切断面の輪郭が挿入されます。



切断面プロファイルの例。

## レポート ウィンドウで切断面の輪郭の変更

オブジェクトを右クリックして表示されるショートカットメニューから**編集オブジェクト**を選択します。



## [スライダ]オブジェクト



スライダー オブジェクトはテンプレートにスライダーを挿入します。レポートのスライダーを使用すると、ユーザーに連続する許容範囲値から値を設定させることができます。

オブジェクトのサイズや他の属性も変更可能であることに加え、次のプロパティを使用することにより、オブジェクトをさらにカスタマイズすることが可能です:

### AutoTicks

[はい]に設定すると、スライダに目盛が表示されます。目盛とは、スライダの端から端まで一定間隔([TickFrequency] プロパティで設定)に置かれる短い垂直線または水平線です。

### DisplayID

スライダが調整された場合にDisplayIDを更新するかどうかを指定できます。

### HelpHotButton

[はい]を選択した場合、スライダの横に疑問符のヘルプ ボタンが表示されます。



実行モードでこのヘルプボタンをクリックすると、PC-DMISオンラインヘルプが表示されます。

### MaximumEq

最大方程式 (この値は定数、簡単な方程式から評価される値、またはVBScriptからの戻り値に設定できます)。

`-$, $, CONST`

### MinimumEq

最小方程式 (この値は定数、簡単な方程式から求められた値、またはVBScriptからの戻り値が設定可能です)。

`-$, $, CONST`

### Orientation

スライダの方向を設定します。

`Horizontal`を選択して、スライダーをhorizontallyを左右に移動するのを設定します。

`Vertical`を選択して、スライダーを垂直上下に移動するのを設定します。

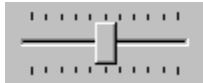
### TickFrequency

この値を使用すると、目盛を表示する間隔を指定できます。2から200の値が設定可能で、スライダの端から端に沿って等間隔に表示されます。

**TickStyle**

スライダの目盛の表示方法を設定します。

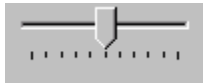
**0 - 両方:** 目盛りをスライダの上と下(水平スライダの場合) または右側と左側 (垂直スライダの場合) に設定します。



**1 - トップ/左:** タニをスライダの上(水平スライダの場合) または左側 (垂直スライダの場合) に設定します。



**2 - 下/右:** タニをスライダの下(水平スライダの場合) または右側 (垂直スライダの場合) に設定します。

**ValueID**

値のIDです。コントロールを使用してこれを設定してまたは取ります。

**スナッピングオブジェクト**

オブジェクトバーのスニッフィングオブジェクトは、PC-DMISをスナップモードにします。このオブジェクトはカスタムレポートエディタでのみ機能します。スニッフィングモードでは、画面の一部をキャプチャしてイメージとしてカスタムレポートのエディタに挿入できます。

スナッピングオブジェクトを使用してイメージを挿入するには：

1. スナッピングモードに入るには、スナッピングオブジェクトをクリックします。ポインタの矢印が十字線に変わり、半透明の白いオーバーレイが画面全体をカバーします。
2. ポインタを使用して、レポートに必要な画面の部分をクリックしてドラッグします。

3. マウスボタンを放して、画面のその部分を画像としてキャプチャします。PC-DMISはSnipping1という名前のオブジェクトをカスタムレポートエディタに挿入します。追加のキャプチャの名前は、Snipping2、Snipping 3などとなります。

このオブジェクトのプロパティは「共通プロパティ」トピックに記載されています。

## [スピナ]オブジェクト



スピナー オブジェクトはテンプレートにスピンコントロールを挿入します。このコントロールは編集ボックスとともに動作するように設定可能で、ある範囲で数値を変化させることで数値を選択することができます。番号の範囲はMinimumEqとMaximumEqプロパティを使用することに設定されます。

オブジェクトの高さや他の属性も変更可能であることに加え、次のプロパティを使用することにより、オブジェクトをさらにカスタマイズすることが可能です：

### DecimalBase

これはスピナーの基本を10進数([はい]を選択した場合) または16進数([いいえ]を選択した場合)に設定します。

### EditBuddy

[はい]を選択すると、タブの順番でスピナの直前にある編集コントロールにスピンが関連付けられます。タブの順番は、編集モードでオブジェクトを選択し、SHIFT+Enterを押すことで表示されます。

### IncrAccelerator

この値を使用すると、矢印をクリックするごとにスピンが増減する量を指定できます。この値を使用すると、デフォルトの値は1です。

### MaximumEq

最大方程式 (この値は定数、簡単な方程式から評価される値、またはVBScriptからの戻り値に設定できます)。

- \$, \$, CONST

### MinimumEq

最小方程式 (この値は定数、簡単な方程式から求められた値、またはVBScriptからの戻り値が設定可能です)。

-\$, \$, CONST

### Orientation

スピナ コントロールの方向を設定します。

**Horizontal**を選択してスピン矢印のオリエンテーションを回転して水平を指します。

**Vertical**を選択してスピン矢印のオリエンテーションを回転して垂直を指します。

### WrapAround

このプロパティを**[はい]**に設定すると、リストの値を増加または減少して最小値または最大値に達した場合、レポートはリストの最初または最後に戻ることができます。

## TextReportObject



**TextReportObject** オブジェクトによってユーザーは、テキストレポートデータ用コンテナをレポートテンプレートに挿入できます。このオブジェクトを挿入すると、PC-DMISは最初にいくつかのサンプルレポートデータが入力されたボックスを表示しますが、これは設計のために有用です。テンプレートがレポートに適用されると、実際のレポートデータが使用されます。

```
PART NAME : PL54A.1
REV NUMBER :
SER NUMBER :
STATS COUNT : 1

Active alignment changed to ALIGN1

PLN1=PLANE MEASURED FROM 4 HITS
CYL1=CYLINDER MEASURED FROM 8 HITS
PLN2=PLANE MEASURED FROM 4 HITS
Active alignment changed to ALIGN2

PLN3=PLANE MEASURED FROM 4 HITS
DIM PLANE#A= FLATNESS OF PLANE PLN3 UNITS=MM
AX NOMINAL +TOL -TOL MEAS MAX MIN
DEV OUTTOL
M 0.000 0.050 0.000 0.007 0.004 -0.004
0.007 0.000 -#-----
```

レポートデータの例が表示されたTextReportObject



## レポート エディタおよびフォーム エディタについて

Report Window - C:\Users\Public\Documents\Hexagon\PC-DMIS\2018 R1\Reporting\TextOnly.rtp

100%

PART NAME : 2018 R1 Test 3		September 11, 2017 13:13	
REV NUMBER :		SER NUMBER :	
STATS COUNT : 1			
FCFLOC1 Size	IN	8XØ0.3228 0.0004/0.0004	
Feature	NOMINAL	+TOL	-TOL
CIR1	0.3228	0.0004	0.0004
CIR2	0.3228	0.0004	0.0004
CIR3	0.3228	0.0004	0.0004
CIR4	0.3228	0.0004	0.0004
CIR5	0.3228	0.0004	0.0004
CIR6	0.3228	0.0004	0.0004
CIR7	0.3228	0.0004	0.0004
CIR8	0.3228	0.0004	0.0004
FCFLOC1 Position	IN	Ø0.0004 @ A	
Feature	NOMINAL	+TOL	-TOL
CIR1	0.0000	0.0004	0.0000
CIR2	0.0000	0.0004	0.0000
CIR3	0.0000	0.0004	0.0000
CIR4	0.0000	0.0004	0.0000
CIR5	0.0000	0.0004	0.0000

実際のレポートデータを表示するレポートウィンドウの例

オブジェクトを選択し、右クリックしてプロパティを編集することにより、挿入された TextReportObject の表示形式を変えることも可能です。

このオブジェクトに固有のプロパティは次の通りです：

### 色

表示されるテキストの色を変更できます。デフォルトではPC-DMISは、ユーザーが編集ウィンドウのコマンドモードで使用したのと同じ配色をこのオブジェクトが使用するようにします。このプロパティをクリックすると、PC-DMISは独立した色セットを作成するかどうかをユーザーに尋ねるメッセージボックスを表示します。[はい] をクリックして [色エディタ] ダイアログボックスにアクセスします。このエディタを使用して、選択された TextReportObject の新しい配色を定義することができます。

色エディタに使用情報について、「仕様の設定」項の「編集ウィンドウの色を定義」を参照して下さい。

### PRINT後のレポートヘッダ

このプロパティはPRINT/REPORTコマンドの後に、PC-DMISがレポートヘッダをどのように処理するかを決定します。詳細については、「テキストレポートの編集」トピックの「印刷コマンド後のヘッダ」エリアを参照してください。

### RuleTree

このオブジェクトに対する[ルール ツリー エディタ]にアクセスします。このプロパティによって、ルールを作成してオブジェクト内で式またはラベル テンプレートを使用するタイミングおよび方法を定義することができます。

ラベルテンプレートおよび式によってユーザーは、このオブジェクトに表示されるレポートデータをコントロールすることができます。「ルールツリー エディタについて」を参照してください。

### ShowAlignments

レポート内のアラインメントを表示または非表示にします。

### ShowComments

レポート内のコメントを表示または非表示にします。

### ShowDimensions

レポートに表示する寸法を指定します。

**すべて** - すべての測定結果を表示します。

**なし** - 測定結果はいずれも表示されません。

**公差範囲外** - 公差範囲外の測定結果のみを表示します。

**制限内** - 公差制限内の測定結果のみを表示します。

### ShowFeatures

レポート内の要素を表示または非表示にします。

### ShowHeaderFooter

レポートのヘッダーおよびフッター情報を表示または非表示にします。

### ShowMoves

レポート内の移動コマンドを表示または非表示にします。

### ShowScreenCaptures

レポート内のスクリーンショットを表示または非表示にします。

## [テキスト]オブジェクト

### A

テキスト オブジェクトで、テンプレートにテキストラベル、説明、およびマーキングを挿入できます。これは、レポートをより有意義に仕上げるのに便利です。テキスト オブジェクトを選択し、右クリックしてプロパティを編集することにより、挿入されたテキスト オブジェクトの表示形式を変えることも可能です。

このオブジェクトのプロパティは「共通プロパティ」トピックに記載されています。

## TextVar Object

### A<sup>+</sup>

**TextVar** オブジェクトで、テンプレートに動的的な、数値テキストを挿入できます。オブジェクトはテキスト プロパティの削除とこれらの二つのプロパティ追加で **テキスト** オブジェクトとは異なります:

#### ValueEq

値方程式(この値は定数、簡単な方程式から評価される値、またはVBScriptからの戻り値を設定できます)。実行時にこの値はフォーマットされ、表示されます。

**-\$, \$, CONST**

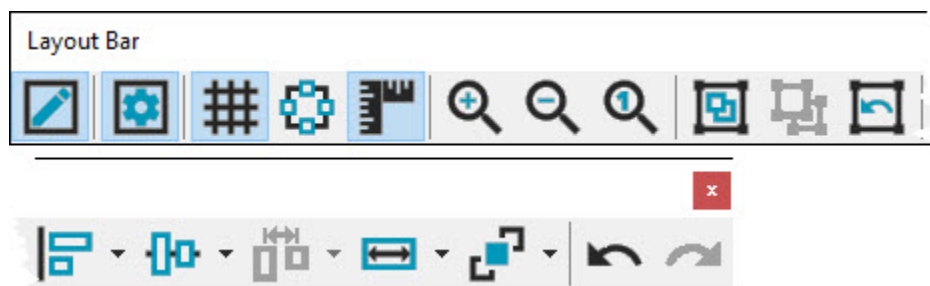
#### Format

'C'言語標準を使用して数値のフォーマットを設定します。ただし、数値の部分にのみ使用可能です。たとえば、書式**%5.2lf** は5.2になり、**%5d** は5になります。

これについて1つの例外はBOOLEAN 変数を使用する場合、\$ 文字列がはいえ またははいに変換されます。

オブジェクトを使用して**ValueEq** プロパティを編集するには、それは変数番号の値を表示することに設定されます。

## レイアウト バー



レイアウトバー は編集モードグリッドに効果的に配置、整理またオブジェクトを表示する必要があるツールを与えます。次のトピックで各アイコンの機能について説明します。

## 編集



**編集** アイコンは実行モードにテンプレートを配置します。レポート・テンプレートとラベル・テンプレート・エディタは常に編集モードに残ります。このアイコンはフォームのエディタを使用する場合に機能します。

## プロパティ シート



**プロパティシート**アイコンは**プロパティシート**ダイアログボックスにおける選択されたオブジェクトのプロパティを表示します。**プロパティシート**ダイアログボックスでは、選択したオブジェクトのプロパティを変更することができます。そのプロパティが表示されているオブジェクトを変更するには、**プロパティシート**ダイアログボックスの一番上のリストから異なる既存オブジェクトを選択します。

プロパティの完全な情報については、「オブジェクトのプロパティについて」を参照してください。

## グリッドの表示/非表示


### グリッドの表示/非表示



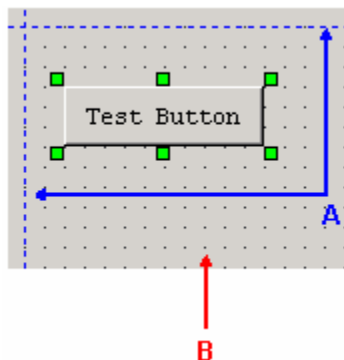
**グリッドの表示/非表示アイコン**は対応するグリッドを表示または非表示にします。編集モードでは、グリッドは1/10インチ毎にドットを含むため、オブジェクトのサイズを正確に設定するのに役立ちます。詳しくは、「以下のグリッドでの操作」を参照してください。

### グリッドを使用した操作

フォームまたはテンプレートエディタで作業しているとき、PC-DMISは以下の方法でフォームまたはテンプレートの背景にグリッドを表示または非表示にします。

- レイアウトバーから**グリッドの表示/非表示アイコン**()をクリックします。
- Ctrl + Gを押します。

オブジェクトを正確に配置してサイズを決めるためのツールとして、このグリッドを使用することができます。また、このグリッドはテンプレートの余白のガイド線をコントロールするのに役立ちます。

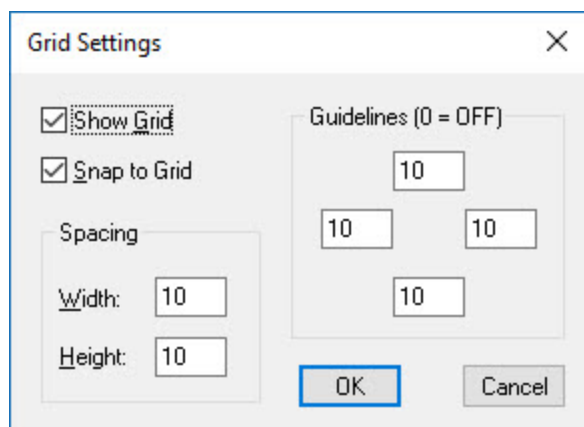


A - ガイドライン

B - グリッド目盛

デフォルトのグリッドの印およびガイド線の表示例

**編集|レイアウト|グリッドの設定** を選択して**グリッドの設定**ダイアログ ボックスにアクセスします。



[グリッド設定]ダイアログボックス

このダイアログ ボックスを使用して、グリッドをカスタマイズすることができます。このダイアログボックスのコントロールに関する説明は以下のとおりです。

#### グリッドを表示チェックボックス

グリッドを表示チェックボックスはグリッドの表示を切り替えます。

#### グリッドにスナップチェックボックス

グリッドにスナップ チェックボックスは、グリッドを移動または最も近いグリッド位置にスナップするかどうかをコントロールします。

#### 間隔エリア

間隔エリアはグリッドマーキング間の間隔距離を設定します。これらの数字が小さいほど、グリッドの印の間隔は狭くなります。

#### ガイドラインエリア

ガイドラインエリアでは、テンプレートエディタの上、左、右、下の余白のガイドラインの位置を決定します。

これらの各ボックスの値はグリッドのマーキングにガイドラインを設定する距離を設定します。値を0に設定すると、完全にガイドラインが削除されます。

これらのガイド線の外にオブジェクトを配置することはできません。

## スナップ点の表示



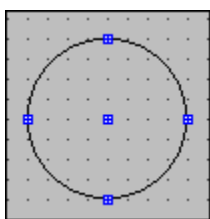
**スナップ点を表示アイコン**は各オブジェクトのスナップポイントを表示します。スナップ点はオブジェクトを線に沿って並べる場合に便利です。例えば、説明用のテキストボックスのスナップ点とオブジェクト(例えば円)のスナップ点を結ぶ線を利用して

## レポート エディタおよびフォーム エディタについて

、説明用のテストボックスが円を指し示す線を作成することができます。次に、引き出し線と同様に、円が新しい位置に移動するとそれに付けられた線が円の新しい位置に合わせて伸縮します。

上記の例で説明されたようにスナップポイントを使用するには、次の手順に従います：

1. 円のオブジェクトを作成します。
2. ラインオブジェクトを作成します。
3. 編集モードでレイアウトバーからスナップ点を表示アイコンを選択します。エリアを持つグリッド上のオブジェクトが青色の点を表示するのが分かります。これらの青色の点はスナップ点です。



スナップ点が5個ある円の例。

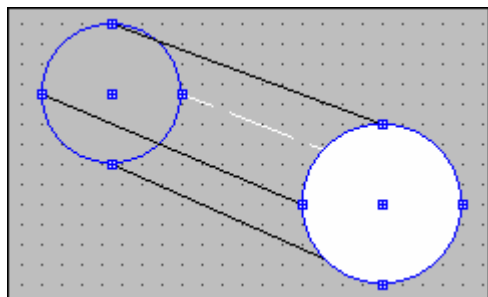
4. 線を選択し、一方の端がちょうど円の目的のスナップ点に来るまでドラッグします。円オブジェクトを移動してみてください。線は円のオブジェクトのスナップ点に付いています。
5. 円の説明用にテキストオブジェクトを作成し、簡単な説明を入力します。
6. エンドがテキストオブジェクトのスナップポイントの一つの上にあるまで、ラインのその他のエンドを選択してドラッグします。
7. ここで、説明用のテキストボックスまたは円のオブジェクトを選択し、ドラッグします。線のオブジェクトが伸縮および移動し、常に2つのオブジェクトの使用されたスナップ点を結ぶ直線となっています。

オブジェクトをスナップポイントに接続切断するには、単純にスナップポイントのオブジェクトの接続端をドラッグします。

### スナップポイントvs. リーダラインオブジェクト

ほとんどの時間にスナップポイントの代わりに引き出し線オブジェクトを使用します。これはスナップポイントとほぼ同じ機能を持ち、使用する方も簡単です(「引き出し線オブジェクト」トピックを参照してください)。1つの利点のスナップポイントは引き出し線オブジェクトを越えて、1つ以上オブジェクト間のラインをサポートして、能

カスナップ点に正確に接続線に合わせます。例えば、次に示すようにスナップ点を使用してさらに複雑な形を編集モードで直接作成できます：



二つのフィルされた円上のスナップ点に付いている四本線から作成される円筒の例。

## サポートされるオブジェクト

ラインとポリラインのオブジェクトのみスナップ点を持つオブジェクトにアタッチできます。スナップ点を持つオブジェクトは次の通りです：

- テキスト
- TextVar
- 境界
- 楕円
- ビットマップ
- 寸法色付けキー
- 柱状グラフ
- 要素テキスト
- 寸法情報
- 点データ

## 添付されたオブジェクトの表示

多くのオブジェクトのページで、**ビュー | ルートメニューオプション**を使用して現在選択されたオブジェクトに接続するオブジェクトのチェーンを見るのは有用です。このメニューオプションは何らかの方法でスナップポイントで現在選択したオブジェクトに接続するすべてのオブジェクトを選択します。



## ルーラーの表示/非表示



**ルーラーの表示/非表示アイコン**を使用すると、グリッドの上側および左側にあるルーラーを表示または非表示にすることができます。ルーラーにはグリッドの大きさがインチまたはセンチメートルで表示されます。さらに、グリッドの水平軸(上ルーラー)および垂直軸(左ルーラー)に沿ってカーソルの位置が表示されます。インチまたはセンチメートル表示を切り替えるには、ルーラーを右クリックし、ショートカットメニューより必要なオプションを選択します。

## 拡大/縮小

これらのアイコンを使用して、ハイパー レポートを拡大または縮小表示し、元の大きさに戻すことが可能です:



**ズームイン** - これはクリックあたり100%で、レポートにズームイン (を拡大) します。このアイコンを5回クリックするだけで500%ズームします。



**ズームアウト** - これはすでにズームインしている場合、1クリックあたりの100%、レポートからズームアウトします。ズームインしていない場合、1クリックあたりの100%だけズームアウトできます。



**ズーム1:1** - これはレポートのサイズを元の1:1のズームサイズに復元します。

どうなにズームしても、「活性化」または「無効」モードがあるコントロールをアクティブしたら、PC-DMIS は元のズームを復元します(たとえば、CadReportObject または GridControlObjectをダブルクリックします)。これらのコントロールを残して編集環境へ戻たら、ズームサイズは元の状態に戻ります。

## グループ化



**グループアイコン**を使用すると、複数オブジェクトを選んで、それらをグループにまとめることができます。グループ化されると、エディタは1つのオブジェクトとしてグループ化されたオブジェクトを表示します。

複数のオブジェクトをグループ化するには、SHIFTボタンを押しながら、グループ内のすべてのオブジェクトを選択するか、すべてのオブジェクトをボックス - 選択して、[グループ]アイコンをクリックします。

## グループの解除



**グループの解除**アイコンはそれらの個々の解除状態にオブジェクトをグループに復元します。これを行うには、グループ化されたオブジェクトを選択し**グループの解除**をクリックします。

## 再グループ化



**再グループ化**アイコンはユーザーが個々のオブジェクトを再選択しなくても、オブジェクトのグループ化されていない最後のセットを再グループ化します。

## エッジの整列



**両端揃え**アイコンによって、選択された一式のオブジェクトを左端、右端、上端または下端に沿って配置できます。



**左詰め** - 選択されたオブジェクトを左端に沿って揃えます。



**右詰め** - 選択されたオブジェクトを右端に沿って揃えます。



**上詰め** - 選択されたオブジェクトを上端に沿って揃えます。



**下詰め** - 選択されたオブジェクトを下端に沿って揃えます。

## 中央揃え



**中央揃え**ボタンは、選択されたオブジェクトを水平または垂直に中央揃えすることができるようにする以下の追加のボタンを提供します。



**垂直に中央揃え** - 選択されたオブジェクトを水平軸に沿って垂直に中央揃えします。



**垂直に中央揃え** - 選択されたオブジェクトを垂直軸に沿って水平に中央揃えします。

## スペース



スペースアイコンをクリックすると次のアイコンが表示され、これらを使用して選択したオブジェクトを水平方向または垂直方向に等間隔に配置できます:



**横方向に配置** - 選択したオブジェクトを水平軸に沿って等間隔に配置します



**下方に配置** - 選択したオブジェクトを垂直軸に沿って等間隔に配置します。

## 同じサイズにする



サイズ均等化アイコンは、選択した全てのオブジェクトの幅、高さまたは幅と高さの両方を均等にするようにこれらの追加アイコンを提供します。



**幅均等化** - 選択されたオブジェクトの幅を均等化します



**高さ均等化** - 選択されたオブジェクトの高さを均等化します



**サイズ均等化** - 選択されたオブジェクトの幅と高さの両方を均等化します

## 最前面または最背面に移動



**前面または背面に移動**アイコンでは、さらに別のアイコンを使用して選択されたオブジェクトを他のオブジェクトの前面または背面に移動することができます。これは複数のオブジェクトが重なり合っており、ある特定のオブジェクトを表示したい場合に便利です。以下の使用可能なアイコンがあります。



**前面に移動** - 選択されたオブジェクトを他のすべてのオブジェクトの前に移動して、一番上に表示されるようにします。



**後に送る** - 選択されたオブジェクトを他のすべてのオブジェクトの背後に移動して、一番下に表示されるようにします。

## レベルの描画についての注記

注記: オブジェクトを他のオブジェクトの前面または背面に移動するということは、内部の描画レベルは別のオブジェクトに使用されていることを前提としています。これは、オブジェクトは同じ描画レベルの他のオブジェクトの前、またはそれより上位の描画レベルの前面にのみ移動できるあることを意味します。以下に描画の順番を示します。

### CADReportObject - 描画レベル 5

このオブジェクトは下位の描画レベルのすべてのオブジェクトの背後に描かれます。レベル5のその他のオブジェクトの前面に描くことができます。

### AnalysisWindow - 描画レベル 4

このオブジェクトはレベル4またはレベル5のオブジェクトの前面に描くことができます。

### Leader Line - 描画レベル 3

このオブジェクトはレベル3、4、または5のオブジェクトの前面に描くことができます。

### 他のすべてのレポートオブジェクト - 描画レベル 2

これらオブジェクトはレベル3、4、または5のオブジェクトの前面に描くことができます。

同一レベルのオブジェクトはその他の各オブジェクトの前後に移動することができますが、例えば、CADReportObjectをラベル・オブジェクトの前に移動することはできません。この種の並べ替えはPC-DMISバージョン4.xおよびそれ以降のバージョンのレポートテンプレートまたはレポートによってのみ使用されます。旧式 (ハイパービュー) のレポートはこの種の並べ替え法を使用しません。

## 元に戻す (アクション)



**元に戻す**アイコンは、エディターで最後に行った操作を元に戻します。

## やり直し（アクション）



やり直しアイコンは、元に戻すアイコンをクリックした時に元に戻された最後のアクションをやり直します。

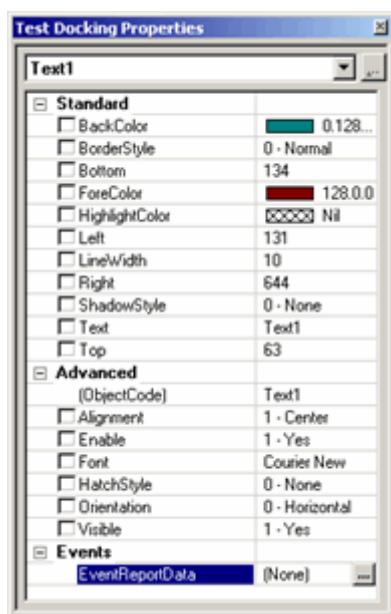
## オブジェクトのプロパティについて

テンプレートまたはフォームに追加する各オブジェクトは、オブジェクトの位置、サイズ、色、フォント、テキスト、名前などを制御するプロパティセットを持ちます。各オブジェクトは、特定のイベントが発生した時にPC-DMISがトリガするイベントハンドラ関数のセットを持ちます。例えば、そのオブジェクト上でマウスをクリックするか、またはダブルクリックすると、イベントが発生する可能性があります。

プロパティおよびイベントハンドラを表示および変更するには[プロパティ]ダイアログボックスを使用することができます。このダイアログボックスの別名は、「プロパティ・シート」です。

### オブジェクトのプロパティの表示

[プロパティ]ダイアログボックスを表示するには、オブジェクトを選択し、右クリック（その境界内にシングルクリック）します。これは、テキストオブジェクトText1とそのさまざまなプロパティを表示するプロパティシートの例です：



[プロパティ] ダイアログボックス

## オブジェクトのプロパティを表示すること

リストは、[プロパティ]ダイアログボックスの上部に表示されます。このリストは、テンプレートやフォーム内の各オブジェクトのエントリを含んでいます。また、それには常に存在するいくつかのオブジェクトが含まれており、メイン編集エリアなどを削除することはできません。レポートエディタでは、メイン編集エリアはページと呼ばれます。ラベルエディタとフォームエディタの中では、それはフレーム/ビューと呼ばれます。

フォームまたはテンプレート内のオブジェクトのプロパティを表示するには、このリストから別のオブジェクトを選択します。1つ以上のセクションを含むテンプレートがある場合、このリストは現在のセクション内のオブジェクトを示しています。



レポートテンプレートでは、単にこのリストのみからレポートと呼ばれる追加のオブジェクトにアクセスすることができます。これには**詳細設定**なカテゴリの2つのプロパティが含まれ、ユーザー割り当てのプロパティを収集するために独自の外部実行ファイル(.exe ファイル)を指定できます。これらのプロパティは**テンプレート選択のプログラム**と**測定ルーチン実行のプログラム**です。PC-DMISは、テンプレート選択中と測定ルーチン実行中にそれぞれ、その指定された測定ルーチンを実行します。

## プロパティの仕組み

各オブジェクトのプロパティは、3つの主要なカテゴリにあります。

- **標準** - これらのプロパティは、色、位置、および線のスタイルを制御します。
- **[詳細]** - これらのプロパティは、オブジェクトが有効または可視されているかどうかを制御します。
- **イベント** - これらのプロパティを使用すると、イベントが発生したときに具体的な指令をコード化するためにBASIC言語を使用することができます。

カテゴリを展開するには、カテゴリの左側にある+記号をクリックします。カテゴリを折りたたむには、-記号をクリックします。



ActiveXとOLEオブジェクトは追加のセクションがあります。詳細については、「ActiveXオブジェクト」と「OLEオブジェクト」を参照してください。

プロパティの説明については、「共通のプロパティ」を参照してください。そのトピックは、プロパティの説明が含まれていない場合は、「オブジェクトバー」内の指定オブジェクトのドキュメントを参照してください。

イベントの詳細については、「イベントおよびVisual Basicコードについて」を参照してください。

### 名称識別子

テンプレートまたはフォームにオブジェクトを挿入する場合、一意な名前の識別子が自動的にオブジェクトの**ObjectCode** プロパティに割り当てられます。同じタイプの後続のオブジェクトは、同じ名前の後に増加した数値を付けた名前を持ちます。たとえば、エディタは自動的に最初の **テキスト オブジェクト** を「テキスト1」と名付けます。これは後続の**テキスト オブジェクト** を「テキスト2」、「テキスト3」というように名付けます。

この値は別の名前に変更できます。その場合、一意な名前であるか確認する必要があります。そのオブジェクトの名前識別子を変更する場合は、オブジェクトのコードが使用されているすべてのBASICスクリプトを更新する必要があります。

### プロパティ値の変更

プロパティを変更するには、それを選択し、次にその値をクリックします。リストが表示された時に新しい値を選択します。また、編集可能なフィールドに新しい値を入力することもできます。

### プロパティ値としての式

一部のプロパティの値は定数の代わりにレポート式を保持することができます、これは**GridControlObject** からのセルが式を保持すると同じです。表示式の最初に等号 (=) を付けることを忘れないでください。たとえば、ラベルテンプレートに **テキストオブジェクト** があり、他のテキストの代わりに現在の要素のIDを表示したいと仮定します。**テキスト プロパティ** に「= ID」と入力します。PC-DMISが測定ルーチンを実行する場合に、オブジェクトはPC-DMISから要素の名前を引き、これをその**テキストオブジェクト** に表示します。

## 共通の属性

下記は様々なオブジェクトで使用する一般的なプロパティのいくつかです。それらは他の多くのオブジェクトに対するプロパティのコアセットを作成します。オブジェクトに固有のプロパティはそのオブジェクトのドキュメントに記載されます。イベントのプロパティは「イベントについて」トピックで詳しく説明しています。

### 共通基準と高度なプロパティ

#### アクセラレータ

ALTキーと共に使用する文字を設定し、コントロールのアクセラレータを作成することが可能です。設定される文字または記号は、(メニューバーのアクセラレータを含めて)他のアクセラレータに使用されるものとは異なる必要があります。これは、ほとんどのフォームのコントロールで使用されます。

#### アラインメント


テキストオブジェクトで定義された長方形内でテキストの配置を指定します。

#### AnchorSnaps

[スナップ点の入力] ダイアログボックスでスナップ点の作成、削除または変更を行うことができるフィールド。スナップ点は楕円、四角形、テキストボックスまたはビットマップ画像のオブジェクトに存在します。

ライン またはポリライン オブジェクトを表示される青いスナップ点の先端をドラッグしてオブジェクトのスナップ点に接続できます。

一旦接続されたら、オブジェクトを新しい場所にドラッグする場合、必要に応じて結果ラインはスナップ点、回転、伸長と縮小との接続を残ります。頻繁に移動されるオブジェクトに常にポイントする「リーダーライン」を作成する場合、要素は有用です。

スナップ点を表示するには、[レイアウト] ツールバーから [スナップ点を表示] アイコンをクリックしてください 。

#### 自動サイズ

オブジェクトのサイズ自体が、それが含むテキストの長さによって自動的に決まるかどうかを定義します。



これを**YES**に設定して**Word Break**を**NO**に設定すると、テキストオブジェクトは自動的にその幅を調整します。

これを**YES**に設定して**Word Break**を**YES**に設定すると、テキストオブジェクトは自動的にその高さを調整します。

### BackColor

オブジェクトの背景色です。この色はテキスト オブジェクトで定義された四角形を塗りつぶすのに使用されます。

**空** - これは値がないことを表わします。これは背景が透明で、このオブジェクトの背後にあるオブジェクト他の色が透けて見えることを意味します。デフォルトでは、背景色プロパティに関するすべてが**空**に設定されます。

この色を**Nil**に設定すると色がRGB(255,255,254)に設定され、レポートウィンドウで透明になります。

RGB(255,255,254)の色を指定しようとする場合、PC-DMISは自動的にそれをRGB(255,255,255)の非透明色に設定します。これはオブジェクトの表示方法には影響しません。

ラベルが色RGB(255,255,254)を使用するビットマップ画像を持つ場合、PC-DMIS はレポートウィンドウ内部でその色を透明に設定することに注意してください。

### BorderStyle

オブジェクトを取り囲む境界線のスタイルです。

#### 下

テンプレートまたはフォームの上からオブジェクトの四角形の下への距離をピクセルで表します。

### CursorPointer

オブジェクトの上をマウスでドラッグしたときに表示されるカーソルを指定します。

### 有効

オブジェクトを有効または無効にします。無効化されたオブジェクトは表示されますが、ユーザーの入力には反応しません。

**フォント**

フォントはテキストオブジェクトのレンダリングに使用されます。

**ForeColor**

オブジェクトの前景色を設定します。テキストオブジェクトの場合は、テキストの色を指定します。

**グループ**

フォームオブジェクト（ボタン、チェックボックス、ラジオボタンなど）で使われます。

**HatchStyle**

これは、オブジェクトで使用するパターン（またはハッシュ）のタイプを設定します。次のパターンが使用可能です：

水平



標準



斜線



逆方向斜線



十字



斜十字



これを使用するオブジェクトは次のものを含んでいます: 境界、楕円、Histogram、TextVar

### HelpContextID

特定のヘルプ トピックの呼び出しに使用するコンテキストIDです。これは WinHelp() を呼び出すヘルプボタンのタイプと組み合わせて使用されます。

### レイヤー

現在のオブジェクトを選択されたレイヤーに割り当てます。

### 左

オブジェクトの四角形の左端の位置を、テンプレートまたはフォームの左端からの距離としてピクセルで指定します。

### LineStyle

これはオブジェクトのラインスタイルを**実線**、**破線**、**点線**、**一点鎖線**、または**二点鎖線**に変更します。

### LineWidth

線の太さをピクセルで設定します。

### (オブジェクトコード)

テンプレートまたはフォームでオブジェクトを識別する一意の名前です。BASIC 言語を使用してオブジェクトのプロパティまたはメソッドにアクセスする場合は、必ず次の構文を使用します:

**{オブジェクトコード}{プロパティまたはメソッド名}**

### 向き

オブジェクト内のテキストの向きを指定します。水平方向のテキストは左から右へ表示されます。垂直逆方向の場合、下から上へ表示されます。垂直方向の場合、上から下へ表示されます。

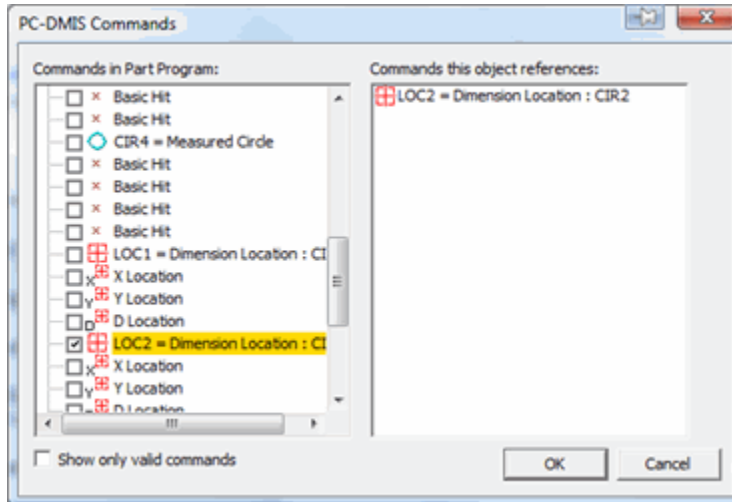
### パディング

このプロパティは指定された量のテキストの周りに空白のピクセルを追加します。

### PC-DMIS コマンド

(カスタム レポート エディタに追加されたオブジェクトに対してのみ表示されます)

レポート内の既存のオブジェクトへのコマンドリファレンスを追加または削除します。レポート内のオブジェクトを選択してこのプロパティを選択します。**PC-DMIS コマンド** ダイアログボックスが表示されます。



[PC-DMIS コマンド] ダイアログボックス

デフォルトでは、測定ルーチンですべてのコマンドは左側にある展開および折り畳み可能なリストで表示されます。但し、一部のオブジェクト、すなわちラベルオブジェクト、GridControlObject、分析オブジェクトおよびDimensionHistogram (測定結果ヒストグラム)オブジェクトと一部のコマンドは有効でない場合があります。それらのケースではリストで無効になります。**有効なコマンドのみを表示**チェックボックスを選択して、左側のリストにおける任意の無効コマンドを非表示にすることができます。

右側のリストがオブジェクトによって参照するすべてのコマンドを表示します

1. 左側のリストから、選択されたオブジェクトに参照してほしいコマンドを選択します。PC-DMISがそれらのコマンドを表示するのは、オブジェクトが複数コマンドを取得することをサポートする場合です。但し、大部分の場合、ユーザーは1つのコマンドしか選択できません。
2. **[OK]**をクリックします。ダイアログボックスが閉じてまたPC-DMIS 選択したオブジェクトの新しいコマンドを参照します。

これは本質的に別のアプローチを提供して測定ルーチンから別のデータを使用してオブジェクトを更新できます。オブジェクトを更新する通常の方法について「データをカスタム レポートヘドラッグおよびドロップ」を参照してください。

## レポート エディタおよびフォーム エディタについて

*CADReportObject*または*AnalysisObject*では、チェックボックスがマークされた要素はオブジェクトに追加されます。チェックボックスがクリアされた要素はオブジェクトから削除されます。何もマークされていない場合、PC-DMIS は PC-DMIS 設定エディタの [レポート] セクションにある *HideAllPointsonReport* および *HideAllMeasuredFeaturesOnReport* エントリに従って項目を表示します。

複数のコマンドをサポートするオブジェクトについて(*GridControlObject*などのよう)、このダイアログボックスを使用して参照コマンドの順序を変更できます。

### PC-DMIS リファレンス

(カスタムレポートエディタに追加されたオブジェクトに対してのみ表示されます)

選択したレポートオブジェクトに参照されるコマンドをトラックします。レポートの生成時に、各コマンドは、PC-DMISは各オブジェクトのコマンドリファレンスを検査します。オブジェクトがそれは処理されているコマンドの参照があるのを表示し、PC-DMISはオブジェクトへコマンドデータを発送します。

あるときには、ほとんどのオブジェクトは1つのコマンドをサポートし、しかし、一部のオブジェクトが複数のコマンド (*GridControlObject*など) からのデータをサポートすることができます。カスタムレポートエディタにコマンドをドラッグ&ドロップする場合、PC-DMISは内部的にあなたのための参照を管理するの世話をします。何らかの理由でどのコマンドが参照される手動コントローラを決定する場合、このプロパティを使用するのは必要です。

### PenWidth

オブジェクトを描画する場合に使用される、ペンの太さを指定します。テキストオブジェクトの場合、ペンの太さはテキストの周りに表示される境界線のみに影響します。

### 右

オブジェクトの四角形の右端の位置を、テンプレートまたはフォームの左端からの距離としてピクセルで指定します。

### ShadowStyle

これは、結果として得られたオブジェクトの3D影の位置を設定します。次の方向が使用可能です:

**上/左**、**下/右**、または**なし**。

**タグ**

ユーザー定義のデータを保存するプレースホルダです。

**テキスト**

テキストオブジェクトに表示されるテキストです。このフィールドには、英数字の前にアンド記号(&)を入力して、ショートカットキー(下線付き文字で表示)を作成します。定義されたら、実行モードでAltキーを押しながらキーを押すと、そのコントロールが即座にフォーカスを取得できます。多数のショートカットキーを使用する場合、編集モードで[編集 | レイアウト | ニーモニックのチェック]メニュー項目を使用して、それぞれ重複していないか確認することができます。

**Tabstop**

これはタブキーを押すとオブジェクトを循環するかどうかを決定します。ボタン、チェックボックス、ラジオボタンなどのフォームオブジェクトで使われます。

**ToolTipText**

実行モードでマウスをオブジェクトの上に動かしたときに表示されるテキストを設定します。

**上**

オブジェクトの四角形の上の位置を、テンプレートまたはフォームの上端からの距離としてピクセルで指定します。

**ValueID**

これはIDの値から成ります、またはサポートされるオブジェクトではCurPageおよびNumPages変数から成ります。コントロールを使用してこのプロパティを取得および定義します。これはほとんどのフォームオブジェクトと共に使用されます。

**表示可能**

オブジェクトの表示/非表示を設定します。値が1の場合は表示、0の場合は非表示に対応します。

**Word Break**

テキストオブジェクトが2行以上のテキストを保持できるかどうかを定義します。YESに設定すると、PC-DMISはオブジェクトコンテナの幅を超えるテキスト文字列をオブジェクトコンテナ内部にラップします(包み込みます)。NOに設定すると、テキスト文字列は1行に留まります。

## TheFrame/TheView プロパティ

ラベルテンプレートエディタおよびフォームエディタの主な編集エリアは、**TheFrame/TheView**と呼ばれる特殊なオブジェクトから成ります。このオブジェクトには、他のオブジェクトと同様にアクセスおよび設定可能なプロパティが含まれます。



- 一つのアスタリスク(\*)が続くプロパティはラベルテンプレートエディタでのみ使用されます。
- 2つのアスタリスク(\*\*)が続くプロパティはフォームエディタのみで使用されます。
- その他のプロパティはすべてラベルテンプレートエディタとフォームエディタの両方で使用されます。

### Height

主な編集領域の高さをピクセルで定義します。

### Horizontal Positioning \*\*

実行の際、フォームをウィンドウ内に横向きに配置します。


### LocalDecls

フォームまたはラベル全体から参照可能な変数を宣言します。

### LocalVariables \*\*


「ローカル変数プロパティを使用したグローバル宣言」トピックを参照してください。

### MaximizeBox \*\*

はいに設定した場合、[最大化]アイコンがフォームの右上隅に表示されます。実行モードまたは実行中にこのアイコンをクリックすると、フォーム ウィンドウを可能な範囲で最大化することができます。

MaximizeBox がはいに設定されているが、MinimizeBoxがいいえに設定されている場合、**Minimize** アイコンは表示されますが選択できません。

### MinimizeBox \*\*

はいに設定した場合、このプロパティは[最小化]アイコンをフォームの右上隅に表示します。実行モードまたは実行中にこのアイコンをクリックすると、フォーム ウィンドウを最小化し、タスクバーに収めることができます。

MaximizeBox が**はい**に設定されているが、MinimizeBoxが**いいえ**に設定されている場合、**Maximize** アイコンは表示されますが選択できません。

### Page Orientation \*

ラベルを定義済みの標準方向である**[縦]**または**[横]**のいずれかに設定します。

### Page Size \*

ラベルを、デフォルトのプリンタで使用可能なページサイズの一つに設定します。プリンタの種類により、この項目にはレター、A4、または他のサイズが何点か表示されます。

### ReportLock \*\*

PC-DMISがフォームからデータを消去することができるかどうかを決定します。これが**はい**に設定されると、PC-DMISはフォームからデータを消去しません。これが**いいえ**に設定されると、PC-DMISは時間をかけて収集されるデータをフォームから消去します。

### Supported Command Types \*

サポートされるコマンドタイプ ダイアログ ボックスを表示します。このダイアログボックスを使用して、このラベル テンプレートを使用する必要があるコマンドを定義することができます。ラベルを右クリックして **レポートを変更** メニュー項目を選択する場合、PC-DMISは選択されたコマンドタイプをサポートするそれらのレベルのみを表示します。

### ToolTipText

「共通のプロパティ」トピックを参照してください。

### Vertical Positioning \*\*

実行の際、フォームをウィンドウ内に縦に配置します。

### Width

主な編集領域の幅をピクセルで定義します。

## セクション属性とページ属性

レポート テンプレートエディタとカスタム レポートエディタのメインの編集エリアはそれぞれに**セクション**と**ページ**といわれる特定オブジェクトです。これらのオブジェクトには、他のオブジェクトと同じようにアクセスして設定できるプロパティが含まれています。

### コマンドセット

現在のセクション(ページ タブ)内でコマンドが処理される方法を定義します。



**すべてのコマンド** - この設定は現在のセクションの全体コマンド(ページ タブ)を処理します。これはデフォルト値です。

**前のセクションから続行** - この設定はコマンドを前のセクションから設定処理を続けて、最後のセクションの停止処理を続行します。

**前のセクションと同じ** - この設定はセクションを(ページ タブ) 同じコマンド設定を前のセクションとして取ります。この設定では、先頭のセクションおよびそれに続く全てのセクションは小さなグループを形成します。小グループ内の、後に続く全てのセクションは先頭ページおよび1つのページを作成します。

### (フォーム名)

ページの名前を定義します。

### Height

主な編集領域の高さをピクセルで定義します。

### LocalDecIs

このオブジェクトに限定した変数を宣言するウィンドウを表示します。これらの変数は、いったん宣言されるとオブジェクトに影響を与えるイベント内で使用可能になります。宣言のこのタイプで、変数に1つのイベントの値を与えてまた別のイベントでその値を確認できます。この変数はレポートまたはフォーム内の他のオブジェクトからは参照されないため、うっかり値が変更されてしまうことから保護されています。

### LocalVariables

「ローカル変数プロパティを使用したグローバル宣言」トピックを参照してください。

### 最大ページ数

現在の[ページ]タブのデザインに使用するレポートの最大ページ数を定義します。

例えば、この値を2に設定したが、測定ルーチンの寸法が5ページに及ぶ場合、セクションのページ数が設定された最大値である2ページに到達すると、そのセクションは以降のコマンドを実行しません。追加情報を表示するように、現在のプロセスコマンドは新しく作成されたセクション(ページ タブ) が必要です。

デフォルト値の0は最大値なしを意味し、全てのページが表示されます。

### ToolTipText

共通のプロパティ

### Width

主な編集領域の幅をピクセルで定義します。

## "コマンドセット"および"ページの最大値"プロパティの例

次の例は、レポートテンプレートが4つのセクションA、B、C、およびDを持ち、それぞれにTextReportObjectが含まれるものと仮定します。加えて、測定ルーチンはセクションごとに3ページ分の寸法を表示するのに十分な大きさであると仮定します。各例は、表にプロパティ設定の詳細が示されます。

### 例1

セクション	最大ページ数	コマンド設定
A	0	すべてのコマンド
B	0	すべてのコマンド
C	0	すべてのコマンド
D	0	すべてのコマンド

この例では、最終レポートには次のページが表示されます:

A1,A2,A3,B1,B2,B3,C1,C2,C3,D1,D2,D3

### 例2

セクション	最大ページ数	コマンド設定
A	1	すべてのコマンド
B	0	すべてのコマンド
C	0	すべてのコマンド
D	1	すべてのコマンド

この例では、最終レポートには次のページが表示されます:

A1,B1,B2,B3,C1,C2,C3,D1

## レポート エディタおよびフォーム エディタについて

### 例3

セクション	最大ページ数	コメント設定
A	1	すべてのコメント
B	0	すべてのコマンド
C	0	以前の断面と同じです。
D	1	すべてのコメント

この例では、最終レポートには次のページが表示されます:

A1,B1,C1,B2,C2,B3,C3,D1

### 例4

セクション	最大ページ数	コメント設定
A	1	すべてのコメント
B	0	以前の断面から続行します。
C	0	以前の断面と同じです。
D	1	すべてのコメント

この例では、最終レポートには次のページが表示されます:

A1,B2,C2,B3,C3,D1

## 【ユーザー指定のプロパティ】を使用した操作

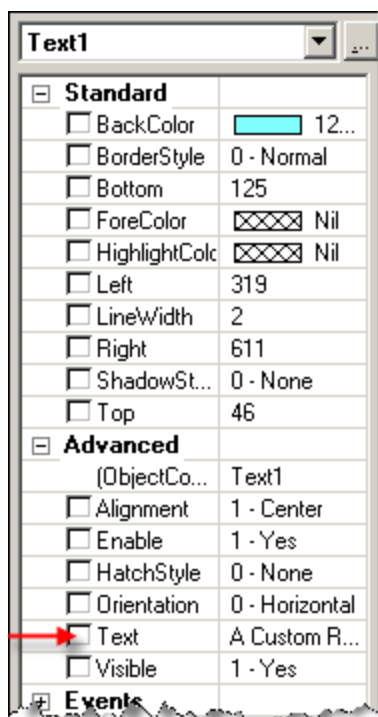
レポートテンプレートエディタで、**プロパティ ダイアログ ボックス**にはプロパティをユーザー定義可能にする機能が含まれています。これにより、測定ルーチンのオペレータは実行時にオブジェクトのプロパティを変更することができます。

例えば、現在の測定ルーチンのオペレータの要求に従ってレポートのタイトルを動的に変更する必要があるとします。この機能を使用して、簡単にレポートにインタラクティブなアプローチを追加できます。

### プロパティをユーザー割り当てにするには

1. 任意のエディタ内で、オブジェクトを選択します。上記の例について、テキストオブジェクトを選択します。

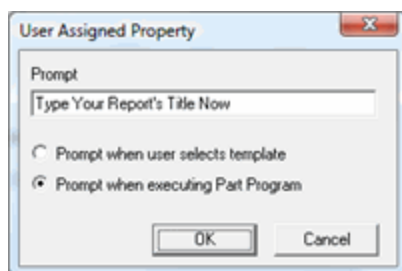
- オブジェクトを右クリックします。これにより、オブジェクトのプロパティシートがエディタの右側に表示されます。プロパティのシートの左側ではほとんどのプロパティの横に **チェックボックス**が表示されます。これらのチェックボックスはユーザーがどのようなプロパティを定義可能かを決定します。



左側のユーザーによる定義可能なチェックボックスについてのテキストオブジェクトのプロパティシートの例。

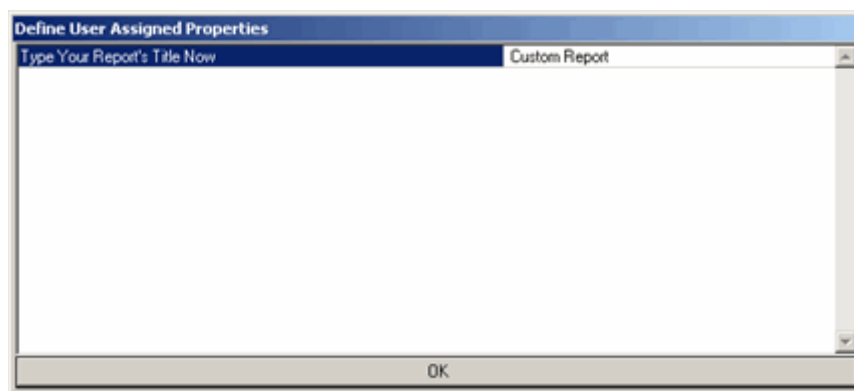
- 定義したいプロパティの横のチェックボックスを選択してください。上記の例では、**[テキスト]**オブジェクトの、**[テキスト]**プロパティを選択します。ユーザー割り当てプロパティダイアログボックスが表示され、プロパティの値をユーザーに要求されるまたユーザが要求される時のメッセージを確認することを要求しています。

## レポート エディタおよびフォーム エディタについて



[ユーザー割り当てプロパティ]ダイアログボックス

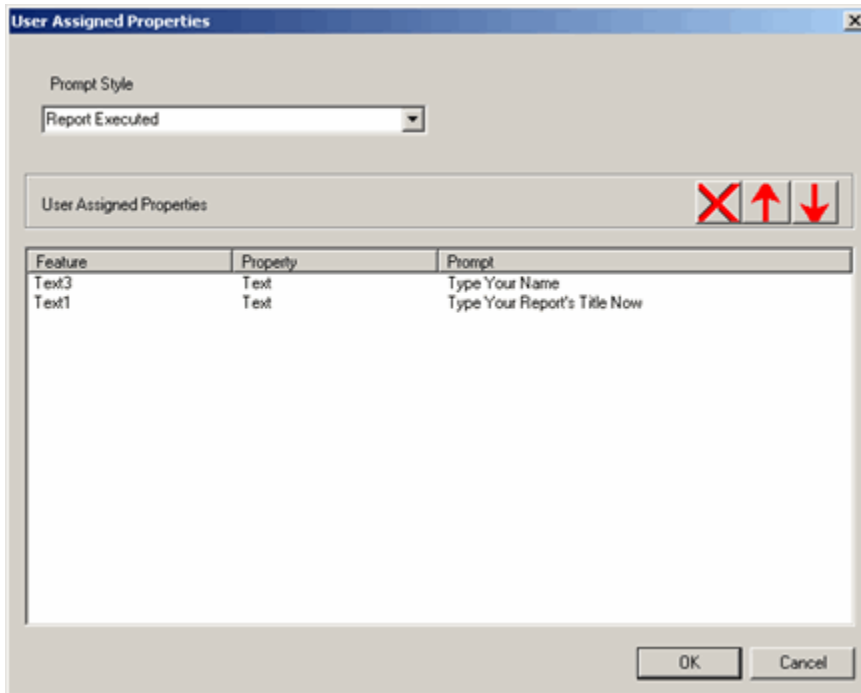
4. **[プロンプト]**ボックスに、ユーザーに向けて表示されるメッセージを入力し、次にユーザーがプロンプトを受け取るタイミングを2つの選択肢ボタンから選びます。プロンプトのタイミングは、ユーザーがテンプレートを選択したとき、または測定ルーチンが実行されたときのいずれかより選べます。
5. **[OK]** をクリックします。ユーザー割り当てプロパティ ダイアログ ボックスが閉じます。
6. レポート テンプレートを保存し、測定ルーチンに戻ります。
7. これをテストするには、レポートウィンドウを使用して**テンプレート選択**アイコンをクリックします。ダイアログボックスからレポートテンプレートを選択し、測定ルーチンを実行します。
8. 前のステップ過程中にいくつかの時点で、PC-DMISは**ユーザー割り当てプロパティを定義**ダイアログ ボックスを表示して **ユーザー割り当てプロパティ** ダイアログ ボックスに選択したオプションボタンによるプロパティ値にプロンプトします。



[ユーザー指定のプロパティを定義する]ダイアログボックス

## すべてのユーザーの割り当てプロパティをビューまたはおよび操作するには

1. ユーザー定義可能なプロパティを持つレポートまたはラベル テンプレートにアクセスします。
2. **[編集] ユーザー割り当てプロパティ]**を選択します。ユーザー割り当てプロパティダイアログ ボックスが表示されます。ダイアログ ボックスはテンプレート選択または測定ルーチンの実行のいずれかの間に提示されたそれらのプロパティを表示します。



[ユーザー指定のプロパティ]ダイアログボックス

3. **プロンプトスタイル**ドロップダウンリストからある項目を選択して このダイアログに表示されることにフィルタリングします。ユーザ割り当てプロパティは以下のリストボックスに表示されます。リストボックスはすべてのプロパティ、属しているオブジェクト、それらの要求を追跡します。



## レポート エディタおよびフォーム エディタについて

- プロパティを削除するには、プロパティを選択して赤色のXをクリックします。オブジェクトのプロパティはユーザー定義可能ではなくなり、テンプレートで既に定義済みのデフォルト値が使用されます。



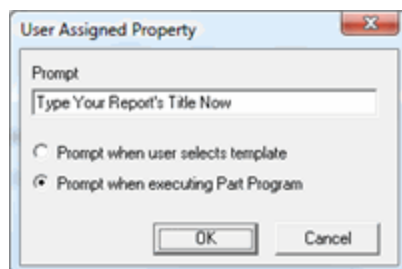
[プロパティの削除]ボタン

- プロパティを並べ替えるには、移動したいプロパティを選択して赤色の上下矢印をクリックします。これは、選択されたプロパティをリスト内で上下に移動します。



[上および下矢印] ボタン

- プロパティのプロンプト、またはプロンプトが表示されるタイミングを変更するには、[要素]列内のプロパティをダブルクリックします。PC-DMISはユーザー割り当てプロパティ ダイアログ ボックスを表示して、変更を作成できます。



[ユーザー割り当てプロパティ]ダイアログボックス



ユーザーはユーザー割り当てのプロパティ ダイアログ ボックスからテンプレートを選択したときにプロンプトを選択した場合、PC-DMIS はすべてのユーザー割り当て値に一度だけプロンプトを表示します。測定ルーチンについて、すべてのデータテンプレートをクリアするまでに、PC-DMIS は自動的に初期プロパティ値を使用します。この章の「テンプレート関連データのクリア」を参照してください。

[レポートの実行時にプロンプトを表示]を選択した場合、測定ルーチンが実行される度に[ユーザー割り当てプロパティを定義]ダイアログ ボックスが自動的に表示されます。

## テンプレート関連データの消去

[ファイル| レポート| テンプレート関連データをクリア] メニュー項目は現在されるレポート テンプレートがある現在測定ルーチンに使用される以下の項目を削除します:

- 全部のユーザー割り当てプロパティ値。これらをクリアすることにより、PC-DMISは再び現在のテンプレートのすべてのユーザー割り当てられているプロパティの値をプロンプトします。
- ラベルの表のカスタマイズ。
- ラベル配置は **CADReportObject** オブジェクトをカスタマイズします。
- すべての**CADReportObject** オブジェクトの回転やズームへの変更。
- 他のオブジェクトの変更、追加、またはページ重複。

## イベントおよび**Visual Basic**コードについて



このセクションは少なくともいくつかのVisual Basicのプログラミング言語背景を持つのを前提とします。Visual Basicを学ぶ必要がある場合には、本または件名の他の外部リソースを参照してください。

プロパティ ダイアログ ボックスのイベントセクションには、テンプレートまたはオブジェクトサポートを作成するイベントハンドラ関数のリストが含まれます。イベントハンドラ関数は、イベントが指定したオブジェクトに発生する関数の名前以示唆されるたびに呼び出されます。その関数が呼び出される場合、その関数内のすべてのVisual Basicコードが実行されます。



## 利用可能なイベントハンドラ関数

### **EventClick**

マウスでオブジェクトをクリックしたときに呼び出されます。

### **EventDbClick**

マウスでオブジェクトをダブルクリックしたときに呼び出されます。

### **EventDragDrop**

別の「ドラッグ可能な」アイテムがオブジェクトにドロップされたときに呼び出されます。

### **EventDragEnter**

ドラッグ可能なアイテムが最初にオブジェクトにドラッグされたときに呼び出されます。

### **EventDragOver**

ドラッグ可能なアイテムがオブジェクトの上をドラッグしたときに呼び出されます。

### **EventInitialize**

別のハンドラがオブジェクトで呼び出される前にフォームが最初に実行モードに入ったときに呼び出されます。

### **EventMouseDown**

オブジェクト上でマウスボタンがクリックされたときに呼び出されます。Shiftキーを押すと、関数に渡されるパラメータは、押されたボタンと、マウスボタンをクリックした瞬間のポインターの座標を示します。

### **EventMouseMove**

マウスポインターがオブジェクトの上を通過したときに呼び出されます。Shiftキーを押すと、関数に渡されるパラメータは、押されたボタンと、ポインターをオブジェクト上に移動した時のポインターの座標を示します。

### **EventMouseUp**

マウスボタンがオブジェクト上にリリースされるときに呼び出されます。Shiftキーを押すと、関数に渡されるパラメータは、押されたボタンと、マウスボタンをリリースした瞬間のポインターの座標を示します。

### **EventPumpData**

これは、フォームエディターで広く使用されているハンドラー関数です。オブジェクトに影響を与える可能性のあるBASIC変数の値が変わるたびに

**EventPumpData** が呼び出されます。オブジェクト自身も更新するようにしたい

場合、個々のオブジェクトで（またはレポート内のすべてのオブジェクトに）**EventPumpData** を呼び出されるようにコードを強制することができます。基本的に、変数の値またはその他のオブジェクトの状態に基づくオブジェクトが自分自身を再初期化する必要がある任意のコードが**EventPumpData**で作成される必要があります。

### **EventTerminate**

これはレポートが閉じられているとき、またはフォームエディタで実行モードから編集モードに切り替えたときに呼び出されます。

このハンドラ関数は**セクション**の編集環境で利用可能です。

### **EventReportData**

これはもう一つのレポートとラベルのテンプレートエディタで最も広く使用されるハンドラ関数です。レポートデータが現在のテンプレートと接続を確立するたびに呼び出されます。

その主な機能は、ラベルに配置する独自のActiveXコントロールを作成できることです。例えば、PC-DMIS の最適化および要素分析コントロールは、コマンドプロンプトからこのイベントを使用してActiveXコントロールにデータを送信します。これを確認するには、best\_fit\_analysis.lblという名前のラベルを開いて、ラベル内部のActiveXコントロールをクリックし、そのイベントハンドラ内部のBASICコードを確認します。1行は、コントロールにコマンドからのデータを渡します。

データをユーザー自身のActiveX コントロールに引き渡すことで、オートメーションコマンドを使用してデータを抽出および操作できます。

PC-DMIS Basicの詳細については、PC-DMIS Basicドキュメントの「PC-DMISBasic」トピックを参照してください。


PC-DMIS Automation オブジェクト・ライブラリの詳細については、PC-DMIS Automation オブジェクトのドキュメントの「PC-DMISオブジェクトライブラリ」トピックを参照してください。



このイベントは、レポートテンプレートを適用する場合または測定ルーチンの実行中、コマンドごとに1回呼び出されます。

## イベントハンドラにコードを追加します

任意のイベントハンドラにBASIC言語のコードを追加するためには：

1. イベントハンドラのリストから関数のエントリをクリックしてください。既に記入済みのサブルーチンステートメントの開閉に伴い、ミニVisual Basic言語エディタが表示されます。
2. 追加の BASIC 言語ステートメントのコードを、そのエディタ内にタイプ入力して下さい。
3. **[OK]** をクリックします。
4. コードをテストします。
  - フォームエディタを使用している場合は、Ctrl + Eを押して実行モードに入り、フォームをテストします。
  - テンプレートエディタの1つを使用している場合は、テンプレートをレポートに適用し、レポートを再描画してコードをテストします。これを行うには、**[レポート]**ツールバーの**[レポートの再描画]**アイコンを使用します。




レポートを使用している場合、クリック可能ボタン、リスト、フィールド、またはその他のインタラクティブな要素と相互作用しないため、唯一の利用可能なイベントハンドラ関数は **EventReportData** 関数です。

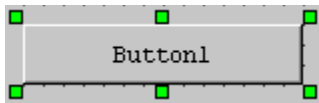
イベントの例1: **EventClick**イベントを使用したコードの呼び出し



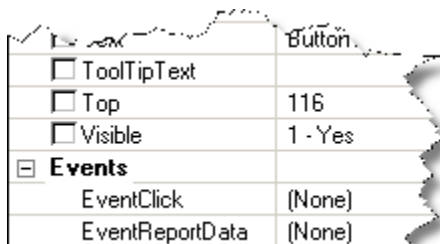
このイベントの例では、フォームエディタで**ボタンオブジェクト**を使用します。

1. フォームエディタにアクセスするには、**ファイル| レポート| 新規 | フォームレポート**を選択します。

2. 最初に、オブジェクトツールバーのボタンアイコン  をクリックし、次にフォーム上のボタンに対して四角形をドラッグして、ボタンをフォームに挿入します。
3. ボタンが **選択**されているか(ハイライトされているか)確認してください。



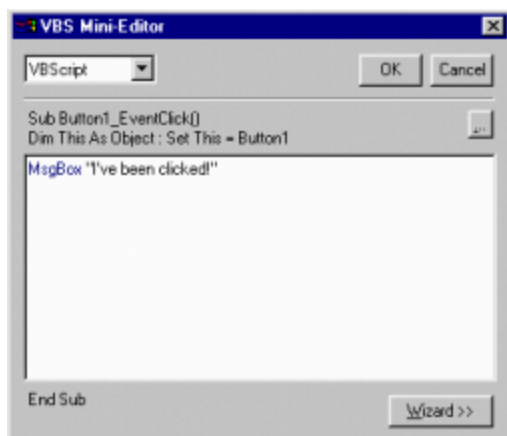
4. ボタンを右クリックしてボタンのプロパティを表示するダイアログボックスを表示します。
5. リストが展開されていない場合は、イベントセクションの隣にある[+]記号をクリックしてリストを展開します。ボタンオブジェクト用のすべての **利用可能なイベントハンドラ関数**のリストが表示されるはずです。



ボタンオブジェクトのイベントの例

6. リスト内の**EventClick**関数をダブルクリックします。**VBSミニエディタ**という名前のVisual Basicエディタが開きます。
7. VBS ミニエディタ内部の**EventClick**関数に次のコードを追加します:  
**MsgBox 「クリックしました。」**

## レポート エディタおよびフォーム エディタについて



8. **VBSミニエディタ**の右上隅にある**OK**ボタンをクリックしてください。**プロパティシート**を閉じます。
9. **ファイル|保存**を選択してレポートを保存します。現在実行モードでレポートをテストする準備が整いました。
10. 「**実行モード**」に切り換えます(CTRL+Eを押します)。
11. 作成したボタンをクリックしてください。「**クリックされました**」のテキストが表示されたメッセージボックスが現れるはずです。



この単な例はスクリプトのフォームとイベントハンドラの基本を示しています。

### イベントの例 2: トリガされたイベントでのオブジェクト属性変更



この運動は上の運動をフォローし、それを最初に終了すべきです。この例もフォームエディタを使用します。

ボタンがクリックされた場合、その他のオブジェクト（テキストオブジェクトのテキスト）のプロパティを変更したいと仮定します。

1. フォームエディタでは、編集モード（Ctrl + Eキーを押す）に戻します。
2. 新しいテキストオブジェクトを作成します。
3. テキストオブジェクトのプロパティを開きます(オブジェクトを選択し、マウスを右クリックします)。

4. テキストの項目の **オブジェクトコード** プロパティは「Text1」と読み込めるのを確認します。**オブジェクトコード** プロパティはBASICコードからのオブジェクトに参照される名前です。
5. 必要に応じて、[イベント]セクションの隣にある[+]記号をクリックし、リストを下に伸ばします。
6. **EventInitialize**ハンドラ関数をダブルクリックします。**VBS ミニエディター** が開きます。
7. **EventInitialize**関数に次のコードを追加します :  
これを設定= [テキスト1]
8. ENTER キーを押して、新しい行にアクセスします。次の行には、以下のコードを入力してください :  
**This.Text = 「ボタンがまだクリックされていない」**
9. エディタを閉じるには、**Ok** ボタンをクリックして下さい。
10. 一旦オブジェクトテキスト1は説明するように設定された場合、前の演習で追加されたボタンオブジェクトのプロパティシートを開きます。
11. イベント タブをクリックします。
12. **EventClick**機能をダブルクリックしてください。
13. 前の例で追加したBasicコードを次の2行で置き換えます :  
1行目: **MsgBox 「クリックされました。Text1のテキストを修正します」** 2行目は以下:  
  
Line 2: **Text1.Text = "ボタンがクリックされました。"**
14. **OK** ボタンをクリックして**VBS ミニエディタ**を閉じます。
15. **プロパティ シート**を閉じます。
16. 「実行モード」に切り換えます(CTRL+Eを押します)。Tex1の **EventInitialize** 関数に追加したコードは、最初テキスト1が「ボタンはまだクリックされていません」と書いてあるように設定します。
17. ここでボタンをクリックしてみてください。「私はクリックされており、Text1のテキストを修正するところです」というメッセージが表示されるはずです。メッセージボックスを閉じると、Text1のテキストは「ボタンがクリックされました」と変更されます。.

この例は、フォームの任意のオブジェクトのプロパティがBASICのコードから **ObjectCode.property\_name** 構文を通してアクセスする方法を表示します。

## レポート エディタおよびフォーム エディタについて

### オブジェクト メソッドへのアクセス

多くのオブジェクトはそのプロパティに加えて様々なメソッドをサポートします。**ObjectCode.method\_name**構文を介して、BASICコードからこれらのメソッドにアクセスできます。これは、**VBS Miniエディタ**内に、その場のオブジェクトのオブジェクトコードを、最後にピリオドを付けてタイプ入力することによって、そのオブジェクト用に、どのような属性やメソッドが利用可能か、見ることができることを意味します。ピリオドがキー入力された瞬間に、小型のウィザードがポップアップし、そのオブジェクト用に利用可能なメソッドや属性を表示します。

したがって、「Text1」という名前のテキストオブジェクトがあり、「Text1」の後にピリオドを入力すると、PC-DMISはテキストオブジェクトで使用可能な方法またはプロパティの一覧を表示します。

イベントハンドラ関数内に宣言された変数(**var\_type** 構文としてBASIC Dim **var\_name** 構文を通して)はそのイベントのハンドラ関数の中でのみスコープ内にあります。テンプレートやフォーム内の全BASICコードからアクセス可能な変数、関数、または、サブルーチン—特定のレポート用のグローバル スコープを持つ変数を宣言したい状況が起こる恐れがあります。テンプレート エディタとフォーム エディタで、これらの宣言を行うことができます。

#### [ローカル変数]プロパティを使用したグローバル変数の宣言

あらゆる標準的なデータ型(文字列、整数型、倍精度等)のグローバル変数を宣言し、Basicウィザードに表示したい場合は、**[TheFrame/TheView]** または **[セクション]**の**[LocalVariables]**プロパティを利用することができます。

**LocalVariables** プロパティを使用するには:

1. オブジェクトを右クリックして **フレーム/ビューのプロパティシート**を表示します。
2. **設定** タブを選択してください。
3. **LocalVariables** プロパティにスクロールします。
4. **ローカル変数**プロパティダブルクリックして**ローカル変数**ダイアログ ボックスを表示します。



[ローカル変数] ダイアログボックス

[ローカル変数]ダイアログボックスで、追加、削除、名前を付けるための基本的なタイプのいずれかのローカル変数、および初期値を設定することができます。再び、これらの変数は、このテンプレートやフォームに対してグローバルであり、このテンプレートやフォームのために書かれたBASICのコードのいずれかからアクセスできるようになります。彼らはまた、スクリプトウィザードの[ローカル変数]領域にも表示されます。



「LocalVariables」という名前は誤った名称で、**ローカル変数** ダイアログボックスで宣言される変数は実際にはその特定テンプレートまたはフォームに対してグローバルスコープを持ちます。それは、ここで宣言される変数がこの特定テンプレートまたはフォームに対して「ローカル」であり、他のフォームではアクセスできないことを示しています。それにもかかわらず、彼らはグローバル変数として彼らが定義されるテンプレートまたはフォームに利用可能な他のルーチンの場所に設定されます。

### 変数、関数、またはサブルーチンの宣言/定義

レポートにすべてのBASICコードからアクセスできる変数、関数、またはサブルーチンを宣言および/または定義するには、プロパティシートのPC-DMIS タブに表示された**フレーム/ビュー**のLocalDeclsプロパティを使用します。

これを行うには下記を実行してください：

1. オブジェクトのプロパティシートを開きます。
2. リストから**フレーム/ビュー**を選択します。
3. **[PC-DMIS]**タブをクリックします。
4. プロパティシートの **LocalDecls** 項目をダブルクリックして**VBS ミニエディタ**を表示します。



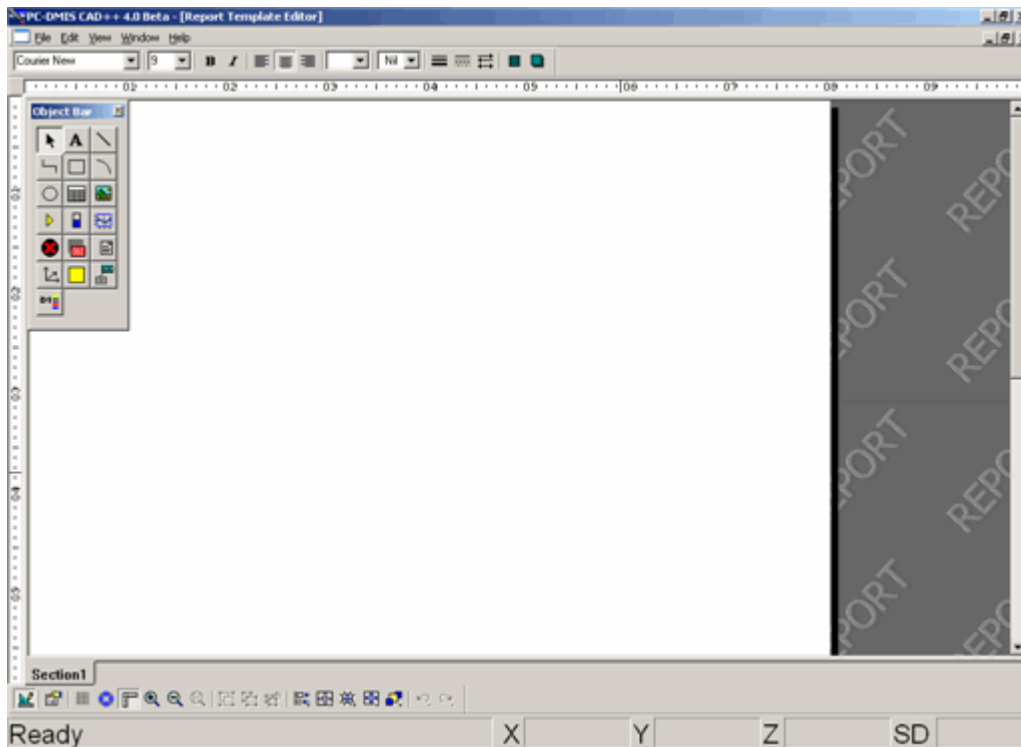
## レポート エディタおよびフォーム エディタについて

変数の宣言と関数またはサブルーチン定義を含んで、このウィンドウに任意のBASICのコードを追加できます。すべての変数、関数、またはサブルーチン宣言がここにグローバルされますが、しかしスクリプトのウィザードには表示されません。

## レポート テンプレート エディタの説明

レポートテンプレートエディタにアクセスするには、**ファイル| レポート| 新規| レポートテンプレート** を選択してします。既存のレポート テンプレートを開くには、**ファイル| レポート| 編集| レポートテンプレート テンプレート**を選択しします。

PC-DMIS は新しいウィンドウでレポート テンプレートを表示します。



### レポート テンプレート エディタ

レポートテンプレートエディタは作業エリアとして機能します。これによって、ユーザーは各種オブジェクトをドラッグ、サイズ変更および配置してそれらのプロパティを設定できます。テンプレートまたはセクションと呼ばれる白色領域の上部にオブジェクトを配置します。PC-DMISの以前のバージョンのHyperViewレポートで作業している場合、このエディタが基本的にほとんど同じように機能し、同じユーザーインターフェース要素で構成されているため、それに慣れているように感じます。

レポートするテンプレート方法を使って、レポートまたはラベル テンプレートエディタを**実行モード**に置くことはできません。これらは編集モードのみで開き、切り替えることはできません。実行モードがフォームエディタでもまだ機能します。

**起動モード** - このモードは、フォームエディタで動作します。実行モードでは、フォームを実行して(走らせて)、実際の測定ルーチンの実行環境でどのように見え、作用するかをテストすることが可能です。

**編集モード** - これはすべてのレポートエディタのデフォルトのモードであり、またレポートとラベルエディタのテンプレートのみのモードです。

CTRL+Eを押すと実行モードと編集モードの間の切り替えを行うことができます。

エディタには次の要素が含まれます:

- メニュー バー
- フォント バー (ツールバー)
- オブジェクトバー (ツールバー)
- レイアウトバー (ツールバー)
- オブジェクトプロパティシート
- セクション
- グリッドの使用

## セクションについて



### サンプルセクション

セクションはレポートのテンプレートのメイン編集エリアを構成します。レポートテンプレートエディタのこれらのタブされたスクロールエリアには、オブジェクトを現在のレポートに挿入できます。オブジェクトがレポートに表示される場合、セクションからより細かくコントロールを与えられます。

報告書テンプレートエディタで、簡単にテンプレートに追加セクションを追加して、簡単にパワフルなマルチセクションレポートを作成できます。しかし、セクションはページと同じではありません。1つのセクションに挿入されたオブジェクトは他のセクションでは表示されませんが、同じセクションの複数のページで表示されます。このアプロ

## レポート エディタおよびフォーム エディタについて

一チはヘッダとタイトルのようにスタティックを残りたいレポートアイテムを作成する複雑さを減します。

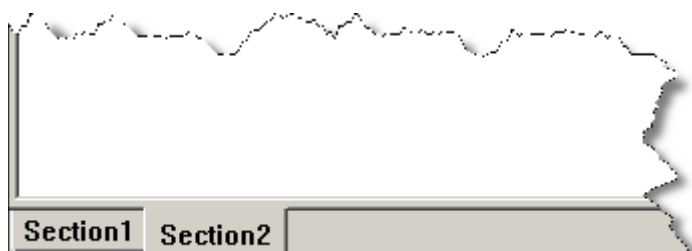
たとえば、テンプレートの最初のセクションにレポートや作成者のデータに関する説明を配置し、2番目のセクションに **TextReportObject**、3番目のセクションに **CadReportObject** を配置できます。レポート データの長さ次第では、そのレポートの各セクションが数ページに渡る可能性があります。



セクションはレポートテンプレートエディタ のみ 使用されます。バージョン PC-DMIS 4.0の前に、HyperViewレポートのメインの編集エリアが「フレーム/ビュー」と呼ばれます。この名前はフォームエディタとセクションが使用されないラベルテンプレートエディタで使用されます。レポートテンプレートエディタから、エディタの"セクション"はレポートオブジェクトを配置するところです。

### 新しいセクションを追加するには

1. レポートテンプレートエディタのウィンドウが最大化であることを確認してください。
2. テンプレートの下にスクロールします。
3. セクション1 タブを右クリックします。
4. ショートカットメニューから **タブを追加**を選択します。PC-DMISは新しいセクション **セクション2**をテンプレートに挿入します。テンプレートは **このように** 二つのセクションを持ちます。



### セクションを削除するには

1. レポートテンプレートエディタのウィンドウが最大化であることを確認してください。
2. テンプレートの下にスクロールします。
3. 削除したいセクションタブを右クリックします。

4. ショートカットメニューから**削除**を選択します。PC-DMISはこのセクションを削除します。

### セクションのプロパティを変更するには

1. レポートテンプレートエディタのウィンドウが最大化であることを確認してください。
2. テンプレートの下にスクロールします。
3. セクションを右クリックします。**プロパティ ダイアログ ボックス**が表示されます。
4. 必要に応じてプロパティを変更します。セクションの名前を変更するには、セクションの **FormCode** プロパティの名前を変更します。

スパニングツリーコマンドはセクション間で設定してページのレイアウトと校合されたページの出力をコントロールします。

2つのセクション(ページ)のオブジェクトプロパティを使用すると、あるレポート テンプレート・セクションから別のセクションまでのコマンドセットに跨ることができます。これは、同じコマンドセットを使用しながら、さまざまなレイアウトで別のページを作成することができます。また、これらのプロパティを使用してレポートをページ順に並べて出力できます。**コマンドセットとページの最大数** プロパティに関する説明とサンプルは「セクション及びページプロパティ」トピックを参照してください。

### セクションに特有の特性

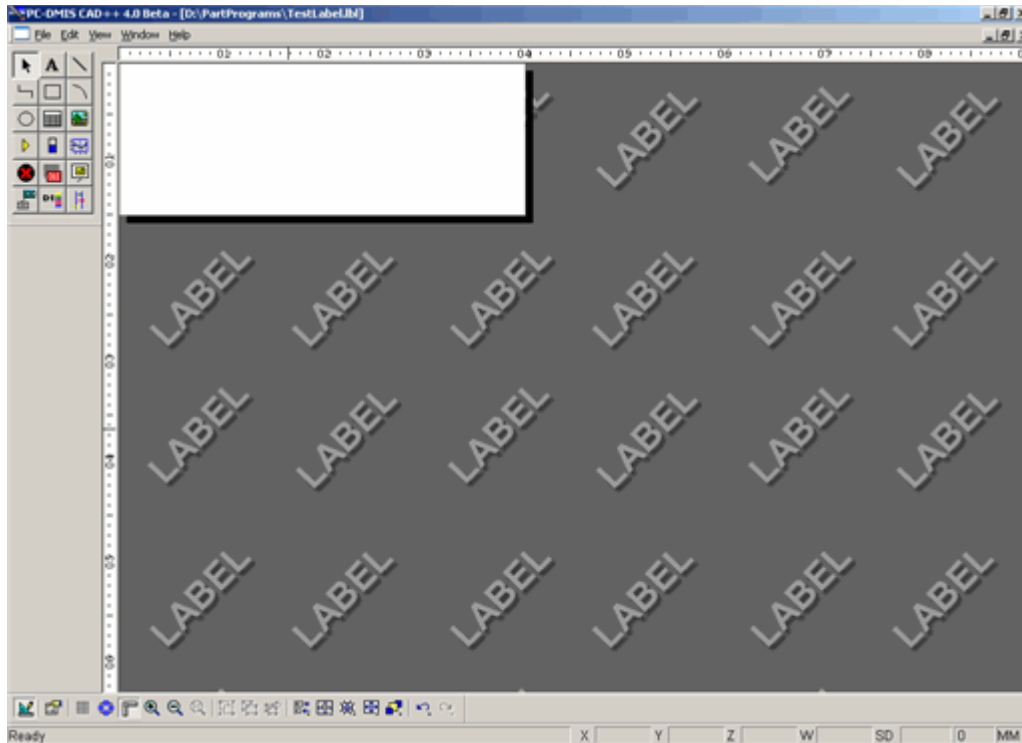
セクションとページの属性を参照してください。

## ラベル テンプレート エディタについて

ラベル テンプレートエディタにアクセスするには、**ファイル| レポート| 新規| ラベル テンプレート** を選択します。既存のラベル テンプレートを開くには、**ファイル| レポート| 編集 | ラベルテンプレート**を選択します。

PC-DMIS は新しいウィンドウでラベル テンプレートを表示します。

## レポート エディタおよびフォーム エディタについて



### [ラベル テンプレート]エディタ

このエディタはレポートテンプレートエディタおよびフォームエディタと似ています。そのオブジェクトバーでのいくつかの相違点を除いて、ユーザーインターフェースは基本的には同じです。ラベルテンプレートエディタのオブジェクトバーから任意オブジェクトをラベル テンプレートに技術的に入れるときは一般的に、GridControlObjectで作業します。カスタムレポートは"LABEL"の背景の上部にある白い大きなボックスです。

テンプレートを使用した新しいレポート作成方法では、レポートまたはラベル テンプレート・エディタを実行モードにすることはできません。これらは編集モードのみで開き、切り替えることはできません。フォームエディタでは実行モードがまだ機能します。

**実行モード** - このモードはフォームエディタでのみ動作します。実行モードでは、ユーザーのフォームを実行する (動作させる) ことができます。これによって、実際の測定プログラム実行環境でその表示および動作方法をテストすることができます。

**編集モード** - これはすべてのレポートエディタのデフォルトのモードであり、またレポートとラベルエディタのテンプレートのみのモードです。

実行モードと編集モード間で切り換えを行うにはCTRL+Eを押します。

エディタには次の要素が含まれます:

- メニューバー
- フォントバー (ツールバー)
- オブジェクトバー (ツールバー)
- レイアウトバー (ツールバー)
- オブジェクトプロパティシート



## カスタム レポート エディタについて

カスタムレポートエディタにアクセスするには、**ファイル| レポート| 新規作成 | カスタム レポート**を選択します。現在の測定プログラム用の既存のカスタムレポートを開くには、**ファイル| レポート| 編集| カスタム レポート**を選択します。



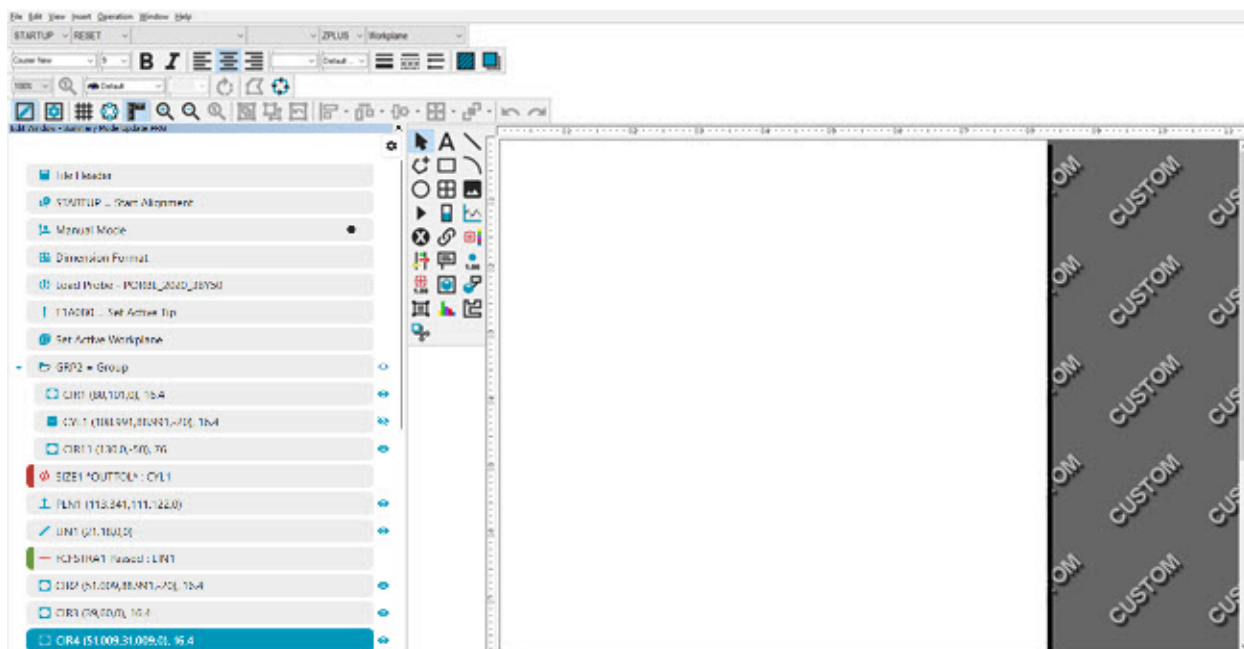
レポートウィンドウの**レポート**ツールバーからこのエディターの簡略バージョンにアクセスできます。これによって、通常のPC-DMISメニュー構造を離れずにレポートを編集できます。

このエディターには、次のいずれかのオプションからアクセスできます:

- カスタムレポート選択ダイアログ (  ) をクリックして**空レポート**をクリックし、続いて**開く**をクリックします。
- レポートの編集 (  ) をクリックします。

PC-DMISはその隣にある要約モード内部に配置された編集ウィンドウでカスタムレポートエディターを表示します。

## レポート エディタおよびフォーム エディタについて



その左側にある要約モードでのカスタムレポートエディター

このエディタはレポートテンプレートエディタ、ラベルテンプレートエディタおよびフォームエディタと似ています。そのオブジェクトバーでのいくつかの相違点を除いて、ユーザーインターフェースは基本的に同じです。

カスタムレポートは"CUSTOM"の背景の上部にある白い大きな領域です。このエディターを使用するときは、テンプレートを作成せずにレポートウィンドウに表示される実際のレポートを作成することに注意してください。新しいカスタムレポートを作成するとき、このエディタが要約モードで設定された編集ウィンドウで並んで表示されます。これによってユーザーは、希望のオブジェクトを要約モードからカスタムレポートにドラッグすることができます。「カスタムレポートの作成」を参照してください。

カスタムレポートエディタでは、HyperView (ハイパービュー) エディタで行ったようにレポートまたはラベルテンプレートエディタを実行モードにすることはできません。カスタムレポートエディタは編集モードでのみ開き、実行モードに切り換えることはできません。実行モードはHyperViewエディタまたはフォームエディタでしか機能しません。

エディタには次の要素が含まれます:

- メニュー バー
- フォント バー (ツールバー)
- オブジェクトバー (ツールバー)
- レイアウトバー (ツールバー)

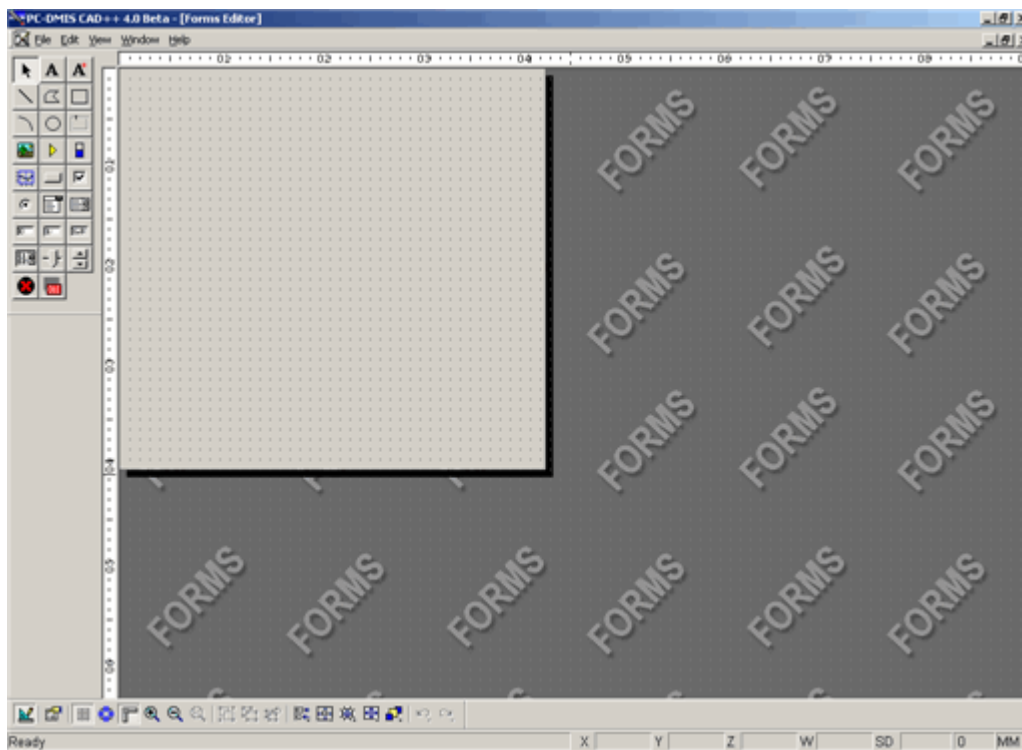
- ・ オブジェクトプロパティシート

## フォーム エディタの説明

フォームエディタでフォームを新規作成するには、[ファイル|レポート|新規作成|フォームのレポート]を選択します。

フォームエディタで既存のフォームを開くには、[ファイル|報告|編集|フォームレポート]を選択します。

PC-DMISが新しいウィンドウにフォームエディタを表示します。



### フォームエディタ

フォームエディタは作業エリアとして機能します。これは様々なインタラクティブなフォームオブジェクト（ボタン、リストボックス、編集ボックスなど）をドラッグ、サイズ合わせおよび配置して、そのプロパティを設定します。

オブジェクトはフォームと呼ばれるグレーの大きな領域に配置されます。PC-DMISの以前のバージョンのHyperViewレポートで作業している場合、このエディタが基本的にほとんど同じように機能し、同じユーザーインターフェース要素で構成されているため、それに慣れているように感じます。



## テンプレート作成

新しいテンプレートによるレポートの作成方法では、フォームエディタのみが実行モード機能を使用できます。レポートおよびラベルテンプレートエディタはそれを使用しません。

**実行モード** - このモードはフォームエディタでのみ動作します。実行モードでは、ユーザーのフォームを実行する (動作させる) ことができます。これによって、実際の測定プログラム実行環境でその表示および動作方法をテストすることができます。

**編集モード** - これはすべてのレポートエディタのデフォルトモードです。このモードはレポートおよびラベルテンプレートエディタでの唯一のモードです。

実行モードと編集モード間で切り換えを行うにはCTRL+Eを押します。

エディタには次の要素が含まれます:

- メニュー バー
- フォント バー (ツールバー)
- オブジェクトバー (ツールバー)
- レイアウトバー (ツールバー)
- オブジェクトプロパティシート
- オブジェクトシート

---

## テンプレート作成

PC-DMISには大部分のユーザーのニーズに合う *事前に作成されたいくつかの* テンプレートが付属していますが、強力なテンプレートエディタを十分に活用して、ユーザー独自のレポートおよびラベル テンプレートを作成することができます。さらに、フォーム エディタを使用してインタラクティブな方法でプログラムの実行およびレポート作成を行うこともできます。

PC-DMISでは4つのレポート テンプレート(.rtp)および22のラベル テンプレート(.lbl)が用意されています。

**ファイルの場所:** C:\Users\Public\Public Documents\Hexagon\PC-DMIS\2026.1\Reporting

詳細は、「標準レポートの使用」を参照してください。

次のトピックではレポート テンプレートおよびラベルテンプレートエディタを使用してユーザー独自のテンプレートを作成する方法について説明します。



テンプレートレポートは初めてですか。「レポートテンプレートの作成」と「ラベルのテンプレートの作成」チュートリアルに従ってください。

独自のテンプレートを作成することに加えて、カスタムテンプレートをHexagon 社の支援からダウンロードできます。カスタムテンプレートのさらなるサポートが必要な場合は、地域事務所や本部にお問い合わせる。

## レポートとレポート テンプレートについて

レポートはレポートテンプレートではなく、レポートの説明です。テンプレートがPC - DMISはがどのデータをレポートに作成して、どこに行って、何かのようになるのを説明します。1つ以上の測定ルーチンにレポートテンプレートを使用でき、外観を標準化し、いくつかのレポートを感じます。

レポートエディタのテンプレート内にテンプレートを作成します。レポートテンプレートファイルは .rtp の拡張子を持ち、PC - DMISのレポートテンプレートエディタに作成されます。

レポートテンプレートファイルを希望に応じて単純または複雑に作成することができます。簡単なレポート テンプレートが、単一の **TextReportObject**を含むだけである一方、複雑なレポート テンプレートは、いくつかの異なるオブジェクト、ビット マップ画像、形、または、レポート データからの表示内容を正確に詳述する、レポートの式言語を持つ項目さえ含む可能性があります。




レポート テンプレートのファイル名拡張子 **.rtp** を、旧式の HyperView レポート ファイル名拡張子 **.rpt**と混同しないで下さい。これらは完全に別のファイル形式です。

## レポートテンプレート選択の優先度

PC-DMISは下記の優先度の順番に基づいてレポートテンプレートを選択します。

1. 現在の測定プログラムにはデフォルトのレポートテンプレートが割り当てられます。レポートツールバーのこのレポートをデフォルトテンプレートとして設定

するボタン  をクリックして、各測定プログラムのデフォルトテンプレートを定義することができます。このボタンまたはレポートツールバーについて詳しくは、「レポートツールバー」トピックを参照してください。

2. レポートテンプレートが1つ存在する場合、それは設定エディタでのデフォルトテンプレートとして指定されます。詳しくは、設定エディタドキュメントの「デフォルトレポートテンプレート」トピックを参照してください。
3. TEXTONLY.RTPファイル。
4. default.rtpファイル。

TEXTONLY.rtpおよびdefault.rtpテンプレートファイルについて詳しくは、「標準レポート」および従来のテキストレポート」トピックを参照してください。

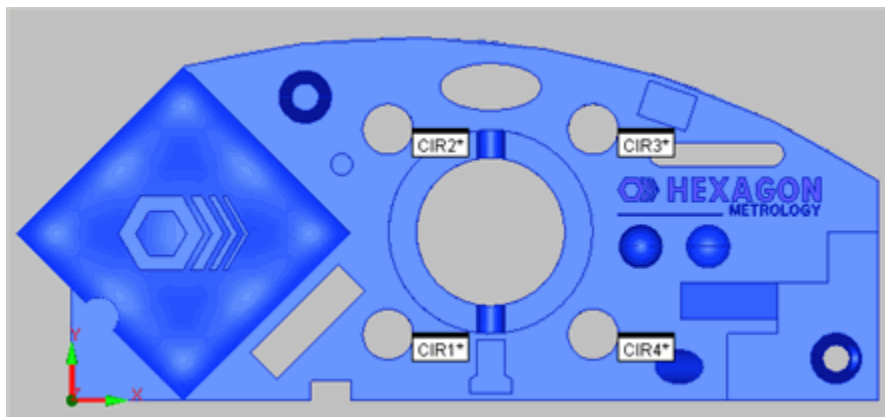
## チュートリアル — レポート テンプレートの作成

このトピックでは、非常に基礎的なチュートリアルを順を追って説明し、いくつかのオブジェクトおよびラベルの付いた簡単なレポートテンプレートを作成します。ここでは、ユーザーが独自のレポート テンプレートを作成して使用するために必要な連携操作の基本概要を説明します。




エディターテンプレートの使用方法に関する十分な基礎知識を提供するために、このチュートリアルではレポートテンプレートを最初から作成する方法を示します。但し実用的には、標準テンプレートのうちの1つをカスタマイズしてユーザーのニーズを満たすことが、はるかに簡単であることにほぼ確実に気づかれると思います。

このチュートリアルを開始する前に、簡単なパートで4つの円を測定できる簡単な測定ルーチンを作成します。このチュートリアルは *Hexagon テストブロック (Hexblock\_Wireframe\_Surface.igs)* を使用します。

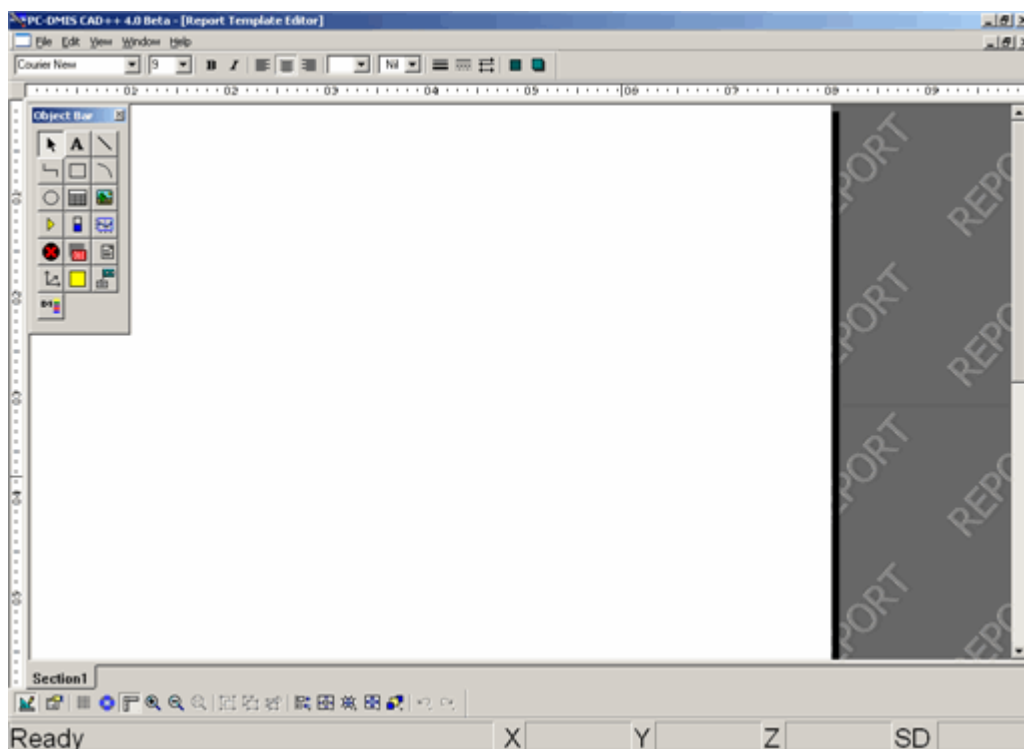


測定される四つの円の例。

### ステップ1: 空白のレポートのテンプレートを作成します

1. ファイル| レポート| 新しい| レポートテンプレート を選択してレポート テンプレートエディタにアクセスします。空のレポートテンプレートは自動的に表示されます。
2. 未使用のツールバーを非表示にするには、ツールバーのエリアを右クリックして削除します。
3. 未使用のPC-DMISウィンドウを非表示にするには、[表示]メニューから開いているウィンドウを選択します。
4. エディタのウィンドウから最大化ボタン をクリックして、テンプレートエディタを最大化します。ユーザーはエディタの背景に「レポート」という単語が表示され、エディタの下部に「セクション1」タブなければなりません。ここで、レポート・テンプレート・エディタは次のように表示されるはずです。

## テンプレート作成



レポート テンプレート エディタ



1つのテンプレートエディタと作業している場合、それは通常のPC - DMISのツールバーとウィンドウの非表示に役に立って、これによりいくつかの画面スペースを解放します。頻繁にテンプレートで作業する場合、テンプレートの保存画面のレイアウトを作成することがあります。レイアウト情報については、「ツールバーの使用」の章にある「ウィンドウレイアウト ツールバー」トピックを参照して下さい。

また、ファイル|レポート コマンドで独自のツールバーを作成するためにも役立ちます。カスタムツールバーの作成方法について、「ユーザー インターフェースのカスタマイズ」の章にある「ツールバーのカスタマイズ」トピックを参照して下さい。

### ステップ2: セクションのタイトル用のテキストオブジェクトの挿入および書式設定

1. オブジェクト・バーから、テキスト・オブジェクトをクリックしてください。

- 現在のセクション上で四角形にドラッグすることで、レポートにオブジェクトを挿入できます。マウスボタンを離すと、オブジェクトが選択され、オブジェクトの各コーナーにハンドルと呼ばれる緑色の小さな正方形が現れます。



ハンドルが表示されたテキストオブジェクトの例。

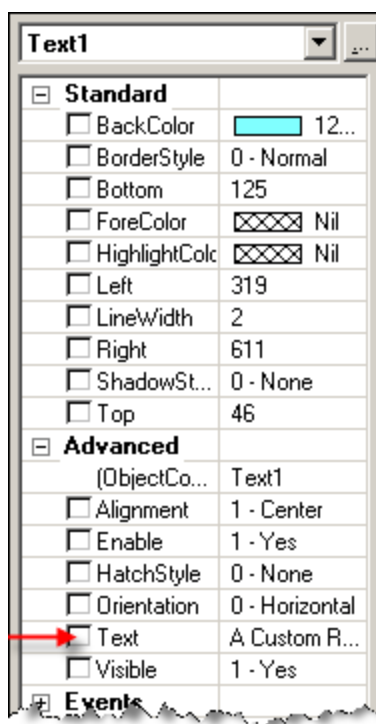
- 挿入した **テキスト** オブジェクトを選択し、緑のハンドルをドラッグしてそれは1インチの高さと6インチの長さを持ちます。トップのルーラーバーと必要に応じるエディタの左の境界を使用してください。ルーラーは利用できない場合には **ビュー|ルーラーバー** を選択してください。
- テキストオブジェクトを右クリックします。
- BackColor** プロパティを選択してまたそれを水色の色に変更します(0.255.255)。
- ForeColor** プロパティを選択してまたそれをダークブルーの色に変更します(0.0.128)。
- BorderStyle** プロパティを選択してまたそれを**正常**に変更します。
- LineWidth** プロパティを選択してこの値を5に変更します。
- テキストプロパティを選択してまたそれを「カスタム レポート」に変更します。
- フォントプロパティを選択します。フォントダイアログボックスが表示します。
- サイズを20に、フォントスタイルを太字に、およびフォントをArialに変更します。
- [OK] をクリックします。

テキストオブジェクトをフォーマットしました。このようになります：



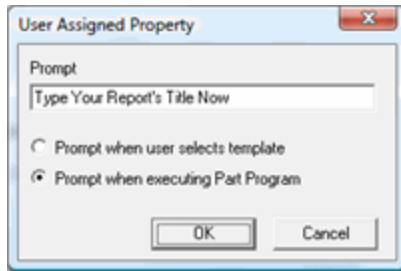
### ステップ3: プロパティのユーザーの割り当て可能にする

1. 前の手順で作成したテキストオブジェクトを選択してください。
2. オブジェクトを右クリックします。これにより、オブジェクトの[プロパティ]ダイアログボックスがエディタの右側に表示されます。ダイアログボックスの右側ではほとんどのプロパティの横に チェックボックスが見えます。これらのチェックボックスはユーザーがどのようなプロパティを定義可能かを決定します。



左側にあるユーザー定義のチェックボックスが表示されたテキストオブジェクトのプロパティシート の例。

3. テキスト プロパティの左のチェックボックスを選択します。[ユーザー割り当てのプロパティ]ダイアログボックスが開き、ユーザーにプロパティ値の提供を促すメッセージおよびユーザーにプロンプトが表示されるべきタイミングを決定することを要求します。




[ユーザー割り当てプロパティ]ダイアログボックス

4. プロンプト ボックスに、「今レポートのタイトルを入力」を入力します。
5. 測定ルーチンが実行された時にプロンプトを表示 オプションを選択してください。
6. **[OK]** をクリックします。ユーザー割り当てプロパティ ダイアログ ボックスが閉じます。
7. **BackColor**プロパティの左にあるチェックボックスを選択します。これによって表示されるダイアログボックスで、プロンプトに対して「ここで背景色を選択してください」と入力し、もう一度、**[測定ルーチン実行時のプロンプト]** オプションを選択します。
8. **[OK]**をクリックします。ユーザー割り当てプロパティ ダイアログ ボックスが閉じます。

この手順で、2つのプロパティを選択してそれらを「ユーザ割り当て」にします。測定ルーチンを実行するユーザはこれらのプロパティを設定することもできるという意味です。

#### ステップ4: *TextReportObject*の追加

1. エディタのオブジェクトバーから、**TextReportObject icon**  をクリックします。マウスポインターが矢印ポインターから十字に変わります。
2. テンプレートのセクションにボックスをドラッグしてテンプレートに**TextReportObject** を追加します。PC-DMIS 自動的にいくつかのデフォルトのフィラーレポートテキストを追加します。レポートにテンプレートを適用する場合、PC-DMIS は実際のレポートデータを使用します。このフィラーのテキストは単にデザインはどうなようになるかを理解するのに便利です。オブジェクトはこのようになります：



## テンプレート作成

```
PART NAME : PL54A.1
REV NUMBER :
SER NUMBER :
STATS COUNT : 1

Active alignment changed to ALIGN1

PLN1=PLANE MEASURED FROM 4 HITS
CYL1=CYLINDER MEASURED FROM 8 HITS
PLN2=PLANE MEASURED FROM 4 HITS
Active alignment changed to ALIGN2

PLN3=PLANE MEASURED FROM 4 HITS
DIM PLANEA= FLATNESS OF PLANE PLN3 UNITS=MM
AX NOMINAL +TOL -TOL MEAS MAX MIN
DEV OUTTOL
M 0.000 0.050 0.000 0.007 0.004 -0.004
0.007 0.000 -#-----
```

TextReportObject の例。

- オブジェクトをサイズ変更して、以前追加した テキスト オブジェクトの幅に近いサイズにします。オブジェクトの大きさを変更するには、オブジェクトを囲む緑色のボックス（またはハンドル）の1つをクリックしてドラッグします。
- 以前に追加したテキストオブジェクトを選択します。SHIFTキーを押しながら **TextReportObject** を選択します。これによって、両方のオブジェクトが選択されます。
- 両方を選択した状態で、レイアウトバーを使用して、適切な 同じサイズにする と 中央揃え アイコンをクリックして、オブジェクトを同じ幅にして整列させ、それらの中心がエディタの左側と左側の間にあるようにします。

テンプレートは最初のセクションに **TextReportObject** を持つのが必要です。


### ステップ5: 新しいセクションをテンプレートに追加する

- レポートテンプレートエディタウィンドウを最大化します。
- テンプレートの下にスクロールします。
- セクション1** タブを右クリックします。
- ショートカットメニューから **タブを追加** を選択します。PC-DMISは新しいセクション **セクション2** をテンプレートに挿入します。

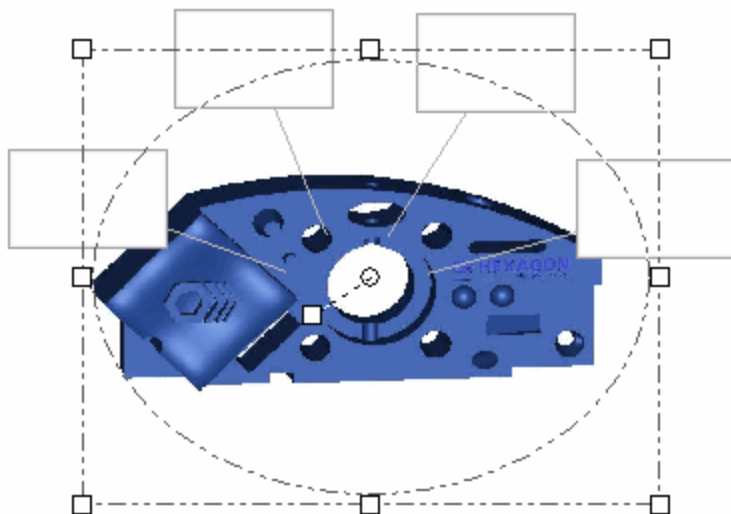
テンプレートは このように 二つのセクションを持ちます。



### ステップ6: CADReportObjectの追加

1. アクティブなセクションを作成するために**セクション2** タブをクリックしてください。
2. エディタの [オブジェクトバー] から、[CADReportObject] アイコン  をクリックします。マウスポインターが矢印から十字に変わります。
3. テンプレートのセクションにあるボックスをドラッグして、テンプレートに **CADReportObject** を追加します。幅約 6 インチ、高さ約 4 インチになるようにボックスの大きさを変更します。オブジェクトを囲む緑色のボックスの 1 つをクリックしてドラッグし大きさを変更します。
4. ボックスを描画を終了すると、PC-DMISは自動的に**ラベルレイアウトウィザード**を表示します。このウィザードは、いくつかの偽ラベルに囲まれた偽パートを表示します。テンプレートエディタでの作業中には、これらのダミー項目は設計の補助手段にすぎません。このウィザードを使用してパートの周りのラベルを設定します。詳しくは「ラベルのレイアウト]ウィザード」を参照してください。このレポートにテンプレートを適用する場合、PC-DMIS は実際のCAD図面とラベル情報を使用します。
5. ラベルの**ラベル数** ボックスの番号を4に変更します。
6. **レイアウトスタイル** を**楕円パック**に変更します。
7. CAD図形の中心にある、四角形の小さな白いハンドルをクリックし、四角形を時計回りまたは反時計回りにドラッグしてラベルを楕円形のパスに沿って回転させます。
8. 4つすべてがCAD図形の上に来て、[ラベルレイアウトウィザード]の[レイアウトプレビュー]エリアが以下のようになるまで、ラベルを回転させます。

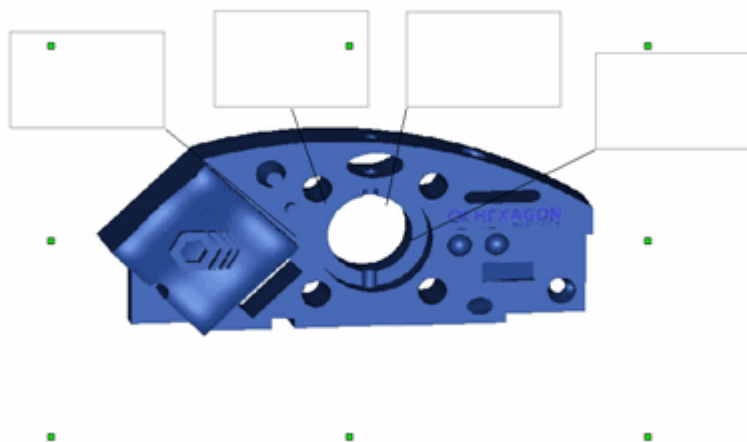
## テンプレート作成



レイアウトプレビューエリアは CAD 図面上の楕円パックされる4つのラベルを表示します。

9. **[OK]** をクリックします。PC-DMISはオブジェクトを**セクション2**に挿入します。

**セクション2** レイアウトはこのようにCADReportObjectを含める必要があります：

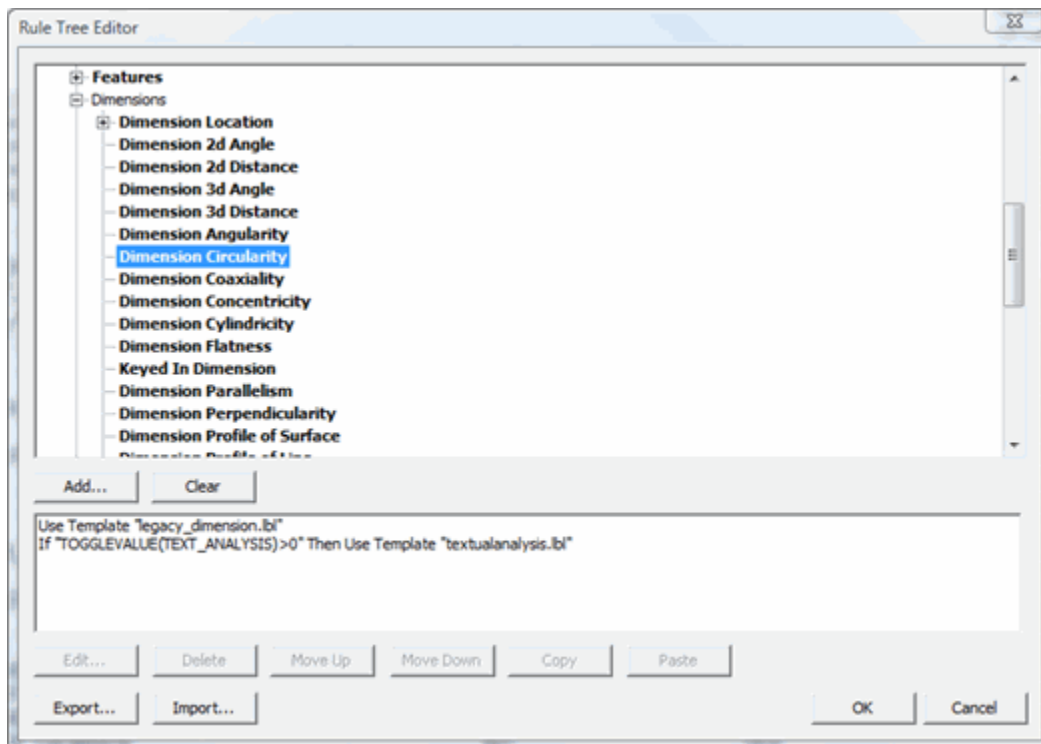


ダミーパート上の四つのダミーラベルを表示する CAD レポートオブジェクトの例。

### ステップ7: 測定情報が表示されるのを定義する

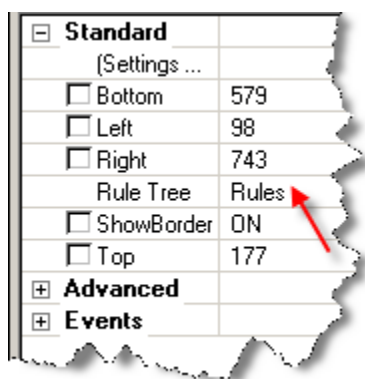
1. **セクション1** タブをクリックして前に挿入される**TextReportObject** を右クリックしてください。
2. **[プロパティ]** ダイアログボックスで以下のプロパティを変更します。

- ShowAlignments (アライメントの表示) - オフ
  - ShowComments (コメントの表示) - オフ
  - ShowDimensions (寸法の表示) - なし
  - ShowFeatures (要素の表示) - オン
  - ShowHeaderFooter (ヘッダ/フッタの表示) - オフ
  - ShowMoves (移動の表示) - オフ
  - ShowScreenCaptures (画面キャプチャの表示) - オフ
3. セクション2 タブを右クリックします。
  4. **CADReportObject** を右クリックして**セクション2**に追加します。画面の右側の部分はドッキングされるプロパティシート ダイアログ ボックスを表示します。このダイアログ ボックスには選択されたオブジェクト固有の様々なプロパティが含まれます。
  5. [ルール ツリー]プロパティの[ルール]をクリックします。[ルール ツリー エディタ]が表示されます。



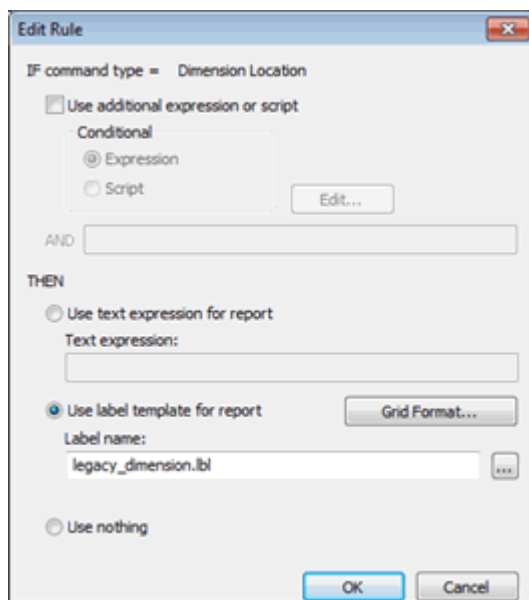
[規則ツリーエディター] ダイアログボックス

## テンプレート作成



[規則ツリープロパティ] オプション

6. 要素 見出しを展開してください。要素のリストが表示されます。
7. 円形 見出しを展開してください。様々な円形要素のリストが表示されます。
8. [測定円]の項目をクリックし、[追加]ボタンをクリックします。これにより、テンプレートが従うルールを追加できるようになります。[ルールの編集] ダイアログボックスが現れます。このダイアログボックスにより、レポートテンプレートに対する定義付けが行えます。この場合、測定ルーチンのレポートデータに測定円が現れたらレポートテンプレートに何か処理を実行するよう命令します。




[規則の編集] ダイアログボックス

9. レポートにラベルテンプレートを使用 オプションを選択してください。ラベル名 ボックスは編集に利用可能になります。

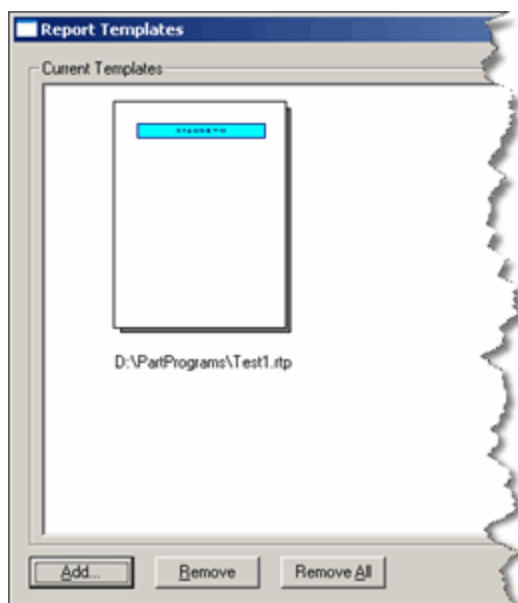
10. [...] ボタンをクリックして **[開く]** ダイアログボックスを開きます。これでラベル テンプレートファイルを選択できます。
11. PC-DMIS をインストールしたディレクトリに移動し、レポートサブディレクトリを開きます。summary.lblラベルを選択し、**[開く]**をクリックします。**[ルールの編集]**ダイアログ ボックスに、選択したテンプレート名が表示されます。ラベルの作成に関する説明およびチュートリアルについては、「ラベルおよびラベル テンプレートについて」を参照してください。
12. **OK** をクリックして、**編集ルール** ダイアログ ボックスを閉じてルールを適用します。リストの**測定される円形** 項目は表示に太字フォントを持ち、そのルールはその要素種類に存在するのを発見できます。
13. **OK** をクリックして、**ルール ツリー エディタ**ダイアログ ボックスを閉じて下さい。

これで、summary.lblラベル テンプレートを使用して測定円の要素タイプに対して概要を表示するようルールを設定しました。

#### ステップ8: テンプレートを保存してテストする

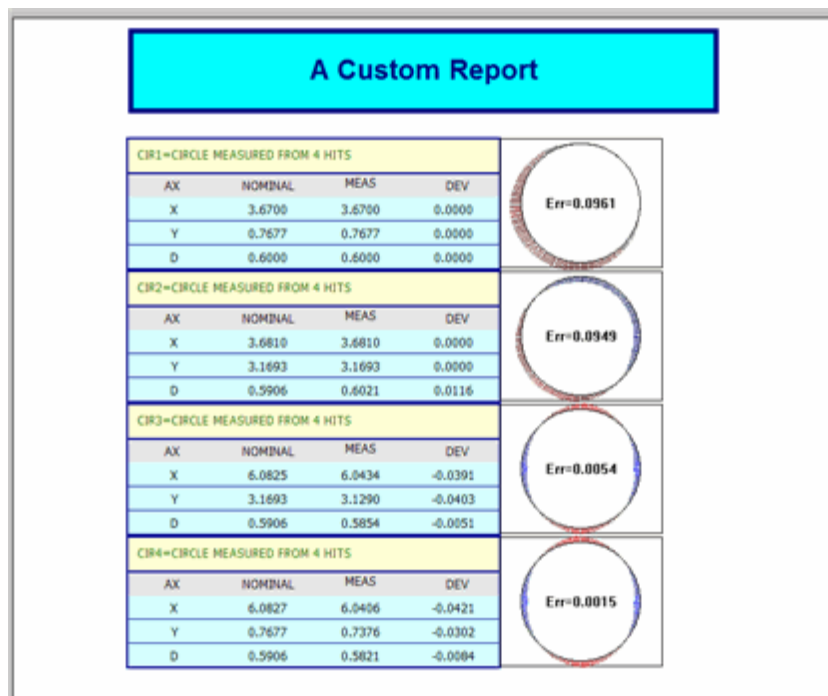
1. レポートテンプレートエディタ内で、**[ファイル | 保存]**を選択します。**[名前付けて保存]**ダイアログボックスで、テンプレートをtest1.rtpとして保存します。
2. **ファイル | 終了**を選択してレポートテンプレートエディタを閉じます。
3. **ビュー | レポートウィンドウ**を選択します。レポートウィンドウが開き、デフォルトのレポートテンプレートを表示します。
4. レポート ウィンドウの**[レポート]**ツール バーより、**[テンプレートの選択ダイアログ]** アイコン  を選択します。**[レポートテンプレート]** ダイアログボックスが開きます。
5. **[追加]** ボタンをクリックしてレポートを **[レポートテンプレート]** ダイアログボックスに追加します。
6. test1.rtp に移動して選択し、**[開く]** をクリックします。PC-DMIS はレポートのサムネイル表示をレポート テンプレート ダイアログボックスに追加します。

## テンプレート作成



Test1.rtpが表示された[レポート テンプレート]ダイアログ ボックス

7. 目的のテンプレートのサムネイル アイコンを選択し、**[開く]**をクリックします。PC-DMISは 新しく作成したテンプレートでレポートウィンドウを開きます。以下のようなになるはずです。



Test1.rtp レポート テンプレートを使用してレポートデータを表示するレポートウィンドウ


8. 最後に測定ルーチンを実行します。このレポートテンプレートを使用して測定ルーチンを実行すると、PC-DMIS は [ユーザーが割り当てるプロパティの定義] ダイアログボックスを表示して、レポートに新しいタイトルを与え、背景色を設定するようユーザーに要求します。
9. これらのプロパティを希望どおりに設定して**OK**をクリックします。ダイアログボックスが閉じ、PC-DMISは測定ルーチンを実行します。
10. 実行が終了すると、PC-DMISは新しいテンプレートを使用してレポートデータを表示します。

おめでとうございます！あなたはカスタムレポートテンプレートのチュートリアルを完了しました。

## レポート テンプレートの適用、または、除去

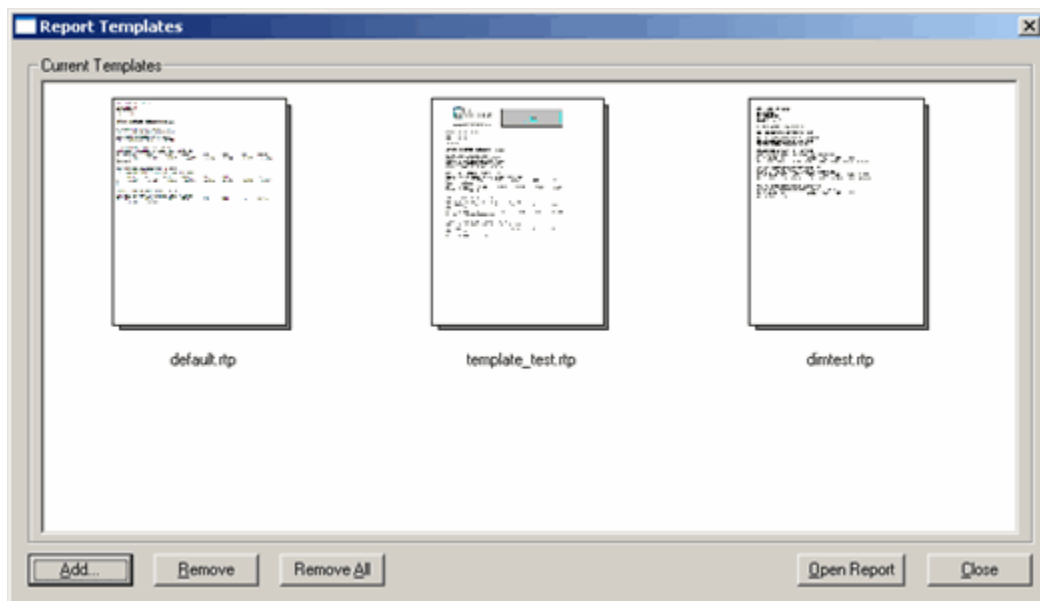
測定結果にレポート テンプレートを適用するには、またはレポート テンプレートを移動するには、最初にレポート テンプレート ダイアログ ボックスにアクセスする必要があります。

### レポート テンプレートダイアログ ボックスにアクセスするには:

1. **[ビュー | レポート ウィンドウ]** を選択してレポート ウィンドウにアクセスします。
2. レポートウィンドウのレポート ツールバーから、**テンプレートの選択** アイコン  をクリックしてください。レポート テンプレート ダイアログ ボックスが .rtp filesとして利用可能なレポートのテンプレートの表示を示します:



## テンプレート作成



[レポートテンプレート] ダイアログボックス

このダイアログ ボックスを使用してレポート テンプレートを管理します。

### レポート テンプレートを追加するには:

1. [レポート テンプレート] ダイアログ ボックスから、[追加] ボタンをクリックします。標準の [開く] ダイアログ ボックスが現れます。
2. レポート テンプレートファイルに移動して、それを選択し、[開く]をクリックします。
3. PC-DMISはテンプレートを追加し、テンプレートのサムネイル画像が[レポート テンプレート]ダイアログボックスに表示されます。
4. ダイアログボックスにいくつかまたは複数のテンプレートを含むかもしれません。ニーズに合わせてダイアログボックスのサイズを変更、新しい場所にダイアログボックスの端をドラッグします。

### レポート テンプレートを削除するには:

1. レポート テンプレート ダイアログ ボックスから、テンプレートをクリックします。
2. 移動ボタンをクリックします(すべてのテンプレートを削除するには[すべて削除]をクリックします)。
3. PC-DMISがレポート テンプレート ダイアログ ボックスからレポート テンプレートを移動します。



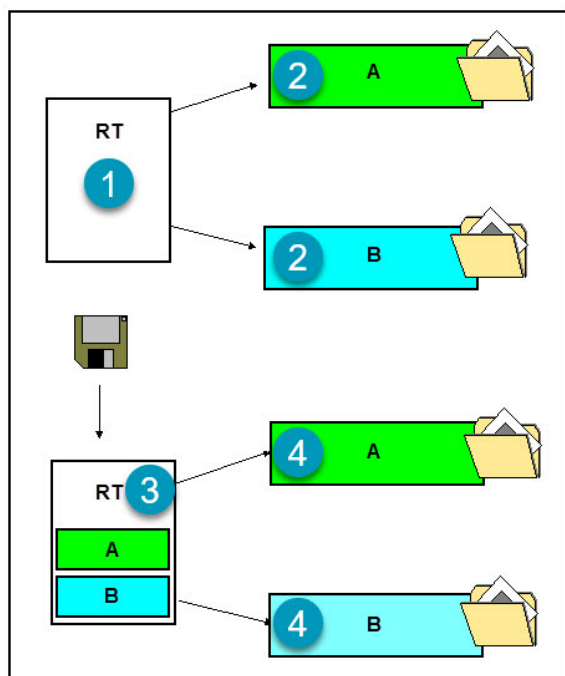
レポート テンプレート を除去したとしても、それらは削除されません。単に、このダイアログ ボックスから除去されたに過ぎません。後でいつでも **追加** ボタンを使用して追加できます。

レポート テンプレート ダイアログ ボックスにリスト表示されるテンプレートは Windows オペレーティングシステム上の各ユーザーアカウントごとに異なります。

## レポート テンプレートの共有

簡単にレポートテンプレートを他のユーザーと共有できます。レポート テンプレートを保存する場合、PC-DMIS は自動的にレポートテンプレート自体に関連するすべてのラベルのテンプレートのコピーを保存します。このように、レポートテンプレートを共有する場合は、それに沿って関連するすべてのラベルのテンプレートを発送する心配する必要はありません。それでも、レポート テンプレートが通常に最初にディレクトリの実際のラベル テンプレート ファイルをチェックします。それが実際のラベル テンプレート ファイルを発見した場合、それはそれを使用します。実際のラベル テンプレート ファイルが希望どおりに存在しない場合、レポート テンプレート がレポート テンプレート 自身で保存されたラベル テンプレート ファイルのコピーされたバージョンを使用します。

## テンプレート作成



1 - この例では、レポート テンプレートは、ラベルAおよびラベルBの2つのラベル テンプレートを呼び出します。






2 - ラベルテンプレートファイル(ファイル名に .lbl の拡張子を持つファイル)はレポート ディレクトリ(C:\Users\Public\Documents\Hexagon\PC-DMIS\<バージョン>\Reporting) に保存されます。

3 - レポート テンプレートを保存すると、ラベル テンプレートのコピーがレポート テンプレートの中に保存されます。

4 - これを使用すると、レポート テンプレートは最初に任意のラベル テンプレート ファイルを検索して、見つかった場合にはそれらを使用します。発見しない場合、それはコピーされたラベル テンプレートを使用します。

## ラベルとラベル テンプレートについて

ラベルのテンプレートは基本的にレポート内の特定のコマンド（またはコマンド）に関連付けるテンプレートミニレポートのように動作します。これはデータを多くの自由を与えて、レポートに含めることができます。例えば、測定要素、ラベル寸法のラベルと自動要素などを表示することができます。

FCF1-PO51							
Feature	BONUS	TOL	Datum Shift Eff...	Unused Zone	DEV	DEVANG	
CIR1	0.1	0.1	0	0.2	0	180	
CIR2	0.1	0.1	0	0.2	0	180	
CIR3	0.1	0.1	0	0.2	0	180	
CIR4	0.1	0.1	0	0.2	0	180	
B:CYL2	0	N/A	0	0	0	0	

要素コントロールフレーム(FCF)で位置テーブル示すラベルの例。

PC-DMISには、お客様のレポート テンプレートにあるオブジェクトと連結できる標準ラベルが既に出荷時に含まれています。ただし、レポートテンプレートのように、独自のラベルテンプレートも作成できます。ラベルのテンプレートにはラベルテンプレートエディタの **オブジェクトバー**の任意のオブジェクトを含めることができますが、これらは通常**GridControlObject** または**グラフオブジェクト**を含みます。

ラベル・テンプレート・エディタを使用して、ラベルテンプレートを作成できます。

## チュートリアル - ラベル テンプレートの作成

このトピックは2、3のオブジェクトと **GridControlObject**で簡単なラベルテンプレートを作成するための基本的チュートリアルにユーザーを導きます。これはラベルテンプレートの作業とそれらを使用してレポートにおけるカスタム情報を表示する方法を提供します。




このチュートリアルはカスタム レポートテンプレートの作成」 チュートリアルに学んだ能力により作成されます; まずそのセクションを完了したのを確認してください。

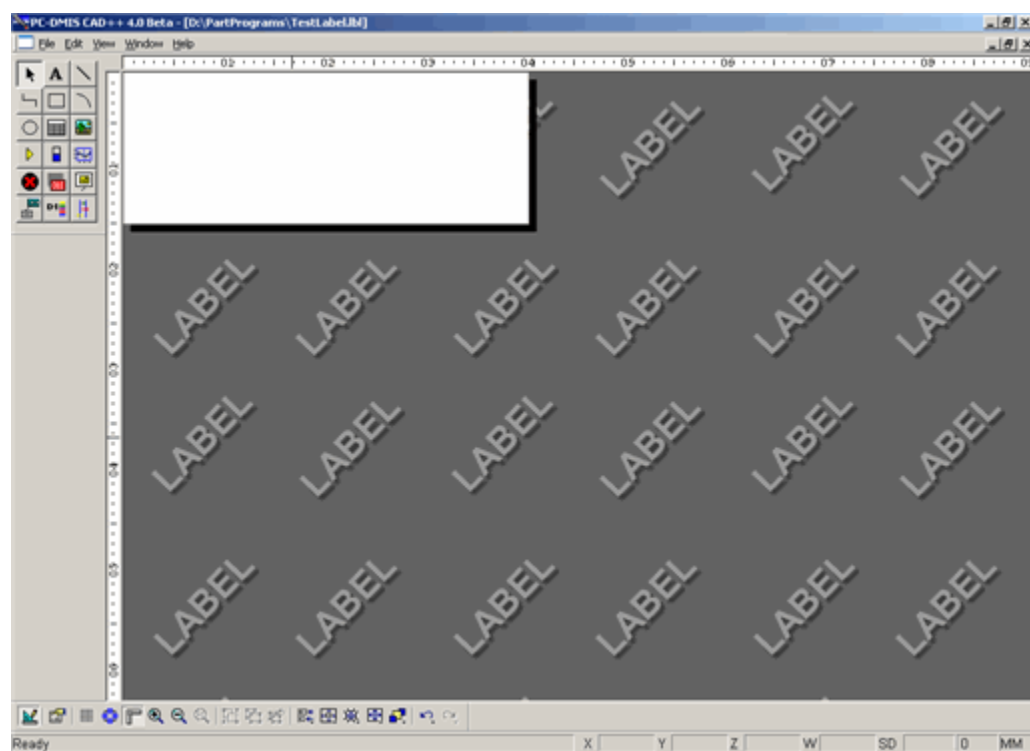
### ステップ1: 空白のラベルのテンプレートを作成する

1. **ファイル| レポート| 新しい| ラベルテンプレート** を選択してラベル テンプレートエディタにアクセスします。空のラベルテンプレートは自動的に表示されます。
2. 未使用のツールバーを非表示にするには、ツールバーのエリアを右クリックして削除します。

## テンプレート作成

3. 未使用のPC-DMISウィンドウを非表示にするには、[表示]メニューから開いているウィンドウを選択します。
4. テンプレートエディターを最大化するには、編集ウィンドウの最大化ボタンをクリックします。エディタの背景に単語「LABEL」が表示されるはずです。
5. ラベルテンプレート編集エリアでの **フレーム/表示** の大きさを幅 4 インチ、高さ 0.5 インチに変更します。これを行うには、ラベルテンプレートの右下隅をマウスでクリックしてドラッグします。ガイドとしてルーラを使用します。

空白のラベルのテンプレートを作成しました。このステップが完了すると、次のように表示されるはずです:




[ラベル テンプレート]エディタ



1つのテンプレートエディタと作業している場合、それは通常のPC - DMISのツールバーとウィンドウの非表示に役に立って、これによりいくつかの画面スペースを解放します。頻繁にテンプレートで作業する場合、テンプレートの保存画面のレイアウトを作成することがあります。レイアウト情報については、「ツールバーの使用」の章にある「ウィンドウレイアウト ツールバー」トピックを参照して下さい。

## ステップ2: テンプレートにCommandTextObject とスタティクな情報を追加する



1. **CommandTextObject** アイコン  をクリックします。マウスポインタの形が十字に変わります。
2. マウスポインターでボックスをドラッグして、幅約3インチx高さ約0.5インチまで伸ばします。PC-DMIS は CommandTextObject をラベルテンプレートに挿入します。それを右クリックしてプロパティ ダイアログ ボックスにアクセスしてください。
3. **色** プロパティをクリックしてください。PC-DMISがデフォルトのアプリケーションの色から独立設定の色を定義するどうかを確認する場合、はいをクリックしてください。
4. **色エディター**が開きます。PC-DMISはこのエディタを使用して編集ウィンドウの色を定義します。但しこの場合、それは現在の CommandTextObject にのみ影響を及ぼします。
5. **背景色**の下に**編集**をクリックしてください。標準の [色] ダイアログボックスが開きます。
6. オブジェクトの背景色に濃い青の色を付けます。これを行うには、**赤色**、**緑色**、**青色**ボックスの値をそれぞれ 0、0、128 に変更します。**[OK]** をクリックします。
7. **マークされない** ボックスに、**編集**をクリックしてください。標準の [色] ダイアログボックスが開きます。
8. 白を選択して**OK**をクリックします。PC-DMISがこの項目の子を変更したいと確認する場合、**いいえ**をクリックしてください。
9. 円形（または楕円オブジェクトを使用して円を描きます）のビットマップイメージを使用してそれをキャンバスの右上に配置します。


## テンプレート作成

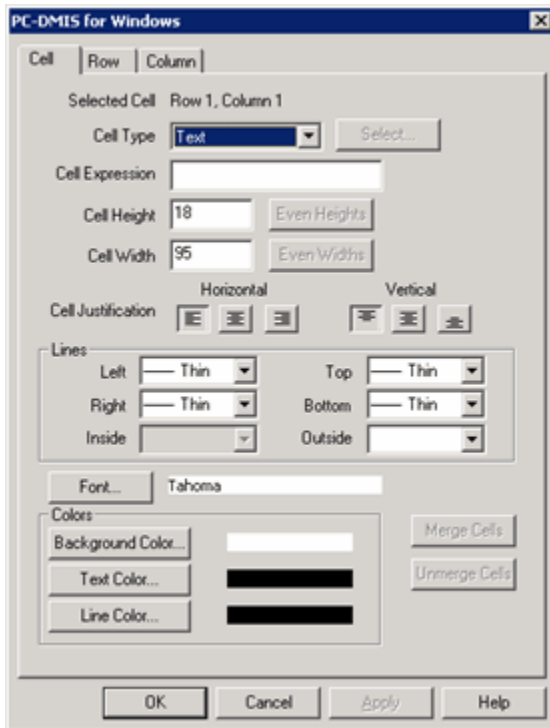
**CommandTextObject**、スタティックなビットマップまたは円図形の楕円 オブジェクトをラベル テンプレートに追加しました。この手順の最後で、ラベルのテンプレートはこのようになります：




ラベル テンプレートはCommandTextObject と静的なビットマップ オブジェクトを表示します。

### ステップ3: GridControlObjectの挿入および書式設定

1. **GridControlObject icon**  をクリックします。マウスポインタの形が十字に変わります。
2. ポインタを使用して、以前にCommandTextObjectを挿入したオブジェクトの下ボックスを同じ幅になるようにドラッグします。
3. キャンバスの残りの部分いっぱいの高さを調節します。挿入されると、グリッドは数個の行および列を表示します。
4. オブジェクトのプロパティにアクセスして**列** と**行** プロパティをそれぞれに3に変更します。
5. このオブジェクトを選択してまたセルを選択します。これを行うには、一番上の行の最初のセルをダブルクリックします。これは青色の背景のセルをハイライトして、それを選択したのを表示します。
6. 最上部の行を選択します。これを行うには、最初のセルを選択した状態で Shift キーを押し、その行における最後のセルをクリックします。PC-DMISは行全体をハイライトします。
7. GridControlObjectを右クリックします。オブジェクトのダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスを使用して、選択したセルに対してテキストおよび式の挿入と同様、書式設定を行うことができます。



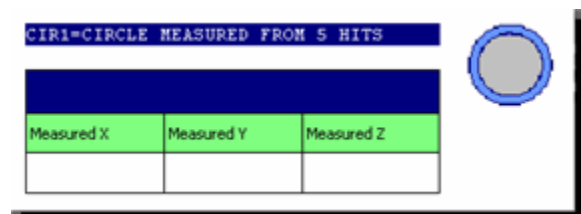
GridControlObjectのダイアログ ボックス

8. マージ ボタンをクリックして選択されたセルをマージします。
9. 結合されたセルの背景色を設定します。[背景色] ボタンをクリックし、[色] ダイアログボックスを開きます。ダークブルー色を選択してOKをクリックしてください。
10. 結合されたセルのテキスト色を設定します。テキスト色ボタンをクリックして同じように白を選択します。
11. ヘディングを作成するには、2列目の最初のセルを選択し、右クリックしてダイアログボックスを表示します。[セルの式]ボックスに「測定値X」と入力します。ダイアログボックスを閉じ、2番目のセルについても同じ操作を行い、「測定値Y」と入力します。最後に、最後のセルに対しても同じ操作を行い、「測定値Z」と入力します。
12. 2行目全体を選択します。右クリックし、緑色の背景色を選択するためにダイアログボックスを使用します。
13. セルの正当化の下で、垂直方向の下で、垂直方向の中央に、そのセル内のテキストに真ん中のボタン  をクリックします。
14. OK をクリックして、当該ダイアログ ボックスを閉じてまたオブジェクトを削除します。



## テンプレート作成

GridControlObjectを挿入して行と列の数を変更する方法を学びました。テキストをセルに追加する方法とこのオブジェクトの指定されたダイアログボックスを使用してグリッドをフォーマットする方法を学びました。この手順を完了したら、ラベルテンプレートは以下のようになります：




ラベルは挿入とフォーマットされるGridControlObjectを表示します。

### ステップ4: GridControlObjectに式を追加する

1. GridControlObject の最初の行を選択します。
2. 選択されたら、セルに直接"=ID"と入力します。これはセルに要素のIDを表示するようPC-DMISに命令する式です。
3. 選択3行目から最初のセルを選択して「=MEAS\_X」を入力します。
4. 2番目のセルを選択し、"=MEAS\_Y"と入力します。
5. 3番目のセルを選択し、"=MEAS\_Z"と入力します。これらの式はPC-DMISに要素X、Y、とZ値を表示したいのを意味します。オブジェクトの選択を解除する時には、PC-DMISはオブジェクトで使われるフィルターのテキストからの式値を表示します。式の情報について「About Report Expressions」を参照してください。
6. 境界オブジェクトを使用して、ラベル周囲に境界オブジェクトを描画します。ラベルの大きさを幅約 4.5 インチ×高さ約 2 インチに変更しなければならない場合があります。
7. 境界を右クリックして、線を幅 2 にします。
8. コンテンツの位置を調整してそれらが境界内に入ります。

ラベル テンプレートにいくつかのレポート式を追加しましたが、前のテンプレート周りに境界を描いてそれをテストします。この手順を完了したら、テンプレートは以下のようになります：

CIR1=CIRCLE MEASURED FROM 5 HITS		
F1		
Measured X	Measured Y	Measured Z
2.41	4.52	6.091

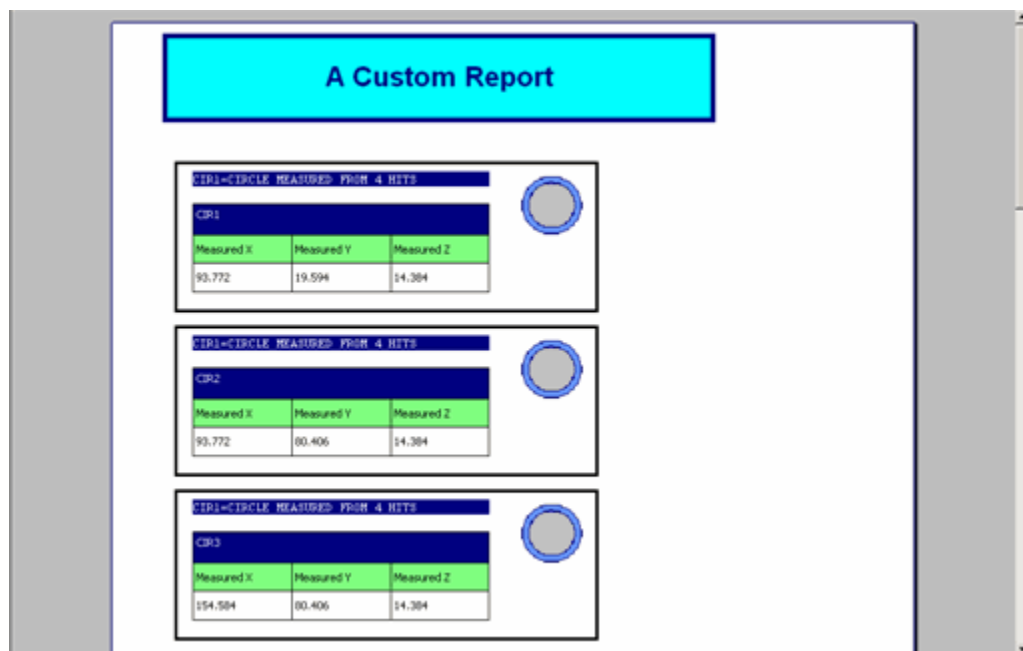


ラベルは式の結果を表示します。

### ステップ5: ラベルテンプレートを保存してテストする

1. [ファイル | 保存]を選択し、ラベル テンプレートを保存します。[名前を付けて保存]ダイアログ ボックスで、テンプレートに"TestLabel.lbl"と名前を付けます。
2. ファイル| 終了を選択してこのテンプレートエディタを閉じます。
3. [ファイル | レポート | 編集 | レポート テンプレート]を選択し、先のチュートリアルで作成した[Test1.rtp]テンプレート ファイルを選択します。
4. レポート テンプレートの一番組セクションに挿入したTextReportObjectを選択してまたそのプロパティにアクセスします。
5. [ルール ツリー エディタ]および[ルールの編集]ダイアログ ボックスを使用し、全ての測定円に対してTextReportObjectオブジェクトにTestLabel.lblを表示するようルールを作成します。ルールの作成方法を覚えていない場合は、"ルールの定義"トピックの手順に従ってください。
6. ファイル| 保存を選択してレポート テンプレートを保存します。
7. ファイル| 終了を選択してそれを閉じます。
8. 測定ルーチンを実行し、テンプレートを適応します。
9. [表示|レポートウィンドウ]を選択して最終レポートを表示します。

ラベル テンプレートを保存してテストした後に、それは次のようになります：

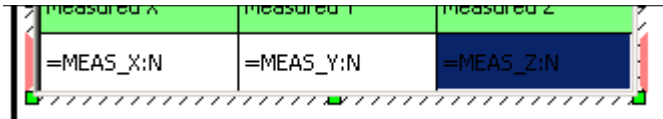


レポートウィンドウサンプルは新しく作成されるラベルを表示します。各円の要素の測定されるX、Y、とZ センターデータを注意してください。

### ステップ6:繰り返し行を作成する

これまでのところ、ラベルが円形センターのXYZを表示します。代わりに、個々の先端データを取得したいのを仮定します。この繰り返すラインを使用して行うことができます。

1. **[ファイル| レポート| 編集 | ラベル テンプレート]**を選択します。ダイアログ ボックスより、TestLabel.lblを選択し、**[開く]**をクリックします。ラベル テンプレート エディタが起動され、TestLabel.lblが表示されます。
2. GridControlObjectにアクセスします。
3. 3行目から最初のセルを選択します。一旦それを選択したら、右クリックして GridControlObjectのダイアログボックスを起動します。
4. 行タブをクリックして下さい。
5. **[グループの繰り返し]**チェックボックスを選択します。これはPC-DMISにユーザーがその行を繰り返し可能にしたいことを通知します。**[式の繰り返し]**ダイアログボックスが使用可能になります。この時点で、行の左右にオレンジ色のマーカーが付いていることに注意してください。これは、行が繰り返し行であることを示しています。



ある行がオレンジ色のマーカーを表示します

6. **繰り返す式** ボックスに「=N\_HITS」を入力します。これはPC-DMISに要素の先端の総数を取って 使用可能な各先端の行を繰り返すのを指示します。
7. **セルタブ**をクリックして下さい。**セル式** ボックスに「=MEAS\_X」が見えます。式に「N」を追加してそれが「=MEAS\_X:N」と読み込めます。これはPC-DMISに使用可能な各先端のセルを繰り返すのを指示します。
8. 行にその他の二つのセルを選択してそれらを変更し、それらは同じのように「:N」コードを持ちます: " =MEAS\_Y:N" と " =MEAS\_Z:N"。
9. GridControlObjectに渡すためにラベルが拡大されてすべてのデータを含め、行が繰り返されるときに、ラベルのサイズを調整する必要はありません。
10. **OK** をクリックしてGridControlObject ダイアログボックスを閉じます。
11. ラベルテンプレートを保存し、[レポート]ウィンドウにアクセスします。**レポート** ツールバーの[レポートを再描画]アイコンをクリックすると、最新の変更が表示されます。PC-DMISは、円の中心点データを表示する代わりに、個々のヒットを表示します。

基本的な繰り返しの行数をカウントするために作成する方法、別の行構成で別のレポートテンプレートを作成する必要がなく複数のデータアイテムを表示する方法を学びました。

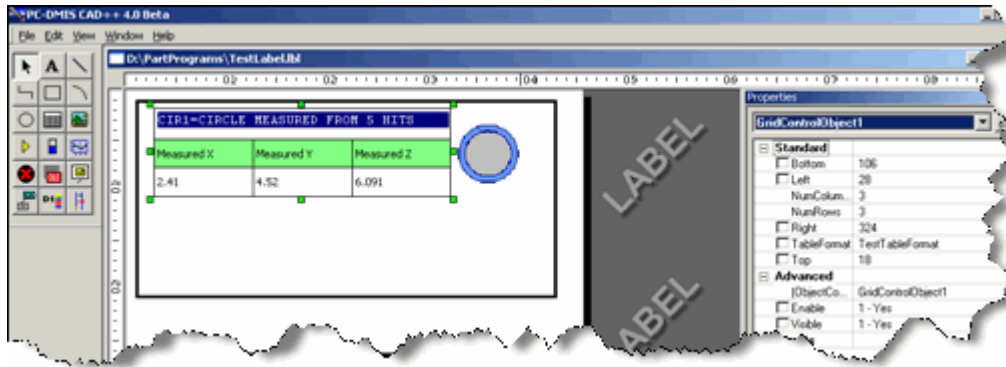
### ステップ7: 列タブを使用して列を定義する

1. TestLabel.lblラベルテンプレートにアクセスして、既存のGridControlObjectを選択します。
2. その最初の行を選択して右クリックし、[GridControlObjec] ダイアログボックスを表示します。
3. **セルを分離** ボタンをクリックしてください。最初の行を構成するシングルのセルは3つのセルになります。
4. 一番目セルの「=ID」 式テキストを削除してください。CommandTextObjectが自動的に表示されるために、本当に最終的なラベルのテンプレートをこの式を必要としません。
5. **背景色** と**テキスト色** ボタンを使用してセルの背景色を白に変更してまたそのテキストを黒に変更します。

## テンプレート作成

6. 最初の行に内部の列ラインを削除します。これを行うには、最初のセルを選択してダイアログ ボックスにアクセスし、セル タブに、ライン エリアに、右リストのライン値を薄い から ない に変更します。同様に中央のセルにこの手順を繰り返します。
7. **OK** をクリックしてGridControlObject ダイアログボックスを閉じます。ラベルのテンプレートがそのセルを合併するのを表示しますが、現実には、これらのセルの列のラインは単に隠されます。
8. 最初行から左のセルを選択してダイアログ ボックスにアクセスします。
9. 列 タブをクリックして下さい。列リストボックスに、「測定されたX」を入力します。**OK** をクリックしてGridControlObject ダイアログボックスを閉じます。
10. 中央と右のセルにこの手順を繰り返し、「測定されたY」「測定されたZ」と入力します。これらの列見出しを使用して各列の可視性およびそれ以降のご順序をコントロールします。
11. この前にテンプレートに追加したCommandTextObjectを選択し、またそれをドラッグし、それはGridControlObjectの最初の行のトップに残ります。
12. 場所を変更してまたは楕円か以前に作成した円形Bitmapオブジェクトをサイズし、それはGridControlObjectの右側に沿ってセンターします。
13. 境界オブジェクトのトップラインを選択してドラッグしますので、それはGridControlObjectの上にちょうどににあります。
14. ラベル内のすべてのオブジェクトの周囲にボックスをドラッグしてそれらを選択します。彼らはレーベルのキャンバス上に行く限り、これらのオブジェクトを上と左へドラッグします。
15. 右クリックしてGridControlObjectのプロパティにアクセスしてください。
16. 「TestTableFormat」を [テーブルフォーマット] プロパティに入力し、TAB キーを押します。
17. ラベルテンプレートを保存して終了します。

この手順で、セルを分離する方法、セルラインプロパティの設定、列見出しの挿入、また複数のオブジェクトを選択して移動する方法を学びます。列見出しを定義するのは、可視性とその場で列の順序をコントロールできます。この手順を完了したら、ラベルテンプレートは以下のようになります：



### ステップ8: グリッドの形式テーブルを定義する

1. レポート テンプレート エディタよりTest1.rtpのレポート テンプレートを開きます。
2. TextReportObjectを選択し、右クリックして プロパティダイアログボックスにアクセスします。
3. [ルールツリー] プロパティで、[ルール] をクリックして [ルールツリーエディタ] ダイアログボックスを開きます。
4. ルールツリーエディタを使用して以前に作成したルールに移動します。
5. ルールを選択して [編集] をクリックし、[編集ルール] ダイアログボックスを開きます。
6. グリッドフォーマットボタンをクリックします。[テーブルフォーマットプロパティ] ダイアログボックスが開きます。
7. 新しいテーブル名 ボックスで、「TestTableFormat」を入力してテーブルを追加をクリックします。
8. エディットボックス内の列リストの下に、「測定されたX」と入力し、[列の追加]をクリックします。
9. これと同じ方法で「測定されたY」と「測定されたX」列を追加します。
10. レポートテンプレートエディタに戻るまで様々なダイアログボックスにOK をクリックします。
11. ファイル| 保存を選択してレポート テンプレートを保存します。
12. ファイル| 終了を選択してレポートテンプレートエディタを閉じます。

このステップで、全く同じ名前を持つ列を追加し、テーブルフォーマットプロパティに与えた同じ名前をテーブルに付けることによって、テーブルフォーマットプロパティダイアログボックスにおけるTestTableFormatテーブルに対してGridControlObjectの列を関連付けました。この時点で順序や可視性を変更していないので、ダイアログボックスで新しく作成されたテーブルは下記のようになります。

## テンプレート作成



テーブル形式のプロパティダイアログ ボックスは新しく作成されたTESTTABLEFORMAT テーブルを表示します

### ステップ9: テーブル/フォーマットコマンドを使用して列の可視性と順序をコントロールする

1. 編集ウィンドウが表示されない場合、表示| 編集ウィンドウ を選択して編集ウィンドウを表示します。
2. 編集ウィンドウをコマンドモードにします。
3. 挿入| レポートコマンド | テーブル形式を選択します。[テーブルフォーマットプロパティ] ダイアログボックスが開きます。
4. テーブルID リストからTESTTABLEFORMAT テーブルを選択します。列 エリアは列がこのカスタムテーブル形式に利用可能であることを表示します。
5. 測定されたZ ボックスをクリアして最終報告書での列を非表示にします。
6. 測定されたY を選択して列 エリアの横の矢印アイコンをクリックして測定された Y 列を再順序しますので、それが最初にレポートに表示されます。
7. [OK] をクリックします。PC-DMISが、編集ウィンドウ内にTABLE/FORMATコマンドを挿入します。このコマンドにより、列の表示および並び順がコントロールされます。

テーブル/フォーマット、TESTTABLEFORMAT

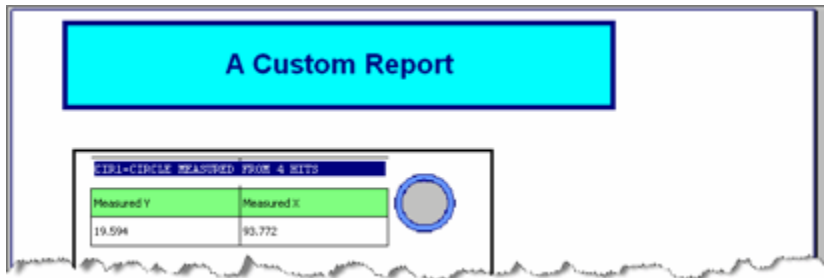


柱/順序、 測定されるX 、測定されるY、

行/順序

8. ユーザの測定ルーチンを保存して実行します。PC-DMISが起動する場合、 測定されるX と測定されるY 値の順序は変更され、Z 列は非表示であることを注意してください。

この最後のステップで、**TABLE/FORMAT**コマンドを挿入して使用し、ラベルテンプレートにおける列の順序と可視性を定義する方法を習得しました。完了したレポートは以下のようなはずです。



最後完了したレポートは測定されたY とX 列だけを表示します。

## レポートでのラベル使用

レポート内でラベルを使用するには、レポート テンプレートを開き、次のオブジェクトのうち少なくとも1つを追加する必要があります:

- ラベル
- TextReportObject
- CadReportObject

一旦オブジェクトが存在する場合、それを右クリックしてプロパティ ダイアログ ボックスにアクセスします。最後に、**ルール ツリー エディタ**を使用して1つまたは複数のラベルテンプレートを使用するルールを定義します。

レポート テンプレートが適用された場合、指定されたルールに従い、選択されたラベル テンプレートが使用されます。



## スタンドアロンラベル順序付け

レポートテンプレートでスタンドアロンラベル オブジェクトを使用する場合、デフォルトでは、PC-DMISはそれらに測定データをレポートの前から後への順序で入力します。これを説明するには、スタンドアロンのラベルを追加するとき、PC-DMIS はプロGRESSIVE英数字ID (Label1, Label2...LabelN、ここでNは最終的なラベル数を示します)で各ラベルを定義します。ラベルIDはラベルが記入される順序をコントロールできませんが、ここで順序付けがどのように行われるか簡単に説明できます。レポート作成中にラベルIDをまったく変更していないと仮定すると、LabelNが有効になり最初に記入され、Label1が有効になり最後に記入されます。






これはスタンドアロンのラベルでのみ発生し、TextReportObjectまたはCadReportObject内部で使用するラベルでは発生しません。

## スタンドアロンラベル順序付けの変更

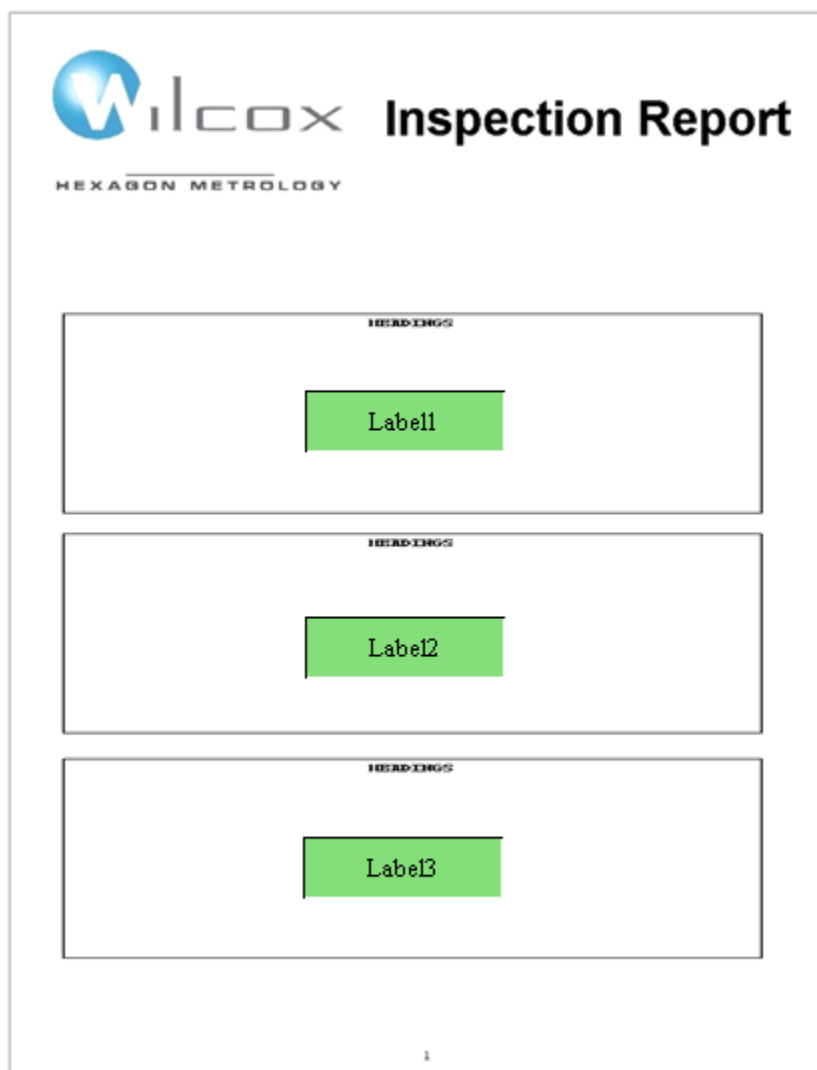
PC-DMISは初めて希望する順序でラベルを入力していない場合があるため、**編集|順位**サブメニューを使って、ラベルの描画順序を変更することができます。



また、[レイアウトバー]にある[前方または後方へ]アイコンをクリックし、[前方に移動する]または[後方へ送る]ボタンをクリックします。

描画の順番を変更すると、PC-DMISは一番上の描画ラベルを最初に記入し、一番下の描画ラベルを最後に記入します。

たとえば、3つの大きなラベルを持つと仮定して トップのLabel1、中部のLabel2、また下部のLabel3でひとつのセクションを記入します。



大きな三つのラベルのあるサンプルレポートテンプレート

最初にはLabel3、次はLabel2、最後はLabel1を塗りつぶします。PC-DMISが測定ルーチン順序にデータを表示するのを保証するには、以下のようにラベルの描画順序を変更できます：

1. Label1を選択して**編集| 順序| 最前へ**を選択します。
2. Label2を選択して**編集| 順序| バックに発送**を選択します。
3. Label3を選択して**編集| 順序| バックに発送**を選択します。

## レポート ウィンドウでのラベル配置

レポート テンプレートが測定ルーチンのデータを受け取ると、データに適合するために、ラベルを動的にサイズ変更しなければなりません。したがって、測定ルーチン実行

## テンプレート作成

の後には、これらのラベルは、最適の位置にない可能性があり、あるいは、その他のラベルと重複しているかもしれません。しかし、ラベルを選択しそれを新しい位置にドラッグすることで、ラベルを置く場所を簡単に変更できます。

次のいずれかの方法でラベルを選択することができます。

- ラベルをダブルクリックします。
- Ctrlキーを押しながらラベルを左クリックします。
- ラベルの周りにボックスをドラッグします。

後者の2つの方法は、同様に複数のラベルを選択するために使用されます。

## テーブル形式コマンドの使用

**TABLE/FORMAT** 編集ウィンドウのコマンドで、測定ルーチンにフライに **GridControlObject** の列と行の順序と可視性をコントロールできます。これは、ある特定の行または列を並べ替えたり非表示にするだけの場合、ラベル テンプレート エディタを使用して同じラベル テンプレートの別の形式を作成する必要がないことを意味します。代わりに、プログラムにこのコマンドを挿入してラベル テンプレートに **GridControlObject** を表示する方法を定義できます。



このコマンドが正常に動作するように、**GridControlObject** の **TableFormat** プロパティの値を編集ルールダイアログ ボックスのグリッドフォーマット ボタンに定義された同じテーブルの形式名に設定する必要があります。

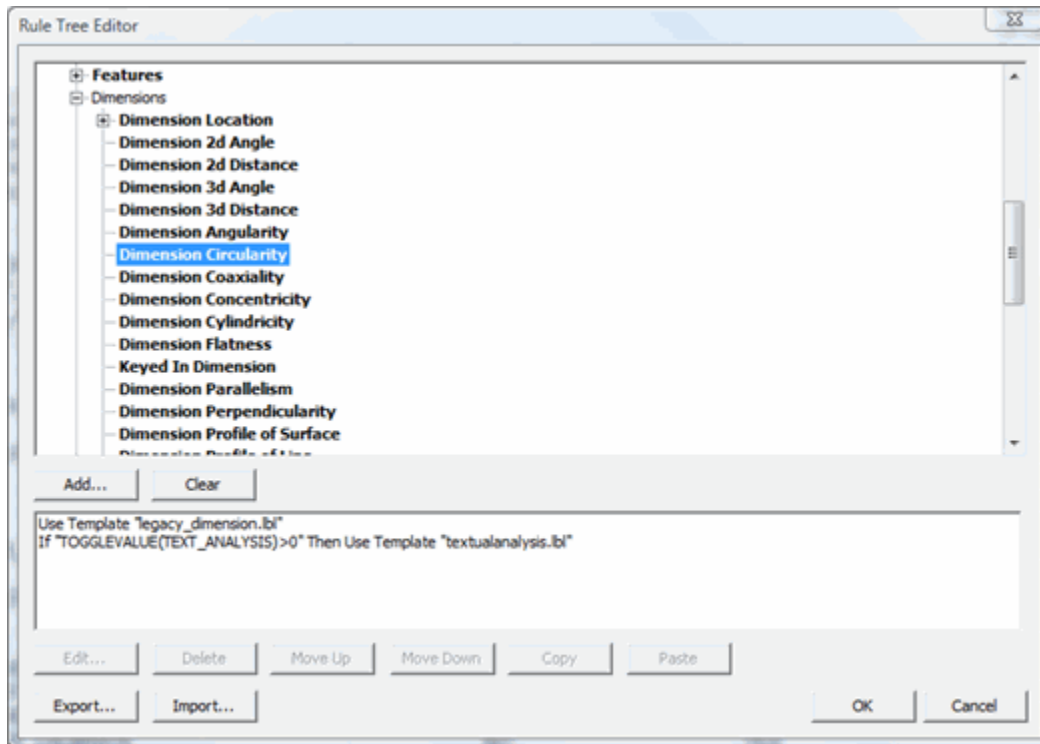
### コマンドの挿入

このコマンドを挿入するには、**[挿入| レポートコマンド | テーブル形式]** を選択してください。テーブル形式プロパティ ダイアログ ボックスが表示されます。このダイアログ ボックスはルール ツリー エディタで使用するダイアログ ボックスと同じであり、**GridControlObject** を使用してラベルテンプレートの行列の可視性と順序をコントロールします。行や列の操作を終了したときに **OK** をクリックすると、PC-DMIS が **TABLE/FORMAT** コマンドを編集ウィンドウに挿入します。

挿入された **TABLE/FORMAT** コマンドはルールの編集 ダイアログ ボックスのグリッドフォーマット ボタンで定義された任意の順序よりも優先です。

## 規則系統図エディタについて

[ルールツリーエディタ] ダイアログボックスでは、ルールまたは条件と応答を定義でき、特定のオブジェクトがレポート情報を表示する場合に従います。たとえば、測定ルーチンが他の多くの機能が含まれても、レポートに円要素の真円度の測定結果の情報のみを表示したい場合もあるでしょう。このエディタを使用してこれを行うことができます。レポートテンプレートでは、**CadReportObject** を追加してそのオブジェクトのルール ツリー エディタ にアクセスできます。エディタ内では、円要素の種類を指定して、真円度のデータを表示するようプログラムされたラベルテンプレートを選択できます。



[規則ツリーエディター] ダイアログボックス

### Supported Objects:

ルールツリーエディタ は、レポートテンプレートエディタから利用可能な以下のオブジェクトとともに機能します。

- TextReportObject
- CadReportObject
- ラベルオブジェクト

## テンプレート作成

また、**カスタム レポート エディタ** 内で利用可能な ページオブジェクトと一緒に機能します。これらのオブジェクトのみが、**ルール ツリー エディタ**を使用して測定ルーチンからデータにアクセスできます。

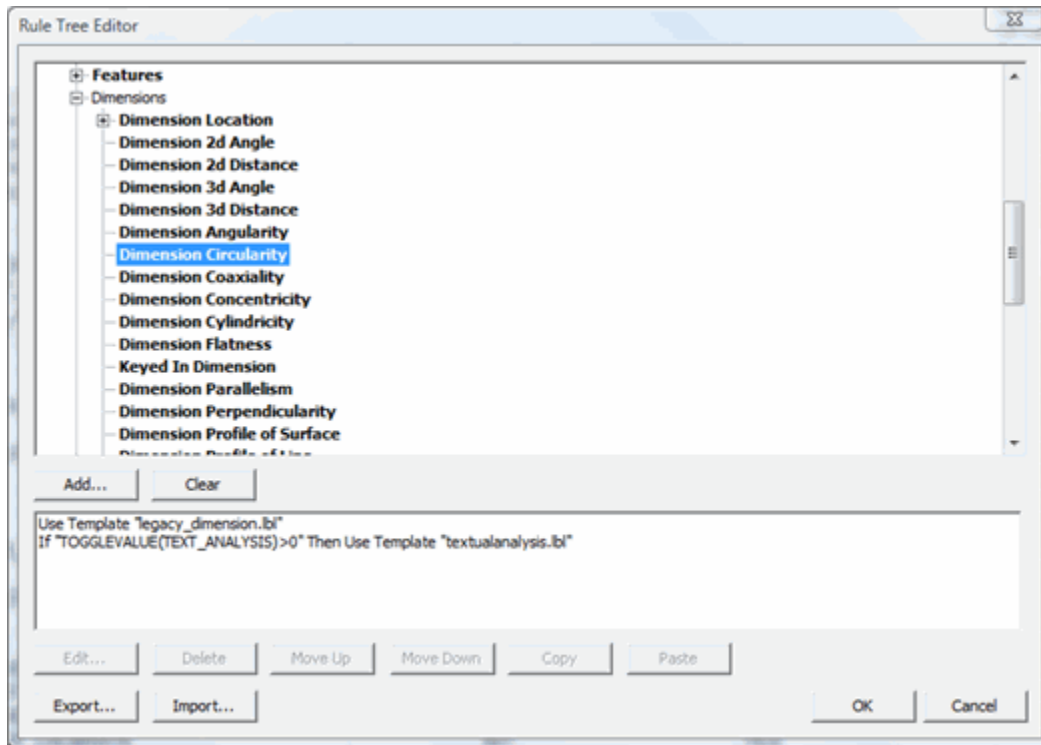
### ルール ツリー エディタへのアクセス :

1. レポート テンプレートにサポートされるオブジェクトを挿入して、または **カスタム レポート エディタ** からページオブジェクトを選択してください。
2. オブジェクトを右クリックします。
3. **RuleTree**プロパティの横にある**規則**をクリックして、**ルール・ツリー・エディタ**ダイアログボックスを開きます。

## ルール ツリー エディタにルールを定義します

[**ルールツリーエディター**] ダイアログボックスを使用してルールを定義するには、以下の手順に従います :

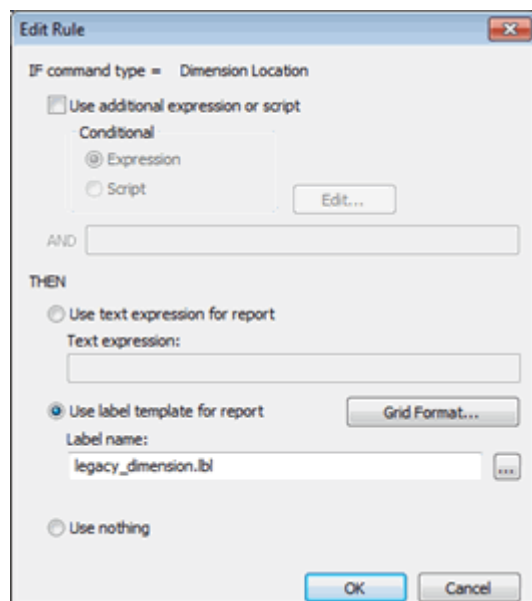
1. **ファイル| レポート| 新規 | レポートテンプレート** を選択して、レポートテンプレートエディタにアクセスします。
2. テンプレートに **TextReportObject**、**CadReportObject**または **ラベル オブジェクト**を追加します。
3. オブジェクトを右クリックしての [**プロパティ**] ダイアログボックスを開きます。
4. [**ルールツリー**] プロパティを選択して、[**ルールツリーエディター**] ダイアログボックスを開きます。ダイアログボックスには測定ルーチンを構成する様々な項目が一覧表示されます。項目を展開するには、プラス (+) 記号をクリックして特定の項目またはコマンドを表示します。一覧の展開の内部にない独立した項目の一部を下記に示します :



[規則ツリーエディター] ダイアログボックス

- **セクションの最初のページの上部** - この項目を使用して、レポートの現在のセクションにある最初のページの上部にラベルまたはテキストの式を表示できます。
  - **セクションの最後のページの下部** - この項目を使用して、現在のセクションの最後のページの下部にラベルまたはテキストの式を表示できます。
  - **ファイルヘッダー** - この項目を使用して標準のレポートヘッダー (パート名、改訂番号、シリアル番号および統計数など) をカスタムラベルまたはテキスト表現で置き換えることができます。ファイルヘッダーはレポートの現在のセクションの最初のページに表示されます。
5. 下記のように満たすべき条件を定義します：
- 一覧から条件として定義する項目を選択します。
  - **[追加]** をクリックして **[ルールの編集]** ダイアログボックスを開きます。

## テンプレート作成



[規則の編集] ダイアログボックス

- 別の条件を定義する場合は、いずれかのレポート言語の式または BASIC スクリプトを選択できます。これを行うには、**追加の式またはスクリプトを使用** チェックボックスを選択し、**条件付きの** エリアに、**式** または **スクリプト オプション** のいずれかを選択します。
  - **式**を選択したら **[条件式]** ボックスに条件を入力します。例えば、測定される円のルールを作成するには、円の任意のデータ型フィールド値をテストしてラベルを表示するかどうかを決定できます。測定される円が 3 つ以下のヒットを有する場合にのみラベルを表示したいとします。**条件式**ボックスで次のように入力します:

`N_HITS < 4`

この条件が TRUE として評価される場合、PC-DMIS は関連するラベルを使用します。IF ステートメント全体を追加する必要はありません。IFステートメントはすでに理解され、このボックスで評価済みです。

- **スクリプト編集** ボタンをクリックしてBASICスクリプトを作成します。**VBS ミニエディタ** コードを入力できる場所を表示します。満たされるためにスクリプトがTRUEの状態を返す必要があります。終了したら右クリックして **[構文の確認]** を選択し、**[OK]** をクリ

ックします。PC-DMIS は自動的に定義されたルールでスクリプトを保存します。



ルールが削除されるとスクリプトは失われます。これを防ぐにはスクリプトを別のテキストファイルに保存します。

6. 条件が満たされる場合、ラベル、式または無しを定義します。[ルールの編集] ダイアログボックスで以下のうちの一つを選択します：

- レポートに式テキストを使用

- テキスト式の選択する場合、[テキスト式] ボックスで簡単なテキストメッセージを入力するか、式を定義します。例えば、PC-DMIS が円を測定するときは常に、ユーザーは下記のような静的テキストを入力できます：

「円を測定しました!」

- 下記などの式を使用して円に関する情報を追加することもできます：

「円を測定しました!それには「 + N\_HITS + 」ヒットがありました!」

- レポートにラベルテンプレートを使用

- ラベルテンプレートを使用する場合、ラベルテンプレートを選択します。このフィールドは式がラベルテンプレート名に評価される場合、それらの式も受け入れます。式を使用する場合、その前に"=" 記号を付けます。希望の場合、[グリッド書式] ボタンをクリックして [テーブル形式プロパティ] ダイアログボックスを開きます。このダイアログボックスを使用して、レポートのグリッド書式を定義します。グリッド書式によって、新しいラベルのテンプレートを作成せずに列と行を並べ替えるか非表示にすることができます。グリッド書式を定義することによって、TABLE/FORMAT 編集ウィンドウコマンドを使用して、測定ルーチン内の行と列の順序をコントロールすることができます。グリッド形式の定義方法について詳しく



は、PC-DMIS Core ドキュメントにある「テーブル形式プロパティダイアログボックスの使用」トピックを参照してください。

- **何も使用しない**
  - *何も使用しないを選択した場合*、PC-DMISはその条件に対して何も表示しません。特定の要素、コマンドまたは条件に対して何も出力したくない場合、これが役立つことがあります。**何も使用しない**はTextReportObjectのみに適用されます。
- 7. **[ルールの編集]** ダイアログボックスに記入後、**[OK]** をクリックします。PC-DMIS は太字で項目を表示し、そのルールを **[ルールツリーエディター]** ダイアログボックスの下部に追加します。
- 8. ルールを整理します。一定のコマンドタイプに対して複数のルールを作成することができます。コマンドに複数のルールがある場合、PC-DMIS はそれらを表示される順番に評価します。評価の順番を変えるには、ルールを選択し、**[ルールツリーエディター]** ダイアログボックスで **[上に移動]** または **[下に移動]** をクリックします。
  - ルールをコピー&ペーストするには、**[コピー]** および **[ペースト]** ボタンを使用します。ルールを別の項目、複数の項目またはまったく異なるツリーにコピーすることができます。ルールのコピー&ペーストの方法について詳しくは、PC-DMIS Core ドキュメントにある「ルールのコピーとペースト」トピックを参照してください。
  - 項目からルールを削除するには、**[削除]** または **[消去]** をクリックします。複数の項目からルールを削除するには、それらを選択して **[消去]** をクリックします。ルールの消去について詳しくは、PC-DMIS Core ドキュメントにある「ルールの消去」トピックを参照してください。
- 9. **ルールツリーエディター**で **[OK]** をクリックして変更を保存します。
- 10. ルールをテストします。
  - レポート テンプレートを保存します。
  - レポートウィンドウの **[レポート]** ツールバーを使用して、レポートデータにレポートテンプレートを適用します。
  - 測定プログラムを実行します。



子エレメントに割り当てられるルールは、常に親エレメントに割り当てられるルールを上書きします。子エレメントにそれ独自のルールがなければ、親ノードに割り当てられるルールはそれぞれの子エレメントに割り当てられます。

## 規則のインポートとエクスポート

コラボレーティブな環境で作業する時には、おそらくその別のレポート テンプレートから作成されたルールを共有したい場合があります。**ルール ツリー エディタ** ダイアログ ボックスを使用して、**インポート** ボタンを使用して簡単にこれを行い、その他の人のルールをインポートし**エクスポート** ボタンを使用してその他の人と自分のルールを共有します。

ルールファイルは「.rul」 ファイル名拡張子を持ちます。

### ルールファイルのインポート

1. **ルール ツリー エディタ** ダイアログ ボックスにアクセスします。
2. **インポート** ボタンをクリックして下さい。**[開く]** ダイアログ ボックスが表示されます。
3. インポートしたいルールファイル(.rul)が含まれるディレクトリに移動します。
4. **[開く]** をクリックして下さい。PC-DMIS はルールファイルを**ルール ツリー エディタ**にインポートします。
5. **OK** をクリックしてインポートされたルールを保存します。

### ルールファイルへのエクスポート :

1. **ルール ツリー エディタ** ダイアログ ボックスにアクセスします。
2. **エクスポート** ボタンをクリックして下さい。**[名前を付けて保存]** ダイアログ ボックスが現れます。
3. ルールファイル(.rul)を保存するディレクトリに移動します。
4. **Filename** ボックスのファイルに名前を入力します。
5. **[保存]** をクリックします。すべてのルールは、オブジェクトがエクスポートさに関連付けられます。誰かが、エクスポートされたルールをインポートして使用できます。

## 規則のコピーと貼り付けて

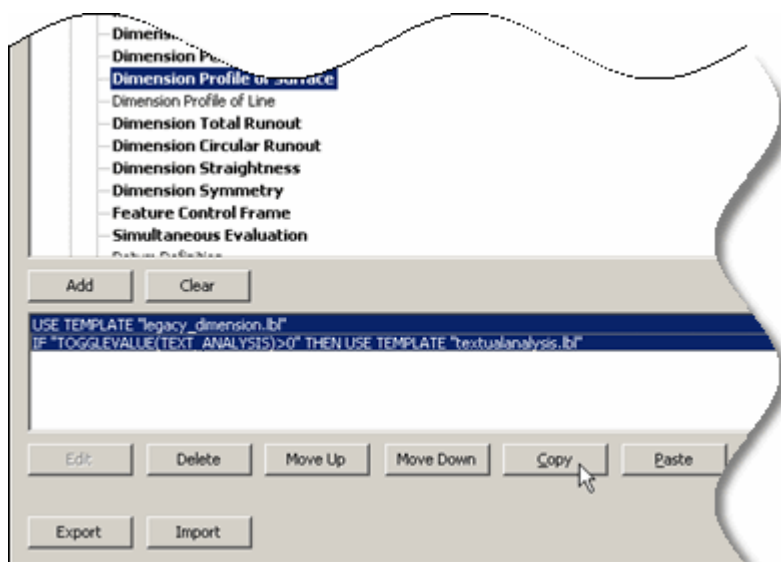
**ルール ツリー エディタ** は**Copy** と**Paste** ボタンを含まれ、異なるオブジェクトまたは同じなルール ツリー エディタ の異なる項目のために現在のルール ツリー エディタ とルール ツリー エディタ の間のルールをコピーと貼り付けができます。



コピールールはWindowsのクリップボードに保存されません。ここで特定のコンテキストの外でルールをコピーまた貼り付けることはできないと説明します。

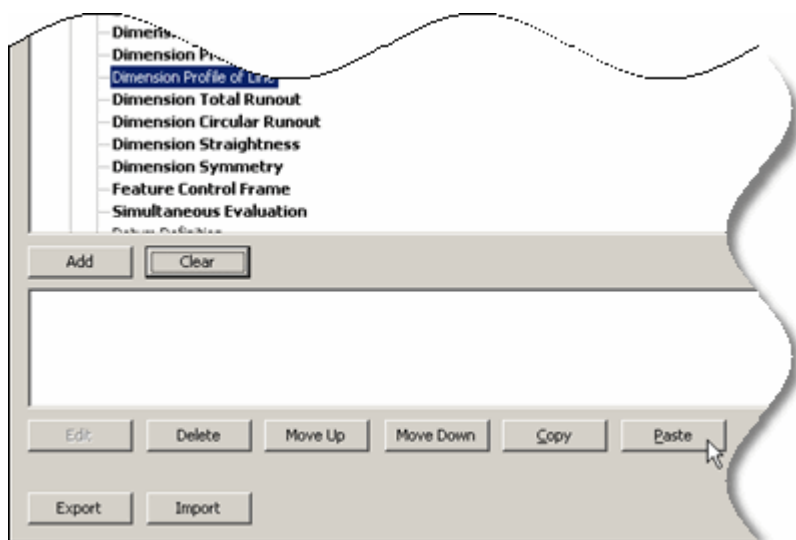
### ルールをコピーと貼り付けるには：

1. **ルール ツリー エディタ**から1つのアイテムを選択します。ツリーエディタから複数の項目を選択した場合、コピー コピーボタンが有効になりません。
2. ルールリストボックスから1つ以上のルールを選択します。コピーボタンが選択有効になります。



二つの規則のコピーを表示する例。

3. **コピー**をクリックして下さい。
4. ルールのツリーから1つまたは複数の項目を選択してハイライトします。複数の項目を選択する場合にはCtrl キーを押し続けて下さい。貼り付け ボタンは利用可能になります。



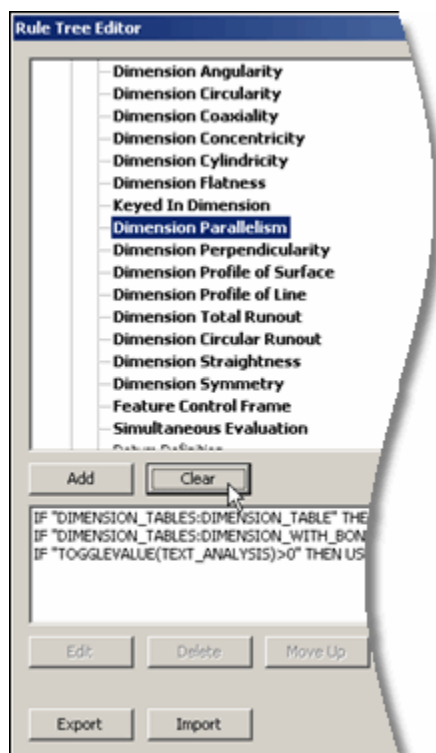
コピーされる規則の空項目への貼り付けを示す例。

5. **貼り付け** をクリックしてコピーされるルールを選択される項目に貼り付けます。コピーされるルールとルールをもう一つ以上のルールを含む項目に貼り付ける場合、既存のルールは新しいルールによって上書きされない、しかし、新しいルールは既存のリストに代わりに追加されます。**貼り付け** を複数回にクリックしていくつかの異なるルールツリー項目に挿入します。
6. **ルール ツリー エディタ** の**OK** をクリックして変更を保存します。

## 規則消去

**クリア** ボタンは**ルール ツリー エディタ**から選択されたの1つまたは複数項目に関連付けられるすべてのルールを削除します。追加項目を選択している場合、Ctrlキーを押して1つ以上の項目を選択することができます。

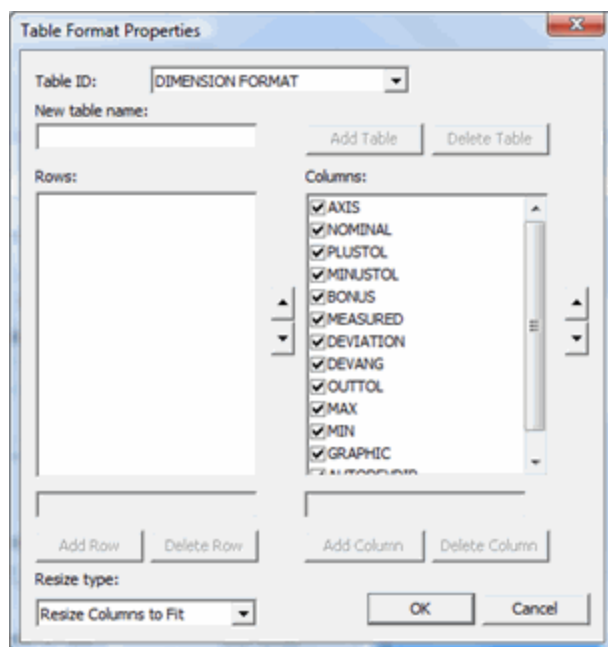
## テンプレート作成



選択された項目に対する規則の消去を示す例。

## [テーブル形式のプロパティ]ダイアログ ボックスの使用

**テーブル書式** ダイアログ ボックスは **GridControlObject**に定義された列と行名と動作して、ラベルテンプレートの**GridControlObject**にラベルと可視性と列の順序をコントロールできます。一旦に **ルールの編集** ダイアログボックスから**グリッド形式** をクリックしたら、このダイアログボックスが表示されます。**[規則の編集]**ダイアログボックスと**グリッドの形式**]ボタンの詳細については、「ルールキーエディタでの規則の定義」を参照してください。



[テーブル形式のプロパティ]ダイアログボックス

このダイアログボックスは別のテーブルのフォーマットを含めます。テーブル形式は名前つけた行と列が最終的なレポートに表示する方法を簡単に定義できます。ダイアログボックスで、順序とすべての既存のテーブル形式の表示状態を変更することができます。このダイアログボックスを使用して自分のカスタムテーブル形式を作成します。



既存のテーブル景色に対して、変更できる唯一のものはそれらの可視性状態とそれらの行または列の順序です。これらのテーブル形式を削除したり行または列に属するデータを変更することはできません。

テーブルの形式を使用するには、列または行はすでに名前つけた **GridControlObject** があるラベルテンプレートを使用する必要があります。

以下のプロパティが利用可能です。

#### テーブルID

使用可能なテーブル形式を一覧表示します。

#### 新規テーブル名

新しいテーブル形式を定義します。

## テンプレート作成

### テーブルを追加

新しいテーブル形式を追加します。このボタンは、**[新しいテーブル名]**ボックスに名前が入力された時のみ有効になります。

### テーブルを削除

選択されたカスタム テーブル形式を削除します。このボタンは、**[テーブルID]**リストからカスタム テーブルが選択された時のみ有効になります。

### 行

テーブル形式の行および列を一覧表示します。上矢印および下矢印をクリックするとこれらを並び替えることができます。

### 行/列を追加

行 または列 エリアに行または列の名を追加します。カスタム テーブル形式では、追加のみ可能です。

### 行/列を削除

行 または列 エリアから選択された行または列を消去します。カスタム テーブル形式では、項目の削除のみ可能です。

### リサイズタイプ

列を表示、または非表示にしたときにテーブルが行うことを定義します。次の3項目がリストに含まれます:

**グリッドをサイズ** - これは既存の列のサイズを保持して新しい幅に合わせてグリッドのサイズを変更します。

**合わせるために列のサイズを変更します** - これはグリッドの既存の幅のサイズを保持して既存の幅に合わせて均等に各列のサイズを変更します。

**テキストを非表示にします** - これはグリッドまたは列のサイズを変更していません。単にテキストが非表示となります。

### キャンセル

変更を適用せずにダイアログ ボックスを閉じます。



### OK

編集ウィンドウのルール ツリー エディタ または **TABLE / FORMAT** コマンドでルールに選択されたテーブル形式を使用します。

**GridControlObjectの列または行に名前を付けるには：**

1. ラベル テンプレートエディタに **GridControlObject**を選択します。
2. 列または行の一番目のセルをダブルクリックします。
3. 右クリックしてプロパティエディタにアクセスします。
4. **セル** または **列** タブのいずれかをクリックしてください。
5. **行ラベル** ボックスまたは**列ラベル** ボックスに値を入力します。リストから選択するか、任意の値を入力することが可能です。カスタム テーブル形式では、カスタム ラベルが表示されるのみです。

**列または行を並び替えるには、次の操作を行います：**

1. **テーブルID** リストからテーブル形式を選択します。
2. 既に行または列が表示されています。
3. **行** または **列** エリアで、レコードしたい行または列を選択して、上  または下  矢印ボタンをクリックして その項目を送ってまたはリスト内で上または下にします。リストの上にある項目は下の項目の前に表示されます。

**列または行を表示/非表示にするには、次の操作を行います：**

1. **テーブルID** リストからテーブル形式を選択します。既に行または列が表示されています。
2. **行** または **列** エリアに、ラベルの項目を非表示する行または列の名の左にチェックボックスをクリアします。チェックボックスをオンにすると、対応する項目がラベルに表示されます。

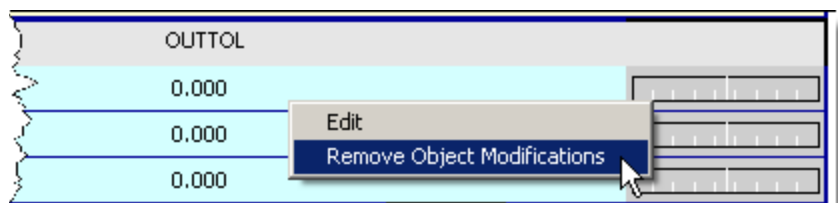
**カスタムテーブル形式を作成するには：**

1. **新しいテーブルの名前** ボックスに名前を入力します。
2. **追加テーブル** ボタンをクリックして下さい。カスタムテーブルは **Table ID** リストに表示され、削除されるまで残ります。
3. **行を追加** または **列を追加** ボックスに、 **GridControlObject**に与えた行または列のラベル名前に一致する名前を入力します。
4. **行を追加** または **列を追加** をクリックしてラベルに項目を追加します。
5. 目的のデータがテーブル形式に含まれるまで、必要に応じて行および列の追加、削除、または並べ替えを続けます。



### 変更を削除します

すぐに変更を削除するには、目的(TextReportObject、CADReportObject、またはLabel オブジェクト)レポートオブジェクトを右クリックして、[オブジェクトの変更を削除] ボタンを選択します。

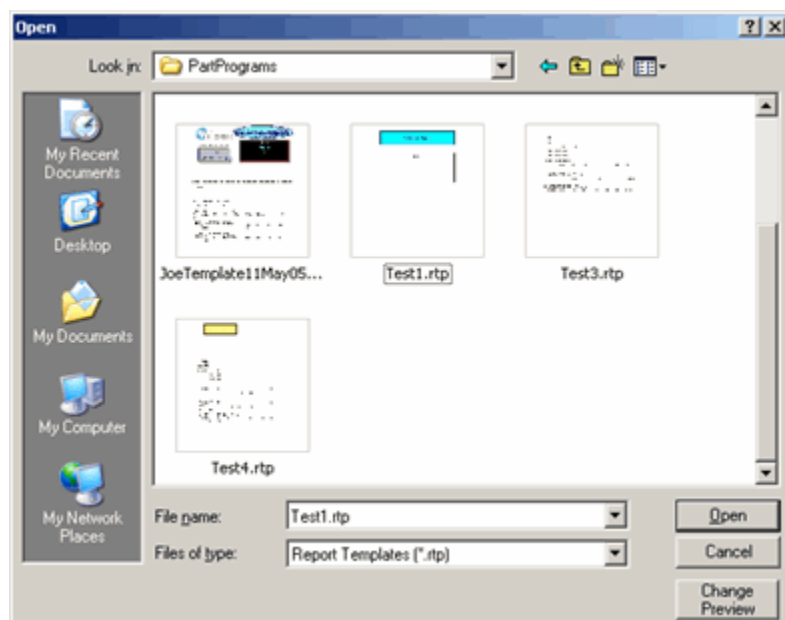


PC-DMISはレポートオブジェクトをそのデフォルトの状態に戻ります。

### [テンプレートのプレビュー]サムネイルアイコンの変更

レポートまたはラベルのテンプレートを作成するたびに、PC-DMISは自動的に最初のページまたはセクションをテンプレートに表示される内容に基づくテンプレートのサムネイルサイズのプレビューを作成します。

このサムネイルのプレビューは、テンプレートを編集して[開く] ダイアログ ボックスにアクセスしようとするたびに表示されます ([ファイル| レポート| 編集| レポートテンプレート] または[ラベル テンプレート])。

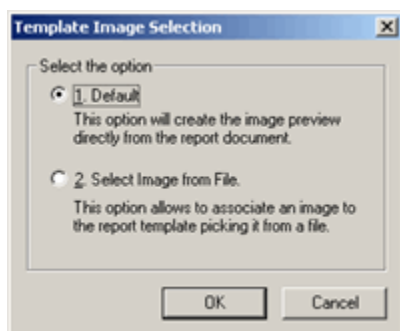


サンプル開くダイアログボックスがいくつかのレポートテンプレートプレビューのアイコンを表示します

テンプレートにデフォルト作成プレビューのかわりにカスタムイメージファイルを使用したい場合、開く ダイアログ ボックスにこれを行います。

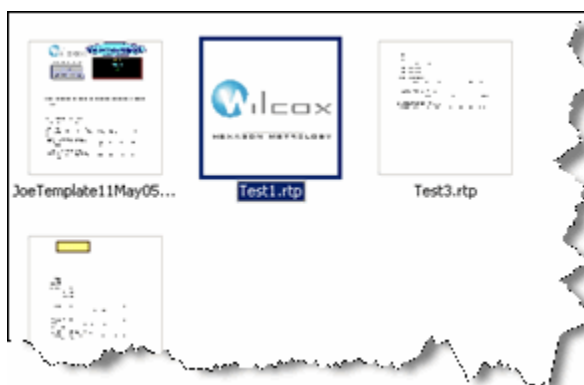
### テンプレートのプレビュー]サムネイルアイコンを変更するには：

1. 開く ダイアログ ボックスからテンプレートファイルを選択してください。
2. [プレビューの変更] ボタンをクリックして [テンプレート画像選択] ダイアログ ボックスを開きます。



[テンプレート画像選択] ダイアログボックス

3. ファイルから画像を選択 オプションボタンを選択して下さい。
4. [OK] をクリックします。別の [開く] ダイアログボックスが開き、これで既存のイメージファイルを選択できます。
5. .bmp または.jpeg ファイルが含まれるディレクトリへ移動し、画像ファイルを選択、または 開くをクリックしてください。PC-DMISは選択された画像をプレビューに使用します。



Test1.rtp ファイルをビットマッププレビュー画像で表示した例。

## テンプレートまたはフォームを以前のバージョンで保存

それらがさらにテンプレート報告を支援する初期のPC-DMISバージョンと後ろに互換性をもつように、報告書テンプレート、ラベル・テンプレートあるいはフォームを保存することができます。

これを行うには下記を実行してください：

1. 単にそのそれぞれの編集環境（レポートテンプレートエディタ、ラベルテンプレートエディタまたはフォームエディタ）の中に望ましいレポートまたはラベル・テンプレートを開いてください。
2. **名前を付けて保存**ダイアログボックスを開くには、**ファイル|名前を付けて保存**メニュー項目を選択します。
3. ダイアログボックスの下部近くにある**ファイルの種類**リストにおけるリストを使用してバージョンを指定します。これらの項目を保存することができる最も初期のバージョンはバージョン4.2 MR2です。希望のバージョンを選んで、**保存**をクリックしてください。



**ファイル|保存**メニュー項目を使用する場合、以前にそれが初期のバージョンに保存されたとしても、PC-DMISは自動的にPC-DMISの現在実行しているバージョンにアイテムを保存します。

## チュートリアル — レポート テンプレートの利用

大部分の場合、初めから新規レポートテンプレートを作成する必要はなく、PC - DMISで発行された既存テンプレートに基づいて新しいテンプレートを作成します。

例えば、風船付きの(または番号付きした)印刷があり、風船付きの数字をPPAPレポートの**アイテム**列のような(下に示すように)最終レポートに表示したいと仮定します。

Production Part Approval Process Dimensional Results		
Supplier:	Part Number:	
<Supplier>		
Inspection Facility:	Part Name:	
<Inspection Facility>		
Sample Identification:	Revision:	
<Identification>		
Item	Specification	+Tol
15 → 1	0.0000 (LOC1-X)	0.0100
30 → 2	-61.0000 (LOC1-Y)	0.0100
75 → 3	15.0000 (LOC1-D)	0.0100

どのように膨れ上がったデータを取ってPPAP テンプレートにしますか？

たぶん印刷の要素#15は穴のX寸法で、要素#30はY寸法で、また要素#75穴の直径です。どのようにこの情報を最後レポートの 項目 列に取りますか。1つの方法は、PPAPとラベル テンプレートを設定して測定ルーチンの変数から情報を取得します。

このチュートリアルは、PPAPレポートおよびラベルテンプレートのコピーを作成する方法を示しています。さらに、どのようにそれらを変更して 項目 ヘッドの下に表示される情報がPPAPレポートに表示される数の通常のシーケンシャルリストの代わりに測定ルーチンから取られた変数を表示します。



このチュートリアルは「レポート テンプレートの作成」と「ラベル テンプレートの作成」チュートリアルに学んだスキルを使用します。これらのチュートリアルを完了する必要があり、このチュートリアルで適切な基盤があります。

### ステップ1: PPAPレポート及びラベル テンプレートの複製

最初にする必要があるのはすべてのコンポーネントPPAPのレポートを生成するために使用のコピーを作成します。これらはレポートテンプレートと基になるラベルがテンプレートを含みます。

1. レポート テンプレートエディタでPPAP.RTPレポート テンプレートを開きます。
2. ファイル| 名前を付けて保存を選択します。
3. レポート テンプレートに "BALLOON\_PPAP.RTP"と名付けます。
4. レポート テンプレート エディタを閉じます。

5. ラベルテンプレートエディタで、それぞれにとして、これらのテンプレートを開いて、**File | 名を付けて保存**を選択して 以下のテーブルに表示されるように "BALLOON\_" ファイル名の接頭辞でそれらを保存します：

既存されるラベル テンプレート	ファイル名を付けて保存
PPAP_DIMENSION.LBL	BALLOON_PPAP_DIMENSION.LBL
PPAP_DIMENSION_TRUE_POSITION.LBL	BALLOON_PPAP_DIMENSION_TRUE_POSITION.LBL
PPAP_SizeTolerance.LBL	BALLOON_PPAP_SizeTolerance.LBL
PPAP_GEOTOL_SIZE.LBL	BALLOON_PPAP_GEOTOL_SIZE.LBL
PPAP_GEOTOL_SEGMENT1.LBL	BALLOON_PPAP_GEOTOL_SEGMENT1.LBL
PPAP_GEOTOL_SEGMENT2.LBL	BALLOON_PPAP_GEOTOL_SEGMENT2.LBL
PPAP_GEOTOL_SEGMENT3.LBL	BALLOON_PPAP_GEOTOL_SEGMENT3.LBL
PPAP_GEOTOL_SEGMENT4.LBL	BALLOON_PPAP_GEOTOL_SEGMENT4.LBL
PPAP_GEOTOL_SEGMENT5.LBL	BALLOON_PPAP_GEOTOL_SEGMENT5.LBL
PPAP_TRUE_POSITION_INBETWEEN.LBL	BALLOON_PPAP_TRUE_POSITION_INBETWEEN.LBL

PPAPレポートで使用されるテンプレートすべてのレポートとラベルのコピーが必要です。後続の手順でこれらのコピーをカスタマイズします。

## ステップ2: レポート テンプレートのルールの変更

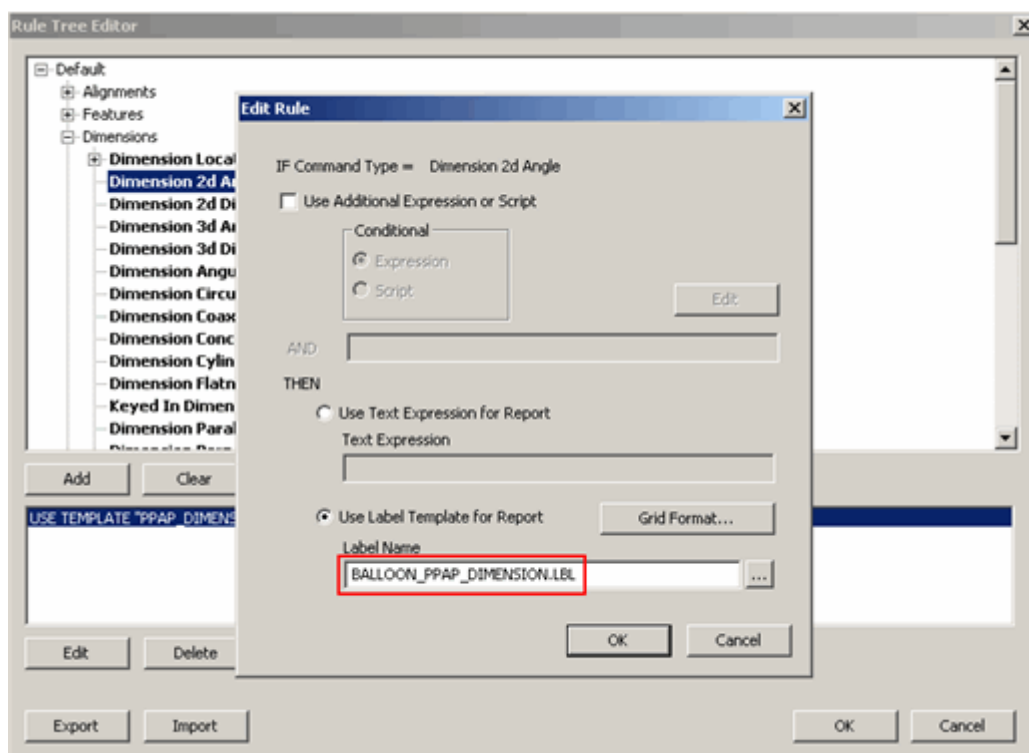
レポートテンプレートとラベルのコピーを作成したが、新しいレポートテンプレートにルールを変更する必要がありますので、新しく保存されたバルーンのラベルのテンプレートが通常のPPAPのラベルの代わりに使用されます。

1. レポート テンプレートエディタでBALLOON\_PPAP.RTPレポート テンプレートを開きます。
2. テンプレートの**TextReportObject1** にアクセスしてそれを右クリックしてオブジェクトのプロパティにアクセスします。

3. プロパティ ダイアログ ボックスからルールをクリックしてルール ツリー エディタにアクセスします。
4. ルール ツリー エディタの寸法リストを拡大します。ルールはそのディメンションの型に適用されるのを表示する太字のフォントでいくつかの寸法が表示されます。
5. 寸法 リストの各太字の項目を選択してその既存ルールまたはルールを変更しますので、使用される"BALLOON\_"接頭辞の代わりにラベルのテンプレートを対応します。

既存のラベル テンプレートが使用されます	新しいラベル テンプレートは使用します
PPAP_DIMENSION.LBL	BALLOON_PPAP_DIMENSION.LBL
PPAP_DIMENSION_TRUE_POSITION.LBL	BALLOON_PPAP_DIMENSION_TRUE_POSITION.LBL
PPAP_SizeTolerance.LBL	BALLOON_PPAP_SizeTolerance.LBL
PPAP_GEOTOL_SIZE.LBL	BALLOON_PPAP_GEOTOL_SIZE.LBL
PPAP_GEOTOL_SEGMENT1.LBL	BALLOON_PPAP_GEOTOL_SEGMENT1.LBL
PPAP_GEOTOL_SEGMENT2.LBL	BALLOON_PPAP_GEOTOL_SEGMENT2.LBL
PPAP_GEOTOL_SEGMENT3.LBL	BALLOON_PPAP_GEOTOL_SEGMENT3.LBL
PPAP_GEOTOL_SEGMENT4.LBL	BALLOON_PPAP_GEOTOL_SEGMENT4.LBL
PPAP_GEOTOL_SEGMENT5.LBL	BALLOON_PPAP_GEOTOL_SEGMENT5.LBL
PPAP_TRUE_POSITION_INBETWEEN.LBL	BALLOON_PPAP_TRUE_POSITION_INBETWEEN.LBL

## テンプレート作成



ラベル テンプレートの変更

### 6. レポート テンプレートを保存します。

ユーザーは、"BALLOON\_"プレフィックスの付いたラベルテンプレートを使用して、レポートデータをフォーマットおよび表示するための既存のルールを変更しています。

### ステップ3: 測定ルーチンにASSIGN ステートメントを追加すること

ルールが変更されており、次に行う必要があるのは、吹き出しに入った各項目に対する測定ルーチンにASSIGNステートメントを挿入することです。測定ルーチンにおける各測定結果の前に、ユーザーがその測定結果において表示する各特性に対するASSIGNステートメントを追加します。例えば、このトピックのはじめで、印刷での要素 #15 は穴に対する X 寸法、要素 #30 は Y 寸法、要素 #75 は穴の直径にすることを提案しました。X、Y、およびD値（3つの特性）を表示するロケーション寸法を持つ場合、3つのASSIGNステートメントを寸法の前に挿入する必要があります。



```
ASSIGN/V1[1]=15  
ASSIGN/V1[2]=30  
ASSIGN/V1[3]=75
```

これらのステートメントはV1の変数に複数の値の配列を作成します。

測定ルーチンで各寸法の前に、様のASSIGNステートメントを適用します。

- 寸法は1つだけの特性を表示される場合、寸法ステートメントの前に ASSIGN/V1[#] を配置する必要があります。
- ユーザの寸法が10の特性を表示する場合(例えば、幾何公差の場所)、配列で10個の要素に対して 10個の ASSIGN ステートメントが必要です：



```
ASSIGN/V1[1]=2
ASSIGN/V1[2]=4
ASSIGN/V1[3]=6
ASSIGN/V1[4]=24
... and so on until ...
ASSIGN/V1[10]=76
```



ほとんどの場合では、すべての寸法に対してすべてのASSIGNをステートメントの同じ変数名を使用する必要があります。このチュートリアルは変数V1を使用します。例外は旧式の真の位置の寸法です。この測定結果タイプでは、XYZの軸に対して V1[1]、V1[2] およびその他の変数を使用することができます。ただし、要素の直径と基準要素と位置の引き出し線については、それぞれV2の[1]、V2の[2]、V3 [1]のように、固有の変数を使用する必要があります。また、変数は数値のみを取ることに注意してください。アルファベット文字にすると、レポートにはゼロだけが表示されます。

ASSIGNステートメントの追加を終了した場合、測定ルーチンが終了され、実行する準備が整いました。残っているするのはラベル テンプレートを変更して各寸法に値の変数の配列を読み込みます。

#### ステップ4: ラベル テンプレートを変更して変数を読み取ること

このステップに、各該当するラベルテンプレートを開いてそれを作成し、変数の値の配列を読み込みます。

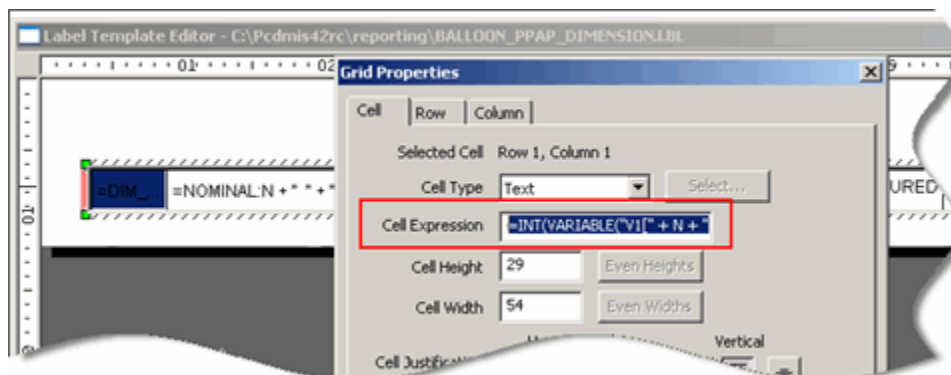
1. ラベルテンプレートエディタより、  
BALLOON\_PPAP\_DIMENSION\_TRUE\_POSITION.LBLで、以前のバージョンで指定されたプレフィックス"BALLOON\_"を持つその他のラベルテンプレートを開きます。



## テンプレート作成

2. GridControlObject また最初のセルの内容にアクセスします。
3. 以下のように式を変更して読み込みます：

```
=INT(VARIABLE("V1["+N+"]",ID:N))
```



4. 各ラベルテンプレートを保存します。
5. 最後に BALLOON\_PPAP\_DIMENSION\_TRUE\_POSITION.LBLを開きます。このテンプレートはGridControlObjectに複数の行があるので、V1の変数だけでなくさらに多く指定する必要があります。
  - XYZの軸には、式でV1の変数を使用することができます：

```
=INT(VARIABLE("V1["+N+"]",ID:N))
```

- データムと要素の直径について、以前ユニークな変数を使用したの（V2のような）を使用する必要があります：

```
=INT(VARIABLE("V2["+N+"]",ID:N))
```

- 位置コールについて、別のユニークな変数を以前使用した（V3のような）のを使用します：

```
=INT(VARIABLE("V3["+N+"]",ID:N))
```

(:N を使用して) レポートが各寸法でインクリメント (増加) するため、変数の配列は "V1["+N+"]" で呼び出され、V1 配列の N 番目の要素が表示されます。最後のステップは、実行、結果の表示は準備です。

## ステップ5: 結果の実行及び表示

この最後のステップで レポートウィンドウで使用するレポートテンプレートを定義して測定ルーチンを実行して最終的な結果を表示します。

1. このポイントに作成された変更を保存します。
2. レポートのウィンドウにアクセスしてBALLOON\_PPAP.RPTテンプレートをロードします。
3. ユーザーの測定ルーチンを実行します。実行の後にツールバーのレポート からレポートを再描く クリックする必要があります。

レポートウィンドウが最終レポートを示しています。これは以下のようになり、PPAPレポートに番号付きしたプリントを表示します：

Item	Specification
15	0.0000 (LOC1-X)
30	-61.0000 (LOC1-Y)
75	15.0000 (LOC1-D)
18	61.0000 (LOC2-X)
20	-61.0000 (LOC2-Y)
32	15.0000 (LOC2-D)
8	61.0000 (LOC3-X)
16	0.0000 (LOC3-Y)
45	15.0000 (LOC3-D)

最終レポートはPPAPレポート内のカスタム番号項目を表示します。

## フォームの作成

フォームエディタ (ファイル | レポート | 新規 | フォームレポート) で、インタラクティブなフォームとダイアログボックスを構築でき、測定ルーチンが実行される場合にはそれらを有効にします。これらのインタラクティブフォームは、Visual Basic言語を使用します。フォームはVisual Basic言語によく理解する上、PC - DMISオートメーションは測定ルーチンにパワーと柔軟性を与えます。

## フォームの作成

実行をコントロールするためにフォームを使用するときにはフォームはまだ報告に積極的に役割を果たして、間接的にレポートの終了をコントロールします。

このセクションはフォームで行うことをカバーしようとしていません。代わりに、フォームの作成方法と使用方法全般、およびレポートの意味で、標準のPC-DMISコマンドを使用してユーザーからレポートに情報を取得する方法について説明します。



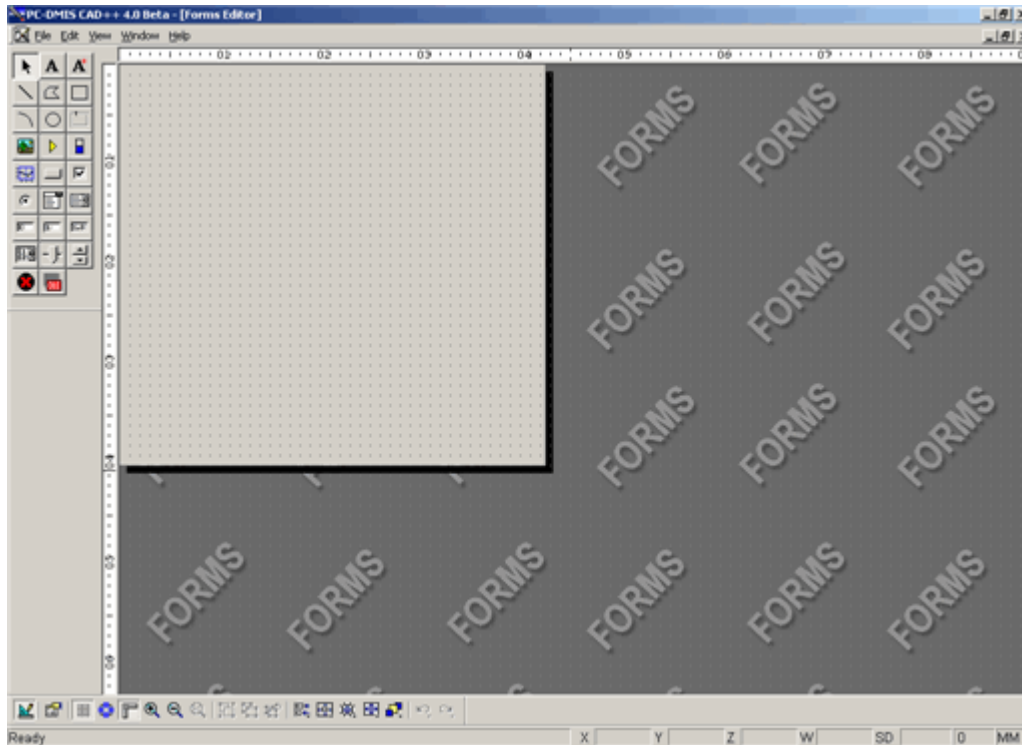
フォームは作業者に役立つ手順を提供する手段としてレポート以外の役割でも使用されます。これを行う方法の例について、「フォームのOLEオブジェクトを使用したオペレータへの指示」を参照してください。

## フォーム エディタの説明

フォームエディタでフォームを新規作成するには、[ファイル|レポート|新規作成|フォームのレポート]を選択します。

フォームエディタで既存のフォームを開くには、[ファイル|報告|編集|フォームレポート]を選択します。

PC-DMISが新しいウィンドウにフォームエディタを表示します。



#### フォームエディタ

フォームエディタは作業エリアとして機能します。これは様々なインタラクティブなフォームオブジェクト（ボタン、リストボックス、編集ボックスなど）をドラッグ、サイズ合わせおよび配置して、そのプロパティを設定します。

オブジェクトはフォームと呼ばれるグレーの大きな領域に配置されます。PC-DMISの以前のバージョンのHyperViewレポートで作業している場合、このエディタが基本的にほとんど同じように機能し、同じユーザーインターフェース要素で構成されているため、それに慣れているように感じます。

新しいテンプレートによるレポートの作成方法では、フォームエディタのみが実行モード機能を使用できます。レポートおよびラベルテンプレートエディタはそれを使用しません。

**実行モード** - このモードはフォームエディタでのみ動作します。実行モードでは、ユーザーのフォームを実行する（動作させる）ことができます。これによって、実際の測定プログラム実行環境でその表示および動作方法をテストすることができます。

**編集モード** - これはすべてのレポートエディタのデフォルトモードです。このモードはレポートおよびラベルテンプレートエディタでの唯一のモードです。実行モードと編集モード間で切り換えを行うにはCTRL+Eを押します。

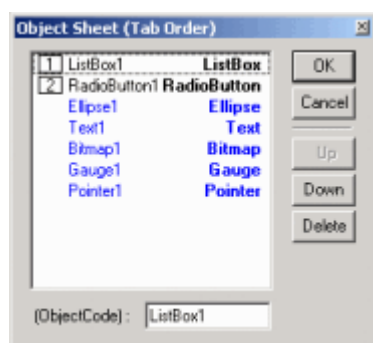
## フォームの作成

エディタには次の要素が含まれます:

- メニューバー
- フォントバー (ツールバー)
- オブジェクトバー (ツールバー)
- レイアウトバー (ツールバー)
- オブジェクトプロパティシート
- オブジェクトシート

## オブジェクトシート

フォームエディターの編集| レイアウト| オブジェクトメニュー項目はオブジェクト・シートダイアログボックスを表示します。



[オブジェクトシート]ダイアログボックス

このダイアログボックスを使用して、このダイアログボックスに表示されるオブジェクトの簡単な変更で、オブジェクトのタブ順序とダイアログボックスに通常に使用されるコントロールを設定できます。

ユーザが実行モードにおけるTABを押す時、PC-DMISは、それに焦点を与えて、このダイアログ・ボックスに定義された次のオブジェクトにジャンプします。いくつかのオブジェクトだけがTABキーによって影響を受けます。TABのみを押すことは、**オブジェクト・シート**ダイアログ・ボックスにそれらの左側に数を持っているオブジェクトに作用します。

## チュートリアル・フォームの作成

このトピックでは基本的なチュートリアルについて説明しています。このチュートリアルはいくつかの対話型ダイアログボックスコントロールで簡単なフォームを作成します


。これによってユーザーは実行時に一覧からユーザー一名を選択し、特定要素のみを測定するように選択できます。選択した情報は最終報告書に表示されます。

この特定の編集ウィンドウのコマンドを使用して確かに側面を複製することができますが、このチュートリアルはフォームエディタ、いくつかの想像力、そして少しのプログラミングスキルで可能な考えを与えます。

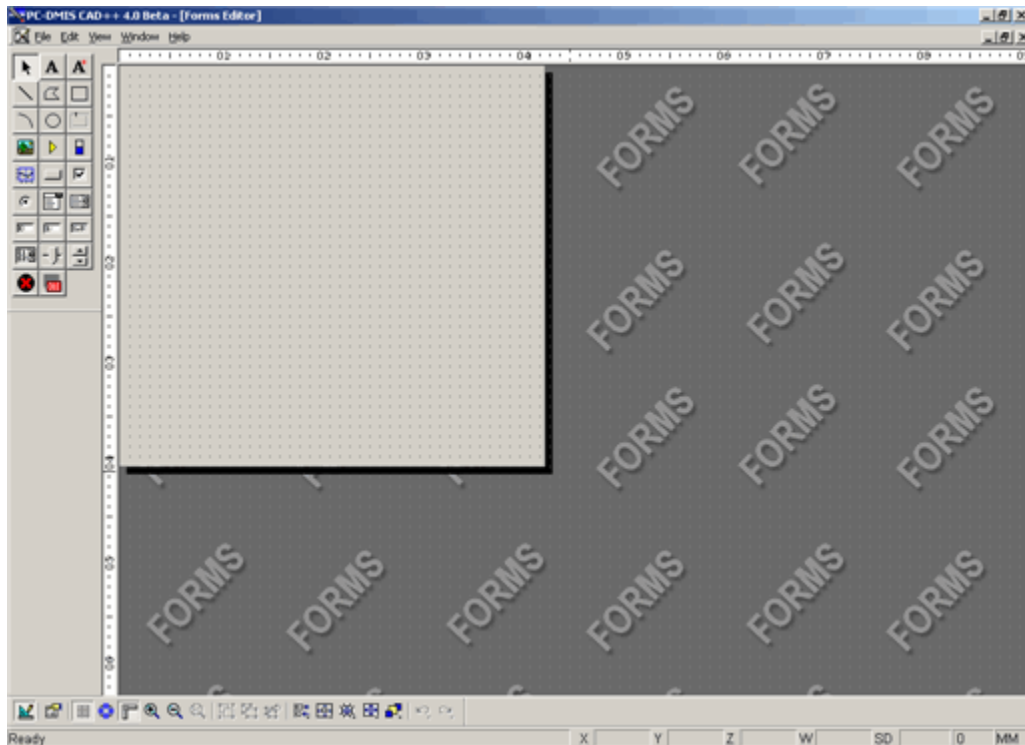


このチュートリアルは「カスタムレポートテンプレートを作成」と「レーベルテンプレートの作成」チュートリアルに作成されたファイルを使用します。まだ行われていない場合、これらのチュートリアルをまず終了してください。

### ステップ1: 作業環境を準備する

- このチュートリアルで、フォームエディタとエディタウィンドウの間に切り替わるので、最初のエディタウィンドウを準備します。
  - エディタウィンドウを右クリックしてまたショートカットメニューから**ビューのドッキング**を選択してそれを解除します。
  - 最大限ボタンを選択しますので、それは画面を塗りつぶします。
  - 編集ウィンドウをコマンドモードにします。
- フォームエディタにアクセスするには、**ファイル| レポート| 新規| フォームレポート**を選択します。
- 未使用のツールバーを非表示にするには、ツールバーのエリアを右クリックして削除します。
- 未使用のPC-DMISウィンドウを非表示にするには、**[表示]**メニューから開いているウィンドウを選択します。編集ウィンドウを開きたままにします。
- フォームエディタを最大化するには、エディタウィンドウの右上隅にある**最大化ボタン**  をクリックします。エディタのウィンドウの右上隅に単語「FORM」が表示されます。フォームエディタは以下ようになります：

## フォームの作成



フォームエディタ

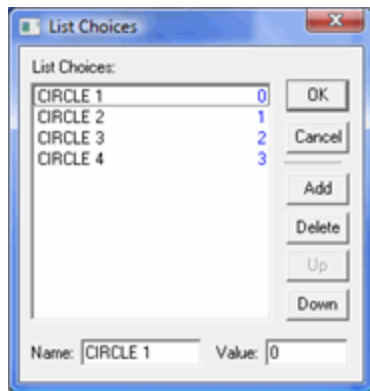


フォーム エディタを使用して作業する場合、通常のPC-DMISツール バーおよびウィンドウを非表示にし、画面のスペースを確保したほうが便利です。このエディタを頻繁に使用する場合、テンプレート用に画面のレイアウトを作成して保管する必要があるかもしれません。レイアウト情報については、「ツールバーの使用」の章にある「ウィンドウレイアウト ツールバー」トピックを参照して下さい。

### ステップ2: フォームの作成

1. **TheFrame/TheView** の灰色の背景をドラッグして、それが幅 5 インチ、高さ 6 インチになるようにします。
2. **境界** オブジェクトを追加し、ドラッグして、それをちょうどフォームの領域内に収まるようにします。境界のプロパティを設定しますので、それは **LineWidth** 値は3 または **ForeColor** は濃い青(0.0.128)になります。
3. **ビットマップ** オブジェクトをフォームのトップに追加します。[**Bitmap ダイアログ**] が開きます。ロード ボタンを使用して好みのビットマップファイル（コーポレートロゴなど）に移動します。ビットマップをサイズと位置しますので、それはフォームの上部に1.5インチの範囲内です。

4. **RadioButton** オブジェクトをビットマップオブジェクトの下に追加します。  
**RadioButton** プロパティにアクセスして**ListItems** 値をクリックします。[一覧の選択] ダイアログボックスが開きます。このダイアログボックスで、オブジェクトにオプションボタンのリストを作成できます。
  - **リストの選択** ボックスに既存**RadioButton1** を選択してください。名前ボックスに、名前を「CIRCLE 1」に変更します。インデックス値 既に0が表示されます。
  - **[追加]** ボタンをクリックして、さらに3つの項目を追加します。次に、新たに追加した項目の名前を"円2"、"円3"、"円4"と変更します。これらのインデックスはそれぞれ1、2、3となります。**[選択肢リスト]** ダイアログボックスは次のようになります。

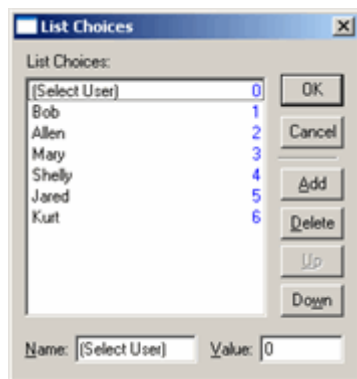


インデックス値 0 から 3 の 4 つのオプションを表示する [リストの選択] ダイアログボックス。

- 完了後に、**OK**をクリックして下さい。
5. **(ObjectCode)** 値を「RadioButton1」から「optMeasure」まで変更して **RadioButton** オブジェクトを改名します。
  6. **フレーム** オブジェクトを追加してそれを**RadioButton**オブジェクトのまわりにドラッグします。フレームの**テキスト** プロパティを「測定するものを選択」に読むのに変更します。
  7. **EditBox**オブジェクトを**RadioButton**オブジェクトの右に追加し、それを「EditBox1」から「txtMeasure」までリネームします。
  8. **RadioButton**オブジェクトの下**のテキスト**オブジェクト（テキスト2）を追加し、「ユーザを選択」を読み取るために、その**テキスト** プロパティを設定します。



9. **ComboBox** をテキストオブジェクトの右に追加し、それを「ComboBox」から「cboUsers」までリネームします。このコントロールは、ユーザーのリストが含まれます。
- **ListItems** 値をクリックしてユーザのリストを追加します。これは再度に **リストの選択** ダイアログ ボックスにアクセスします。
  - **追加** をクリックして下さい。PC-DMISは **リストの選択** の下の「（無し）」を挿入します。
  - リストの1番目の項目名を、「(なし)」から「[ユーザーを選択]」に変更し、インデックスの**[値]**を0に設定します。
  - 以前と同様に5,6のユーザー名を追加する前にこのダイアログボックスを使用続けてください。このチュートリアルでは「Bob」、「Allen」、「Mary」、「Shelly」、「Jared」、と「Kurt」を使用します。
  - **[上へ]**または**[下へ]**ボタンを使用し、必要に応じて各項目がリストに表示される順序を変更します。操作が終わったら、ダイアログ ボックスは次のように表示されるはずです：

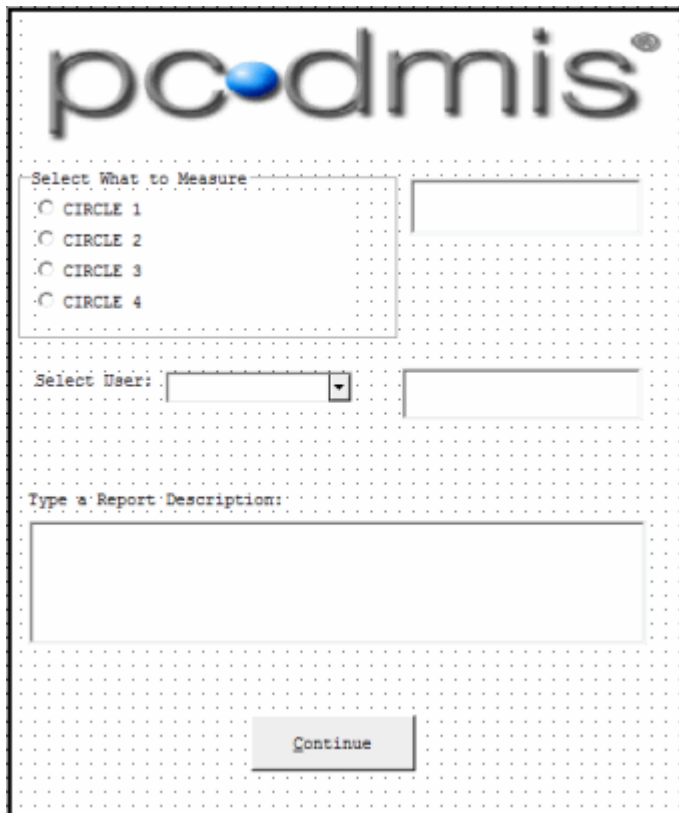


ComboBoxのユーザー名一覧を表示する [選択の一覧] ダイアログボックス。

- **[OK]** をクリックします。ComboBox オブジェクトは今それらのリスト項目を含みます。
10. **EditBox** オブジェクトをComboBoxの右に追加し、それを「EditBox2」から「txtUser」にリネームします。
11. 「ユーザを選択」と読み込めるオブジェクトの下のテキストオブジェクト（テキスト2）を追加し、そのテキスト プロパティを「報告書説明を入力:」と読むのを設定します。
12. その他の **EditBox** オブジェクトをテキストオブジェクトの上に追加し、それを「EditBox2=3」から「txtDescription」までリネームします。

13. ボタン オブジェクトをフォームの下部に追加し、それを「Button1」から「cmdContinue」までリネームします。「&Continue」を読取るようにそのテキストプロパティを変更します。アンパサンド記号で、ALTで使われるショートカット文字としてはその後続の文字を定義できます。だから、実行モードでフォームに ALT + Cを押したら、**続行** ボタンをクリックすると、それは同じのように動作します。
14. **[ファイル| 保存]**を選択してフォームを保存します。名前を"TestForm.Form"にし、任意のディレクトリに保存します。
15. CTRL + E を押して実行モードでフォームをテストします。すべてのコントロールに関連付けているコードはないので、いずれかをクリックしても、そのテキストが追加される以外、何も発生しません。完了したら再度、CTRL + E を押して編集モードに戻ります。

このステップでは、基本的なフォームに様々なコントロールを挿入しリストに項目を追加して完成させます。以下のようなになるはずです。



The screenshot displays the PC-DMIS software interface. At the top is the 'pc-dmis' logo. Below it, the form is titled 'Select What to Measure'. It contains four radio button options: 'CIRCLE 1', 'CIRCLE 2', 'CIRCLE 3', and 'CIRCLE 4'. To the right of these options is a text input field. Below the radio buttons is a 'Select User:' label followed by a dropdown menu and another text input field. Further down is a 'Type a Report Description:' label followed by a large text area. At the bottom center of the form is a button labeled 'Continue'.

さまざまなフォームコントロールが追加されるフォーム

### ステップ3:RadioButtonのコントロールにコードを追加する

1. RadioButtonオブジェクトを選択し、**optMeasure**、またそのプロパティにアクセスします。
2. **EventChange** イベントをクリックしてください。**VBS ミニエディタ** が表示されます。この小さなコードウィンドウで、オプションボタンのリストから新しい値を選択するたびに実行されるVisual Basicのコードステートメントを入力できます。
3. このコードコードウィンドウで、このコードを入力してください：



```
Dim intIndex As Integer

intIndex=optMeasure.Index

Select Case intIndex

Case 0

    txtMeasure.Text="Circle 1"

Case 1

    txtMeasure.Text="Circle 2"

Case 2

    txtMeasure.Text="Circle 3"

Case 3

    txtMeasure.Text="Circle 4"

End Select
```

4. **[OK]** をクリックします。ミニエディタが閉じます。
5. **[ファイル| 保存]**を選択してフォームを保存します。
6. CTRL + Eを押してレポートをテストし実行モードに入ります。測定に要素を選択します。

リストから測定しようとする要素を選択すると、このコードが実行されます。それはオプションボタンのリストから選択されるものを表示し、txtMeasureのテキスト プロパティを設定して、「円1」、「円2」などのテキスト文字列を表示します。CTRL + E を押して編集モードに戻ります。

#### ステップ4: ComboBoxコントロールにコードを追加する

1. ComboBoxオブジェクトを選択し、**cboUsers**、またそのプロパティにアクセスします。
2. **EventChange** イベントをクリックしてください。**VBS ミニエディター** が開きます。
3. このコードコードウィンドウで、このコードを入力してください：



```
txtUser.Text=cboUsers.TextValue
```

4. **[OK]** をクリックします。ミニエディタが閉じます。
5. **ファイル| 保存** を選択してフォームを保存します。
6. CTRL + E を押して実行モードに入り、レポートをテストします。ユーザーを選択します。

リストからユーザーを選択するときに、このコードが実行されます。これは選択されたリスト項目のテキスト値を表示し、txtUserの テキスト プロパティを設定し、選択されたユーザーのテキスト文字列を表示します。CTRL + E を押して編集モードに戻ります。

#### ステップ5: 続行ボタンにコードを追加する

1. ボタンオブジェクトを選択し、**cmdContinue**、またそのプロパティにアクセスします。
2. **EventClick** イベントをクリックしてください。**VBS ミニエディター** が開きます。
3. このコードコードウィンドウで、このコードを入力してください：



```
If cboUsers.Value > 0 And Len  
(txtDescription.Text) > 0 And Len  
(txtMeasure.Text ) > 0 Then  
  
    TheView.Cancel  
  
Else  
  
    MsgBox 「続行する前にフォーム全体に記入してください  
    」  
  
End If
```

4. **[OK]** をクリックします。ミニエディタが閉じます。
5. **ファイル| 保存** を選択してフォームを保存します。
6. **CTRL + E** を押して実行モードに入り、レポートをテストします。**続行** ボタンをクリックして下さい。

**続行** ボタンをクリックする場合、このコードは起動します。これはチェックしてフォームがすべての方法が記入されるのを確認し、そうである場合、それはフォームエディタを閉じます。そうでない場合、それはメッセージを何が欠けている必要事項を記入し、ユーザーに指示されます。

- `Len ()` 関数は、長さ（または編集ボックス内のテキスト文字列の文字数）をテストし、そこに何かがあるのを確認します。
- `cboUsers.Value > 0` コードはユーザー名がリストから選択されたかを確認します。

### ステップ6: フォームのプロパティを保持ために編集ウィンドウの変数を割り当てる

これでフォームを定義した、今は編集ウィンドウとフォームの間にデータを渡す方法が必要です。

1. まだ行われていない場合、フォームを保存します。
2. **ウィンドウ メニュー**から**編集ウィンドウ** を選択して編集ウィンドウを前面に来るようにします。
3. それがコマンドモードにあることを確認してください。
4. 各円要素がその円の位置の測定結果を挿入した後。

5. 最上部近くにおいて円要素の前にフォームで使用するのに割り当てる変数を定義します。これを行うには、測定される円要素の**前**に編集ウィンドウで以下のコードを入力します。



```
ASSIGN/STR_DESCRIPTION=" "  
ASSIGN/STR_USER=" "  
ASSIGN/STR_MEASURE=" "
```

6. これらのステートメントの直後に、カーソルを置き、また**挿入|レポートコマンド|フォーム**を選択してください。[フォームの挿入] ダイアログボックスが開きます。「TestForm.FORM」が保存されている場所へ移動して選択し、**開く**をクリックしてください。
7. 選択したファイルのパス名が入った**FORM/FILENAME**コマンド ブロックが、編集ウィンドウに挿入されます。ユーザーがこのコマンドをマークして実行するとPC-DMIS はこのフォームを実行します。それは編集ウィンドウの実行を継続する前に、ユーザーがフォームを閉じるまで待機します。❗



このコマンドは **PARAM/=** ステートメント、または「パラメータ」を含まれるのを注意してください。これらのパラメータで、PC-DMIS編集ウィンドウの変数とフォームコントロールのプロパティの間に値を渡すことができます。

8. ちょうど**PARAM/ =**で等号ステートメントの左側の前にクリックして、「TXTDESCRIPTION.TEXT」を入力します。等号の右側をクリックし、そして、「STR\_DESCRIPTION」をタイプしてください。ENTERを押します。もう一つの**PARAM/=**記載が表示されます。❗



**txtDescription** はレポートのユーザー入力による記述を保持するフォーム内の EditBox オブジェクトにユーザーが与えた名前であることを忘れないでください。

実行時、**txtDescription** の **Text** プロパティは、**STR\_DESCRIPTION** が保持しているものは何でもその値を最初に取得します。この場合、それは空の文字列を取ります。フォームを閉じた後、そのフォームが**STR\_DESCRIPTION**に戻っている任意の値を渡します。

9. このように両方の**STR\_USER** と**STR\_MEASURE** 変数にパラメータを定義続け、それぞれにそれらを**txtUser** と**txtMeasure** オブジェクトのテキスト プロパティに結びます。
10. 編集ウィンドウへ変更を保存します。終了した場合、**FORM/FILENAME** コマンドブロックは、このようになります。



```
CS7          =FORM/FILENAME=D:\PARTPROGRAMS\TESTFORM.F
ORM
PARAM/TXTDESCRIPTION.TEXT=STR_DESCRIPTION
N
PARAM/TXTMEASURE.TEXT=STR_MEASURE
PARAM/TXTUSER.TEXT=STR_USER
PARAM/=
ENDFORM/
```

### ステップ7: 測定をコントロールするために編集ウィンドウ条件コードを追加する

フォームを作成した場合、正確に測定されるのをコントロールするためにオプションのボタンのリストを作成しました。これで編集ウィンドウにも条件文を追加する必要がありますので、適切な要素の測定はフォームから選択されるものによります。

1. 編集ウィンドウ内で、最初のCIR1要素の前にカーソルを配置してEnterキーを押します。カーソルがCIR1要素上の空白行にである必要があります。

2. 挿入| フロー制御コマンド| 制御ペア| If / End Ifを選択します。PC-DMIS はIF / END IF条件文を編集ウィンドウに挿入します。

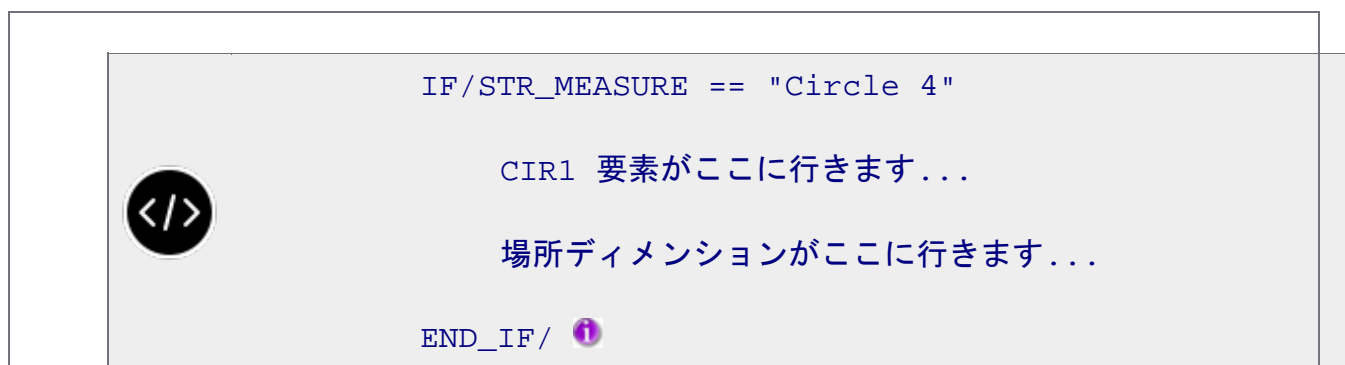
```
IF/0
```

```
END_IF/
```

3. 条件を定義します。デフォルト値0を強調表示して以下を入力します。

```
STR_MEASURE=="Circle 1"
```

4. [ENTER]を押します。
5. CIR1全体要素とフォローされる場所寸法を選択してまた**編集| カット**を選択します。次は**編集 | 貼り付け**を選択してそれをIF/STR\_MEASURE == "Circle 1" ラインの後またEND\_IF/ ラインの前の空白ラインに移動します。最初の条件ブロックは、このようになります：







`STR_MEASURE`は実行後に`txtMeasure` オブジェクトのテキスト プロパティの値を保持します。これはフォームコードに従うと以下のいずれかになります。

"円 1"、"円 2"、"円 3"、または "円 4"。

この最初の行は `STR_MEASURE` の変数値をチェックし、それは「Circle 1」の文字列値に一致する場合、CIR1 要素を測定します。そうでない場合、それはスキップして、END\_IF/ ステートメントに続くものは何であってもそれに移動します。

6. 上記の手順の繰り返すのは続いて、他の円の条件ステートメントも定義します。終了したら、編集ウィンドウのコードは次のようになります：



```

ASSIGN/STR_DESCRIPTION=" "
ASSIGN/STR_USER=" "
ASSIGN/STR_MEASURE=" "
CS7      =FORM/FILENAME=D:\PARTPROGRAMS\TESTFO
RM.FORM

PARAM/TXTDESCRIPTION.TEXT=STR_DESCRI
PTION

PARAM/TXTMEASURE.TEXT=STR_MEASURE
PARAM/TXTUSER.TEXT=STR_USER
PARAM/=
ENDFORM/
IF/STR_MEASURE=="Circle 1"
CIR1     =FEAT/CIRCLE...
DIM LOC1 LOCATION OF CIRCLE CIR1
END_IF/
IF/STR_MEASURE=="Circle 2"
CIR2     =FEAT/CIRCLE...
DIM LOC2 LOCATION OF CIRCLE CIR2
END_IF/
IF/STR_MEASURE=="Circle 3"
CIR3     =FEAT/CIRCLE...
DIM LOC3 LOCATION OF CIRCLE CIR3
END_IF/
IF/STR_MEASURE=="Circle 4"
CIR4     =FEAT/CIRCLE...
DIM LOC4 LOCATION OF CIRCLE CIR4
END_IF/

```

### ステップ8: 仕上げの接触を追加

いくつかの仕上げを適用する必要があります。レポートコメントを使用してレポートウィンドウで最終レポートにフォームの値を送信するように、最初に PC-DMIS に指示する必要があります。次に、いくつかのオブジェクトがフォーム上の不可視にする必要があります。

1. 編集ウィンドウで、`FORM/FILENAME` コマンドブロックの直後にこれらのコマンドを入力します。



```
COMMENT/REPT ,  
  
"User: "+STR_USER  
  
COMMENT/REPT ,  
  
"レポートの説明: "+STR_DESCRIPTION  
  
COMMENT/REPT ,  
  
"測定ルーチン: "+STR_MEASURE
```



PC-DMISコメントを挿入した後、コマンドモードで追加のPC-DMISコマンドを入力するには、**COMMENT**コマンドの後に最初にEnterキーを2回押す必要があります。これは、ユーザーがコメントにテキストを追加する必要はないが、新しいコマンドを追加する準備ができていることをPC-DMISに通知します。

2. ウィンドウ|フォームエディタ を選択してフォームエディタに戻ります。
3. 右クリックして**プロパティ ダイアログ ボックス**にアクセスしてください。ドロップダウンリストから**txtMeasure** を選択してください。オブジェクトが選択されます。
4. **[詳細設定]**をクリックし、**[表示]** プロパティを **[NO]** に設定します。
5. ドロップダウンリストから**txtUser** を選択してください。オブジェクトが選択されます。
6. **[詳細設定]**をクリックし、**[表示]** プロパティを **[NO]** に設定します。ユーザーはこれらの値を見る必要が無く、これらを使用するのは値をPC-DMISに返すためであるため、このプロパティは**[NO]**に設定して実行中これらのオブジェクトを表示しないようにします。
7. フォームを保存します。
8. フォーム エディタを閉じます。

## ステップ9：測定ルーチンの実行

1. [表示 | レポート ウィンドウ]を選択し、[テンプレートの選択ダイアログ]ツールバー アイコンを使用してレポートにデフォルトの標準レポート テンプレートを適用するよう設定します。
2. 編集ウィンドウに戻ります。全体の編集ウィンドウをマークし、測定ルーチンを保存し、**ファイル | 実行** を選択して測定ルーチンをテストします。
3. PC-DMIS は **FORM/FILENAME** コマンドに到達するとフォームを実行して、ユーザーがその記入を終えるまで実行を一時停止します。

4. フォームを 記入して**続行** ボタンをクリックして下さい。PC-DMIS はフォームからの値を渡してPC-DMIS変数に挿入します。
5. 条件文は **STR\_MEASURE** 変数の値をチェックして、状況に応じて適切な円要素を実行します。
6. PC-DMISはレポートウィンドウに測定要素のレポートのコメントと測定結果を印刷します。

## カスタム レポートの作成

pcodmis	PART NAME : CreatingFormsTutorial		February 04, 2011	11:17
	REV NUMBER :	SER NUMBER :	STATS COUNT : 1	

User: Allen  
Report Description: Measuring circle 2.  
Measure Routine: Circle 2

	IN	LOC2 - CIR2				
AX	NOMINAL	+TOL	-TOL	MEAS	DEV	OUTTOL
X	6.0827	0.0100	0.0100	6.0827	0.0000	0.0000
Y	3.1693	0.0100	0.0100	3.1693	0.0000	0.0000
D	0.5906	0.0100	0.0100	0.5906	0.0000	0.0000

## レポート内でのフォームの使用

通常、フォームはレポートを間接的に変更するだけです。例えば、フォームを使用して特定の要素が実行されるかどうかを制御することができます。この場合、最終レポートは直接は変更されませんが、レポートは常に実行された結果を表示するので間接的に変更されます。

[FORM/FILENAME](#) コマンドを使用して編集ウィンドウとフォームのオブジェクト間にパラメータを後と前にパスし、またコマンドを使用してこれらのパラメータは、最終報告書に表示させます。フォーム使用のこのタイプの例について、「フォームの作成」チュートリアルと「フォームのコマンドの挿入」トピックを参照してください。

また、編集ウィンドウにフォームから値を取った後、また[REPORT/TEMPLATE](#) コマンドを使用して編集ウィンドウから[FORM/FILENAME](#) コマンドを使用する同じな方法でレポートテンプレートにパラメータを渡します。

[挿入] レポートコマンド| テンプレートレポート] を選択して [REPORT/TEMPLATE](#) コマンドを挿入し、パラメータ値を割り当てレポートのテンプレートにオブジェクトのプロパティを変更します。これを行う方法について「フォームの作成」チュートリアルを参照して、ガイドとして[FORM/FILENAME](#) コマンドを使用し、しかし .FORM ファイル名の代わりに、レポート テンプレート(.rtp filename)を選択してください。また「測定ルーチンにHyperViewレポートまたはレポートテンプレートを埋め込み」を参照してください。

---

## カスタム レポートの作成

カスタムレポートは測定ルーチンのためのレポート作成に対して柔軟で使いやすい方法を提供します。これは特定の測定ルーチンのために迅速かつ簡単にレポートを生成する必要があるときに最も役立ちますが、ユーザーはテンプレートベースの方法に対して使

用できる機能は必要としません。カスタムレポートはレポートテンプレートを使用せず、代わりに現在の測定ルーチンのデータを直接使用するため、カスタムレポートは一般的に作成とカスタマイズが容易ですが、それらにはテンプレートレポートの機能およびスコープがありません。

#### カスタムレポートの利点：

- データをページに任意の順にいかなる場所にも置くことができます。
- レポートで単一元素として複数のコマンドからのデータを組み合わせることができます。
- ユニークなドラッグ・アンド・ドロップ方法によるレポートを生成することができます。
- レポートエディタが測定ルーチンからの実際のデータを使用して、ダミーデータではありません。これは単にレポートをカスタマイズすることができます。

#### カスタムレポートの短所：

- あなたはテンプレートではなく、1つのレポートを作成していますが、このレポートはあなたの測定ルーチンに関連付けられています。他のレポートテンプレートでを使用してレポートの構造をインポートすることができますが、再利用は、報告書と大きな特定のルールでデザインされたテンプレートは同様ではありません。
- それはレポートテンプレートとして拡張されていません。新しい要素または測定ルーチン以降にディメンションを追加すると仮定します。それを表示するためには、レポートエディタに新しいアイテムをドラッグ&ドロップする必要があります。

以下のトピックは最初のカスタムレポートを作成、ビューまた印刷する手順を説明チュートリアルを提供します。手続きのトピックも後で必要な迅速なアクセスのために提供されます。

## カスタム レポート エディタについて



カスタムレポートエディタにアクセスするには、**ファイル| レポート| 新規作成 | カスタム レポート**を選択します。現在の測定プログラム用の既存のカスタムレポートを開くには、**ファイル| レポート| 編集| カスタム レポート**を選択します。

## カスタム レポートの作成

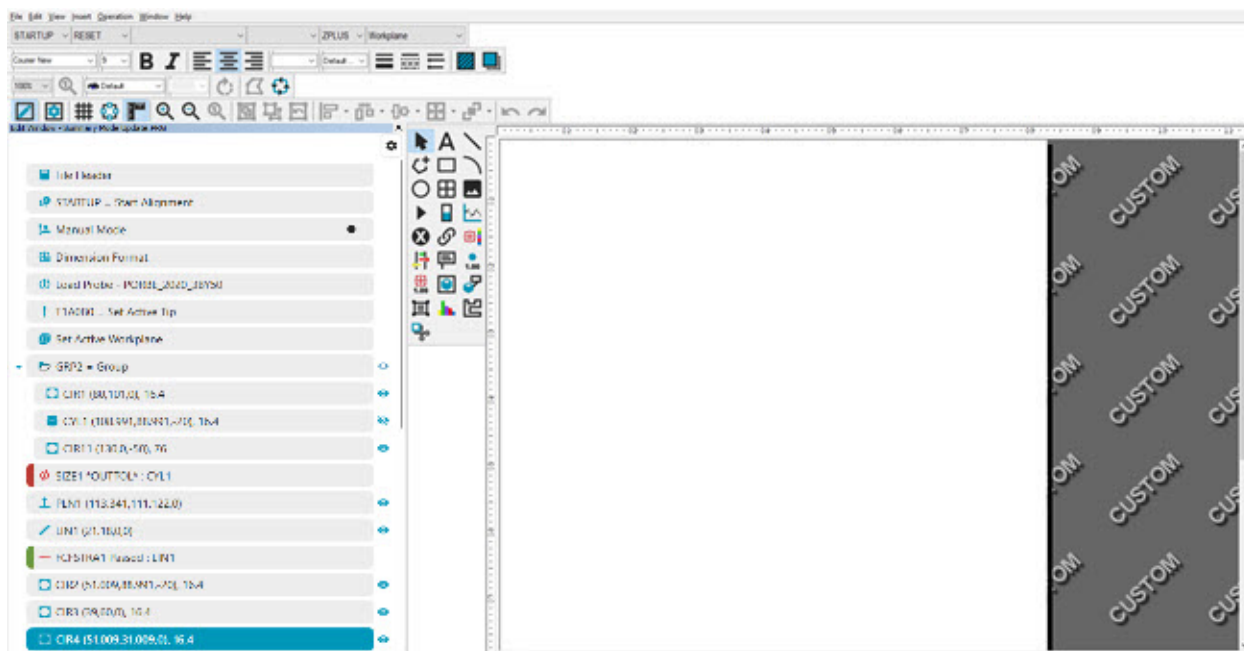


レポートウィンドウの**レポート**ツールバーからこのエディターの簡略バージョンにアクセスできます。これによって、通常のPC-DMISメニュー構造を離れずにレポートを編集できます。

このエディターには、次のいずれかのオプションからアクセスできます：

- カスタムレポート選択ダイアログ (  ) をクリックして空レポートをクリックし、続いて開くをクリックします。
- レポートの編集 (  ) をクリックします。

PC-DMISはその隣にある要約モード内部に配置された編集ウィンドウでカスタムレポートエディターを表示します。



その左側にある要約モードでのカスタムレポートエディター

このエディタはレポートテンプレートエディタ、ラベルテンプレートエディタおよびフォームエディタと似ています。そのオブジェクトバーでのいくつかの相違点を除いて、ユーザーインターフェースは基本的に同じです。

カスタムレポートは"CUSTOM"の背景の上部にある白い大きな領域です。このエディタを使用するときは、テンプレートを作成せずにレポートウィンドウに表示される実際のレポートを作成することに注意してください。新しいカスタムレポートを作成するとき、このエディタが要約モードで設定された編集ウィンドウで並んで表示されます。これによってユーザーは、希望のオブジェクトを要約モードからカスタムレポートにドラッグすることができます。「カスタムレポートの作成」を参照してください。

カスタムレポートエディタでは、HyperView (ハイパービュー) エディタで行ったようにレポートまたはラベルテンプレートエディタを実行モードにすることはできません。カスタムレポートエディタは編集モードでのみ開き、実行モードに切り換えることはできません。実行モードはHyperViewエディタまたはフォームエディタでしか機能しません。

エディタには次の要素が含まれます:

- メニューバー
- フォントバー (ツールバー)
- オブジェクトバー (ツールバー)
- レイアウトバー (ツールバー)
- オブジェクトプロパティシート

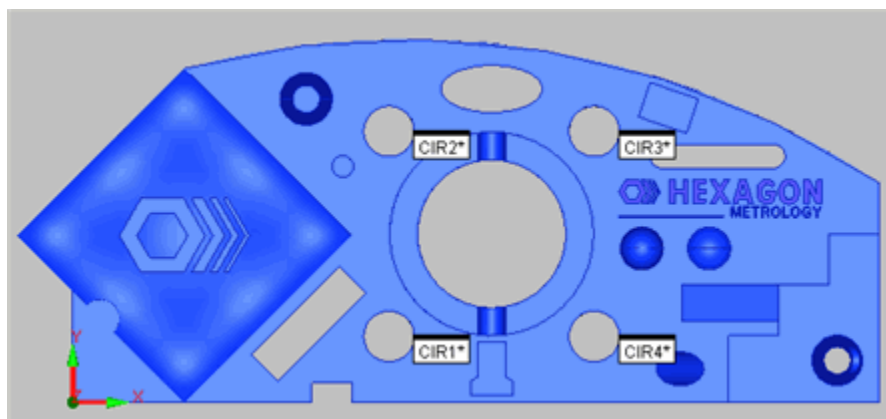
## チュートリアル — カスタム レポートの作成

このトピックでは、非常に基礎的なチュートリアルを順を追って説明し、簡単なカスタムレポートを作成します。これによって、カスタムレポートエディタでカスタムレポートを作成する方法およびそれらが既存のラベルテンプレート进行操作する方法の基本的概要が提供され、ユーザーは後に独自のカスタムレポートを作成して使用できるようになるはずです。

このチュートリアルを開始する前に、簡単なパート上に4つの測定円および各円に対して真円度の寸法が含まれた簡単な測定ルーチンを作成します。このチュートリアルは *Hexagon テストブロック(Hexblock\_Wireframe\_Surface.igs)* を使用します。



## カスタム レポートの作成



四つの円を表示する例。

### ステップ1: 作業環境の設定

このチュートリアルでは、カスタム レポート エディタと共に[概要]モードでの編集ウィンドウを使用します。


1. メニューバーから [ファイル | レポート | 新規 | カスタムレポート] を選択して、カスタムレポートエディターとその隣の要約モードの両方を表示します。

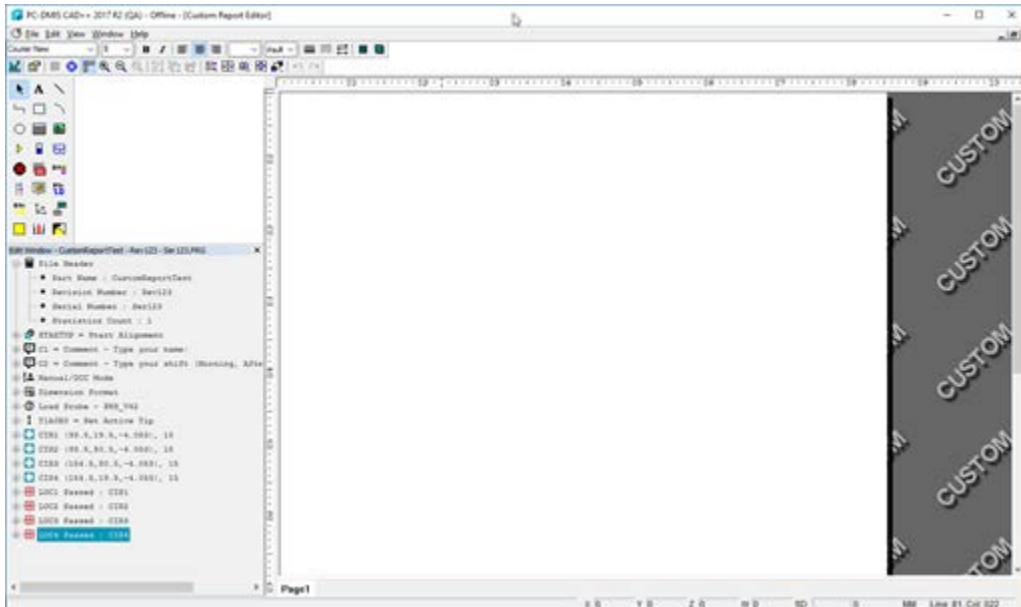


また、レポートウィンドウのレポートツールバーにあるカスタムレポー



ト選択ダイアログアイコン ( ... ) から新しいレポートを作成することができます。表示されるダイアログボックスから空レポートをクリックして開き空レポートを作成します。

2. 未使用のツールバーを非表示にするには、ツールバーのエリアを右クリックして削除します。
3. 未使用のPC-DMISウィンドウを非表示にするには、[表示]メニューから開いているウィンドウを選択します。編集ウィンドウを開きたままにします。
4. カスタム・レポートエディタを最大化するには、エディタウィンドウの右上隅にある最大化ボタン  をクリックします。エディタの背景に「CUSTOM」という単語が表示されます。
5. 編集ウィンドウをカスタムレポートエディタのオブジェクトバーの下にドラッグします。作業環境は以下のようなになるはずです:



カスタム レポートエディタで作業している場合、これは通常のPC-DMISのツールバーとウィンドウを隠すのに役立ち、これによりいくつかの画面スペースを開放することができます。頻繁にこのエディタで作業する場合、その保存画面のレイアウトを作成することがあります。レイアウト情報については、「ツールバーの使用」の章にある「ウィンドウレイアウト ツールバー」トピックを参照して下さい。

## ステップ2: オブジェクトをドラッグ&ドロップしました配置します

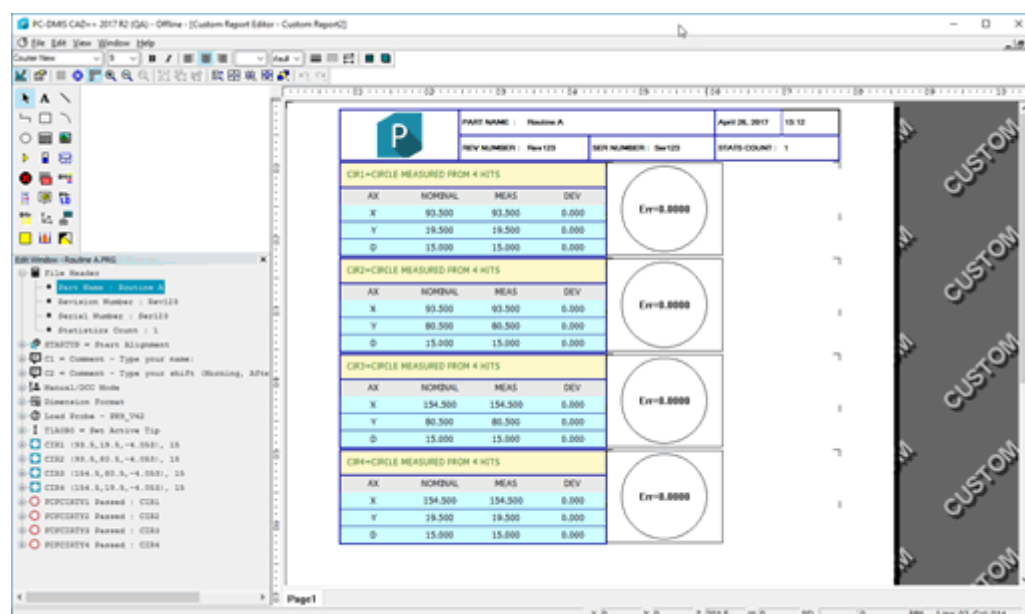
このステップでは、レポートの項目をカスタムレポートエディタにドラッグします。

1. 要約モードにおける編集ウィンドウで [ファイルヘッダー] から、エディタにそれをドラッグします。作業領域にそれをドラッグする場合、その項目のアイコンの透明なイメージが表示されます。
2. マウスボタンをリリースして下さい。エディタ内に[ファイルのヘッダー]オブジェクトが作成されます。
3. CIR1およびCIR2をレポートにドラッグ アンド ドロップします。適切な配置にする必要はありません。この時点では、レポートの最初のページの空いているスペースにドロップします。
4. レポートエディタで、すでにレポートにあるファイルのヘッダ オブジェクトを選択し、それをレポートの最上部の隣にドラッグし、ページでそれを水平方向に中央配置します。

## カスタム レポートの作成

- 次に、CIR1のラベルオブジェクトを選択し、ラベルの上端が[ファイル ヘッダー]オブジェクトの下端に来るようにドラッグします。左辺も同様に位置を揃えます。
- CIR2にこのステップを繰り返します。
- 編集ウィンドウから円2に使用されるラベル下部に円3要素をドラッグします。既にエディタ内にある様々なラベルの上でマウスを動かすと、ラベルの周囲に緑色のハンドルが表示されます。円2の真下に青色矢印が表示されたらマウスを離します。要素が編集ウィンドウ内の円2の下にドロップされ、この要素に使用されるラベルオブジェクトが自動的に上のオブジェクトに揃えて配置されます。
- CIR4に対しても上記の操作を繰り返し、CIR3の真下に配置します。
- [ファイル] 保存] を選択します。レポート保存を可能にするダイアログボックスが表示されます。任意の名前を選択し [保存] をクリックします。

カスタム レポート エディタは次のようになります:



### ステップ3: 複数のページを使用します

このステップでは複数ページで作業します。2ページを追加し、1ページは別のページサイズをサポートするように変更します。次に、これらのページを並べ替えます。

- レポートエディタで、ページの下部の**Page1**タブを右クリックして、**タブの追加**を選択します。**Page2**という名前の新しいページが表示されます。
- そのページを右クリックします。**プロパティ** ダイアログボックスが表示されます。

3. 高さを850に変更してTABキーを押します。
4. 幅を1100に変更してTABキーを押します。これら2つのプロパティを変更すると、ページは基本的に横向き印刷用に書式設定されます。
5. 3番目のページ、[ページ3]を作成します。
6. **Page2** を右クリックして**右に移動**をクリックします。これが**Page2** タブを**Page3**の右に移動する方法を注意してください。
7. **ページ3** を右クリックして**左に移動**をクリックします。これでさらにページが並べ替えられ、**ページ3**の次に**Page1**、その後に**ページ2**が表示されます。このようにページを並べ替えることができます。
8. レポートを保存します。

これでレポートには3つのページがあり、それらの順序が変更されました。


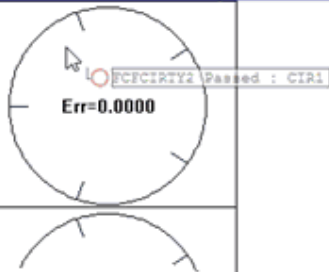


#### ステップ4: その他のオブジェクトにドロップすること

この手順は新しいラベルオブジェクトで既存するラベルオブジェクトを配置してまたカスタム レポートの**CADReportObject**を使用する方法を表示します。



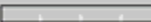





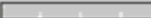
1. カスタムレポートエディタで**Page1**タブを選択してください。レポート内の任意のオブジェクトを置き換えるには、その上に似たようなタイプの他の項目をドラッグしてドロップします。たとえば、エディタ内の任意の既存ラベルの上にラベルを使用するすべての項目をドロップすることができます。
2. CIR1要素のレポートにラベルを選択します。すでに4つの円形の大きさが必要です。そうでない場合、今から1つずつ円要素を作成します。
3. 下記のように、編集ウィンドウからCIR1要素の円の測定結果をドラッグし、CIR1のレポートエディタに既に存在する要素ラベルの上にドロップします。

## カスタム レポートの作成

	PART NAME : Routine A			April 26, 2017	11:55
	REV NUMBER : R123		SER NUMBER : S456	STATS COUNT : 1	
CIR1=CIRCLE MEASURED FROM 5 HITS					
AX	NOMINAL	MEAS	DEV		
X	93.500	93.500	0.000		
Y	80.500	80.500	0.000		
D	15.000	15.000	0.000		
CIR2=CIRCLE MEASURED FROM 5 HITS					
		MEAS	DEV		

新しいラベルオブジェクトで更新されたラベルオブジェクトの例。

- 更新されたオブジェクトが移動したら、適切な位置に戻します。
- エディタで他の測定結果を各要素ラベルの上部にドラッグします。PC-DMISはそれに従ってすべてのラベルを更新し、それらは次のように表示されます。

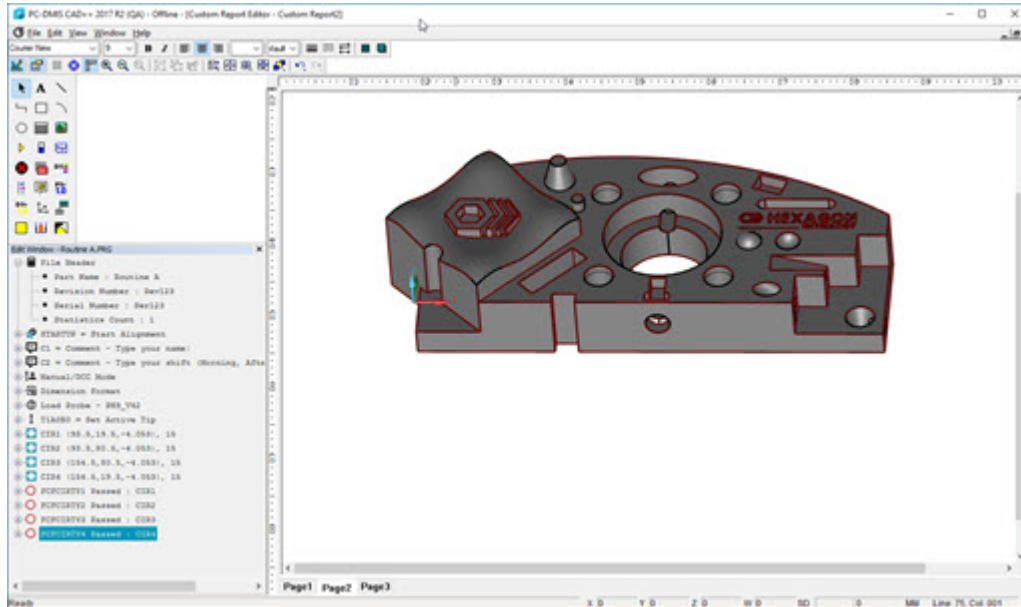
		PART NAME : Routine A				April 26, 2017	13:12
		REV NUMBER : Rev123		SER NUMBER : Ser123		STATS COUNT : 1	
FCFCIRTY1	MM	 0.01					
Feature	NOMINAL	+TOL	-TOL	MEAS	DEV	OUTTOL	
CIR1	0.000	0.010		0.000	0.000	0.000	
FCFCIRTY2	MM	 0.01					
Feature	NOMINAL	+TOL	-TOL	MEAS	DEV	OUTTOL	
CIR2	0.000	0.010		0.000	0.000	0.000	
FCFCIRTY3	MM	 0.01					
Feature	NOMINAL	+TOL	-TOL	MEAS	DEV	OUTTOL	
CIR3	0.000	0.010		0.000	0.000	0.000	
FCFCIRTY4	MM	 0.01					
Feature	NOMINAL	+TOL	-TOL	MEAS	DEV	OUTTOL	
CIR4	0.000	0.010		0.000	0.000	0.000	

4つの寸法ラベルを表示するレポートエディター。

- 今、**Page2**タブをクリックします。Drag a **オブジェクトバー**から **CADReportObject**をドラッグして、それをサイズしてそれがページに記入します
- 4つの寸法を一度に**[CADReportObject]**の上にドラッグします。このオブジェクトに対しては、測定結果のラベル オブジェクトは更新されないことにご注意ください。その代り、PC-DMIS 自動的に適切なラベルと寸法の **CADReportObject**のトップの上の引き出し線を作成します。

8. レポートを保存します。

**Page1** は 要素ラベルの代わりに寸法ラベルを持って、**Page2** のCADReportObjectは以下ようになります。



### ステップ5: データ項目を挿入すること

このステップで、**GridControlObject** を挿入して、編集ウィンドウからの値を表示できるようにします。

1. **Page3**タブをクリックします。
2. **GridControlObject** アイコンをクリックしてこのオブジェクトをページにドラッグします。
3. プロパティダイアログボックスにアクセスして **NumRows** を 8 に設定して **NumCols** を 3 に設定します。
4. 1行目の真ん中のセルをダブルクリックし、"公称値"と入力します。右のセルも同様に、"測定値"と入力します。
5. 最初の行の1列目から開始して下の行へ、"X"、"Y"、"Z"、"I"、"J"、"K"、および"直径"と入力します。これにより、列1の行2から行8までが入力されます。  
GridControlObjectは以下になるはずです。

## カスタム レポートの作成

	Nominal	Measured
X		
Y		
Z		
I		
J		
K		
Diameter		

スタティックなテキストが表示されたGridControlObject



セルに情報を入力するとき、別のセルをクリックするか、実際に表示される値に対するTABキーを押す必要があることを忘れないでください。

- 項目をダブルクリックして、セルに式を入力します。このセルはデータを動的に表示します。つまり、情報はハードコーディングされていません。値が変化すると、PC-DMIS はレポート内のデータを一致するように更新します。

	Nominal	Measured
X	=DATAFIELD("38", THEO_X, 0)	
Y		
Z		

データ項目の表現の例。

- 最後に、行 1 と列 1 に好みのいくつかのテキストと背景形式を適用し、レポートを保存します。**GridControlObject** はこのようになります:

CIR1	Nominal	Measured
X	93.5000	93.5000
Y	19.5000	19.5000
Z	-7.5716	-7.5716
I	0.0000	0.0000
J	0.0000	0.0000
K	1.0000	1.0000
Diameter	15.0000	15.0000


データ項目を含む GridControlObject の例。

8. **ファイル | 終了**を選択してカスタムテンプレートエディタを閉じます。

値はパートおよび測定された円によって異なります。

## ステップ6: レポートの表示、更新及び印刷

この最後のステップはレポートウィンドウにカスタムレポートをロードする方法、それを表示する方法、更新された測定ルーチンからレポートを更新する方法、また最後に印刷する方法を解釈します。

1. **[ビュー | レポート ウィンドウ]**を選択してレポート ウィンドウにアクセスします。
2. レポートウィンドウのレポートツールバーから、**カスタムレポート選択ダイアログ**  を選択します。ダイアログボックスが表示され、すべてのカスタムレポートを表示します。
3. レポートを選択して **開く**をクリックします。選択したレポートがレポート ウィンドウに表示されます。
4. 次に、レポートを更新します。**ファイル | レポート | 編集 | カスタムレポート**を選択します。ダイアログボックスが表示され、現在の測定ルーチン用に作成したレポートをすべて表示します。
5. レポートを選択して **開く**をクリックします。選択したレポートが、カスタム レポート エディタ内に表示されます。
6. 続けて、エディターで必要な変更を行い、レポートを再び保存します。



## カスタム レポートの作成

7. 新しく更新されたレポートをレポートウィンドウに表示させるには、測定ルーチンを実行するか、レポートツールバーから**再描画**アイコンをクリックします。
8. 最後に、レポートを印刷する必要があります。**ファイル|印刷|レポートウィンドウの印刷設定**メニュー項目を選択します。**[出力設定]**ダイアログボックスが表示されます。
9. レポートタブを選択します。**出力オプションセクション**で**プリンターチェック**ボックスをマークしてレポートを印刷装置に送信します。
10. レポートウィンドウのレポートツールバーから**印刷**アイコンをクリックします。レポートが印刷されます。

このステップでは、レポートウィンドウ内で既存のレポートを読み込み更新してプリンタに送信します。

お疲れ様でした。正常にカスタムレポートのチュートリアルを作成します。

## カスタム レポートの作成

新しカスタムレポートを作成するには、以下の手順に従ってください

1. **ファイル|レポート|新規|カスタムレポート**を選択して**カスタムレポートエディタ**を開き、要約モードで編集ウィンドウを表示します。
2. 編集ウィンドウから項目をドラッグし、またエディタにドロップします。




PC-DMISは自動的に現在のページオブジェクトのルールセットに定義されたラベルを使用してオブジェクトを表示します。関連付けられているラベルを持っていないオブジェクトをドロップする場合は、**開く**ダイアログボックスが表示されて、ドロップされた項目に対して定義されるラベルを選択することができます。

3. 必要に応じて追加オブジェクトエディタの**オブジェクトバー**から追加オブジェクトを追加また設定します。
4. 必要に応じてレポート要素を位置します。
5. **ファイル|保存**を選択してレポートを保存します。ダイアログボックスが開き、ユーザーはレポートの名前を指定できます。



新しいカスタムレポートを作成する別の方法はレポートツールバーを使うことです。(レポートツールバーについて詳しくは、「レポートツールバー」を参照してください。)

1. レポートウィンドウのレポートツールバーから、**カスタムレポート選択**

ダイアログボックスボタン (  ) をクリックします。

2. 空白レポートをダブルクリックして、新しい空白カスタムレポートを作成します。
3. 通常通りレポートを編集します。

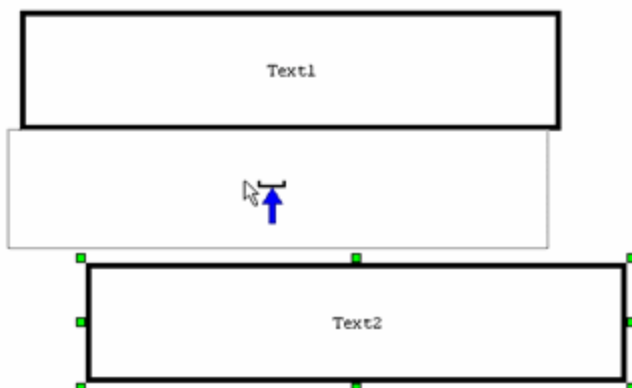
4. **カスタムレポートの編集ボタン** (  ) をクリックして編集モードを閉じ、プロンプトに従ってレポートを保存します。

## レポート オブジェクトの配置

**カスタム レポート エディタ** 内( ファイル | 報告 | 新規 | カスタム レポート)に、希望したいオブジェクトをドラッグするか、エディタのレイアウトバーにある適切なアライメントアイコンを使用して簡単にオブジェクトを配置できます。

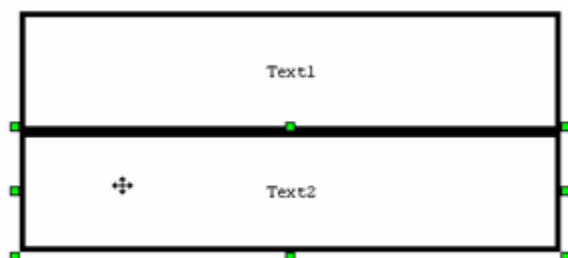
さらに、PC-DMISではオブジェクトを上のオブジェクトへスナップする便利なツールが用意されています。このためには、オブジェクトをゆっくりとドラッグし、上辺および左辺がもう一方のオブジェクトの下辺および左辺に並ぶようにします。マウスポインタが小さな青い矢印を含むように変更されます。この矢印は、位置を決めようとしているオブジェクトの左辺がその上のオブジェクトの左辺に沿って配置されることを示します。

## カスタム レポートの作成



青色矢印を使用したオブジェクトのアライメントを示す例。

この矢印が表示されたら、マウスボタンを離します。ドラッグしていたオブジェクトがもう一方のオブジェクトに並びます。



整列されたオブジェクトを示す例。

青矢印はまたオブジェクトを別のオブジェクトの下に並べて配置するのに便利です。移動したいオブジェクトを参照先オブジェクトの上にドラッグし、緑色のハンドルが参照先オブジェクトの周囲に現れたら、次に青矢印が現れるまでマウスをそのオブジェクトの下に少しドラッグします。青矢印が現れたらマウスを離します。するとオブジェクトがもう一方のオブジェクトの下に並んで表示されます。

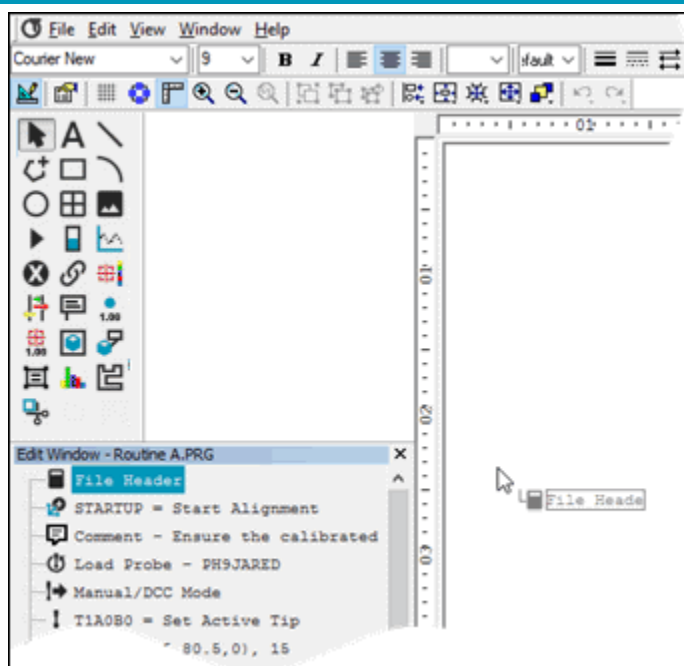
これにより間に余白を入れずにオブジェクトのリストを作成することが可能であり、要素または寸法データを含めたラベルのリストを揃えて表示するのに便利です。

## データをカスタム レポートへドラッグおよびドロップ

「カスタムレポートの生成」トピックに説明されたように、要素とその他の項目をサマリモードの編集ウィンドウからカスタム レポート エディタにドラッグできます ( ファイル | 報告 | 新規 | カスタム レポート )。



要約モードで編集ウィンドウからコマンドのプロパティをドラッグすることはできません。



ファイルのヘッダーオブジェクトを編集エリアにドラッグする例(ページオブジェクト)

ある項目をエディタにドロップする場合、要素の適切なラベル、 ページ オブジェクト ルール ツリー エディタで定義されたように、自動的に作成されます：


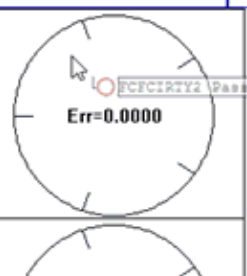
	PART NAME : Routine A		April 26, 2017	11:55
	REV NUMBER : R123	SER NUMBER : S456	STATS COUNT : 1	

ドロップされたファイルのヘッダーオブジェクトの例Example of a dropped File Header object

### 既存ラベルの最上部をドロップして情報を交換する

既存のラベルの上にアイテムをドラッグすると、次のようになります：

## カスタム レポートの作成

	PART NAME : Routine A			April 26, 2017	11:55
	REV NUMBER : R123		SER NUMBER : S456	STATS COUNT : 1	
CIR1=CIRCLE MEASURED FROM 5 HITS					
AX	NOMINAL	MEAS	DEV		
X	93.500	93.500	0.000		
Y	80.500	80.500	0.000		
D	15.000	15.000	0.000		
CIR2=CIRCLE MEASURED FROM 5 HITS					
		MEAS	DEV		

既存ラベルの上に寸法をドロップする例

PC-DMISは、既存のラベルをドロップされたアイテムに置き換えます：

PART NAME : Routine A

April 26, 2017

11:55


REV NUMBER : R123

SER NUMBER : S456

STATS COUNT : 1

FCFCIRTY2

MM

 0

Feature

NOMINAL

+TOL

-TOL

MEAS

DEV

OUTTOL

CIR1

0.000

0.000

0.000

0.000

0.000

CIR2=CIRCLE MEASURED FROM 5 HITS

MEAS

DEV

更新されるラベルの例

## Altキーを使用してフローティングラベルをドロップすること

ALT キーを押しながら既存ラベルの上に項目をドラッグ&ドロップすると、以下のようになります。

The screenshot shows the 'Company - A' Feature Report window. On the left is a metadata table. The main area on the right is mostly empty, with a small label 'L: PNT2 (155.25, 50.00, 0)' being dragged over it.

Company - A	
Feature Report	
Operator:	BOB
CMM:	GLOBAL
Shift:	PM
Time:	15:36
Date:	December 10, 2010
Revision #:	
Serial #:	
Part Name:	Test

大ページサイズのラベルの上にドラッグした例

PC-DMIS はラベルの情報をドロップしたものに置き換えることはしません。代わりに、新しいラベルが既存ラベルの上に浮かびます。

The screenshot shows the same 'Company - A' Feature Report window. A new label 'PNT2=POINT MEASURED FROM 1 HIT' is being dropped over the existing 'L: PNT2' label. The new label is a table with measurement data.

PNT2=POINT MEASURED FROM 1 HIT			
AX	NOMINAL	MEAS	DEV
PR	163.263	163.263	0.000
PA	14.193	14.193	0.000
Z	0.000	0.000	0.000
I	0.000	0.000	0.000

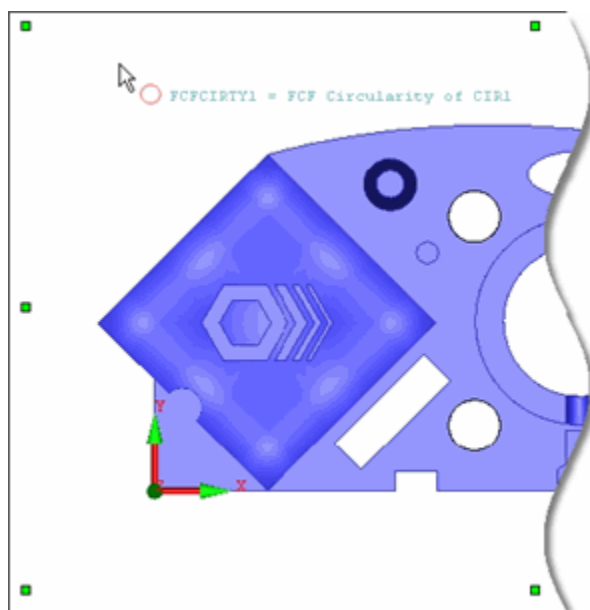
ALTキーを押しながら大ページサイズのラベルの上にドロップする例

## カスタム レポートの作成

この機能は、ページの大部分を占める大きなカスタムラベルがあり、それを更新する代わりにそのラベルの上に新しいラベルを置く場合に便利です。

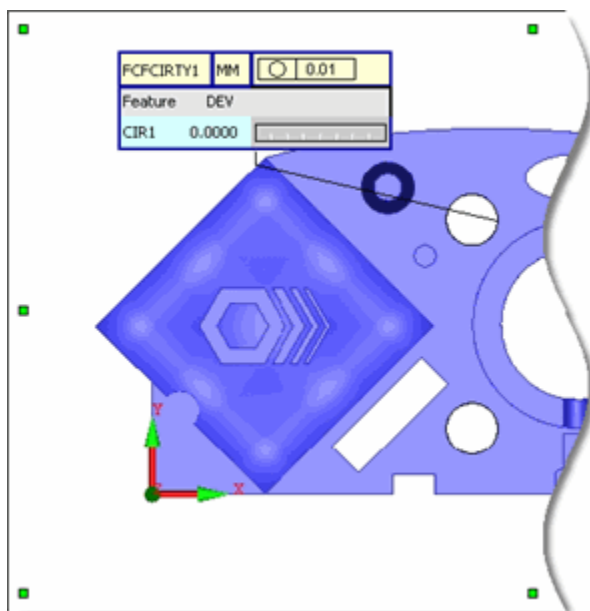
### 要素または寸法データをCADReportObjectにドロップする

**CADReportObject** (CRO)のトップの上に要素または寸法をドラッグする場合、このようにしてください:



CROの上に寸法をドロップする例

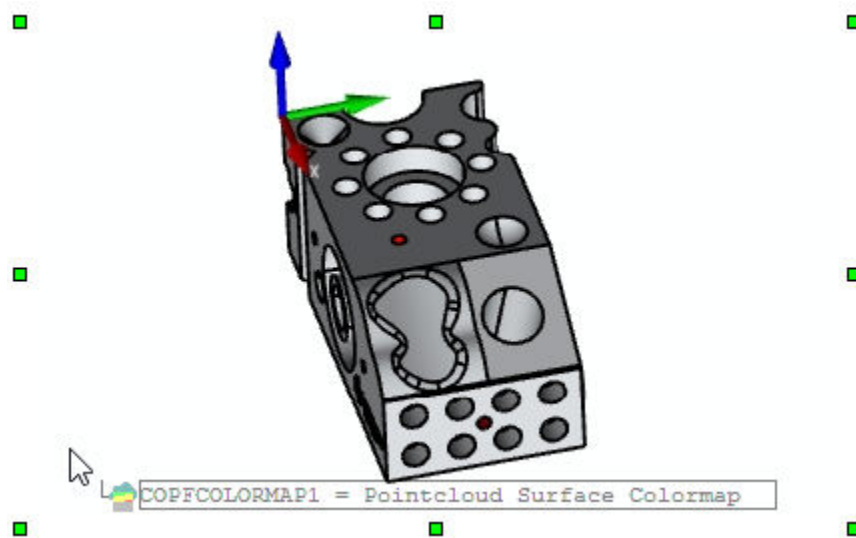
PC-DMISはドロップされたオブジェクトの適切なラベルオブジェクトと引出線をCRO上に追加します。PC-DMISが表示するラベルはページオブジェクトのルールツリーエディタではなく、CROのルールツリーエディタで指定されたラベルによって異なります。



CROの上にドロップされる寸法の例

### カラーマップをCADReportObjectにドロップすること

カラーマップを**CadReportObject**（CRO）の上にドラッグすると、次のようにしてください：

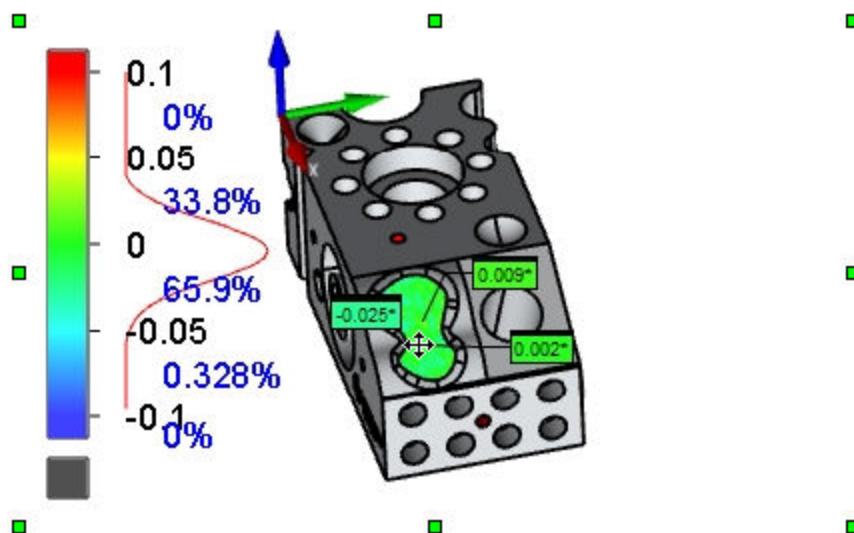


サーフェスのカラーマップをCROにドロップする例

PC-DMISはCRO上にカラーマップを表示します：



## カスタム レポートの作成

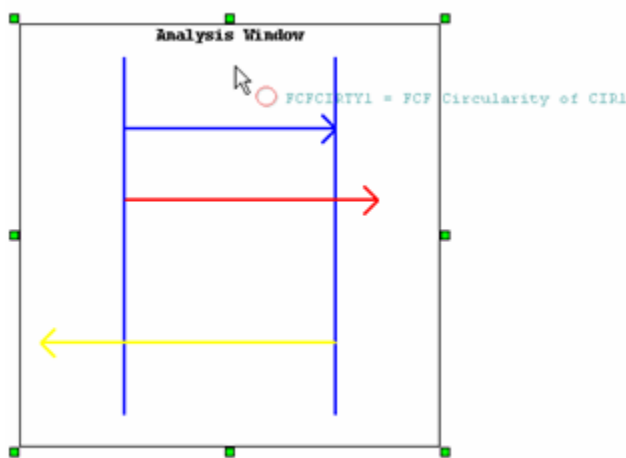


サーフェスのカラーマップをCROにドロップする例

CROでのカラーマップの使用の詳細については、「カラーマップとCadReportObject」を参照してください。

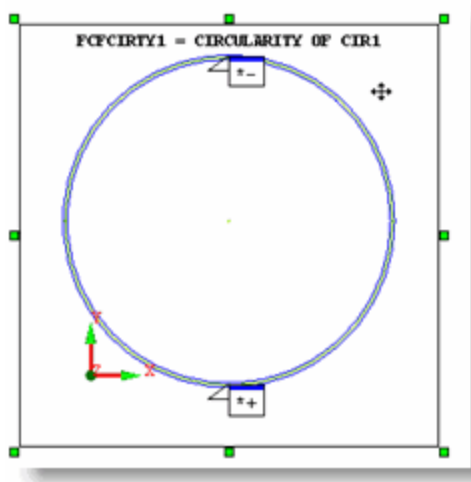
## 分析オブジェクトのデータのドロップ

分析 オブジェクトのトップに寸法をドラッグする場合、このようにしてください:



分析オブジェクトの上に寸法をドロップする例

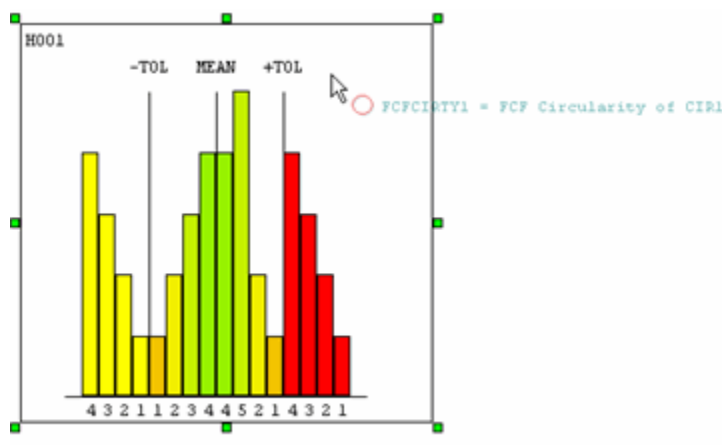
PC-DMIS は分析 オブジェクト内のドロップされる寸法のグラフィカルな分析情報を表示します。



分析オブジェクトの上にドロップされる寸法の例

### DimensionHistogramオブジェクトへのデータのドロップ

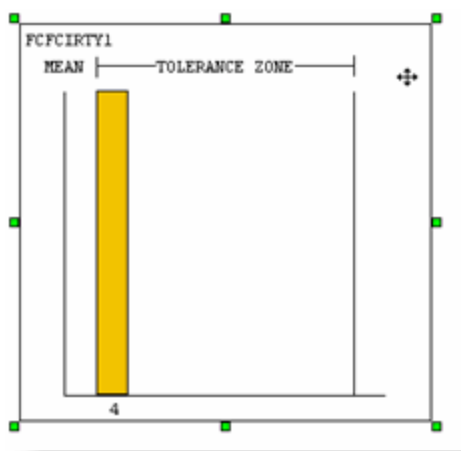
DimensionHistogramオブジェクトの最上部に測定結果をドラッグする場合は、下記のようにしてください。



DimensionHistogramオブジェクトの最上部に寸法をドロップする例

PC- DMISはDimensionHistogramオブジェクト内部にドロップされた測定結果のヒストグラム情報を表示します。

## カスタム レポートの作成



DimensionHistogramオブジェクトの最上部にドロップされる寸法の例

### 無効なドロップエリア

無効なオブジェクトの上に項目をドロップしようとする（例えば、要素または測定結果をテキストオブジェクトの上にドラッグする場合）、PC-DMISはポインタを変更して赤色の「許可されていない」記号を表示して、そのアイテムをそこにドロップできないことをユーザーに示します。



ドラッグされる寸法の無効なドロップエリアの例

### ドロップする場合、ShiftキーとCtrlキーを使用します。

コマンドのドロップ (要素または測定結果など) を実行している間に、ShiftまたはCtrlキーを長押ししてボタンを離すと、PC-DMISは以下を行います。

- SHIFT キー- PC-DMISはその項目にCommandTextObjectを挿入します。これで、テキストにその項目の情報を表示でき、非テーブル形式です。
- Ctrl Lキー - PC-DMIS は開く ダイアログ ボックスを表示します。これによって、ユーザーは項目の異なるラベル テンプレートを選択できます。

データ項目のドロップを実行する場合、Ctrl キーを押すと、PC-DMIS はデータ項目の評価式を表示だけではなく、要約モードからのテキストの文字列の説明も同様に表示します。

## 複数のアイテムをドロップします

編集ウィンドウの要約モードから同時に複数の項目をドラッグすることができます。これはレポートに数個の項目をすばやく追加する場合に便利です。

- 連続項目のリスト全体を選択するには、最初の項目をクリックして、キーボードのShiftキーを押して最後の項目をクリックします。それらの項目の間のすべての項目が選択されます。
- 既存の選択範囲から個々のアイテムを選択または選択解除するには、Ctrlキーを押しながら項目をクリックします。

項目のリストを選択したら、それらをエディタにドラッグするだけです。

## ルールの使用

レポートをテンプレートと同様に、カスタム レポートはルール ツリー エディタを使用してレポートに使用されるラベル テンプレートを定義します。トルールのデフォルトセットは自動的に含まれて、カスタムテンプレートのラベルのようなものをロードする場合には、デフォルトセットを変更する必要があります。

これらのルールと作業するには、

1. カスタム レポート エディタ (ファイル | レポート | 新規 | カスタム レポート)の編集エリア (ページ) を右クリックします。
2. 小さなポップアップメニューから [プロパティ] を選択して [プロパティ] ダイアログボックスを開きます。
3. ルール ツリー エディタ プロパティからルール... をクリックします。ルール ツリーエディターが表示されます。
4. 必要に応じて、ルールを変更します。

ルール ツリー エディタのアクセス及び使用の情報については、「ルールツリー エディタについて」を参照してください。

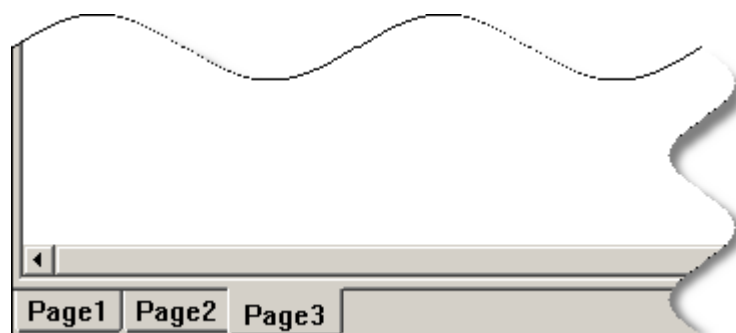
## 複数のページを使用した作業

カスタムレポートエディタで (ファイル | レポート | 新規 | カスタム レポート)、新規カスタムレポートを作成する場合、編集エリアはブランクです。編集領域自体を除いてオブジェクトは編集領域に存在しません。編集エリアは実際にはページオブジェクトで

## カスタム レポートの作成

あり、そのプロパティをその他の任意オブジェクトと同様に変更できます。単にオブジェクトを右クリックしてプロパティを選択します。

レポート テンプレートエディタの **セクション** タブに似てますが、**カスタム レポート エディタ** に複数の **ページ タブ** (ページオブジェクト) を作成できます。これを行うためには、タブを右クリックしてポップアップメニューから**追加タブ**を選択します。以下のように編集領域の下部に追加されたタブが表示されます。



### [複数ページ] タブ

ここでは、後にレポート ウィンドウに表示される追加のレポート用ページを作成します。**セクション** タブに似てますが、**ページ** タブは最終報告書に1つの追加のページを表示し、しかし **セクション** タブは実際にそのセクションのオブジェクトのルールと測定ルーチンの長さにより最後のレポートの複数のページの表示を終わります。

さまざまなニーズを満たすためにページオブジェクトをサイズできます。たとえば、1つのページのプロパティを変更して標準的なポートレート形式でその内容を表示でき、またはランドスケープ形式で別のページのプロパティでその情報を表示し、または特定のロケール用のプリンタやページ設定と一致します。

同様に、ページの並べ替えも簡単に行えます。これを行うために、**ページ** タブを右クリックして、**右を移動** または **左を移動** のいずれかを選択します。それに伴い、編集領域の下部にあるタブが並べ替えられます。




レポートウィンドウのプレビューペーンから、ページを作成して再順序付けすることもできます。そのペーンからオブジェクトをドラッグ&ドロップして、あるページから別のページに移動することができます。詳しくは、「プレビューペーンでの操作」を参照してください。

## カスタム レポートの表示および印刷

カスタム レポートはビューされ、レポートウィンドウを使用して印刷されます。

レポートを表示するには、次の手順に従います：

1. ビュー | レポート ウィンドウ を選択してレポート ウィンドウにアクセスします。
2. レポートウィンドウツールバーから、**カスタム レポート選択ダイアログ アイコン**  を選択します。ダイアログ ボックスがすべてのカスタム レポートを表示します。
3. レポートを選択して **開く** をクリックします。選択したレポートがレポート ウィンドウに表示されます。

レポートを印刷するには、次の手順に従います：

1. **ファイル | 印刷 | レポートウィンドウの印刷設定...** メニュー項目を使用してアウトプットを定義します。
2. 測定ルーチンを実行してまたはレポートツールバーから**印刷 アイコン**をクリックします。








## カスタム レポートの編集及び削除

カスタムレポートは標準的なファイルとして保存されません。代わりに、測定ルーチンの一部として保存されます。

### カスタムレポートの編集

1. PC-DMISはビュー | レポート ウィンドウ を選択して、レポート ウィンドウを選択します。


## カスタム レポートの作成

2. レポートウィンドウから、**カスタム レポート選択ダイアログ アイコン**  をクリックします。
3. 編集するレポートを選択します。
4. [レポート] ツールバーから、[レポートの編集] (  ) をクリックしてレポートを編集モードにします。レポートが編集モードにある場合、PC-DMISは編集ウィンドウを要約モードで表示します。また、PC-DMIS は以下のレポートツールの有効化または表示を行います：
  - レポート ツールバーの[保存] (  ) および[名前を付けて保存] (  ) ボタン
  - フォント バー
  - レイアウト バー
  - オブジェクト バー
  - [表示|レポートのコントロール]のサブメニュー
5. [編集]ウィンドウと上記のレポートツールを使用してレポートを編集します。
6. **保存** (  ) または**名前を付けて保存** (  ) をクリックして変更を保存します。
7. **編集** (  ) を再度クリックして、編集モードを終了し、PC-DMISを以前の状態に戻します。

代わりに、以前の「ファイル | レポート | 編集 | カスタムレポート」メニューアイテムを介してカスタムレポートを編集することもできます。

## カスタムレポートの削除

カスタムレポートは測定ルーチンに保存されるため、Windowsエクスプローラではなく、PC-DMIS内でカスタムレポートを削除する必要があります。

1. PC-DMISはビュー|レポート ウィンドウ を選択して、レポート ウィンドウを選択します。
2. レポートが編集モードでないことを確認します。
3. レポートウィンドウから、**カスタム レポート選択ダイアログ アイコン** (  ) をクリックします。

4. レポートを選択して消去します。
5. キーボードの削除キーを押します。

## 他の測定ルーチンからのカスタム・レポートの使用

現在の測定ルーチンのその他の測定ルーチンからのカスタム レポートを使用してある程度にします。

このためには次の操作を行います:

1. **ファイル| レポート| 編集| その他の測定ルーチンからのカスタム レポート** メニュー項目を選択します。**開く** ダイアログ ボックスが全部の測定ルーチンを表示します。
2. ユーザの測定ルーチンを選択して**開く**をクリックします。**カスタム レポート** ダイアログ ボックスが表示されます。選択された測定ルーチンのために存在するレポートがある場合、それはこのダイアログ ボックスに表示されます。
3. ダイアログ ボックスから、使用したいレポートを選択して**開く**をクリックします。カスタム レポート エディタにレポートが表示されます。

測定ルーチン内に要素または項目が検出されない場合は、ラベルおよびオブジェクトは空白になります。

---

## 式レポートについて

レポート式は、ユーザーがレポートおよびラベルテンプレートオブジェクトの内部に配置し、PC-DMISから特定のデータを抽出して、それらのオブジェクトに配置するための特別なコマンドです。例えば、要素IDをラベルテンプレートに挿入したいとします。そのためには、**GridControlObject**などの式をサポートするオブジェクトをレポートに追加します。次に、グリッドの式セル内に「= ID」と入力します。

レポート式を挿入できるエリアが4箇所あります:

- ルールツリーエディタ - **条件式** と **テキスト式** ボックス内にあります
- GridControlObject - グリッドセル内にあります
- GridControlObjec - 繰り返し式の行タブの**繰り返し式**ボックス内にあります
- プロパティシートの値 - テキスト値を取得する編集フィールドまたはコンボボックスにあります



## 式レポートについて

レポート式のコードを挿入する場所については、これらのトピックを参照してください。

利用可能な式については「関数と演算子」を、利用可能な関数、演算子、およびデータ型のリストについては「データ型を使用してレポート式を検索」を参照して下さい。



レポート表現も多くの通常のPC-DMIS式を使用することができます。それらをセル内に入力するときは、単に「=」記号をその式の前に入力します。式については「式と変数の使用」の章に記載しています。

## 関数および演算子

下記は、報告する式言語に利用可能な要素およびオペレーターのリストです。これらは、PC-DMIS式言語と同様に機能します。

レポート式の言語は、変数、構造、またはPC-DMIS式の言語のような関数をサポートしていません。変数の代わりに、data\_typeという新しいタイプは言語に追加されました。もっと多くの情報について「データタイプ使用でのレポート式検索」を参照してください。もう1つのレポート言語の新たな違いは、「既定の定数」で説明したように定数一式が追加できることです。



等号 (=) で式を先立つことをおぼえてください。また、データを取得しているコマンドが使用したい式をサポートするのを確認してください。

() 括弧は式のグループと評価順序の定義に使用されます。

## レポート式用関数

アスタリスク記号 (\*) で先立たれた項目は報告式の言語に特有されます。

**ABS(<式>)**

この関数は入力値の絶対値を返します。

**COS(<式>)**

この関数は入力値の逆余弦を返します。入力と結果の単位はラジアンです。

**ANGLEBETWEEN(<式1>, <式2>)**

この関数は式1と式2の2入力間の角度を返します。それはベクトル型でなければなりません。結果は角度で表示されます。

**ARRAY(<式1>, <式2>, & <式N>)**

この関数は入力値から配列を作成します。

**COS(<式>)**

この関数は入力値の逆正弦を返します。入力と結果の単位はラジアンです。

**ATAN(<式>)**

この関数は入力値の逆正接を返します。入力と結果の単位はラジアンです。

**AVERAGE(<式>)**

PC-DMISの式言語のものと同じです。

**COMMANDDATA(<式1>, <式2>)**

この式はレポートデータイベントからコマンドオブジェクトによって参照される要素からの情報を計算または表示します。これは、式1に必要なパラメータを1つ取得します。このパラメータは、表示する要素情報をPC-DMISに伝えます。2番目のオプションパラメータである式2は将来のサポートのために提供されていますが現在は未使用です。

式1によって下記のような文字列値を渡すことができます。

- 「RMS」—これは、二乗平均平方根を表します。それは、要素の二乗平均平方根値を計算します。
- 「T」—これは、特徴（それは寸法に関してT軸と同じです）のT値を返します。

また、式1を介して下記のようにISOUTTOL() 関数のような式を渡すこともできます。



公差範囲外の値が0より大きいかどうかを確認する  
TEXTANDCAD\_OOT.RTP レポートテンプレートから取得される下記の式があるとしたします：

「`COMMANDDATA( "=ISOUTTOL( )", " ") > 0`」である場合、テンプレート「`Reference_ID.lbl`」を使用します

そうである場合、それは `Reference_ID.lbl` ラベルテンプレートを使用します。ISOUTTOL について詳しくは、下記のISOUTTOL式の説明を参照してください。

#### CHR(<式>)

この関数は対応する入力値に対するASCII文字値を返します。入力値は整数型である必要があります。

#### \*COLOR(<式1>, <式2>)

この関数はカラーツリーで現在定義されている4色のうちの1色を式1のテキスト値に使用します。1 = マークされた色、2 = マークされない色、3 = ステップモードおよび 4 = エラー色。「文字列のテキスト色の変更」を参照してください。

#### \*GetTolColor(式1, 式2, 式3)

この関数は偏差、プラス公差およびマイナス公差の3式を取得します。この関数は偏差に基づいてタイプ COLORREF として現在の公差色を返します。

式1 はダブル型の値として偏差です、式2 はダブル型の値としてプラス公差です、また式3ダブル型の値としてマイナス偏差です。

**ForeColor**と**BackColor**など、レポート内のオブジェクトの色プロパティについて返された色を使用して、動的に現在の公差値を反映するオブジェクト色を変更することができます。

これらの色は**寸法色の編集**ダイアログボックスに指定されます。「CAD 表示の編集」の章の「寸法色の編集」を参照してください。

#### CONCAT(<式1>, <式2>, & <式N>)

この関数は式1～式Nで指定される文字列のすべてを1つの文字列に連結します。

#### COS(<式>)

この関数は入力値の余弦を返します。入力と結果の単位はラジアンです。

**\*COUNT( 式1 )**

この関数は現在のコマンドに対して式1で定義されたデータ型のインスタンス数を返します。

**CROSS(<式1>, <式2>)**

この関数は式1および式2の外積を返します。式1と式2はベクトル型である必要があります。

**\*DATAFIELD(<式1>, <式2>, <式3>)**

この関数はカスタムレポートエディタ内部のみ使用します。この関数は要素、測定結果またはコマンド内の特定データフィールドからの情報を返します。この関数は次の3パラメータを取得します: 式1は固有 IDまたはコマンドのIDを表す文字列、式2はデータ型を表す文字列、式3は型インデックスです。通常、型インデックスは0ですが、dtypeが複数回発生する場合は1以上の値になります。

編集ウィンドウからカスタムレポートに項目をドラッグ&ドロップすると、PC-DMISはこの式を自動的に作成して使用します。

**DATEVALUE( )**

PC-DMIS式言語で使用されているものと同様です。

**DEG2RAD(<式>)**

この関数は入力角度を度(°)からラジアンへ変換します。

**DELTA (<expression1>, <expression2>, <expression3>)**

この関数は、expression1で指定された点からexpression3で指定された距離だけexpression2で指定されたベクトルに沿って移動する新しい点を生成します。

**DISTANCEFROMEDGE( )**

この関数はCADの最も近いエッジからコマンドの基本的要素の測定重心までの距離を取得します。

- 基礎的なコマンドが要素である場合、この関数は測定要素を使用して距離を返します。
- 基礎的なコマンドが寸法である場合、この関数は測定結果における最初の要素を使用して距離を返します。

ルールツリーエディタの機能を使用して、返された距離に基づいて異なるラベルテンプレートを指定できます。

## 式レポートについて

`DOT(<式1>, <式2>)`

この関数は式1と式2の内積を返します。入力値はポイント型である必要があります。

`DOUBLE(<expression>)`

この関数は入力値を現在の型から倍精度型に変換します。点の場合、関数は原点から点までの距離を返します。

`*ELAPSEDTIME()`

この関数は実行に掛かった時間を返します。

`ELEMENT(<式1>, <式2>, <式3>)`

PC-DMIS 式言語のものと同じです。

`EQUAL(<式1>, <式2>)`

この関数は2つの配列が同じであるかどうかテストし、同じ場合は1、違う場合は0を返します。

`<式1> ^ <式2>`

PC-DMIS 式言語のものと同じです。

`EXPON(<式>)`

PC-DMIS 式言語のものと同じです。

`*FILENAME()`

この関数は測定ルーチンのフルパスとファイル名を返します。

`FORMAT(<式1>, <式2>)`

PC-DMIS 式言語のものと同じです。

`*GETCOUNT(expression1)`

この関数は ENUM\_FIELD\_TYPESデータタイプに対して存在するインスタンス数を式1で指定される Long型の値で返します。例えば、X、Y、ZおよびDでレポートする位置の測定結果は軸データタイプに対して4を返します。

`GETFEATURESSETID(<式1>)`

実行中に、現在のコマンドが測定結果である場合、この関数はこの測定結果の参照要素が要素セット内にあるかどうかをチェックします。参照要素が要素セット内にあると判定された場合、その要素セットのIDは、文字列の最後に「.lbl」拡張子が追加された文字列の値として返されます。場合、その要素セットのIDを文字列の最後に「.lbl」拡張子を追加された文字列の値として返します。参照要素付きの要素セットコマンドが見つからない場合、この関数は<式1>で与えられたデ

フォルトの文字列値を返します。このデフォルト値は.lbl 拡張子を含むラベルファイル名である必要があります。



たとえば、CIR1という名前の円を参照する以下の場所寸法を持つのを仮定します。



```
DIM LOC1= LOCATION OF CIRCLE CIR1 UNITS=IN , $
GRAPH=OFF TEXT=OFF MULT=10.00 OUTPUT=BOTH
...
END OF DIMENSION LOC1
```

ルールのGetFeatureSetID 機能を使用して自動的にラベルを定義し、それはCIR1が要素の設定内に存在するかどうかに応じて、この寸法の表示を取得します。

たとえば、CIR1を含むFEAT/SETコマンドを発見できない場合、このルールは自動的にLEGACY\_DIMENSION.LBLラベルを使用します。



```
USE TEMPLATE
"=GetFeatureSetID( "LEGACY_DIMENSION.LBL" ) "
```

FEAT/SET コマンドがある場合、コマンドのIDを変更して使用する目的のラベル名に(またはラベルファイルを変更してIDに一致します)一致します。PC-DMISは、代わりにそのラベルを使用します。

このコードのこの部分では、FEAT/SET がCIR1を参照します。また、通常のラベルIDが「REFERENCE\_ID」に変更され、GetFeatureSetID関数は「REFERENCE\_ID.LBL」を返します。



```
REFERENCE_ID=FEAT/SET,CARTESIAN
THEO/<0,0,0>,<0,0,1>
ACTL/<0,0,0>,<0,0,1>
CONSTR/SET,BASIC,CIR1,,
```

## 式レポートについて

### GETTEMP(<式1>)

この関数は指定された温度または閾値を返します。expression1に使用されるこれらの文字列値の1つが、この関数が返すものを決定します:

- 「TEMPPP」 - パーツの温度を返します。
- 「TEMPX」 - X軸の温度を返します。
- 「TEMPY」 - Y軸の温度を返します。
- 「TEMPZ」 - Z軸の温度を返します。
- 「REF\_TEMP」 温度補償基準温度を返します。
- 「HIGH\_THRESHOLD」 温度補償に高いしきい値を返します。
- 「LOW\_THRESHOLD」 温度補償に低いしきい値を返します。

### GETPROGRAMINFO(<string>,<optional string>)

PC-DMIS 式言語のものと同じです。

### IF (<expression1>、<expression2>、<expression3>)

expression1がゼロ以外の値に評価される場合、関数はexpression2の値を返します。それ以外の場合、関数はexpression3の値を返します。

### INDEX(<式1>、<式2>)

PC-DMIS 式言語のものと同じです。

### INTEGER(<式>)

PC-DMIS 式言語のものと同じです。

### ISMARKEDFORARM(<expression>)

この関数は、複数アームモードのコンテキストで使用します。この関数はコマンドが<式>で指定されたアームにマークされている場合は 1 を返し、それ以外の場合は 0 を返します。この関数によってユーザーは、コマンドの実行アームに基づいてレポートに表示する内容をコントロールできます。



```
=IsMarkedForArm(1)
```

現在のコマンドはアーム 1 にマークされたら、1をリターンして、またはそれは0をリターンします。



```
=IsMarkedForArm(2)
```

現在のコマンドはアーム 1 にマークされたら、2 をリターンして、またはそれは 0 をリターンします。



```
=IsMarkedForArm(1) AND IsMarkedForArm(2)
```

現在のコマンドは両方のアームにマークされたら、1 をリターンして、またはそれは 0 をリターンします。

**\*ISOUTTOL()**

この関数はコマンドが公差範囲外かどうかをチェックします。これは上で説明したとおりCOMMANDATA式でのみ使用されます。

**LEFT(<式1>, <式2>)**

PC-DMIS 式言語のものと同じです。

**LEN(<式>)**

文字列の場合、この関数は文字列内の文字数を返します。配列の場合は、配列における要素数を返します。

**LN(<式>)**

PC-DMIS 式言語のものと同じです。

**\*LOADSTR(<式>)**

この関数は数値を使用してリソースファイルから文字列を読み込みます。負の数値の場合、文字列のリソースから文字列が読み込まれます。詳しくは、「PC-DMISから文字列を読み込む」を参照してください。

**LOG(<式>)**

PC-DMIS 式言語のものと同じです。

**LOWERCASE(<式>)**

PC-DMIS 式言語のものと同じです。

**<式1> < <式2>**

PC-DMIS 式言語のものと同じです。



## 式レポートについて

MAX(<式>)

PC-DMIS 式言語のものと同じです。

MAXINDEX(<式>)

PC-DMIS 式言語のものと同じです。

MAXINDICES(<式>)

PC-DMIS 式言語のものと同じです。

\*MEASSCALE()

この関数は測定時に使用される再サイズ変更の倍率を返します。

MIN(<式>)

PC-DMIS 式言語のものと同じです。

MININDEX(<式>)

PC-DMIS 式言語のものと同じです。

MININDICES(<式>)

PC-DMIS 式言語のものと同じです。

MID(<式1>, <式2>, <式3>)

PC-DMIS 式言語のものと同じです。

MPOINT(<式1>, <式2>, <式3>)

PC-DMIS 式言語のものと同じです。

\*NUMMEAS()

この関数はレポートされる測定結果の数を表す数値を表示します。

\*NUMOUTTOL()

この関数はレポートされた公差範囲外にある寸法の数を表示します。

ORD(<式>)

PC-DMIS 式言語のものと同じです。

PCDMISUSERHIDDEN DATAPATH()

PC-DMIS 式言語のものと同じです。

PCDMISUSERVISIBLE DATAPATH()

PC-DMIS 式言語のものと同じです。

`PCDMISSYSTEMHIDDENDATAPATH( )`

PC-DMIS 式言語のものと同じです。

`PCDMISSYSTEMVISIBLEDATAPATH( )`

PC-DMIS 式言語のものと同じです。

`PCDMISSYSTEMREPORTINGPATH( )`

PC-DMIS 式言語のものと同じです。

`PCDMISAPPLICATIONPATH( )`

PC-DMIS 式言語のものと同じです。

`*PARTNAME( )`

この関数はパート名を表示します(ファイルヘッダーに表示されたのと同じ)。

`*PAGE( )`

この関数は現在のページ番号を表示します。

`*PAGES( )`

この関数は総ページ数を表示します。

`PAGEDIMCOUNT( "ObjectID", Range )`

この関数は2つのパラメータを取得します。最初のパラメータが空である（引用符の内側に何も無い）場合、この関数は最大偏差がRangeの\*公差より小さい現在のページにおける測定結果の数を返します。2番目のパラメータ、レンジで、浮動数です。最初のパラメータが CadReportObject ID または TextReportObject ID を参照する場合、これは指定された CadReportObject または TextReportObject と関連する公差範囲内の測定結果の数を返します。



例えば、ユーザがCadReportObject1と公差範囲外の寸法の数を知りたいと想定します。以下のようなコードを使用することができます:

```
=TotalPageDimCount( "CadReportObject1" ) -  
PageDimCount( "CadReportObject1", 1.0 )
```

特定数の軸を含む寸法の数も計算することもできます。これを行うには、IDに「:N」を追加します。Nは軸の数を表す数値です。



`=PageDimCount("CadReportObject1:4",1.0)` と入力します。これによって、指定される公差 1.0 の範囲内で 4 つ以上の軸を含み、第四軸を有する CadReportObject1 と関連する寸法の数 が返されます。軸の数を指定しない場合は、すべての軸が1.0の指定された公差範囲にあると、CadReportObject1に関連付けられる寸法数を返します。

カスタムレポートの場合、TextReportObjectがカスタムレポートに適用されない  
ので、この機能はCADReportObjectのみで使用できます。

`RAD2DEG(<expression>)`

PC-DMIS 式言語のものと同じです。

`REAL(<expression>)`

PC-DMIS 式言語のものと同じです。

`*REGSETTING(<式1>, <式2>)`

この関数は特定のエントリの値を表示します。この関数は以下の2つのパラメータを取得します: 式1はセクションを決定し、式2はエントリを決定します。

`REPORTDIMCOUNT("<式1">, <式2>)`

この関数は現在のページの公差範囲外の測定結果の数を表示しないで、レポート全体の公差範囲外の測定結果の数を表示することを除いて、PageDimCount()関数と同様に機能します。また、<式1>では、CADReportObject1またはTextReportObject1をIDとして使用するか、それを空（引用符だけ）のままにする必要があります。

カスタムレポートの場合、TextReportObjectがカスタムレポートに適用されない  
ので、この機能はCADReportObjectのみで使用できます。

`REPORT_LABEL_AXIS(<expression1>,<expression2>, etc.)`

この関数は公差コマンドが出力する各軸を記述する \n で区切られた文字列を返します。

`*REPORTVALUE(<式1>)`

この関数は別のオブジェクトのプロパティ値を表示します。式1に示すようにパラメータを1つ取ります。これは、オブジェクトの固有ID、ピリオドおよびプロパティ名が続いた文字列である必要があります。例:

`=REPORTVALUE("text1.text")`

**\*REVNUM( )**

この関数は改訂番号を表示します(ファイルのヘッダに表示されるものと同じです)。

**\*RGB(<式1>, <式2>, <式3>, <式4>)**

この関数は式1で指定される文字列の色を式2、3、4のRGB値で指定される色に設定します。「文字列のテキスト色の変更」を参照してください。

**RIGHT(<expression1>, <expression2>)**

PC-DMIS 式言語のものと同じです。

**ROUND(<expression1>, <expression2>)**

PC-DMIS 式言語のものと同じです。

**\* SECTION ( )**

この関数は、現在のセクション番号を表示します。

**\*SERNUM( )**

この関数は、シリアル番号を表示します (ファイルヘッダーに表示されるものと同じ)。

**SIN(<expression>)**

PC-DMIS 式言語のものと同じです。

**SORTUP(<expression>)**

PC-DMIS 式言語のものと同じです。

**SORTDOWN(<expression>)**

PC-DMIS 式言語のものと同じです。

**SQRT(<式>)**

PC-DMIS 式言語のものと同じです。

**\*STATCOUNT( )**

この関数は統計数を返します(ファイルのヘッダに表示されるものと同じです)。

**STR(<expression>)**

PC-DMIS 式言語のものと同じです。

**STRING(<expression>)**

PC-DMIS 式言語のものと同じです。

**SUM(<式>)**

PC-DMIS 式言語のものと同じです。

## 式レポートについて

`SYSTIME()`

PC-DMIS 式言語のものと同じです。

`SYSTEMDATE(<expression>)`

PC-DMIS 式言語のものと同じです。

`SYSTEMTIME(<expression>)`

PC-DMIS 式言語のものと同じです。

`*TOGGLESTR(<式1>, <式2>)`

この関数は式1のリソースID値に基づいて、リソースベースから得られた文字列を入れ換えます。この関数は、文字列が文字列リソースから取得される場合に負の数を使用します。この関数は、expression2の値を使用して、返すサブストリングを指定します。返される値はサブストリングです。

`*TOGGLESTRING(DATA_TYPE)`

指定のコマンドに指定されたデータ型がトグル文字列型である場合、この関数は完全なトグル文字列を返します。

`*TOGGLEVALUE(DATA_TYPE)`

指定のコマンドに指定されたデータ型がトグル文字列型の場合、この関数はトグル文字列のインデックス番号（またはトグル値）を返します。

`*TOL(<式1>, <式2>, <式3>, <式4>)`

式1 は色に対する文字列、式2 はテスト値、式3 は最大公差範囲内値および式4は最小公差範囲内値です。テスト値が公差範囲内(式3および式4の間の値)である場合、ソフトウェアはテキストを黒色にします。そうでない場合、ソフトウェアはテキストをエラー用の色 (通常は赤) にします。色エディタダイアログボックス (編集 | 基本設定 | 編集ウィンドウの色) でエラー色を定義できます。

例えば、下記のコードは黒色でテキスト「公差内」を表示します。

```
=TOL(「公差内」、100、100.5、99.5)
```

下記のコードはエラー色 (デフォルトでは赤色です) でテキスト「公差外」を表示します。

```
=TOL("公差範囲外",99,100.5,99.5)
```

`*TOLF(<式1>, <式2>, <式3>, <式4>, <式5>)`

この関数はTOL式以外の追加のフォーマット機能を提供します。最初の4つのパラメータは、上記のTOL関数にリストされているものと同じです。5番目の式はフ

ォント、サイズ、フォーマットおよび公差範囲外の状態の色を決定します。それは、次の構文になるはずです。

**"f:s:w:c"**

**f**は使用するフォントの名前です。

**s**は点単位でのフォントのサイズです。

**w**は、フォントの書式であり、下記のいずれかを使用して行うことができます:

    ボールド体フォーマットに対するB または BOLD。

    イタリック体書式に対するI または ITALIC。

    レギュラー書式に対するRまたはREGULAR。

    BI、BOLDITALIC、IBまたはITALICBOLDはボールド書式とイタリック書式の両方の字体です。

**c**はRGB (r, g, b) の色書式です。ここで、r=赤、g=緑、およびb=青です。各値は 0~255の範囲にあります。

これらの項目はオプションで、コロン (:)で区切る必要があります。例えば、フォントサイズだけを設定するには、「:14」を使いますが、色だけを設定するには、「:::RGB(0,0,0)」が必要です。

この例は、太字書式で赤色のArialフォントのサイズ 12 で、公差範囲外である任意の測定された寸法をフォーマットします。

```
=TOLF(DIM_MEASURED:N,DIM_OUTTOL:N,0.0,0.0,"Arial:12:B:RGB(255,0,0)")
```

```
TOLEXT(<expression1>, <expression2>, <expression3>,  
<expression4>, <expression5>)
```

この関数は ExtendedDTypesを使用できることを除いて、TOL 関数と同様です。

以下にその例を記載します。

```
=TOL(LINE1_NOMINAL:N,LINE1_OUTTOL:N,0.0,0.0)
```

```
=TOLEXT(REPORT_LABEL_NOMINAL:N,DIM_OUTTOL:N,"SEG=1",0.0,  
0.0)
```

## 式レポートについて

ここで、"SEG=1" は PC-DMIS が式 `REPORT_LABEL_NOMINAL` に追加する拡張部分です。

`TOTALPAGEDIMCOUNT("ObjectID")`

この関数には1つのパラメータが含まれます。関数が空の場合(引用符の間に何も無い場合)、現在のページにある測定結果の総数を返します。ユーザーがパラメーターに `CadReportObject` または `TextReportObject` のIDを入力した場合、PC-DMIS はそのオブジェクトに関連した測定結果の総数を返します。



この式 `=TotalPageDimCount("CadReportObject3")` を使用して、`CadReportObject3` に関連する寸法の総数を返すことができます。

特定数の軸を含む寸法の数进行計算することもできます。これを行うには、IDに「:N」を追加します。Nは軸の数を表す数値です。



`=TotalPageDimCount("CadReportObject1:4")` と入力して、4 軸以上を含んでいた `CadReportObject1` に関連する寸法の総数を返すことができます。

カスタムレポートの場合、`TextReportObject` がカスタムレポートに適用されないので、この機能は `CADReportObject` のみで使用できます。

`TOTALREPORTDIMCOUNT("ObjectID")`

この関数は、次の重要な違いがある `TotalPageDimCount()` 関数に似ています：現在のページの寸法数を返す代わりに、レポート全体の寸法総数を返します。これは、`CadReportObject` または `TextReportObject` がある場合に機能します。パラメータとしてオブジェクトIDがある場合は、`CadReportObject1` または `TextReportObject1` という名前にする必要があります。

カスタムレポートの場合、`TextReportObject` がカスタムレポートに適用されないので、この機能は `CADReportObject` のみで使用できます。

`TRACEFIELD(<式>)`

この関数はレポート内の一定のトレースフィールド名と値を表示します。式の値は、測定ルーチン内でリスト表示されたトレースフィールドの上から下への順番を表す数値です。つまり、リストの最初のトレースフィールドを表示する場合、コードは `=TRACEFIELD(1)` になります。

UNIT(<expression>)

PC-DMIS 式言語のものと同じです。

USERSTRING(<式1>,<式2>)

この関数はカンマ区切り値 (CSV) テキストファイルからカスタム文字列を取得して、その文字列をラベルに表示します。この関数の例は「テキストファイルから文字列を読み込み」を参照してください。

\*VARIABLE(<式1>,<式2>)

この関数は定義された変数の値を表示します。この関数は1つまたは2つのパラメータを取ります。式1は変数のIDを表す文字列値です。式2は別のコマンドIDまたはUIDのオプションIDです。詳しくは、「変数の値の表示」を参照してください。

VECX(<式>)

PC-DMIS 式言語のものと同じです。

VECY(<式>)

PC-DMIS 式言語のものと同じです。

VE CZ(<式>)

PC-DMIS 式言語のものと同じです。

## レポート表示式の演算子

<式1> == <式2>

式1が式2に等しいか評価します。それ以外の場合は0を返します。

<式1> >= <式2>

式1 が式2 より大きい、または同等である場合には 1 に評価します。それ以外の場合は0を返します。

<式1> <= <式2>

式1 が式2 より小さい、または同等である場合には 1 に評価します。それ以外の場合は0を返します。

<式1> > <式2>

式1 が式2 より大きい場合は 1 に評価します。逆には0に評価します。

<式1> < <式2>

式1 が式2 より小さい場合は 1 に評価します。逆には0に評価します。



## 式レポートについて

<式1> - <式2>

式1から式2を引きます。

<式1> / <式2>

式1を式2で割ります。

<式1> % <式2>

式1を式2で割った余りを返します。

<式1> \* <式2>

式1と式2を乗算します。

<式1> <> <式2>

式1と式2を比較します。一致しない場合は1を返します。一致する場合は0を返します。

-<式>

式のアンド値を負にする単項マイナス演算子

!<式>

論理非演算子。変数または式の値を反対にします。<式> がTRUEの場合、!<式> はFALSEを返します。。<式> がFALSEの場合、!<式> はTRUEを返します。

<式1> AND <式2>

2つの数でバイナリ AND 演算を実行します。それ以外の場合、混合型の場合は文字列や数字を連結します。

<式1> OR <式2>

2つの数でバイナリ OR 演算を実行します。

<式1> + <式2>

式1と式2を加算します。

## いくつかのレポート式の例

次のトピックで、レポートの表示式を使用して行えることをいくつか例を挙げて説明します。

- 変数の値を表示
- 文字列の色を変更
- PC-DMISから文字列を読み込み

- テキストファイルから文字列を読み込み

「機能と操作」トピックに機能と操作を使用して、自分のレポート式を作成します。

## 変数の値を表示

PC-DMIS のレポート言語で Variable() 関数を使用して、レポートに変数の値を表示することができます。この関数は、次の構文があります：

Variable(<varname>, [<optional command id or uid>])

最初のパラメータは、文字列型に強制的にし、変数の名前を表します。2 番目のオプションのパラメータを使用して、別のコマンドに対する変数の値の問題を解決することができます。



例えば、測定ルーチンにこのコードあるとします。

```
ASSIGN/V1=2  
  
F1=FEAT/CIRCLE...  
  
ASSIGN/V1=F1.X  
  
COMMENT/OPER,"Some comment text"
```

このサンプルの目的のために、そのコメントは一意のIDまたは"245"のUIDを持つと仮定します。

上のコードで以下の例を参考にして下さい:

`=VARIABLE("V1")` - 他のステートメントはレポートのV1の値を設定しない場合、その値は0、2であり、または要素F1の測定重心xの値と同じである可能性があります。これはすべてのコマンドが既に実行さによって異なってきます、そのポイントでレポート式が評価されるまたどのコマンドが現在のレポートの処理中です。

`=VARIABLE("V1", "F1")` - プログラムに「F1」という名前の要素のみある場合、この式を評価した結果は2にはずで、V1は要素F1の上の2に直接割り当てます。

`=VARIABLE("V1", 245)` - この場合、UIDが使用されるため、レポートのこの式の値はF1.Xと同じ値でなければなりません。



**GridControlObject** の個々のセルは測定ルーチンから変数の値を取得することはできません。ほとんどの場合、テキストオブジェクトを使用する必要があります。

## 変数とヘッダー

通常、レポートのファイルヘッダー内の変数の値を 表示できなく、PC-DMISは測定ルーチンにステートメントを実行する前にファイルヘッダーを評価します。従って、未作成の変数をファイルヘッダーが参照しようとする、PC-DMIS はゼロ値を表示します。しかし、いくつかのオプションは測定ルーチンからヘッダへ情報を取得します。

### オプション 1 - 変数の代わりにトレースフィールドを使用

測定ルーチンで変数の代わりにトレースフィールドを使用して情報を取得し、ヘッダーのラベルのテンプレートの**GridControlObject**の目的セル内の=TRACEFIELD() 関数を使用してそれを参照します。トレース・フィールドは、テンプレートに新しい情報に基づいてレポートを再評価させ、トレース・フィールドを表示させます。

### メリット/デメリット

- **利点** - 比較的簡単にセットアップします。
- **短所** - 実際に変数を使用しません。代わりにトレースフィールドは使用されて自分の限界を持ちます。

### 手順

**ステップ1:** PC- DMISでFile\_Header.lblファイルを開き、データの別の行を保持するように**GridControlObject**を変更します。

1. PC-DMISでラベル テンプレートエディタ([ファイル| レポート| 編集| ラベルテンプレート]) にアクセスし、File\_Header.lblを開きます。当該ファイルがラベル テンプレートエディタに表示されます。  
GridControlObjectと呼ばれるオブジェクトに内部に含まれる情報を見ることができます。
2. **GridControlObject** を選択して右クリックし、GridControlObject を作成するプロパティから成る[プロパティ] ダイアログボックスを開きます。**NumRows** を 3 に変更して別の行を追加し、Tab キーを押します。背景が追加された行をサポートするのに十分な高さではないことに注意してください。
3. [プロパティ] ダイアログボックスのドロップダウンリストから、**TheFrame/TheView** を選択して**高さ**プロパティを 100 に変更し、Tab キーを押して変更を確定します。

**ステップ2:** フィールドのトレース情報を受け入れるようにGridControlObjectにレポート式を追加します。

1. GridControlObject をもう一度選択します。
2. ハンドル（緑箱）がまだ新しく追加された行を含んでいない場合、彼らはそうするまでに緑ハンドルを下方にドラッグします。

3. ダブルクリックしてGridControlObject を「活性か」します。これはすべての舞台裏の式を示しています。
4. トレースフィールドの値を保持するセルを選択し、  
=TRACEFIELD(1) と入力して Tab キーを押します。この式はPC-DMISにそのセルに最初のトレースフィールドのデータを保存するよう指示します。たとえば、二番目の トレースフィールドのデータを要する場合、=TRACEFIELD(2)を使用します。(添付のイメージファイルを参照してください。)
5. セルと再生回避してまた必要に応じてそれらをフォーマットします。これを行う最良の方法はグリッド内部で 1 つまたは複数のセルを選択して右クリックし、[グリッドプロパティ] ダイアログボックスを開きます。
6. GridControlObject の外側をクリックして無効にします。
7. 変更を保存します。

### ステップ3：変更内容をテストします。

1. ユーザーの測定ルーチンを実行します。
2. レポート ウィンドウのビュー | レポート ウィンドウ にアクセスします。
3. レポートウィンドウのツールバーのレポートを再描画アイコンをクリックしてください。
4. トレース・フィールドの情報は現在のヘッダーに表示されます。

### オプション 2 - ASSIGNステートメントの定義後、測定ルーチンにレポートテンプレートを埋め込み

レポートテンプレートを埋め込み、パラメータとしてラベルテンプレートに変数の値を引き渡します。必要に応じて行または列を追加し、追加されたセルの上部に、表示したい変数ごとに[テキスト]オブジェクトを追加してサイズ調整します。最後に、REPORT/TEMPLATEコマンドのパラメータを通して[テキスト]プロパティを次のように変更します。



```
ASSIGN/V1="A String Value to Pass"  
CS1=REPORT/TEMPLATE,FILENAME=TEXTONLY.RTP,AUTOPRI  
NT=NO,Section=-1  
PARAM/TEXT1.TEXT=V1  
PARAM/=  
ENDREPORT/
```

ラベルテンプレートがレポートテンプレートにマージされるため、上記の方法でレポートテンプレートを参照することによって、ラベルテンプレートでの特定のパラメータを変更することができます。

### メリット/デメリット

- **利点** - 最終報告書のヘッダーに変数が表示されます。
- **短所** - コードに加えてテキストオブジェクトをラベルテンプレートに追加して、レポートテンプレートを測定ルーチンに埋め込む必要があるため、設定が多少難しくなります。しかし、この方法の主な短所は PC-DMIS がレポートを次々に 2 回生成することです (PC-DMIS のデフォルト機能から 1 回、埋め込まれた REPORT/TEMPLATE コードブロックからもう 1 回)。

### オプション 3 - ヘッダー情報をレポートに直接配置

ヘッダー用に File\_Header.tbl のような外部のラベルテンプレートを参照するレポートテンプレートを使用する代わりに、レポートテンプレート内で直接、ヘッダーのラベルテンプレートから **GridControlObject** を再生成します。必要に応じて行または列を追加し、追加されたセルの上部に、表示したい変数ごとに **[テキスト]** オブジェクトを追加してサイズ調整します。次に、各 **[テキスト]** オブジェクトに対して **=VARIABLE()** 関数を使用し、変数を取得します。例えば、**=VARIABLE("V1")** です。

レポートテンプレート内にこれらの残っている変更をします：

1. **TextReportObject** に値を変更してヘッダーのラベルは使用されません。
2. これらのプロパティを現在のセクションに設定します セクション1:

コマンドセット = すべてのコマンド

最大ページ数 = 1

3. 2番目のセクションを追加し、セクション2、またそれにも **TextReportObject** を与え、再びそのルールを変更してヘッダラベルが使用されません。
4. プロパティをセクション2に設定します:

コマンドセット = 前項から続行

最大ページ数= 0 (最大はないという意味です)

### メリット/デメリット

- **利点** - 最終報告書のヘッダーに変数が表示されます。
- **短所** - レポート テンプレート内の**GridControlObject** を作成する必要があり、各関数のテキスト オブジェクトを追加して、追加のレポートセクションを追加します。また、レポートに任せた任意の編集は、「要素表示」にオープンとまたは「公差範囲外のみ」に寸法の変更で、二回は必要で、一回はページ1に (一番目セクション) もう一回はその他のページにします(セクション2)。

#### オプション 4 - 一般要素を使用して強制的にレポートを生成

このオプションは空の一般要素を使用してラベルテンプレートに強制的にレポートを再評価させ、必要な変数の値を最終レポートに引渡します。

測定ルーチンに、空の一般要素を作成し、それにわかりやすい名前を付けます、たとえば：



```
REPORTHEADER=GENERIC/NONE,DEPENDENT,CARTESIAN,OUT,$
```

次に、ヘッダーのラベルテンプレートを変更し、**GridControlObject**の必要に応じて追加のセルを追加して、なた追加のセルのトップに、表示したい各変数のテキスト オブジェクトを追加してサイズします。テキスト オブジェクトのテキスト プロパティに=VARIABLE() 関数を使用して変数情報を引き出すのを設定します。このオプションで、=VARIABLE() 関数内に追加のパラメータを使用して一般的な機能を参照する必要があります。たとえば、  
=VARIABLE("V1","REPORTHEADER")

### メリット/デメリット

- **利点** - おそらく最も多用途なアプローチです。変数が最終レポートのヘッダーに表示されます。オプション2のように2回最終レポートを編集する必要はありません。
- **短所** - 測定ルーチンに空の一般要素を含め、ラベルテンプレート内の各変数に対する テキストオブジェクトを追加する必要があるため、設定が多少難しくなります。

## 文字列の色を変更

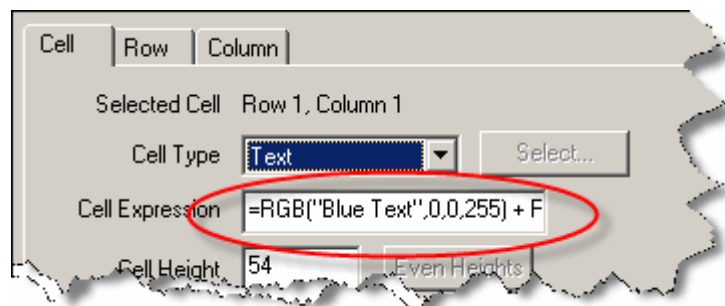
### RGB 機能の使用

レポートの表現言語で、RGB関数を使用してRGB（赤緑青）カラー値を定義してまた式のテキスト内の文字の文字列にそれを適用できます。この関数は4つのパラメータ、文字列パラメータ、カンマで分離されるRGBのパラメータに続かれて、以下のようです：



=RGB( 文字列 ,R,G,B)

**GridControlObject** のセル式ボックスにこの機能を入力する場合、**OK**をクリックして、オブジェクトの外でクリックして、PC-DMISは式を評価してテキストに指定された色の値を与えます。



セル式ボックスはRGB式を示します

たとえば、セルにこの式を入力する場合、



=RGB("Blue Text",0,0,255) + RGB(" Black Text",0,0,0)  
+ RGB(" Yellow Text",255,255,0)

言葉はエディタテンプレートでこのようになります：



Blue Text Black Text Yellow Text

### RGBで測定結果の色を表示

RGB関数での第2パラメータで、255を越える値を使用すると、PC-DMISはパラメータを0～255のRGB値ではなくCOLORREF値として解釈します。この場合、PC-DMISは第2および第3パラメータを無視します (但し、ユーザーは第2および第3パラメータを設定する必要があります)。ユーザーはDIM\_RPT\_TOLERANCECOLOR1データ型を使用する場合、この方法を使用して測定結果の軸の色を返すことができます。

例えば、GridControlObjectのセルで次式を使用するとします:



```
=RGB(NOMINAL:N,DIM_RPT_TOLERANCECOLOR1:N,0,0)
```

これは評価を受ける現在の軸の設計値を取得し、色をその軸の測定結果の色に設定します。

:N現在の測定結果の軸インデックスを保持して式が各軸の色値を返すようにする変数として機能します。


特定の軸を指定することもできます。例えば、3軸X、YおよびZでの測定結果があるとします。

- DIM\_RPT\_TOLERANCECOLOR1:1は第1軸Xに対する色値を返します。
- DIM\_RPT\_TOLERANCECOLOR1:2は第2軸Yに対する色値を返します。
- DIM\_RPT\_TOLERANCECOLOR1:3は第3軸Zに対する色値を返します。

オプションのインデックス (:N) を定義しない場合、それは測定結果そのものを返します。

### 色機能の使用

カラー関数は2つのパラメータを受け取ります。第一、色のパラメータは一つの原則編集ウィンドウの色を表示する実際な数です。第二、PC-DMIS が適用する色の文字列値です。



```
=COLOR(1, "My Text")
```

最初のパラメータは1~4の値でまた以下に関連付けられている編集ウィンドウカラーにパスします。

- 1 マークされる色をパスします
- 2 マークされない色をパスします
- 3 ステップモード色をパスします
- 4 エラー色をパスします

これらの背景色は、編集ウィンドウ用の **色エディタダイアログ ボックス(編集 | 優先設定 | 編集ウインドウの色)**で定義されています。ダイアログの情報については、「カスタマイズ設定」の項の「編集ウィンドウの色を定義」を参照して下さい。

## PC-DMISから文字列を読み込み

「式のテキストの色の変更」トピックのセルのテキスト色の方法と同じ、レポートの式言語では、PC-DMISの現在実行中の言語からこの式を使用して文字列を引くことができます：



```
=LOADSTR(<整数型の式>)
```

この関数は1つのパラメータ、すなわちresource.dllまたはstrings.dllファイル内の文字列の値に対応する整数を取ります。

- 正の値の場合、resource.dllファイルから文字列が取得されます。
- 負の値の場合、strings.dllファイルから文字列が取得されます。

この関数をGridControlObjectの[セルの式]ボックス(またはセル)内に入力する場合、[OK]をクリックし、次にオブジェクトの外側をクリックします。すると、PC-DMISは式の値を求めて指定した整数に割り当てられた文字列が返されます。



この機能は主に追加されました、PC - DMISに付属するラベルテンプレートは現在の言語から文字列データを使用します。

## テキストファイルから文字列を読み込み

PC-DMIS では、カンマ区切り値 (CSV) テキストファイルからカスタム文字列を読み込み、カスタマイズされたラベル内に表示することができます。これは、カスタム文字列を異なる言語で表示する必要がある場合に非常に便利です。これを行うには、CSV ファイルをローカライズして、オペレータに提供するだけです。

### 構文

`USERSTRING` 関数は次の2つのパラメータを取ります：



`=USERSTRING(<式1>,<式2>)`

- 最初のパラメータ、式1 は CSV ファイルの位置を定義する文字列のパスです。これは引用符で囲む必要があります。パスが間違っているかまたは読み込み権限がないためファイルが見つからない場合、関数は「ファイルを開けません」を返します。
- 2番目のパラメータ、式2 は表示するテキストの文字列に関連した CSV ファイルのインデックス番号を示します。CSV がアクセス可能であるが、ユーザーが指定するインデックス番号が CSV ファイルに存在しない場合、この関数は「インデックスが見つかりません」を返します。

### CSV ファイル

CSV ファイルは個別の行で一意的なインデックス番号、次にカンマ、それから文字列を含む必要があります。

複数行の文字列を定義するには、改行文字 (`\n`) を使用します。

例えば、次のサンプル CSV ファイルを考えます：



```

10,宇宙のあなたの遊び場です。

1,テーブルにパーツを置きます。

3,これは \n複数行の文字列です。

...

230,"エッジの裁ち落とし。エッジの切断。"

200,円 6001

201,5+5

```

各文字列の前にある数字は連続する必要はありません、単に一意であれば構いません。CSV ファイルに入力する際に引用符およびその他の文字が入ります。数字は数学的に計算されるわけではありません。

## 例

上述のCSV ファイルが MyStrings.csv というファイル名で d:\temp\ ディレクトリに保存されていると仮定します。一つのラベルに4つの異なるカスタム文字列を表示したい場合、そのラベルの GridControlObjectのセルにある式は以下のようになります：



```

=USERSTRING("d:\temp\MyStrings.csv",1)

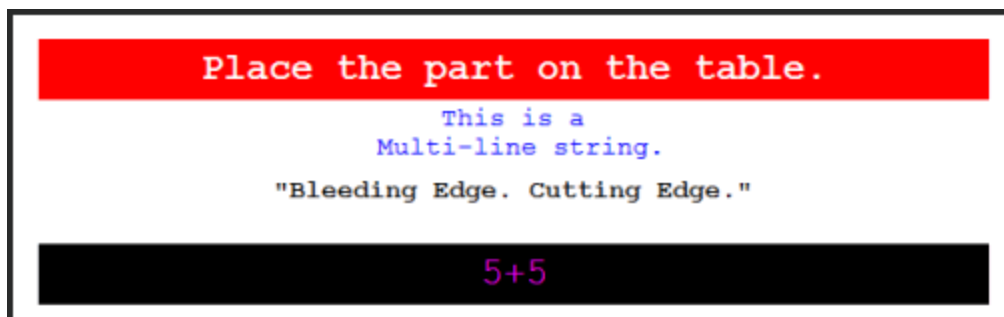
=USERSTRING("d:\temp\MyStrings.csv",1)

=USERSTRING("d:\temp\MyStrings.csv",230)

=USERSTRING("d:\temp\MyStrings.csv",201)

```

ラベルが算出されると、次のようになります：



## データ タイプ使用でのレポート式検索

式を使用している場合、通常はPC-DMISからデータを引く式を使用します。これを行う関係するラベルテンプレートのコマンドまたは要素は表示したいデータを持つのを確認する必要があります。データタイプは使用にできる正しい式を見つけることができます。

たとえば、[GridReportObject](#)を備えたラベル テンプレートを作成したのを想定して、またセルの一つの中に、この式を入力して要素の測定されたXデータを表示します。



レポート テンプレートを作成する場合、[TextReportObject](#)を追加して、またルール ツリー エディタ を使用してPREHIT コマンドで ラベルのテンプレートに関連付けて、レポートウィンドウ内のセルは何も表示されません。原因は? PREHIT コマンドは測定 Xフィールドを持たないからです。正しい式を使用するには、編集ウィンドウのコマンドモードで、異なるフィールドに対してデータ型を表示します。

次の手順で、データ型をオンにして表示する方法を説明します。

1. 編集ウィンドウにアクセスして下さい。
2. 編集ウィンドウをコマンドモードにします。
3. 編集ウィンドウを右クリックして下さい。ショートカット メニュー 表示されます。



[データ型情報]メニューオプション

4. ポップアップ表示を変更| データタイプの情報を選択してください。
5. マウスポインタをコマンドフィールドの上でホバーして、またPC-DMISはフィールドデータタイプを表示する小さな黄色いポップアップを表示します。括弧内の値の一番目のパートは データタイプで、また同等の式が式のリストに存在します。

この例を参考にして下さい:

```

CIR4      =FEAT/CIRCLE,RECT,IN,LEAST_SQR
          THEO/154.584,19.594,21.0,0,1,15
          ACTL/154.585,19.593,13.943,0,0,1,14.97
          MEAS/CIRCLE,4,WORKPLANE
          HIT/BASIC,NORMAL,147.084,19.594,13.948,0
          HIT/BASIC,NORMAL,154.584,12.094,13.948,0
          HIT/BASIC,NORMAL,154.584,12.094,13.948,0
          HIT/BASIC,NORMAL,154.584,27.094,13.948,0
          ENDMEAS/
  
```

データタイプのポップアップは THEO\_X がこのコマンドの有効な式であることを表示します。適切な場所に "=THEO\_X" と入力すると、PC-DMISはこの要素の理論 X 値を表示します。

データ型を使用すると、レポートおよびラベル テンプレートで使用する式がコマンドでサポートされているか確認することができます。

## 使用可能なデータ タイプ一覧

このデータの種類一覧は、アルファベット順になったデータの種類名、それらの関連する種類番号、説明、インデックス値および必要に応じて値の文字列を表示します。VB

## 式レポートについて

スクリプト内でテンプレートイベントとルールにデータ型を使用する場合、すべてのスクリプトの場所が列挙データ型の値を受け入れないので、データ型の番号を使用する必要があります。

### -A-

数	データのタイプ名	データタイプ説明	ヘルプインデックス	値文字列
481	ABOVEBELOW_CONFIG			
409	ADDITIONAL_CHART	SPCの場合		
153	ALIGN_LIST	整列のリストにアライメントを表示します (はい/いいえ)		
300	ANGLE_COMP_TOGGLE	補角度寸法の状態にフィールドをトラグします		
149	ANGLE_OFFSET	ループと回転テーブルの角度オフセット		
373	ANGULARITY_NOM_ANGLE	参照の角度は使用され、ディメンションの公称は使用されません。		
103	ANGVEC_I	角度ベクトル I	0	数値
104	ANGVEC_J	角度ベクトル J	0	数値
105	ANGVEC_K	角度ベクトル K	0	数値
164	ARROW_MULTIPLIER	寸法矢印の倍率値		
479	ARTICULATEDARM_TYPE			
234	AUTO_CLEAR_PLANE	オートクリア平面フラグ		
461	AUTO_ONERROR_TYPE			
533	AUTO_PH9			
219	AUTO_PRINT	超レポートオブジェクトの自動印刷フラグ		
295	AUTOBEEPING	自動トリガービーブ音をオン/オフにする		

52	AUTOFIT_CONSTRAINT	最適配置に制約の種類をトグルします		
298	AUTOTOLZONE	「自動トリガー」の公差範囲		
294	AUTOTRIGGERONOFF	自動トリガーをオンまたはオフにします。		
140	AVERAGE_ERROR	反復アライメントにフラグします		
749	AXIS_DESCRIPTION			
747	AXIS_MINUS_TOL			
132	AXIS_NOMINAL	軸一覧		
748	AXIS_NOMINAL			
746	AXIS_PLUS_TOL			

**-B-**

数	データのタイプ名	データタイプ説明	ヘルプインデックス	値文字列
51	BF_MATH_TYPE	数式型を使用して最適化を計算します		
50	BOUND_TYPE	バウンド/アンバウンド		
967	BOUDARY_OFFSET	無効検出中に境界オフセット距離を取得し設定します。		
360	BOUNDARY_POINT_X	xの境界点		
361	BOUNDARY_POINT_Y	yの境界点		
362	BOUNDARY_POINT_Z	zの境界点		
476	BSMETHOD_TYPE			
207	BUFFER_SIZE_TYPE	ファイルi/o バッファサイズ		

**-C-**

数	データのタイプ名	データタイプ説明	ヘルプインデックス	値文字列
---	----------	----------	-----------	------



## 式レポートについて

492	CAD_COMP			
237	CAD_TOLERANCE	境界スキャン用CADトレランス		
471	CALC_STYLE_FILE			
413	CENTER_POINT	SPCの場合		
478	CENTER_ROTATION_MEAS	最適化アラインメント		
477	CENTER_ROTATION_THEO	最適化アラインメント		
445	CHART_SUB_TYPE	SPCの場合		
388	CHART_TYPE	SPCの場合: チャート		
42	CIRC_TYPE	円形または直線プローブの動作（円と円柱）		
614	CLIP_LEFT_DIST			
604	CLIP_LOW_DIST			
615	CLIP_RIGHT_DIST			
603	CLIP_UP_DIST			
244	COL132_TYPE	列132オブジェクトのオン/オフ設定		
701	COLUMN_HDR			
296	COLUMN_ID	ロードまたはアンロード列のコマンドに列IDを設定します		
245	COMMAND_STRING	外部コマンドオブジェクト用		
189	COMMENT	コメント テキスト		
709	COMMENT_INPUT	コメントの入力値に新しいタイプを追加します		
190	COMMENT_TYPE	コメントの種類		
724	COMPOSITE			
468	CONE_CONVEX_TYPE			

60	CONE_LENGTH_ANGLE_TYPE	コーンの場合：長さや角度を示します		
39	COORD_TYPE	座標システム		
621	COP_BOOLEAN_TYPE			
618	COP_COLOMAP			
619	COP_COPLEMENT			
616	COP_EXPORTFILETYPE			
543	COP_FILTER			
622	COP_IMPORTFILETYPE			
617	COP_SELECTIONTYPE			
544	COP_SIZE			
545	COP_TYPE			
425	CPOINT_DIAM			
428	CPOINT_F_SCANSPEED			
422	CPOINT_I			
423	CPOINT_J			
424	CPOINT_K			
426	CPOINT_SCAN_CROSS_TOTAL			
427	CPOINT_SCAN_DENSITY			
430	CPOINT_TYPE			
419	CPOINT_X			
420	CPOINT_Y			
421	CPOINT_Z			
433	CREATE_WEIGHTS	2D/3D最適化アラインメントの場合		
65	CURVE_TYPE	曲線の場合-曲線の種類		

**-D-**

数	データのタイプ名	データタイプ説明	ヘル	値文
---	----------	----------	----	----

## 式レポートについて

			フ・インテックス	字列
252	DATA_MEM_PAGES	統計情報オブジェクトにメモリページをデータベースします		
250	DATA_READ_LOCK	統計情報オブジェクトに読むロックをデータベースします		
251	DATA_WRITE_LOCK	統計情報オブジェクトに書き込みロックをデータベースします		
731	DATUM1_MODIFIER			
734	DATUM1_MODIFIER2			
725	DATUM2	これは DATUM と DATUM2 は要約モードで二つの異なるグループに使用されるためです。		
732	DATUM2_MODIFIER			
735	DATUM2_MODIFIER2			
733	DATUM3_MODIFIER			
736	DATUM3_MODIFIER2			
389	DB_CHART_NAME	SPCの場合: チャート名		
386	DB_QUERY_OP	SPCの場合		
387	DB_SOURCE_NAME	SPCの場合		
459	DB_SOURCE_TYPE	SPCの場合		

539	DELETE_TYPE	FILE/CLOSE, fptr, KEEP   DELETE		
203	DESCRIPTION	サブルーチンのパラメータの説明		
727	DESCRIPTION2	これは DESCRIPTIONと DESCRIPTION2が要約モードで2つの異なるグループで使用されているためです。		
133	DEST_EXPR	宛先式 (割り当て、サブルーチン、ハイパーレポート)		
353	DEV_DIAM	偏差直径値		
280	DEV_PERPEN_CENTERLINE			
350	DEV_X	偏差X値		
351	DEV_Y	偏差y値		
352	DEV_Z	偏差 z 値		
390	DEVIATION_ANGLE	偏差角度		
180	DEVIATION_SYMBOLS	寸法フォーマット偏差記号切り替え		
737	DEVPERCENT_NOM			
739	DEVPERCENT2			
199	DIGIT_COUNT	ファイルコマンドの読み込み/書き込むの桁数		
324	DIM_BONUS	ディメンションのボーナス		
340	DIM_DEVIATION	寸法偏差		
182	DIM_HEADING	寸法形式の見出しの項目		
304	DIM_ID	2D最適化アラインメントの場合		
160	DIM_INFO_LOC	測定結果情報のオブジェクト位置軸トグル		
159	DIM_INFO_ORDER	測定結果情報の順序トグル		

# 式レポートについて

161	DIM_INFO_TP_LOC	寸法情報オブジェクト真位置軸切り替え		
173	DIM_LENGTH	測定結果の長さ		
754	DIM_LENGTH2			
332	DIM_MAX	寸法最大値		
328	DIM_MEASURED	測定される寸法値		
336	DIM_MIN	寸法最小値		
344	DIM_OUTTOL	公差範囲外の寸法		
703	DIM_RPT_DATUM			
705	DIM_RPT_DEVPERCENT			
704	DIM_RPT_GRAPHIC			
706	DIM_RPT_ISBILATERAL			
702	DIM_RPT_ISDATUM			
707	DIM_RPT_NUMZONES			
917	DIM_RPT_TOLERANCECOLOR1	PC-DMISによって決定され るとおりに測定結果の色を 取得します。これは第1カラ ーです。		
918	DIM_RPT_TOLERANCECOLOR2	第2カラーを持つ両面の測定 結果に対する第2カラーを取 得します。この測定結果に 対して色が定義されていな い場合、それは値として-1 を返します。		
177	DIM_TEXT	ディメンション形式dim テ キストトグル		
178	DIM_TEXT_OPTIONS	ディメンション形式dim テ キストオプショントグル		
510	DISPLAY_ADVANCED_PARAMETERS			
236	DISPLAY_HITS	ヒットスキャンの表示にフ ラグをスキャンします（は い/いいえ）		

184	DISPLAY_ID	点情報はidトグルを表示します		
607	DISPLAY_PROBE_PARAMETERS			
256	DISPLAY_TRACE	トレース・フィールド・オブジェクトのはい/いいえダイアログ表示の切り替え		
185	DISPLAY_TYPE	点情報はタイプトグルを表示します		
155	DISTANCE	距離		
676	DRF_COLUMN_HDR			
681	DRF_ROTATIONX			
682	DRF_ROTATIONY			
683	DRF_ROTATIONZ			
677	DRF_SEGNAME			
678	DRF_SHIFTX			
679	DRF_SHIFTY			
680	DRF_SHIFTZ			
641	DRF_TBLHDR			
291	DTYPE_LEAPFROGFULLPARTIAL	リープフロッグのタイプ：フル跳びまたは部分跳び		
290	DTYPE_LEAPFROGNUMHITS	跳び手順に多くのヒットが取られます。		
289	DTYPE_LEAPFROGTYPE	跳びの種類が行われています。		

**-E-**

数	データのタイプ名	データタイプ説明	ヘルプインデックス	値文字列
99	END_ANG	終了角度	0	ラジアン値
144	END_NUM	ループの終了回数		

# 式レポートについて

787	END_OFFSET	深さの編集	0	深さの値の終了
467	ERROR_LABEL			
202	ERROR_MODE	エラーフローコントロールコマンドのためのエラーモード		
201	ERROR_TYPE	エラーフローコントロールコマンドのためのエラー種類		
292	EXCLUSION_ZONE	除外域コマンドオンまたはオフですか		
293	実行	添付の測定ルーチンが実行されましたか（はい/いいえ）		
595	EXPOSURE			

## -F-

数	データのタイプ名	データタイプ説明	ヘルプインデックス	値文字列
79	F_AUTOMOVE	自動移動距離		
85	F_BOXLENGTH			
84	F_BOXWIDTH			
88	F_CHECK	CPCDcheck要素に関連付けられた数値のみ		
87	F_CIRCRADIN			
86	F_CIRCRADOUT			
81	F_CORNER_RADIUS			
78	F_DEPTH	測定の深さ	0	深さの値
82	F_INCREMENT			
80	F_INDENT	さまざまな要素の測定オフセット	1	オフセット値

243	F_LOCATION	セクションスキャンの場所値		
89	F_MAXACCELX	最大X加速		
90	F_MAXACCELY	最大Y加速		
91	F_MAXACCELZ	最大Z 加速		
168	F_MINUS_TOL	寸法負の公差値		
95	F_MOVESPEED	移動速度		
74	F_OFFSET	オフセット値		
76	F_PITCH	自動要素の間隔		
167	F_PLUS_TOL	寸法正の公差値		
97	F_SCANSPEED	スキャン速度		
434	F_SIZE	SPCの場合		
75	F_SPACER	自動幾何学要素隔たり	0	最大距離値
77	F_THICKNESS	板金厚	0	厚さの値
593	F_THICKNESS_EDGE			
83	F_TOLERANCE			
96	F_TOUCHSPEED	タッチ速度		
208	FAIL_ON_EXIST	ファイルi/o は存在のモードに失敗します		
303	FEAT_TYPE	フィーチャーのタイプ		
198	FIELD_WIDTH	ファイルコマンドの読み込み/書き込むに副をフィールドします		
206	FILE_COMMAND_TYPE	ファイルi/o コマンドタイプ		
152	FILE_NAME	ファイル名		
197	FILE_POINTER	ファイル i/o コマンドのファイルポインタ名		
598	FILTER_NEIGHBOR_NUM			



## 式レポートについて

606	FILTER_TOGGLE			
600	FILTER_TOL_ABOVE			
601	FILTER_TOL_BELOW			
602	FILTER_TOL_RIGHT			
472	FILTER_TYPE	基本的なスキャンフィルタの種類		
460	FIND_HOLE_PERCENT	チェックコマンドとホールをチェック距離の発見について		
54	FIND_NOM_AXIS_TYPE	X、Y、Z軸のいずれか、またはユーザーによって定義された名目軸を選択します。		
233	FIND_NOMS_TYPE	入力してnomsモードを発見します		
47	FINDHOLE_TYPE	穴のアルゴリズムの発見を使用します (はい/いいえ)		
527	FINDNOMS_BESTFIT			
528	FINDNOMS_ONLYSELECTED			
452	FIT			
465	FIXTURE_TOL			
226	FIXTURE_TYPE	治具オブジェクトを取り付けるタイプ		
246	FLY_MODE_TYPE	フライモードオン/オフトグル		
560	FREQUENCY			

## -G-

数	データのタイプ名	データタイプ説明	ヘルプ インデ ックス	値文 字列
63	GEN_FEAT_TYPE	一般要素タイプ		
64	GEN_ALIGN_TYPE	一般化要素独立タイプ(独立/依存)		

162	GRAPH_ANALYSIS	ディメンションのグラフィカル分析を使用します(はい/いいえ)		
183	GAP_ONLY_TYPE	オン/オフトグル		
408	GRID	SPCの場合		
458	GRAPH_OPTION	寸法情報とポイント情報コマンド		
708	GDT_SYMBOL			
730	GDT_SYMBOL2			
783	GRAPH_ANALYSIS_POINT_SIZE	自動要素上点サイズ		
784	GRAPH_ANALYSIS_PLUS_TOL	自動要素上点プラス公差		
785	GRAPH_ANALYSIS_MINUS_TOL	自動要素上点マイナス公差		

**-H-**

数	データのタイプ名	データタイプ説明	ヘルプインデックス	値文字列
68	HITINT_TYPE	インテリア/エクステリア測定フラグ		
223	HIGH_THRESHOLD	一時コンブポイントオブジェクトの高閾値		
359	HIT_TYPE	取込点の種類		
407	HISTOGRAM	SPCの場合		
483	HIGH_ACCURACY			

**-I-**

数	データのタイプ名	データタイプ説明	ヘルプインデックス	値文字列
2	ID	オブジェクト id		
40	INOUT_TYPE	内部/外部		
72	INIT_HITS	初期ヒット		

## 式レポートについて

138	ITEM_USED	ベストフィットの項目はアライメントの計算に使用されます		
150	INTERNAL_EXTERNAL	アライメントの再呼び出し		
204	INDEX_START	配列のインデックスの開始番号		
205	INDEX_END	配列のインデックスの終了番号		
354	ITERATE_COLUMNS	コラムの反復設定		
392	IGNOREMOTIONERRORS_TYPE	コマンド動作エラーを無視について		
454	IOCHANNEL_NUMBER	IOチャンネル管理コマンドについて		
455	IOCHANNEL_PULSE_WIDTH	もう使用されないなので、たぶん削除される必要があります		
456	IOCHANNEL_PULSE_INTERVAL	もう使用されないなので、たぶん削除される必要があります		
457	IOCHANNEL_PULSE_DURATION	もう使用されないなので、たぶん削除される必要があります		
596	INTENSITY			

## -J-

利用可能なエントリーはありません

## -K-

利用可能なエントリーはありません

-L-

数	データのタイプ名	データタイプ説明	ヘルプ イン デッ ク ス	値文 字列
200	LABEL_ID	ラベルを参照するフローコントロールオブジェクトのラベルフィールド		
729	LEADER_LINE_ID			
480	LEFTYRIGHTY_CONFIG			
4	LEVEL_REF_ID	反復配置のレベル要素のRef id		
62	LIN_POL_FILT_TYPE	フィルタオブジェクト - リニアまたは極フィルタ		
782	LINE1_BONUS			
643	LINE1_CALLOUT			
644	LINE1_COLUMN_HDR			
650	LINE1_DEV			
651	LINE1_DEVPERCENT			
750	LINE1_DEVPERCENT_NOM			
752	LINE1_DEVPERCENT2			
645	LINE1_FEATNAME			
652	LINE1_ISBILATERAL			
768	LINE1_MAX			
647	LINE1_MEAS			
769	LINE1_MIN			
649	LINE1_MINUSTOL			
646	LINE1_NOMINAL			
653	LINE1_NUMZONES			
765	LINE1_OUTTOL			
648	LINE1_PLUSTOL			
642	LINE1_TBLHDR			

# 式レポートについて

751	LINE1_USE2DEVIATIONS			
686	LINE2_AXIS			
658	LINE2_BONUS			
655	LINE2_CALLOUT			
656	LINE2_COLUMN_HDR			
660	LINE2_DATUMSHFT			
662	LINE2_DEV			
663	LINE2_DEVANG			
664	LINE2_DEVPERCENT			
740	LINE2_DEVPERCENT_NOM			
742	LINE2_DEVPERCENT2			
657	LINE2_FEATNAME			
697	LINE2_ISBILATERAL			
695	LINE2_MAX			
688	LINE2_MEAS			
696	LINE2_MIN			
694	LINE2_MINUSTOL			
687	LINE2_NOMINAL			
698	LINE2_NUMZONES			
766	LINE2_OUTTOL			
693	LINE2_PLUSTOL			
654	LINE2_TBLHDR			
659	LINE2_TOL			
661	LINE2_UNUSEDZONE			
741	LINE2_USE2DEVIATIONS			
669	LINE3_BONUS			
666	LINE3_CALLOUT			
667	LINE3_COLUMN_HDR			
671	LINE3_DATUMSHFT			

673	LINE3_DEV			
674	LINE3_DEVANG			
675	LINE3_DEVPERCENT			
743	LINE3_DEVPERCENT_NOM			
745	LINE3_DEVPERCENT2			
668	LINE3_FEATNAME			
699	LINE3_ISBILATERAL			
774	LINE3_MAX			
771	LINE3_MEAS			
775	LINE3_MIN			
773	LINE3_MINUSTOL			
770	LINE3_NOMINAL			
700	LINE3_NUMZONES			
767	LINE3_OUTTOL			
772	LINE3_PLUSTOL			
665	LINE3_TBLHDR			
670	LINE3_TOL			
672	LINE3_UNUSEDZONE			
744	LINE3_USE2DEVIATIONS			
355	LOAD_TYPE	設定をロード		
287	LOCATOR_BMP	幾何学要素位置BMPオン/オフ		
288	LOCATOR_WAV	幾何学要素位置WAVオン/オフ		
210	LOW_FORCE	オプションプローブオブジェクトの最低強度		
224	LOW_THRESHOLD	一時コンプポイントオブジェクトの低閾値		

## -M-

数	データのタイプ名	データタイプ説明	ヘルプ インデ ックス	値 文字 列
227	MACHINE_TYPE	機械のオブジェクトをロードする 機械種類		
485	MAGNIFICATION			
176	MAN_RETRACT			
94	MANUAL_FINE_PROBING	精巧な手動プロービング		
534	MANUAL_PREPOSITION	マニュアル中古位置がビジョンタ ーゲット上で必要かどうか		
221	MATERIAL_COEFFICIENT	一時コンプポイントオブジェクト の素材係数		
242	MAX_ANGLE	スキャンの変数法の設定		
209	MAX_FORCE	オプションプローブオブジェクト の最高強度		
240	MAX_INCREMENT	スキャンの変数法の設定		
491	平均値			
569	MEAS_A			
612	MEAS_A2	CMT特徴点1について		
30	MEAS_ANGLE	測定角度		
721	MEAS_AREA			
556	MEAS_DEPTH			
29	MEAS_DIAM	測定された直径		
584	MEAS_EA			
585	MEAS_EH			
624	MEAS_END_ANG			
583	MEAS_ER			
313	MEAS_EX	測定されたエンドポイントx成分		

314	MEAS_EY	測定されたエンドポイントy 成分		
315	MEAS_EZ	測定されたエンドポイントz成分		
552	MEAS_FLUSH			
554	MEAS_GAP			
570	MEAS_H			
613	MEAS_H2	CMT特徴点1について		
306	MEAS_HEIGHT	測定された高さ		
25	MEAS_I	測定値 I		
26	MEAS_J	測定値 J		
27	MEAS_K	測定値 K		
28	MEAS_LENGTH	測定された長さ		
305	MEAS_MINOR_AXIS	測定された短軸（楕円）		
719	MEAS_PERIMETER			
568	MEAS_R			
611	MEAS_R2	CMT特徴点1について		
581	MEAS_SA			
582	MEAS_SH			
307	MEAS_SLOTVEC_I	測定済みのスロットベクトル i - 以下の注「スロットベクトルデータ型」を参照してください。		
308	MEAS_SLOTVEC_J	測定済みのスロットベクトル j - 以下の注「スロットベクトルデータ型」を参照してください。		
309	MEAS_SLOTVEC_K	測定済みのスロットベクトル k - 以下の注「スロットベクトルデータ型」を参照してください。		
580	MEAS_SR			
623	MEAS_START_ANG			
310	MEAS_SX	測定される開始点 x 成分		



# 式レポートについて

311	MEAS_SY	測定される開始点 y 成分		
312	MEAS_SZ	測定される開始点 z 成分		
316	MEAS_WIDTH	測定された幅		
22	MEAS_X	ヒット測定点X	ポイント番号	X-座標
396	MEAS_X2	CMT特徴点1について		
23	MEAS_Y	ヒット測定点y	ポイント番号	Y-座標
397	MEAS_Y2	CMT特徴点1について		
24	MEAS_Z	ヒット測定点z	ポイント番号	Z-座標
398	MEAS_Z2	CMT特徴点1について		
141	MEASURE_ALL_FEATURES	反復アライメントにフラグします		
59	MEASURE_ORDER_TYPE	エッジ要素SURFACE/ EDGE/ BOTHにオーダーを測定します		
66	MEASURED_2D3D_TYPE	その解決策はあるだろうかまたは3Dソリューションを平面に定義します。		
106	MEASVEC_I	ベクトル <i>i</i> の測定		
107	MEASVEC_J	ベクトル <i>J</i> の測定		
108	MEASVEC_K	ベクトル <i>K</i> の測定		
357	METHOD_TYPE	Scan 方法の種類		
100	MIDPOINT_X	中間点x		
101	MIDPOINT_Y	中間点 y		
102	MIDPOINT_Z	中間点 z		
241	MIN_ANGLE	スキャンの変数法の設定		
239	MIN_INCREMENT	スキャンの変数法の設定		

486	MINOR_WORD_TOGGLE			
58	MODE_TYPE	MANUAL または DCC		
45	MOVE_TYPE	自動移動を使用します (はい/いいえ)		

**-N-**

数	データのタイプ名	データタイプ説明	ヘルプ インデ ックス	値文字 列
429	N_CONTROLPOINTS	scanの制御点の数		
70	N_HITS	1行あたりのヒット数	0	1つ以上
55	N_INIT_HITS_TYPE	初期ヒットの固定数の切り替えフィールド		
56	N_PERM_HITS_TYPE	パーマヒットの固定数のフィールドをトグルします		
71	N_ROWS	行数	0	1つ以上
489	N_SIDES	多角形側面の数		
249	NEW_STATS_DIR	統計情報オブジェクトのエディターにおける空の統計情報ディレクトリ		
157	NEW_TIP	移動 ph9 オフセットの新しい先端		
0	NINGUNO_TIPO	タイプ、デフォルト値はなし、定数を使用します		
826	NO_APPROACH_VECTOR_FLIP	最適化時に要素ベクトルを反転させます	0	「はい」 / 「いいえ」
482	NOFLIPFLIP_CONFIG			
166	NOMINAL	寸法公称値		

## 式レポートについて

321	NOMINAL_COLOR	ビジョン公称値の色		
232	NORM_RELEARN	ノーマルスキャンモード または再学習公称値モード		
317	NUM_CONTROL_POINTS	制御点の数		
320	NUM_FIT_POINTS	継手表面に使用されるポイント数		
356	NUM_ITERATIONS	反復回数		
215	NUM_RETURN_DATA	オプションプローブオブジェクトのデータをリターンします		

## -O-

数	データのタイプ名	データタイプ説明	ヘルプ イン デッ クス	値 文 字 列
61	OFFSET_LINE_METHOD	オフセットラインのための方法		
238	OFFSET_TOLERANCE	境界スキャン用オフセットトレランス		
156	OLD_TIP	移動 ph9 オフセットの古い先端		
285	ONOFF_TYPE	最初はIGNOREROTABで使用する ために実装されていましたが、任意 のオン/オフ切り換えフィールドで使用 できます		
620	OPERTYPE			
220	原点	一時コンプポイントオブジェクトの オリジナルデータ		
6	ORIGIN_REF_ID	反復配置のオリジナル要素のRef id		
449	OUTPUT_DMIS_REPORT	DMO レポート		
448	OUTPUT_FEAT_W_DIMENS	DMO レポート		

447	OUTPUT_FEATURE_NOMS	DMO レポート		
165	OUTPUT_TYPE	寸法の実出力モード		
558	OVERLAP			
559	OVERSCAN			
446	OVERWRITE	DMO レポート		

**-P-**

数	データのタイプ名	データタイプ説明	ヘル プ イン デ ックス	値文字列
374	_PRINT_TO_FILE	Prepended _編集 ウィンドウの定数 との混同を避ける		
375	_PRINT_TO_PRINTER	Prepended _編集 ウィンドウの定数 との混同を避ける		
191	PART_NAME			
519	PATTERN_TYPE	自動平面パターン	0	「SQUARE」または「RADIAL」
487	パーセンテージ			
73	PERM_HITS	Perm (サンプル) 取 込み点の数	0	零以上
170	PERP_PARALLEL_TYPE	寸法垂直平行タイ プ		
115	PINVEC_I	ピン ベクトル i		
116	PINVEC_J	ピン ベクトル j		

## 式レポートについて

117	PINVEC_K	ピン ベクトル k		
605	PIXEL_TOGGLE			
186	POINT_INFO_HEADING	点情報の見出しタイプ		
380	POINTINFO_FILTER_DEVIATION	ポイント情報コマンドの偏差フィルタ状態の切り替えフィールド		
381	POINTINFO_FILTER_DEVIATION_NUMBER	番号フィールドはポイント情報コマンドの偏差フィルタの状態に関連付けられます		
301	POINTINFO_FILTER_INTERVAL	ポイント情報コマンドの間隔フィルタ状態の切り替えフィールド		
302	POINTINFO_FILTER_INTERVAL_NUMBER	番号フィールドはポイント情報コマンドの間隔フィルタの状態に関連付けられます		
382	POINTINFO_FILTER_OUTTOL	点情報コマンドの公差範囲外フィルタ状態の切り替えフィールド		
378	POINTINFO_FILTER_WORST	点情報コマンドの最悪のフィルタ状態に対するトグルフィールド		
379	POINTINFO_FILTER_WORST_NUMBER	番号フィールドはポイント情報コマンドの最悪フィルタの状態に関連付けられます		

218	POLAR_VECTOR_COMPENSATION	極ベクトルの補正オブジェクト		
277	POS_REPORT_AXIS_X	軸の値を常に正の値で表示		
278	POS_REPORT_AXIS_Y	軸の値を常に正の値で表示		
279	POS_REPORT_AXIS_Z	軸の値を常に正の値で表示		
462	POS_REPT_DISPLAY_OPTION			
214	POSITIONAL_ACCURACY	オプションプローブオブジェクトの位置精度		
786	PPAP_INDEX			
399	PPROG	(データベースクエリで使用される) 測定ルーチン名		
175	PRECISION	測定結果の表示精度		
377	PRINT_DELETE_RUNS			
376	PRINT_DRAFTMODE			
213	PROBE_ACCURACY	オプションプローブオブジェクトのプローブ精度		
228	PROBE_COMP	プローブ (オン/オフ) トグル		
299	PROBING_MODE	オプションプローブのプロービングモード		
174	PROFILE_FORM_TYPE	ディメンションプロファイルフォームタイプのトグル		
550	PROFILE_TYPE			
521	PROGRAM_GAGE_FEAT_TYPE			

# 式レポートについて

522	PROGRAM_GAGE_TYPE			
118	PUNCHVEC_I	パンチベクトルi		
119	PUNCHVEC_J	パンチベクトルj		
120	PUNCHVEC_K	パンチベクトルk		

## -Q-

数	データのタイプ名	データ タイプ 説明	ヘル プ イン デ ックス	値 文 字 列
470	QUERY_SHOW_GRAPHIC_SETTINGS" ?>QUERY_SHOW_GRAPHIC_SETTINGS			

## -R-

数	データのタイプ名	データタイプ説明	ヘル プ イン デ ックス	値 文 字 列
171	RADIUS_TYPE	測定結果の2次元距離半径タイプ		
196	READ_WRITE	読み取り/書き込みのトグル		
46	READPOS_TYPE	位置を読み込め（はい/いいえ）		
3	REF_ID	オブジェクトIDと呼ばれて		
222	REF_TEMP	一時コンプポイントオブジェクトの参照温度		
412	REGR	SPCの場合		
142	REPIERCE_CAD	反復アライメントにフラグします		
383	REPORT_SURFVEC_I	DCCエッジの拡大された板金ベクトル図表		
384	REPORT_SURFVEC_J	DCCエッジの拡大された板金ベクトル図表		

385	REPORT_SURFVEC_K	DCCエッジの拡大された板金ベクトル図表		
121	REPORTVEC_I	レポートベクトル i		
122	REPORTVEC_J	レポートベクトル j		
123	REPORTVEC_K	レポートベクトル k		
188	RET_ONLY_TYPE	レトロリニアオン/オフトグル		
216	RETURN_SPEED	オプションプローブオブジェクトのスピードをリターンします		
192	REVISION_NUMBER	ファイルヘッドの改訂番号		
48	RMEAS_TYPE	相対測定を使用します(はい/いいえ)		
69	RMEASFEATID	相対測定要素の名前		
524	RMEASFEATIDX	参照要素 (x 軸)	0	要素ラベル
525	RMEASFEATIDY	参照要素 (Y 軸)	0	要素ラベル
526	RMEASFEATIDZ	参照要素 (Z 軸)	0	要素ラベル
5	ROTATE_REF_ID	反復配置の回転要素のRef id		
158	ROTATION_TYPE	回転テーブルタイプを移動します		
286	ROW_ID			
639	RPT_DIMENSION_TABLES			

-S-

数	データのタイプ名	データタイプ説明	ヘルプ °イン デックス	値 文字 列
---	----------	----------	--------------------	--------------



# 式レポートについて

151	SAVE_ALIGN_CAD_TO_PARTS	列保存タイプを保存します		
92	SCAN_ACCELERATION	スキヤンの加速		
265	SCAN_AXISVEC_I	軸ベクトル i - 境界条件のために...		
266	SCAN_AXISVEC_J	軸ベクトル j - 境界条件のために...		
267	SCAN_AXISVEC_K	軸ベクトル k - 境界条件のために...		
432	SCAN_BNDRY_TYPE			
274	SCAN_CROSS_TOTAL	番号踏切境界条件を許可される		
259	SCAN_CUTPLANEVEC_I	カットの平面のベクトル i		
260	SCAN_CUTPLANEVEC_J	カットの平面のベクトル j		
261	SCAN_CUTPLANEVEC_K	カットの平面のベクトル k		
217	SCAN_DENSITY	オプションプローブオブジェクトのスキヤン密度		
276	SCAN_EDGE_THICK	エッジスキヤンのエッジ厚		
268	SCAN_ENDVEC_I	終了接触ベクトル i		
269	SCAN_ENDVEC_J	終了接触ベクトル j		
270	SCAN_ENDVEC_K	終了接触ベクトル k		
271	SCAN_INITDIR_I	ユニット方向ベクトル i のスキヤン		
272	SCAN_INITDIR_J	ユニット方向ベクトル j のスキヤン		
273	SCAN_INITDIR_K	ユニット方向ベクトル K のスキヤン		
262	SCAN_INITVEC_I	初期接触ベクトル i		
263	SCAN_INITVEC_J	初期接触ベクトル j		
264	SCAN_INITVEC_K	初期接触ベクトル k		
93	SCAN_OFFSET_FORCE	スキヤンのオフセット力		

358	SCAN_TECHNIQUE	スキャンの技術		
275	SCAN_TIME_INCR	マニュアルスキャンの時間インクリメント		
540	SCREEN_CAPTURE_AUTO_TIME	画面キャプチャ時間（常にまたは一時エラに）		
536	SCREEN_CAPTURE_AUTO_TYPE	画面キャプチャオートタイプ （基本的な画面キャプチャのオプションを与える）		
503	SCREEN_CAPTURE_QUALITY	画面キャプチャの画像色深さ		
502	SCREEN_CAPTURE_SCALE	画面キャプチャの画像サイズ		
535	SCREEN_CAPTURE_TYPE	画面キャプチャのタイプ (CADと同様にライブ画像表示をできます)		
57	SEARCHMODE_TYPE	最上部点要素のボックスまたは循環検索モード		
764	SECTION_INDEX			
225	SENSOR_LIST	一時コンプポイントオブジェクトのセンサーのリスト		
193	SERIAL_NUMBER	ファイルヘッダーのシリアル番号		
494	SHOW_COLUMN			
136	SHOW_DETAILS	アライメントとスキャンの詳細を表示します		
179	SHOW_HEADINGS	ディメンション形式ヘッドトグル		
135	SHOW_IDS	アライメントとループIDを表示します		
414	SHOW_MORE_SPC_CALCS	SPCの場合		
723	SHOW_NOMS			
728	SHOW_OPTIONS			

## 式レポートについて

187	SHOW_POINT_INFO	ポイント情報/ポイント情報 を表示します		
493	SHOW_ROW			
402	SHOW_SPC_CALCS	SPCの場合		
763	SIMULT_EVAL			
235	SINGLE_POINT	dcc スキャンオブジェクトの ポイントモード		
145	SKIP_NUM	ループのナビゲーション番号		
53	SLOT_MIN_MAX_TYPE	5 (NORM) or 6 (MINMAX) ヒ ットを使用してスロットを測 定します		
297	SLOT_NUMBER	列のロードおよびアンロード に列スロット番号を設定しま す		
563	SLOT_TYPE			
109	SLOTVEC_I	理論上のスロットベクトル <i>i</i> - 以下の注「スロットベクト ルデータ型」を参照してくだ さい。		
110	SLOTVEC_J	理論スロットベクトル <i>j</i> - 下 の「スロットベクトルのデー タタイプ」の注を参照してく ださい。		
111	SLOTVEC_K	理論スロットベクトル <i>k</i> - 下 の「スロットベクトルのデー タタイプ」の注を参照してく ださい。		
43	SNAP_TYPE	ベクター要素/表面要素		
416	SOLID	SPCの場合		
403	SPEC_LIMITS	SPCの場合		
415	SPEC_OFFSET	SPCの場合		

134	SRC_EXPR	ソース式(割り当てる、サブルーチン、コードのサブ、基本スクリプト、フローコントローラ)		
181	STANDARD_DEVIATION	寸法フォーマットの標準偏差切り替え		
98	START_ANG	開始角度	0	ラジアン値
466	START_LABEL			
143	START_NUM	ループの開始番号		
254	STAT_CALC_TYPE	統計情報オブジェクトの計算タイプオン/オフ切り替え		
194	STAT_COUNT	ファイルヘッド統計データ数		
253	STAT_NAME_TYPE	統計情報オブジェクトの変数名		
1	STATIC_TOGGLE	式を含めないトグルフィールドに使用されます		
391	STATS_DATASOURCE	統計情報オブジェクトのデータソース		
453	STATS_DB_TYPE	統計コマンドデータベースオプションについて		
248	STATS_DIR	統計オブジェクトの転送統計		
247	STATS_TYPE	統計情報オブジェクトの統計タイプ		
405	STDDEV	SPCの場合		
195	SUB_NAME	サブルーチン名		
690	SUMMARY_AXIS			
781	SUMMARY_BONUS			
684	SUMMARY_COLUMN_HDR			

## 式レポートについて

640	SUMMARY_DEV			
685	SUMMARY_FEAT			
779	SUMMARY_MAX			
692	SUMMARY_MEAS			
780	SUMMARY_MIN			
778	SUMMARY_MINUSTOL			
691	SUMMARY_NOMINAL			
776	SUMMARY_OUTTOL			
777	SUMMARY_PLUSTOL			
689	SUMMARY_TBLHDR			
484	SURFACE			
112	SURFVEC_I	面ベクトル i		
113	SURFVEC_J	面ベクトル j		
114	SURFVEC_K	面ベクトル k		
546	SURFVEC_MEAS_I	面ベクトル i 測定		
547	SURFVEC_MEAS_J	面ベクトル j 測定		
548	SURFVEC_MEAS_K	面ベクトル k 測定		

## スロットベクトルデータ型

SLOTVEC\_I、SLOTVEC\_J、およびSLOTVEC\_Kは列挙型です。これらは自動化コンテキスト内のみで機能します。

列挙型を使用する自動化の例として、SLOTVEC\_I、SLOTVEC\_J、およびSLOTVEC\_Kを以下のように使用する必要があります:



```
FeatureCommand.PutData(LocSlotVector,
FDATA_SLOT_VECTOR, FDATA_MEAS, FDATA_PART, " ", PLANE_TOP
)

Command.PutText("0", MEAS_SLOTVEC_I, 1)

Command.PutText("1", MEAS_SLOTVEC_J, 1)

Command.PutText("0", MEAS_SLOTVEC_K, 1)
```

PC-DMIS 式言語を介して編集ウィンドウでポインタまたは変数を直接使用する場合、TANGVEC\_IJKまたはANGVEC\_IJKを使用する必要があります:

- TANGIJKは理論上の IJK スロットベクトルを取得します。

また、特定の値を取得することもできます:

- TANGI は I 値を取得します。
- TANGJ は J 値を取得します。
- TANGK は K 値を取得します。

- ANGIJK は 測定された IJK スロットベクトルを取得します。

また、特定の値を取得することもできます:

- ANGI は I 値を取得します。
- ANGJ は J 値を取得します。
- ANGK は K 値を取得します。

式の例として、変数 V1 および V2 に丸溝の理論的 IJK 値と測定された IJK 値を代入するには、以下のように使用します:



```
ASSIGN/V1=SLTR.TANGIJK

ASSIGN/V2=SLTR.ANGIJK
```

## -T-

数	データのタイプ名	データタイプ説明	ヘル プ イン デ ックス	値文字列
345	T_VALUE	ヒットのT の値		
572	TARG_A			
590	TARG_EA			
591	TARG_EH			
589	TARG_ER			
516	TARG_EX	ターゲットエンド ポイントx成分		
517	TARG_EY	ターゲットエンド ポイントy成分		
518	TARG_EZ	ターゲットエンド ポイントz成分		
573	TARG_H			
31	TARG_I	ターゲットi - ベク トル		
32	TARG_J	ターゲットj - ベ クトル		
33	TARG_K	ターゲットk - ベ クトル		
571	TARG_R			
587	TARG_SA			
588	TARG_SH			
586	TARG_SR			
513	TARG_SX	ターゲット開始点 x成分		

514	TARG_SY	ターゲット開始点 y 成分		
515	TARG_SZ	ターゲット開始点 z 成分		
19	TARG_X	ターゲット x - 重 心		
20	TARG_Y	ターゲット y - 重 心		
21	TARG_Z	ターゲット z - 重 心		
557	TARGET_BLOB_TYPE			
282	TARGET_COLOR	ビジョンターゲッ ト色		
474	TARGET_DIRECTION			
520	TARGET_EDGE_ANGLE			
508	TARGET_EDGE_DENSITY			
712	TARGET_EDGE_EDGEDETECT			
538	TARGET_EDGE_EDGENUM			
537	TARGET_EDGE_EDGESELECT			
717	TARGET_EDGE_GRADIENT			
711	TARGET_EDGE_HEIGHT			
505	TARGET_EDGE_ILLUM			
475	TARGET_EDGE_POLARITY			
504	TARGET_EDGE_SIZE			
507	TARGET_EDGE_STRENGTH			
506	TARGET_EDGE_TOL			
509	TARGET_EDGE_TYPE			
549	TARGET_EDGE_UNDERSCAN			
710	TARGET_EDGE_WIDTH			
715	TARGET_FILTER_AREA			



# 式レポートについて

716	TARGET_FILTER_AREA_SIZE			
713	TARGET_FILTER_CLEAN			
714	TARGET_FILTER_CLEAN_STRENGTH			
561	TARGET_FILTER_OUTLIER			
562	TARGET_FILTER_OUTLIER_DISTANCE_THRESHOLD			
599	TARGET_FILTER_OUTLIER_STD_DEV_THRESHOLD			
523	TARGET_FOCUS			
722	TARGET_SURFACE_CROSSHAIR_HEIGHT			
722	TARGET_SURFACE_CROSSHAIR_HEIGHT			
499	TARGET_SURFACE_DURATION			
497	TARGET_SURFACE_HEIGHT			
501	TARGET_SURFACE_HIACC			
490	TARGET_SURFACE_ILLUM			
500	TARGET_SURFACE_MODE			
498	TARGET_SURFACE_RANGE			
511	TARGET_SURFACE_TYPE			
496	TARGET_SURFACE_WIDTH			
564	TARGET_TYPE			
124	TARGSLOT_I	ターゲットスロットベクトル i		
125	TARGSLOT_J	ターゲットスロットベクトル j		
126	TARGSLOT_K	ターゲットスロットベクトル k		
532	TEMP_P	現在のパート温度:		
529	TEMP_X	現在のX 軸温度:		

530	TEMPY	現在の Y 軸温度:		
531	TEMPZ	現在の Z 軸温度:		
163	TEXT_ANALYSIS	ディメンションの テキスト解析を使用 します(Yes / No)		
761	TEXTANAL_LABEL_DEV			
758	TEXTANAL_LABEL_MEAS_I			
759	TEXTANAL_LABEL_MEAS_J			
760	TEXTANAL_LABEL_MEAS_K			
755	TEXTANAL_LABEL_MEAS_X			
756	TEXTANAL_LABEL_MEAS_Y			
757	TEXTANAL_LABEL_MEAS_Z			
762	TEXTANAL_LABEL_MINMAX			
566	THEO_A			
609	THEO_A2	CMT特徴点1につ いて		
38	THEO_ANGLE	理論上の角度		
720	THEO_AREA			
555	THEO_DEPTH			
34	THEO_DIAM	理論上の直径		
578	THEO_EA			
579	THEO_EH			
284	THEO_END_ANG	ビジョン円要素		
577	THEO_ER			
13	THEO_EX	理論点x - 終了点		
14	THEO_EY	理論点 y - 終了点		
15	THEO_EZ	理論点 z - 終了点		
551	THEO_FLUSH			

式レポートについて

553	THEO_GAP			
567	THEO_H			
610	THEO_H2	CMT特徴点1について		
37	THEO_HEIGHT	理論上の高さ		
16	THEO_I	ヒットポイント理論i-ベクトル	ポイント番号	数値
17	THEO_J	ヒットポイント理論j-ベクトル	ポイント番号	数値
18	THEO_K	ヒットポイント理論k-ベクトル	ポイント番号	数値
36	THEO_LENGTH	理論上の長さ		
130	THEO_MINOR_AXIS	理論マイナーアクセス		
718	THEO_PERIMETER			
565	THEO_R			
608	THEO_R2	CMT特徴点1について		
575	THEO_SA			
576	THEO_SH			
574	THEO_SR			

283	THEO_START_ANG	ビジョン円要素		
10	THEO_SX	理論値 x - 開始点		
11	THEO_SY	理論値 y - 開始点		
12	THEO_SZ	理論値 z - 開始点		
35	THEO_WIDTH	理論上の幅		
7	THEO_X	ヒットポイント理論 x - 重心	ポイント番号	X-座標
393	THEO_X2	CMT特徴点1について		
8	THEO_Y	ヒットポイント理論 y - 重心	ポイント番号	Y-座標
394	THEO_Y2	CMT特徴点1について		
9	THEO_Z	ヒットポイント理論 z - 重心	ポイント番号	Z-座標
395	THEO_Z2	CMT特徴点1について		
49	THEOBF_TYPE	理論値を最良適合アルゴリズム(はい/ない)に使用します。		

# 式レポートについて

41	THICKNESS_TYPE	理論や実際の厚さ	0	"THICKNESS_NONE"、 "THEO_THICKNESS"、 または "ACTL_THICKNESS"
594	THICKNESS_TYPE_EDGE	理論や実際の厚さ		
67	THINNING_TOL	曲線細線化公差		
488	THRESHOLD			
450	TIME_ARG	SPCの場合		
401	TIME_FILTER	SPCの場合: タイムスタンプに基づくフィルタリング		
229	TIP_I	ヒントシャンクベクトル <i>i</i> コンポーネント		
230	TIP_J	ヒントシャンクベクトル <i>j</i> コンポーネント		
231	TIP_K	ヒントシャンクベクトル <i>k</i> コンポーネント		
418	TITLE	SPCの場合		
349	TOOL_DIAM	ツールの直径		
346	TOOL_X	ツール <i>x</i> の値		
347	TOOL_Y	ツール <i>y</i> の値		
348	TOOL_Z	ツール <i>z</i> の値		
169	TP_MODIFIER	測定結果の位置修正		
726	TP_MODIFIER2	これは TP_MODIFIER と TP_MODIFIER2は 要約モードで二つ		

		異なるグループに使用されるためです。		
400	TRACE_FILTER	SPCの場合：トレース・フィールドに基づくフィルタリング		
451	TRACE_FILTER_ARG	SPCの場合		
257	TRACE_NAME	トレース・フィールド名		
258	TRACE_VALUE	トレース・フィールド値		
473	TRACE_VALUE_LIMIT	値フィールドのトレースコマンド文字の制限		
255	TRANSFER_DIR	統計オブジェクトの転送ディレクトリ		
212	TRIGGER_FORCE	オプションプローブオブジェクトの引き金強度		
469	TRIGGERPLANE			
463	TRIGGERTOLERANCE			
464	TRIGGERTOLVALUE			
131	TWO_D_THREE_D_TYPE	2d または 3d		

**-U-**

数	データのタイプ名	データタイプ説明	ヘルプインデックス	値文字列
318	U_HITS	表面のUポイント数		

## 式レポートについて

417	U_L_BOUNDS	SPCの場合		
406	UCL_LCL	SPCの場合		
172	UNIT_TYPE	ユニットタイプ (インチ/mm)		
211	UP_FORCE	オプションプローブオブジェクトの 最高強度		
127	UPDATEVEC_I	ベクトルIの更新		
128	UPDATEVEC_J	ベクトルJの更新		
129	UPDATEVEC_K	ベクトルKの更新		
431	USE_3DFILTER			
139	USE_AXIS	反復アライメントに弛まんでまたTP ディメンションを開始します		
753	USE_AXIS2			
968	USE_BOUNDARY_OFFSET	無効検出中にヒットが自動的に配置 された位置で、境界(エッジ)からの最 小距離として境界オフセットを使用 することを有効または無効にします 。いいえに設定すると、チップの半 径の値が最小距離となります。		はい いいえ
541	USE_HSSDAT			
542	USE_STARTENDDELAY			
281	USE_THEO			
44	USEPIN_TYPE	ピンベクトルまたは法線ベクトルを 使用する		
738	USETWODEVIATIONS			

## -V-

数	データのタイプ名	データタイプ説明	ヘルプインデックス	値文字列
319	V_HITS	表面のVポイント数		
363	VIDEO_GAIN			
366	VIDEO_LASERLIGHT1			

367	VIDEO_LASERLIGHT2			
365	VIDEO_LEDLIGHT			
370	VIDEO_LSEG			
364	VIDEO_OFFSET			
371	VIDEO_XSEG			
369	VIDEO_YEND			
368	VIDEO_YORIGIN			
372	VIDEO_YSEG			
512	VOID_DETECT	無効な検出をオフします	0	「はい」 / 「いいえ」

**-W-**

数	データのタイプ名	データタイプ説明	ヘルプ インデックス	値文字列
322	WAVE_FILE	幾何学要素位置Waveファイル		
137	WEIGHT	最適化アラインメントの重さの値		
154	WORK_PLANE	作業平面		

**-X-**

数	データのタイプ名	データタイプ説明	ヘルプ インデックス	値文字列
146	X_OFFSET	ループのX オフセット ル		

**-Y-**

数	データのタイプ名	データタイプ説明	ヘルプ インデックス	値文字列
147	Y_OFFSET	ループのYオフセット ル		



**-Z-**

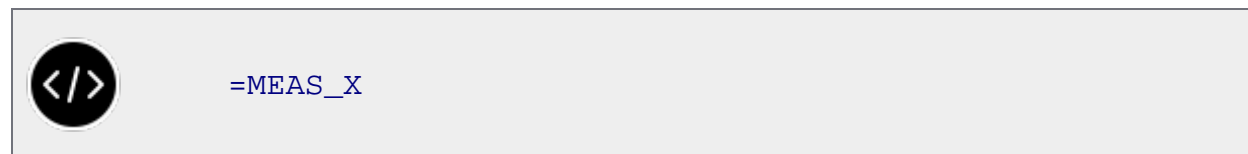
数	データのタイプ名	データタイプ説明	ヘルプインデックス	値文字列
148	Z_OFFSET	ループのZオフセット ル		
404	範囲	SPCの場合		

## 型インデックスを使用した特定のデータ表示

タイプインデックスで、レポートに非常に具体的なデータを引き出します。たとえば、8個の先端のシリンダの機能があれば、タイプインデックスを使用して測定値のX値の二番目の先端をグラフできます。タイプインデックスを使用するには、式に単にコロンのポート番号を追加して先端または寸法データの行をとります。

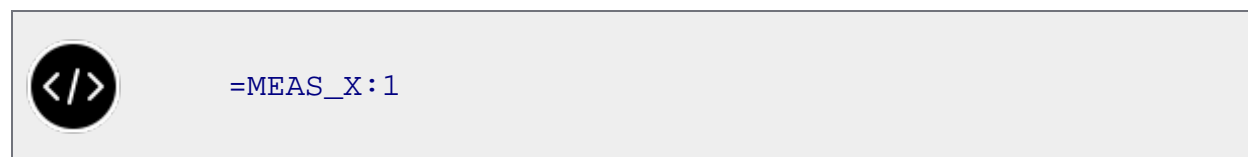
## 型インデックスを使用した特定のデータ表示

この操作の説明として、例えば次のように入力します:



型インデックスは使用されず(型インデックスはデフォルトの0に設定)、要素の中心点に対するXの測定値が表示されます。

一方、次のように入力した場合:



最初のヒットに対するXの測定値が表示されます。

次のように入力した場合:



```
=MEAS_X:2
```

PC-DMISは、2番目のヒットの測定されたX値を取得します。

### 行を繰り返して全てのデータを表示

インデックスを入力して、[GridControlObject](#)には「繰り返している行」のように行を定義できます。繰り返し行では、文字"N"が表示される行に対する現在の繰り返しインデックスの値となります。繰り返し行を指定する場合、繰り返し行に対する式もまた定義可能であり、その値が求められると行を繰り返す回数が定義されます。

つまり、要素の全てのヒットに対してXの測定値を表示する場合、次の式を使用して1つの繰り返し行を定義します:

```
=MEAS_X:N
```

次に、繰り返し行に対する式を"=N\_HITS"と定義し、ヒットの総数を取得します。全てのヒット数が表示されるまで、付随するヒットデータを持った行が繰り返されます。

### プレフィックス番号を使用した要素の参照データへのアクセス

レポート式は括弧内のオプションの接頭辞の番号を取って、データが取られる参照コマンドを表示します。

たとえば、丸みの寸法のラベルテンプレートを作成して、テンプレートのラベルで測定径を表示したい場合、この式を使用できます:



```
= {1} MEAS_DIAM ( )
```

{1}を注意してください。これがデータが最初の参照コマンド（機能）から来てテンプレートが作成されたコマンドを代わる必要があると表示します。

1つ以上の参照要素を使用する場合、括弧内の番号はPC-DMIS が情報を引くところから要素を表示します。例えば、距離を計算するのに2つの要素が使用されるとします。{1}を使用すると、データは最初の参照要素から取得され、{2}は2番目の参照要素からデータを取得します。

## 既定定数

レポートの表示式言語は、DIMENSION\_TABLESデータ型で使用する型インデックスにいくつかの事前定義された定数も使用します。



```
LINE1_SIZE_TABLE = 1  
  
LINE2_POSITION_TABLE = 2  
  
LINE3_POSITION_TABLE = 3  
  
DATUM_SHIFT_TABLE = 4  
  
SUMMARY_TABLE = 5  
  
LINE2_ORIENTATION_TABLE = 7  
  
LINE3_ORIENTATION_TABLE = 8  
  
LINE2_BASIC_DIMENSION_TABLE = 9  
  
LINE3_BASIC_DIMENSION_TABLE = 10  
  
TRUE_POSITION_TABLE = 11  
  
DIMENSION_TABLE = 12  
  
DIMENSION_WITH_BONUS_TABLE = 13
```

## 新しいライン

NEWLINEはテキストの表示式で、改行復帰文字を挿入する場合に使用します:

次の式:



```
= 「これは行1です。」 + 「そして、これは行2です。」
```

が表示され、

これは、行1です。これは、行2です。

レポートで。

次の式:



= 「これは、行1です」 + NEWLINE + 「そして、これは行2です」

は、レポートでは、下記のように表示されます。

これはライン 1

またこれはライン 2

レポートで。

**N:**

グリッドで行が繰り返される場合、Nは繰り返しの行における現在の行番号を表します。これは繰り返し行に2回以上にデータタイプを使用する式を配置する時には有用です。

以下は、表のヒット値を示すサンプルグリッドです。Nは繰り返し行の式で使用されます。繰り返し行の最初のインスタンスの式が評価されると、Nは1に等しいため、最初のヒットのX、Y、およびZ値が表示されます。2番目の行が追加されると、Nは2に等しいため、2番目のヒットのX、Y、およびZ値が表示されます。

Hit #	Measured X	Measured Y	Measured Z
=N	=MEAS_X:N	=MEAS_Y:N	=MEAS_Z:N

## 標準テンプレートで使用する式

さまざまな標準レポートおよびラベルテンプレートで、PC-DMISは複数のレポート式を使用して、さまざまな情報を表示したり、情報の表示をフォーマットしたりします。例えば、PC-DMISに標準装備されているラベル テンプレート、feature.lblの裏にあるコードを見てください。

このテンプレートには、PC-DMISがセルに表示する情報を決定するいくつかのレポート式（=LOADSTR、=DIM\_MEASURED、=NOMINALなど）があります。

## コマンド式

次のリストは様々な規格テンプレートで使用する最も一般的な式を説明します。



これらのいくつかの関数も「関数および演算子」トピックに説明されます。

- `=<式>:N` - この式によってユーザーは繰り返される情報を表示することができます。繰り返す行について詳しくは、「タイプインデックスを使用して特定のデータを表示」と「定義済み定数」を参照してください。
- `=AXIS` - この式は現在の軸の名前を表示します(XAXIS, YAXIS, またはZAXIS)。
- `=DEVIATION_ANGLE` - この式は位置寸法の偏差角(度)を表す10進数値を表示します。PC-DMISはこの値を使用して、位置寸法テンプレートの放射状グラフィックを描画します。
- `=DEVPERCENT_NOM` - この式は線形グラフィック上の0偏差（公称値）位置を示す総公差範囲の割合を表す10進値を表示します。+/- 値が等しい両側公差では、この値は 50 (%) であり、線形グラフィックの中心が 0 偏差を表します。非両側公差では、この値は0.0であり、線形グラフィック左端は0偏差を表します。
- `=DEVPERCENT2` - `USETWODEVIATIONS`が真に設定された場合(以下の `USETWODEVIATIONS`を参照してください)、この式はフォームおよび場所としてレポートされる両側プロファイルの最大偏差によって使用される+公差の割合を表示する10進数値を表示します。最小偏差によって使用される - 公差の割合は `DIM_RPT_DEVPERCENT`で与えられます。
- `=DIM_DEVIATION` - この式が測定結果が公称値から外れる程度を表示します。
- `=DIM_OUTTOL` - この式は測定結果に対する公差範囲外値を表示します。
- `=DIM_MAX` - この式は入力要素に関連するすべての点のうちで与えられた軸に対する最大値を表示します。
- `=DIM_MEASURED` - この式は寸法の測定値を表示します。
- `=DIM_MIN` - この式は入力要素に関連するすべての点のうちで一定の軸の最小値を表示します。
- `=DIM_RPT_DEVPERCENT` - この式はこの測定結果の偏差を示す総公差の割合を表す10進値を表示します。
- `=DIM_RPT_GRAPHIC` - この式は PC-DMISが測定結果に対して表示しなければならないグラフィックコントロールの種類を表す整数値を表示します。

0 - レポートするグラフィックコントロールがありません。

1 - リニアグラフィックコントロールをレポートします。

2 - 放射状グラフィックコントロールをレポートします。

- =DIM\_RPT\_ISBILATERAL - この式はリニアグラフィックがフォームおよび位置としてレポートされる穴またはプロファイルのサイズなど、両側公差(+/- 公差値)を表すかどうかを定義します。両側ではない公差(単一公差値)の例は、フォームとしてのみレポートされる真円度、平坦度、真直度およびプロファイルなどのフォーム公差です。取り得る値は「0」(偽)または「1」(真)です。
- =DIM\_RPT\_NUMZONES - この式はリニアグラフィックに描画される公差範囲の数(偏差0から最大許容偏差まで)を示す10進数値を表示します。ユーザーは、**[寸法の色を編集]**ダイアログボックス (**[編集]****グラフィック表示ウィンドウ****|寸法の色**)を選択)でこれを設定できます。各領域に表示する固有の色を割り当てて、測定結果の偏差によって使用された公差の大きさをリニアグラフィックの色によって表示することができます。
- =F\_PLUS\_TOL - この式は要素のプラス公差を表示します。
- =F\_MINUS\_TOL - この式は要素のマイナス公差を表示します。
- =ID - この式は要素または測定結果のIDを表示します。
- =LOADSTR - この式はPC-DMISから保存された文字列テーブルの文字列を読み込みます。詳しくは、「"PC-DMISから文字列を読み込む」を参照してください。
- =NOMINAL - この式は要素の公称データを表示します。
- =Page() - この式はレポートウィンドウの現在のページ番号を表示します。
- =Pages() - この式はレポートウィンドウのページ総数を表示します。
- =TOL - この関数は任意のテキストまたは式を染めます。
- =UNIT\_TYPE - この式は要素または測定結果の測定単位を表示します。
- =USETWODEVIATIONS - この式は従来の測定結果のラベルテンプレートリニアグラフィックが2つの偏差値を使用するかどうかを定義します。フォームおよび位置としてレポートされた両側プロファイルは、最大偏差によって使用されたプラス公差の大きさと最小偏差によって使用されたマイナス公差の大きさを表示します。取り得る値は「0」(偽)または「1」(真)です。

## 複合式

Legacy\_Dimension\_Cad.lblラベルテンプレートから取得した次のコード文字列に示すように、式を組み合わせた、他の式と組み合わせて使用したりすることもできます。



```
=TOL(DIM_DEVIATION:N,DIM_OUTTOL:N,0.0,0.0)
```

これは=TOL 関数を使用して寸法偏差値を表示してまたそれにエラー色（普通は赤）を与えます。

別の例は、PC-DMISバージョン4.2以降の標準レポートテンプレートにあります。それらのテンプレート下部にあるテキストオブジェクトは総ページ数によってテキストプロパティ内の組み合わせた式を表示します：



```
=page() + " の " + pages()
```

10ページのレポートの6ページには、レポートウィンドウのページ下部に次のように記載されています。

6 の 10

---

## PC-DMIS ActiveXコントロールの使用

トピックのこのシリーズは様々なPC - DMIS ActiveXコントロールとのプロパティを設定する方法の例とラベルのテンプレートにそれらを使用して寸法情報を表示する方法の例を提供します。

- ActiveX コントロールの追加
- ActiveXコントロールヘデータの引渡し
- PC-DMIS ActiveXコントロールの例

このトピックは、各コントロール専用のActiveXプロパティに焦点を当てています。

### ActiveX コントロールの追加

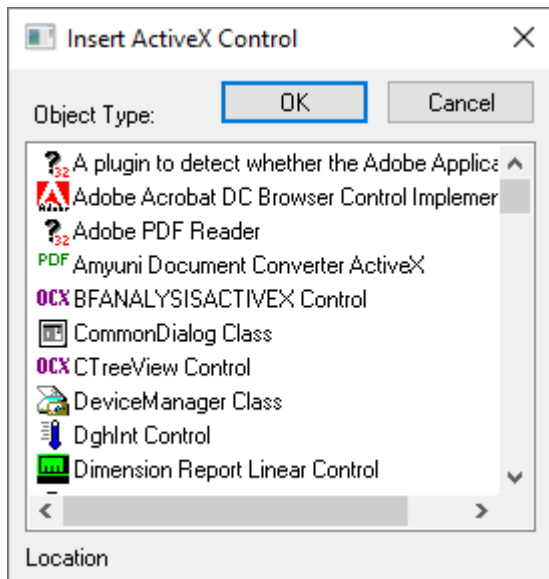
2つの方法でラベルテンプレートエディタにActiveX コントロールをラベル テンプレートに追加できます：

- オブジェクトバーからの ActiveX オブジェクト - エディターのオブジェクトバーにある [ActiveX] アイコンをクリックして、ActiveX コントロールをラベルテ

ンプレートに直接追加します。次に、コントロールが配置されるエリアを定義できます。「ActiveX オブジェクト」トピックを参照してください。)

- **GridControlObjectからのActiveXオブジェクト** - GridControlObjectでは、オブジェクトをダブルクリックし、選択してから、オブジェクトを右クリックして、**グリッドのプロパティ**ダイアログボックスを表示します。そのダイアログボックスから、**セルタイプ**を**ActiveX**に設定します。これにより、**[選択]**ボタンがアクティブになります。**[選択]**をクリックします。（詳細については、「GridControlObject」トピックを参照してください）。

どのようなメソッドを使用しても、PC-DMIS は**ActiveX コントロールを挿入** ダイアログボックスを示します。



[ActiveX コントロールの挿入] ダイアログボックス

リストから目的のコントロールを選択して**OK**をクリックします。





PC-DMISによって追加されたそれらのコントローラだけではなく、このダイアログボックスはシステム上のすべてのコントロールが表示されます。ラベルのテンプレートサードパーティ製のコントロールを使用する場合は、同じ方法でそれを追加できます。

## ActiveXコントロールへデータの引渡し

ここで説明するすべてのPC-DMISのActiveXコントロールにおいて、ソフトウェアはEventReportDataイベントを使用して情報をコントロールに引き渡します。PC-DMISは特定の寸法情報を ReportData と呼ばれるオブジェクトにカプセル化します(詳しくは、PC-DMIS 2026.1 「オートメーションオブジェクトライブラリ」ドキュメントの「ReportData オブジェクト」トピックを参照してください)。例えば、TextOnly.rtpレポートテンプレートのルールツリーエディタを見ると、[寸法の位置]項目に下記のルールが表示されています:

テンプレート「legacy\_dimension.lbl」を使用する

Legacy\_dimension.lbl ラベル テンプレートはこのReportDataオブジェクトを通して寸法の位置に関する寸法データを受け取ります。この時点では、この情報はラベル上にありますが、まだActiveXコントロールには引き渡されていません。

このデータは次の方法により引き渡されます:

1. [ラベル テンプレート]エディタで legacy\_dimension.lbl ラベル テンプレートを開きます。**ActiveX12**と名付けられたGridControlObjectが含まれているのを確認します。
2. 右クリックしてオブジェクトのプロパティ ダイアログ ボックスを表示します。
3. グリッド コントロール内のセルの1つをダブルクリックし、編集モードに入ります。
4. 下の右コーナーのセルをクリックします。このセルは寸法レポートリニアコントロールを使用します。[プロパティ]ダイアログボックスに4つのプロパティ カテゴリ(標準、詳細、イベント、**ActiveX**)があることに注目してください。通常、オブジェクトは3つのカテゴリ(標準、詳細、イベント)を持ちます。四番目のカテゴリ、**ActiveX**はActiveXコントロールに固有でありまたそれは以下のセクションに集中されるエリアです。

5. イベント セクションを展開します。
6. **EventReportData** プロパティにアクセスします。VBAミニ エディタが表示されます。エディタに次のコードが含まれていることを確認します:

```
This.X.EventReportData ReportData
```

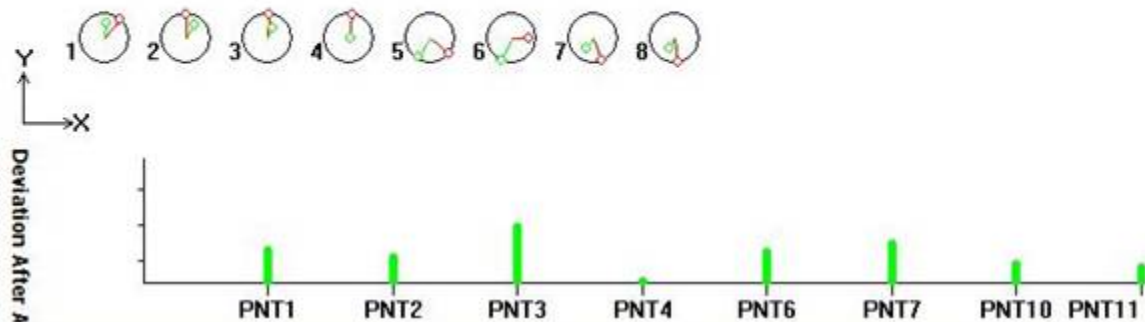
このコードはReportData（次元情報）をActiveX コントロールにパスする機構です。だから、ActiveX コントロールをラベル テンプレートに追加するたびに、theコードのラインの使用でEventReportDataプロパティを同じなことをするのを設定する必要があります。

## PC-DMIS ActiveXコントロールの例

以下のセクションでは、一部ののPC-DMISレポートActiveXコントロールおよびそれらのプロパティについて説明します。ここではDimAnalysisActiveX コントロールについては説明していないことに注意してください。それはActiveXリストに表示されますが、内部的にラベルテンプレートエディタの解析オブジェクトによって使用されます。

### BFAnalysisActiveX

Standard Deviation 0.054489  
 Mean 0.137036  
 Translation offsets X 0.204252 Y -0.105290 Z 0.000000  
 Rotation offsets 0.186331  
 Scaling N/A



プロパティ	説明	例
AfterColor	最後のバ	未定[デフォル

	一 の 色	65280 (緑)]
BeforeColor	最 初 の バ ー の 色	未定[ デフ ォル ト・ 255 (青)]
NumberFeatures	X 軸 に 表 示 さ れ る 要 素 の 数	tbd

AfterColorおよびBeforeColorは色を表わすのにLong型の値を使用します。

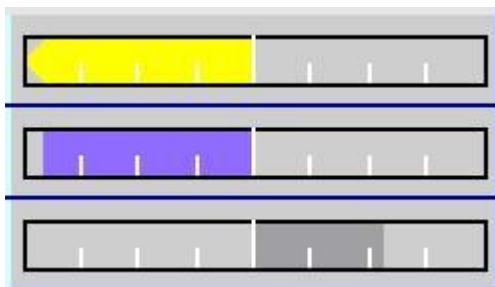
次の式が使用されます:

$$(\text{赤} * 256 * 256) + (\text{緑} * 256) + \text{青}$$

つまり、赤= 16711680; すなわち  $(255 * 256 * 256) + (0 * 256) + 0$ ; 緑= 65280; すなわち  $(0 * 256 * 256) + (255 * 256) + 0$ ; 青= 255; すなわち  $(0 * 256 * 256) + (0 * 256) + 255$ となります。

ラベル テンプレートの例: Best\_Fit\_Analysis.lblの、BFANALYSISACTIVE1

## 寸法レポート 線形



プロパティ	説明	例
DeviationNominalPercent	例の式の説明について「標準テンプレートに使用された式」を参照してください。	=DEVPERCENT_NOM:N
DeviationPercent	例の式の説明について「標準テンプレートに使用された式」を参照してください。	=DIM_RPT_DEVPERCENT:N
DeviationPercent2	例の式の説明について「標準テンプレートに使用された式」を参照してください。	=DEVPERCENT2:N
Is Bilateral	例の式の説明について「標準テンプレートに使用された式」を参照してください。	=DIM_RPT_ISBILATERAL:N
UseTwoDeviations:	例の式の説明について「標準テンプレートに使用された式」を参照してください。	=USETWODEVIATIONS:N

ラベル テンプレートの例: Legacy\_Dimension.lbl内の右下のセル

寸法レポート 線形2



プロパティ	説明	例
誤差:	例の式の説明について「標準テンプレートに使用された式」を参照してください。	=DIM_DEVIATION:N
負の公差:	例の式の説明について「標準テンプレートに使用された式」を参照してください。	=F_PLUS_TOL:N
正の公差:	例の式の説明について「標準テンプレートに使用された式」を参照してください。	=F_MINUS_TOL:N

例のラベル テンプレート: 現在は標準のラベルのテンプレートに使用されません。

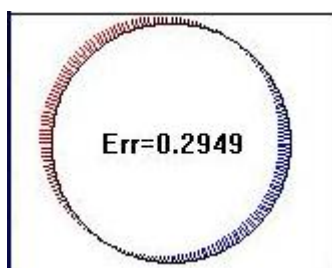
寸法レポート 円形



プロパティ	説明	例
円筒誤差	例の式の説明について「標準テンプレートに使用された式」を参照してください。	=DIM_RPT_DEVPERCENT:101
円筒の偏差角度	例の式の説明について「標準テンプレートに使用された式」を参照してください。	=DEVIATION_ANGLE:101

ラベル テンプレートの例: Legacy\_Dimension\_True\_Position.lbl内の右下のセル

### FeatureAnalysisActiveX



このコントロールの設定するプロパティはありません。これはデータを使用してそれにReportDataに渡されます。

ラベル テンプレートの例: Feature.lbl. 内のFEATUREANALYSIS1

### DataFileFormatControl

プロパティ	説明	例
DataFileName	<p>解釈される.datファイル名 (logo.dat、elogo.dat、または header.dat)です。</p> <p>PC-DMISがインストールされたディレクトリの外にある.datファイルを使用する場合は、ファイルの完全パスを含むことを確認してください。</p>	<p>logo.datを入力すると、PC-DMISは.datファイル内のキーワードを解釈し、ファイル内の.datファイルキーワードに基づき、指定されたビットマップ、日付、時間等を表示します。</p>

チュートリアル - 報告を強化するためにスクリプトを使用します

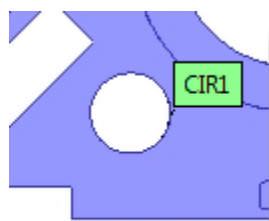
例のラベル テンプレート: 無し。「.DAT ファイルキーワードの使用のレポート」トピックを参照してください。

---

## チュートリアル - 報告を強化するためにスクリプトを使用します

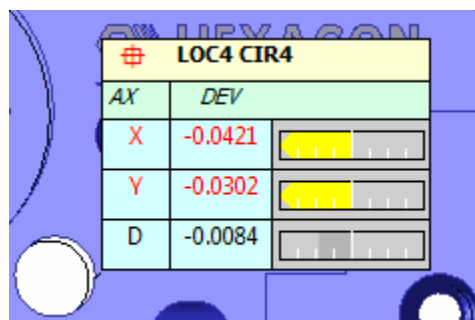
このチュートリアルは、スクリプトの力でそれをカップルする場合にはPC-DMIS レポートのいくつかの利用可能な機能を表示します。

このチュートリアルでは、寸法が公差範囲内にある場合に Reference\_ID.lbl に似たラベルテンプレートが使用されることを除いて、CADOnly タイプのレポートを表示するレポートテンプレートを作成する方法を示しています。



公差範囲内の要素の例。

それが公差範囲外である場合、PC-DMIS は Legacy\_Dimension\_CAD.lbl ラベルテンプレートを使用します。また、Reference\_ID.lbl のようなラベルはその背景色に寸法色を使用します。



公差範囲外の要素の例。



このチュートリアルは幾何公差コマンドによって使用されるラベルに対する必要な変更をカバーしてないため、完全なソリューションではありません。これを完全なソリューションにするためには、GEO\_TOL\_LABEL.lbl に対して同様の手順を実行して、幾何公差コマンドが同じパターンに従うようにします。

チュートリアルを開始する前に、「チュートリアルのステップの概要」および以下の「知っておくべきこと」トピックを確認してください。

## チュートリアルのステップの要約

1. CADONLY.RTPをCADONLYREF\_ID.RTPにコピーします。 ➡  
CADONLYREF\_ID.RTPが新しいレポートテンプレートとなります。
2. REFERENCE\_ID.LBL を REFERENCE\_ID\_COLOR.LBLにコピーします。 ➡  
REFERENCE\_ID\_COLOR.LBLが公差内の測定結果に使用される新しいラベルテンプレートとなります。
3. VBスクリプトをREFERENCE\_ID\_COLOR.LBLに追加します。 ➡  
ラベル テンプレート エディタを使用して、VBスクリプトコードを新しいラベル テンプレート、REFERENCE\_ID\_COLOR.LBLに追加し、背景色を測定結果の色に基づいて設定します。
4. CAD2.RULルールをCADONLYREF\_ID.RTPにインポートします。 ➡  
このステップでは、.RULファイルに含まれるルールを新しいレポートテンプレート CADONLYREF\_ID.RTPにインポートします。.RUL ファイルは TextAndCAD レポートのCAD部分に使用されるルールのセットを含み、またそれはREFERENCE\_ID.LBLを使用して寸法を表示します。REFERENCE\_ID.LBLを使用するルールを変更して新しいルールと新しいラベルのテンプレート REFERENCE\_ID\_COLOR.LBLを使用できます。
5. VB スクリプトコードをCADONLYREF\_ID.RTPに追加します ➡  
レポートエディタのテンプレートを使用して、ルールツリー内の各場所でスクリプトコードCADONLYREF\_ID.RTPを追加して、REFERENCE\_ID.LBLを参照して測定結果が公差内にあるかどうかをチェックできます。公差範囲内の場合、コードによってREFERENCE\_ID\_COLOR.LBLが使用されるようになります。そうでない場合、コードによってLEGACY\_DIMENSION\_CAD.LBLが使用されるようになります。





この時新しいFCF\_LABEL.LBL、すなわち FCF\_LABEL\_COLOR.LBLを作成している場合、公差内である場合は要素コントロールフレームのルールを変更してFCF\_LABEL.LBLの代わりに FCF\_LABEL\_COLOR.LBLを使用します、公差外の場合はその他のラベル（例えばLINE2.LBL）を使用します。

6. このルールを変更して、残っているディメンションにこのVB スクリプトコードを使用します。 ➡

この時点で新ルールのみは寸法場所に確立されます。このステップに ルール ツリー エディタ 内のコピー と貼り付け 機能を使用してその他の寸法のタイプが同じルールを使用することができます。

7. レポートウィンドウでCADONLYREF\_ID.RTPをテストします。 ➡

このステップでは、CADONLYREF\_ID.RTP テンプレートを選択してレポートウィンドウの内部でそれをテストします。このステップでは、CADONLYREF\_ID.RTP テンプレートを選択し、レポートウィンドウ内でそれをテストします。このチュートリアルの終了時には、公差内の測定結果のみページ下部に要素名に測定結果のカラーキーから一致する背景の測定結果の色を付けて表示するレポートテンプレートが出来上がります。公差外の測定結果は LEGACY\_DMENSION\_CAD.LBLラベルを使用します。

## 知っているもの

- PC-DMIS 2026.1 オートメーションオブジェクトライブラリドキュメントの「ReportData オブジェクト」トピックにはこのオブジェクトのメソッドの説明があります。この例では、いくつかのReportDataメソッドを使用します。
- Dtype 情報を取得するには、編集ウィンドウ内の測定結果を右クリックします。表示されるメニューの下部には「ポップアップ表示を変更」項目があります。それを選択して「データタイプ情報」を選択します。編集ウィンドウの項目の上にカーソルを置くと、ヘルプのヒントがDtype 情報を表示します。たとえば、OUTTOL 値の上にマウスを置くと、ヒントの説明に「公差範囲外 (DIM\_OUTTOL - 344), 0」と表示されます。Dtype は DIM\_OUTTOLであり、Dtype番号は344です。この例ではDtype 番号を使用します。今後のPC-DMIS バージョンではDtype自体を使用することができます。

- VBS ミニエディタはMsgBoxステートメントを受け入れます。このステートメントを使用してスクリプトのデバッグに役立ちます。MsgBoxステートメントを介して表示される情報はレポートの生成中に表示されます。
- VBS ミニエディタは「ミニ」エディタです。Visual Basic / Visual Studioで慣れている場合、このエディタおよびBASIC言語はすべて、大規模なBASICのシステムの機能を持っていません。

## ステップ1: CADONLYREF\_ID.RTPにCADONLY.RTPをコピー

このステップでは、CADONLYREF\_ID.RTPが新しいレポート テンプレートの名前となります。

Windowsエクスプローラで、*レポートのサブディレクトリ*にCADONLY.RTPファイルのコピーを作成し、その名前をCADONLYREF\_ID.RTPに変更します。



この場所でレポートフォルダを見つけることができます。このフォルダには、レポートウィンドウに使用されるすべてのテンプレートが含まれています。

C:\Users\Public\Documents\Hexagon\PC-DMIS\<version>\Reporting

<バージョン> はPC-DMISのバージョンを表します。既存テンプレートをカスタマイズするか、新規テンプレートを作成したい場合、そのディレクトリで行います。

変更されたテンプレートを工場出荷時の設定に復元する必要がある場合は、それをPC-DMISのインストールディレクトリに位置するDefaultReportingTemplateBackupディレクトリからコピーして、レポートディレクトリにそれを貼り付けることができます。

DefaultReportingTemplateBackupディレクトリに保存されるテンプレートを変更しないでください。

## ステップ2: REFERENCE\_ID.LBLを REFERENCE\_ID\_COLOR.LBLにコピー

このステップでは、REFERENCE\_ID\_COLOR.LBLが公差範囲内の測定結果に使用される新しいラベル テンプレートとなります。

チュートリアル - 報告を強化するためにスクリプトを使用します

同じレポートのサブディレクトリから、REFERENCE\_ID.LBLのコピーを作成し、REFERENCE\_ID\_COLOR.LBLに名前を変更します。

## ステップ3: VB スクリプトを REFERENCE\_ID\_COLOR.LBLに追加

このステップでは、ラベルテンプレートエディターを使用して、VB スクリプトコードを新しいラベルテンプレートの REFERENCE\_ID\_COLOR.LBL に追加し、背景色を測定結果の色に基づいて設定します。

1. ファイル| レポート| 編集 | ラベル テンプレートを選択して また REFERENCE\_ID\_COLOR.LBLを開きます。ラベルが開きます。ラベルが開きます。ラベルには一つの行と一つの列があるGridControlObjectが含まれています。セルをダブルクリックすると、以下のような式が表示されます:



```
=REF_ID:1
```

これはラベルが参照要素のIDを表示するのを意味します。

2. エディタを右クリックしてプロパティダイアログ ボックスを表示します。
3. オブジェクトリストから **GridControlObject1** を選択します。
4. プロパティダイアログ ボックスからイベントを展開します。
5. **EventReportData** プロパティの右に[なし] をクリックして。**VBS ミニエディタ**が表示されます。広いために **VBSミニエディタ** を展開する必要があるため、全体 Subステートメントがトップにすることを発見できます。



ReportDataオブジェクトが引き渡される状態が表示されます。これは PC-DMIS が引き渡される測定結果に関する情報を抽出する場所です。ReportData オブジェクトについて詳しくは、PC-DMIS 2026.1 オートメーションオブジェクトライブラリドキュメントの「ReportData オブジェクト」トピックを参照してください。また、GridControlObjectを参照する必要がある場合は、オブジェクトへのショートカットとして「これ」を使用できます。

6. **VBS ミニエディタ**にこのコードを挿入します:

```

Dim I As Integer
Dim MaxIndex As Integer
Dim MaxDev As Double
Dim CurrentDev As Variant
Dim Dev As Variant
Dim PTol As Variant
Dim MTol As Variant
Dim iReturn As Boolean
' 最大偏差と最大インデックスを初期化
MaxDev = 0.0
MaxIndex = 1
' この寸法での軸数を取得する
' 132 は Dtype AXIS です
Count = ReportData.GetCount(132)

' ループして最大偏差を見つける
' ループが終了すると、MaxIndex は最大偏差への
' インデックスになります。
For I = 1 to Count
' 340 は Dtype DIM_DEVIATION です
CurrentDev = ABS(ReportData.GetValue(340, I))
If CurrentDev > MaxDev Then
MaxDev = CurrentDev
MaxIndex = I
End If
Next I

' Using MaxIndex, acquire that axes deviation, +
Tol and - Tol
' 167 is Dtype F_PLUS_TOL; 168 is Dtype
F_MINUS_TOL
Dev = ReportData.GetValue(340, MaxIndex)
PTol = ReportData.GetValue(167, MaxIndex)
MTol = ReportData.GetValue(168, MaxIndex)
' この情報を使用してグリッドセルの背景色を調整します
iReturn = This.SetCellBackgroundColor(0, 0,
ReportData.GetTolColor(Dev, PTol, MTol))

```



**コードの説明:**



このコードは、Dtypesの数値を使用します。変数MaxDevがゼロに初期化されて、大きな誤差が発見される場合、それはMaxDevに配置されます。For/Next ループの終了後に、MaxDevはこの測定結果の最大偏差を保持し、MaxIndexはその軸のインデックスを保持します。ReportData.GetCount文は、この寸法の軸の数を取得します。For/Next ループは各軸をループします。

ReportData.GetTolColorは指定の偏差値と公差値用に公差の色を取得します。MaxIndexを使用して最大偏差を持つ軸の偏差値および公差値を取得します。GetTolColorは色の値をlongとして返します。

"This"を使用するとGridControlObject1オブジェクトを参照できます。SetCellBackgroundColorは背景色に特定のセルを設定します。引数1と2は、セルの行と列の番号です。グリッドコントロールの行と列の最初のセルは行/列0です。3番目の引数は、ユーザーがこのセルの背景色に設定したい色となります。Long値となります。

7. 一旦コードを追加したら、**OK**をクリックします。ミニエディターは任意の構文エラーをチェックします。コードにエラーがある場合、PC-DMIS はこの時点でメッセージを表示します。エラーがない場合、**VBS ミニエディタ**は終了します。
8. **ファイル| 保存**を選択してREFERENCE\_ID\_COLOR.LBLの新しいコピーを保存します。
9. **ファイル| 終了**を選択します。これはラベルテンプレートエディタを閉じます。

## ステップ4: CAD2.RULルールをCADONLYREF\_ID.RTPにインポート

このステップでは、新しいレポートテンプレートであるCADONLYREF\_ID.RTPに.RUL ファイルに含まれるルールをインポートします。.RUL ファイルにはTextAndCAD レポートのCAD部分で使用するルールセットが含まれ、またそれはREFERENCE\_ID.LBLを使用して測定結果を表示します。REFERENCE\_ID.LBLを使用するルールを変更して

新しいルールと新しいラベルのテンプレートREFERENCE\_ID\_COLOR.LBLを使用できます。

1. ファイル| レポート| 編集| レポート テンプレートを選択し、CADONLYREF\_ID.RTPを開きます。
2. プロパティ ダイアログボックスが表示されます。
3. オブジェクトのリストから**CadReportObject1** オブジェクトを選択します。
4. プロパティ ダイアログ ボックスに、**標準** リストを展開してルールツリープロパティの隣のルール をクリックします。ルールツリーエディタが開きます。
5. **[インポート]** ボタンをクリックし、CAD2.RULを選択して**[開く]**をクリックします。ここでレポートテンプレートはTextAndCAD レポートテンプレートのCAD 部分に使用されるのと同じルールを含みます。
6. ルール ツリー エディタで**[測定結果位置]**をクリックして、テンプレート「**Reference\_ID.lbl**」を使用というルールを選択します。
7. **編集**をクリックして下さい。**編集ルール**ダイアログ ボックスが現れます。
8. 「Reference\_ID.lbl」 から「Reference\_ID\_Color.lbl」へ **ラベル名前** を変更します。これは直接入力するかまたは ... ボタンをクリックしてこのファイルに移動することで実行できます。

## ステップ5:VB スクリプトのコードを CADONLYREF\_ID.RTPに追加

このステップでは、レポート テンプレートエディタを使用して、ルールツリーエディタの中でREFERENCE\_ID.LBL を参照する各場所でCADONLYREF\_ID.RTPにスクリプトコードを追加して、測定結果が公差範囲内であるかをチェックします。公差範囲内の場合、コードによってREFERENCE\_ID\_COLOR.LBLが使用されるようになります。そうでない場合、コードによってLEGACY\_DIMENSION\_CAD.LBLが使用されるようになります。

1. まだ **編集ルール** ダイアログ ボックスに残る場合には**追加の式またはスクリプトを使用**をクリックしてスクリプトオプションを選択し、 また**編集** ボタンをクリックします。**VBS ミニエディタ** が表示されます。
2. VBS ミニエディタに以下のコードを挿入します::



```
DimCount As Integer
DimCurrentOutTol As Variant
DimI As Integer
' iRetVal = 1 if In-Tolerance;iRetVal = 0 if Out-of-
Tolerance

iRetVal= 1
'132 = Dtype AXIS
Count= ReportData.GetCount(132)
' Loop through each axis to see if OutTol is non-
zero

ForI = 1 to Count
    ' 344 = Dtype DIM_OUTTOL
    CurrentOutTol = ReportData.GetValue(344, I)
    If CurrentOutTol > 0 Then
        iRetVal = 0
        Exit For
    End If
NextI
```

#### コードの説明:



このコードは、Dtypesの数値を使用します。それはこの寸法の各軸をループして公差値以外に見つかります。戻り値は1に初期化されます（真）。ゼロ以外の公差値が発見される場合、それは戻り値を0（False）に設定します。

- 一旦コードを追加したら、**OK**をクリックします。ミニエディターは任意の構文エラーをチェックします。コードにエラーがある場合、PC-DMISはこの時点でメッセージを表示します。エラーがない場合、**VBS ミニエディタ**は終了します。
- 追加ボタンをクリックして新しいルールを定義します。**編集ルール**ダイアログボックスが現れます。
- ラベル名ボックスに、LEGACY\_DIMENSION\_CAD.LBLを選択または入力します。

6. また、**追加の式またはスクリプトを使用**をクリックして **Script** オプションを選択し、また**編集** ボタンをクリックします。**VBS ミニエディタ** が表示されます。
7. **VBS ミニエディタ**に以下のコードを挿入します:



```

Dim Count As Integer
Dim CurrentOutTol As Variant
Dim I As Integer

' iRetVal = 1 if In-Tolerance; iRetVal = 0 if Out-
of-Tolerance

iRetVal = 0

' 132 = Dtype AXIS

Count = ReportData.GetCount(132)

' Loop through each axis to see if OutTol is non-
zero

For I = 1 to Count

    ' 344 = Dtype DIM_OUTTOL
    CurrentOutTol = ReportData.GetValue(344, I)
    If CurrentOutTol > 0 Then
        iRetVal = 1
        Exit For
    End If

Next I

```

**コードの説明:**





戻り値は逆になる場合を除いて、このコードは前のコードと同じです。戻り値は0に初期化されます（偽）。ゼロ以外の公差値が発見される場合、それは戻り値を1（真）に設定します。

- 一旦コードを追加したら、**OK**をクリックします。**VBS ミニエディター**は任意の構文エラーをチェックします。コードにエラーがある場合、PC-DMIS はこの時点でメッセージを表示します。エラーがない場合、**VBS ミニエディタ**は終了します。
- OK**をクリックして、**編集ルールダイアログ ボックス**を閉じて下さい。

**ステップ6:** このルールを変更して、残っているディメンションにこの**VB** スクリプトコードを使用します。


このステップに **ルール ツリー エディタ** 内の**コピー** と**貼り付け** 機能を使用してその他の従来の寸法のタイプが同じルールを使用することができます。

このポイントで、**ルール ツリー エディタ** が開かれて**寸法場所** が選択されます。

- 選択されたディメンションの両方のルールをクリックしてハイライトします。
- コピー** ボタンをクリックして下さい。
- ルールツリー内の各従来のディメンションを通過して、またクリックしてそれがこのルールを持つかどうかを確認します: テンプレート「Reference\_Id.lbl」を使用します
- それがする場合、ルールを選択してまた**貼り付け** ボタンをクリックします。これは選択したディメンションのタイプにコピーされたルールを追加します。
- 一旦新しいルールを使用してすべてのディメンションのタイプを変更したら、**OK** をクリックして**ルール ツリー エディタ**を閉じます。
- ファイル| 保存**を選択して、CADONLYREF\_ID.RTPの新しいコピーを保存します。
- ファイル| 終了**を選択します。これはラベルテンプレートエディタを閉じます。

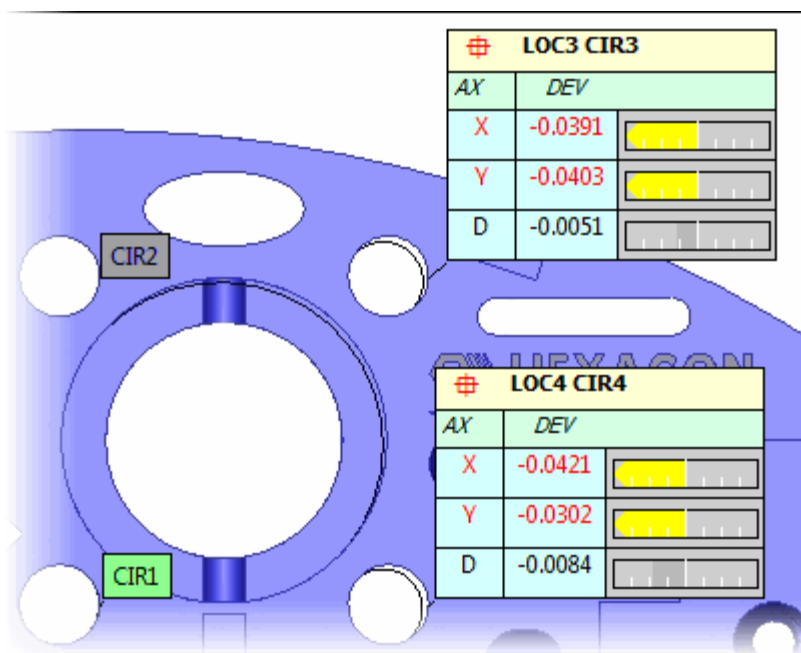
## ステップ7: レポート ウィンドウで CADONLYREF\_ID.RTPをテスト

このステップでは、CADONLYREF\_ID.RTP テンプレートを選択し、レポートウィンドウ内でそれをテストします。

1. 測定ルーチンは従来の寸法を使用するのを確認してください。
2. ユーザーの測定ルーチンを実行します。
3. ビュー| レポートウィンドウを選択してレポート ウィンドウが表示されます。
4. レポート ツール バーから、テンプレートの選択ダイアログ アイコン  をクリックします。レポート テンプレート ダイアログ ボックスは表示されます。
5. 追加ボタンをクリックして下さい。
6. 開くダイアログ ボックスから、CADONLYREF\_ID.RTPを選択し、開くをクリックします。レポート テンプレートがレポート テンプレートダイアログ ボックスに追加されます。
7. レポート テンプレートダイアログ ボックスから、CADONLYREF\_ID.RTPを選択して開くをクリックします。
8. PC-DMIS がレポート テンプレートをロードします。レポートウィンドウには新しく作成されたCADONLYREF\_ID.RTP レポート テンプレートを使用する測定ルーチンの結果が含まれます。

公差内の測定結果は要素名のみが表示され、背景色は測定結果の色であり、このページの下部にある測定結果のカラーキーの色と一致することに注目してください。公差外の測定結果はLEGACY\_DIMENSION\_CAD.LBL ラベルを使用します。

次の画面キャプチャはレポートの外観を表示します：



公差領域内要素 (CIR1 と CIR2)、公差領域外要素 (CIR3 と CIR4) を示す例。

おめでとう、チュートリアルを完了しました！

---

## PDF 3D ファイルの使用

PC-DMIS はレポートを印刷したり、CAD モデルを PDF 3D ファイルとしてエクスポートすることができます。

- ・ レポートを印刷する場合は、「基本ファイルオプションの使用」章の「レポートウィンドウからの印刷」を参照して下さい。
- ・ CAD モデルをエクスポート (出力) する場合は、「PDF 3D ファイルにエクスポートする」を参照してください。

### サポートされる項目と既知の制限

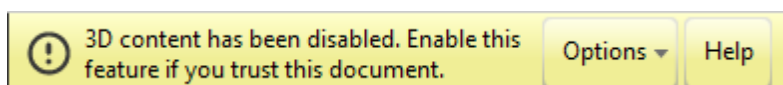
PDF 3D ファイルは Analysis コマンド、Snapshot (ライブ) コマンド、CAD レポートオブジェクト および分析ウィンドウオブジェクトをサポートします。

このファイル形式はレガシーハイパーレポートオブジェクトまたはファイルに追加する機能をサポートしません。

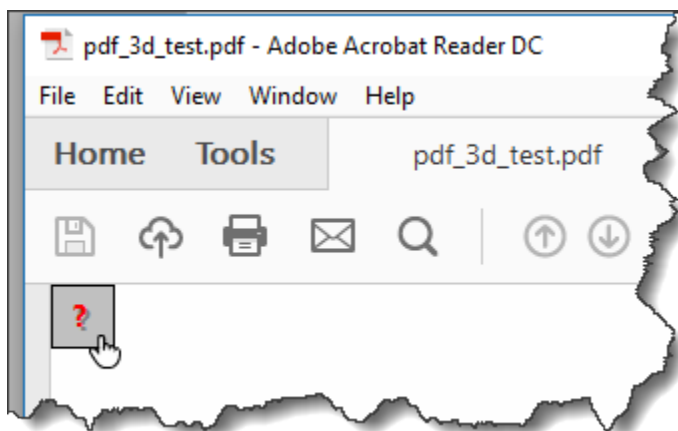
## ファイルでのCADモデルの表示

PDF 3D ファイルを生成すると、CAD データをサポートして CAD を表示し、CAD モデルを操作できる任意の PDF ビューアを使用できます。ユーザーはパン、ズーム、回転およびパート選択操作を実行できます。

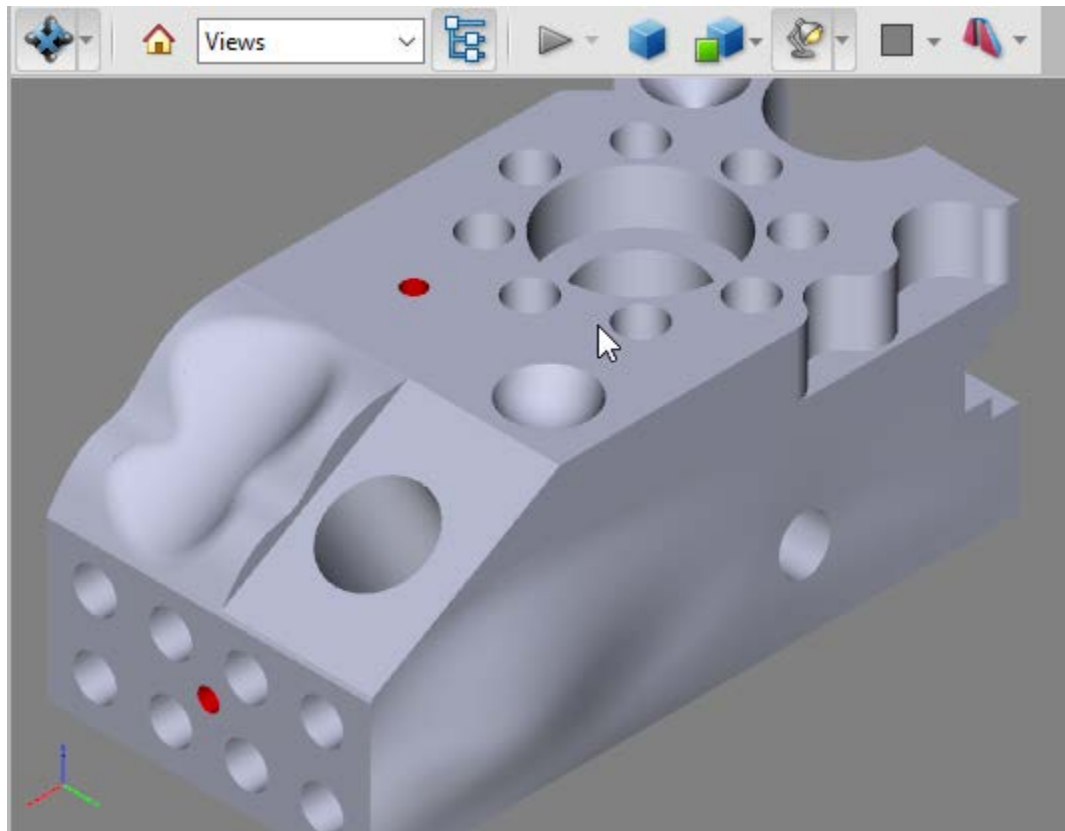
1. 3D コンテンツをサポートする Adobe ビューワ内部でエクスポートされた PDF ファイルを開きます。3D コンテンツを有効にしていない場合、最初にファイルを信頼する必要があります。



2. オプションボタンを使用してファイルを信頼します。
3. ファイルを信頼したら、赤い疑問符付きのアイコンをクリックしてCADモデルを開きます。



4. CAD モデルが表示された状態で、ポインタを CAD モデル上に置きます。ツールバーのボタンを使用して、モデルを操作します。



### 追加情報

PDF 3Dファイルで実行できるさまざまな操作については、次のAdobeマニュアルを参照してください：

<https://helpx.adobe.com/acrobat/using/displaying-3d-models-pdfs.html>

---

## QIF レポート

このセクションの主なトピックは、次のとおり：

QIF レポートについて

QIF レポートの作成

## QIF レポートについて

品質情報フレームワーク (QIF) は ANSI 標準です。QIF MBD (モデルベース定義) ファイルをインポートしてルーチンが作成されている場合、PC-DMIS は QIF フォーマットのレポートでの測定データの出力をサポートするようになりました。

QIF について詳しくは、QIF ウェブサイトを参照してください。



QIF フォーマットで結果を出力するには、QIF MBD ファイルを使い CAD モデルをインポートして測定ルーチンを作成する必要があります。

## QIF レポートの作成

QIF レポートを作成するには、以下のステップに従います：

1. 新しい測定ルーチンを作成します。
2. QIF MBD ファイルを使って CAD モデルをインポートします。CAD には要素や特性 ID などの必要な情報が存在します。QIF MBD ファイルは PMI データをサポートします。
3. GD&T 選択モード (CAD から) を使用して測定要素を定義します。これを実行する方法については、「GD&T 選択モード (CAD から) の使用」トピックを参照してください。

この方法で要素と特性を作成すると、PC-DMIS は QIF 結果を出力するのに必要な要素 ID、特性 ID およびその他の情報を保存します。

4. 測定ルーチン作成後、QIF Report コマンドを挿入します。これを行うには、[挿入 | レポートコマンド | QIF レポート] メニューオプションを選択し、[QIF レポート] ダイアログボックスを開きます。

下記のオプションを実行します：

- **ID** - QIF Report コマンドの ID。
- **モデルベース定義 (MBD) ファイル** – これは PC-DMIS が出力ファイルの情報を取得するのに使用する.qif ファイルの場所です。



実行中は.qif ファイルがこの場所で利用可能なことを保証してください。QIF レポートはこのファイルを必要とします。

- **タイプ** - 下記のフォーマットで QIF レポートファイルを出力することができます：
  - **MBD データでの結果** - このフォーマットでは結果ファイルは MBD データを含みます。このファイルには一つのファイルにすべての情

報を含むというメリットがあります。但し、MBD ファイルで利用可能な結果ファイルに情報を追加すると、結果ファイルのサイズが大きくなります。

```

1      <?xml version="1.0" encoding="utf-8"?>
2      <QIFDocument xmlns:xsd="http://www.w3.org/2001/XMLSchema" xmlns:x
3      <QPid>8d26b35f-aeeb-4141-899f-36744d19efal</QPid>
4      <Attributes n="13">
19     <VersionHistory n="1">
24     <Version>
27     <Header>
41     <StandardsDefinitions n="1">
49     <FileUnits>
186    <DatumDefinitions n="4">
260    <DatumReferenceFrames n="7">
440    <Features>
1420   <Characteristics>
2367   <Results>
3426   <UserDataXML>
3435  </QIFDocument>

```

- CAD を除外する - [MBD データでの結果] オプションを選択**するとき、このチェックボックスを使い CAD データを含めたり除外します。PC-DMIS は QIF MBD ファイルの **製品ノード**に CAD データを保存します。このオプションは **[MBD データでの結果]** オプションを選択する場合にのみ有効です。

```

1      <?xml version="1.0" encoding="utf-8"?>
2      <QIFDocument xmlns:xsd="http://www.w3.org/2001/XMLSchema" xmlns:x
3      <QPid>fd4d1a0c-1f08-4e07-bc0c-f339feb4b1ce</QPid>
4      <Attributes n="13">
19     <VersionHistory n="1">
24     <Version>
27     <Header>
41     <StandardsDefinitions n="1">
49     <FileUnits>
186    <DatumDefinitions n="4">
260    <DatumReferenceFrames n="7">
440    <Product>
113494 <Features>
114474 <Characteristics>
115421 <Results>
116480 <UserDataXML>
116489 </QIFDocument>

```

- MBD ファイルへの外部参照での結果** - このフォーマットでは、結果ファイルは MBD データを含みません。それは外部 QIF 参照での情報を定義するノードを有します。このファイルタイプは結果データのみを含むためサイズは最小です。



```

1  <?xml version="1.0" encoding="utf-8"?>
2  <QIFDocument xmlns:xsd="http://www.w3.org/2001/XMLSchema" xmlns:xsi
3  <QPid>9c533a6e-07f7-45f2-8d07-3e71cf1d5ad2</QPId>
4  <Version>
7  <Header>
14  <ExternalQIFReferences n="1">
20  <Features />
21  <Results>
1080 </QIFDocument>

```

- 要素ヒット点を追加する - このチェックボックスをオンにすると、PC-DMIS はヒット点データを結果ファイルに追加します。このオプションはすべての出力ファイルタイプで利用できます。

```

1  <?xml version="1.0" encoding="utf-8"?>
2  <QIFDocument xmlns:xsd="http://www.w3.org/2001/XMLSchema" xmlns:xsi
3  <QPid>37b3af04-3b77-4b45-aeb8-3b242493ceb5</QPId>
4  <Version>
7  <Header>
14  <ExternalQIFReferences n="1">
20  <Features>
2724 <Results>
2725   <MeasurementResultsSet n="1">
2726     <MeasurementResults id="851">
2727       <ThisResultsInstanceQPId>60a025e2-72cd-4453-a9f6-c192c7124e
2728       <MeasuredFeatures n="50">
3310       <MeasuredPointSets n="50">
5912       <MeasuredCharacteristics>
6529       <InspectionStatus>
6532     </MeasurementResults>
6533   </MeasurementResultsSet>
6534 </Results>
6535 </QIFDocument>

```

- レポートファイル
  - フォルダー - このボックスを使用して、QIF 結果ファイルを保存するパスを入力するか、または [ブラウズ (...)] ボタンをクリックして QIF 結果ファイルを保存する場所に移動します。
  - 名前 - ドロップダウンリストボックスを使用して、結果ファイルの名前規則を定義します。ドロップダウンリストにおけるオプションは、パス名、シリアル番号、改訂番号、日付および時刻です。

5. QIF レポートを作成するには [OK] をクリックします。

## 一つの QIF レポートファイルでの複数実行の結果

単一の QIF レポートファイルに複数の結果を保存できます。1 つのファイルで複数実行のレポートを取得するには、同じ名前のレポートファイルを作成する名前規則を作成します。PC-DMIS は同じ名前の既存レポートファイルを見つけると、結果を追加するだけで、以前のデータは同一のままです。

```
1 <?xml version="1.0" encoding="utf-8"?>
2 <QIFDocument xmlns:xsd="http://www.w3.org/2001/XMLSchema" xmlns:xsi="http://www.w3
3 <QPid>c0d59c08-93ba-46b2-8f67-3250a7cc7c9b</QPId>
4 <Version>
7 <Header>
14 <ExternalQIFReferences n="1">
20 <Features />
21 <Results>
22 <MeasurementResultsSet n="3">
23 <MeasurementResults id="101">
1078 <MeasurementResults id="201">
2133 <MeasurementResults id="301">
3188 </MeasurementResultsSet>
3189 </Results>
3190 </QIFDocument>
```